

「持続可能な社会の創り手」を育む ESD (SDGs 教育)



福山市立福山中・高等学校

ESD 実践の 10 年の記録 (2016~2025 版)

2016 (平成 28 年) サステイナブルスクール (文科省委託、ACCU 指定)

2018 (平成 30 年) ユネスコスクール (ユネスコ指定)

2019 (令和元年) ハッピースクール (ユネスコ指定) **ESD 大賞(文部科学大臣賞)受賞**

2020 (令和 2 年) 個別最適化実証事業 (県教委) ・WWL (広島大学)

2021 (令和 3 年) 同上 ・文科省「ESD 推進の手引」本校事例掲載



2026 年(令和8年)3月 23 日

(広島県)福山市立福山中・高等学校



〒720-0843 広島県福山市赤坂町赤坂910番地
TEL (084) 951-5978 FAX (084) 951-6518

第1章 本紀要の刊行にあたって

巻頭言

本校のESDに係る取組について

明治32年に創立された本校は、平成16年に福山中学校を開校して以来、併設型中高一貫校として着実な歩みを進めてきました。令和4年に改定した教育方針（第V期ビジョン）では、教育理念を「ESD（持続可能な開発のための教育）を通じて、生徒一人一人が持つ潜在的な独創性を引き出し、溢れる知性とチャレンジ精神をエネルギーに、グローバルに活躍する人間を育成する」と定め、すぐれた教育実践を創造・発信する使命のもと、教育活動を積み重ねています。



福山市立福山中・高等学校長
脇谷 靖伸

本校第V期ビジョンでは、福山市教育委員会が示す教育の方向性に則り、自ら考え学ぶ授業、そして市民一丸となった教育活動に、「ESD（持続可能な開発のための教育）の2観点」（人格の発達や人間性を育む観点、及び「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育む観点）を踏まえて取り組むことで、持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力を備えた生徒を育成することを示しています。

また、本校が従来から実践してきた教育内容を整理・構造化するとともに、「次代に求められる資質・能力」を育む教育内容の創造に向けた研究・実践を継続してきました。ESDの実施による研究の推進、ユネスコスクール申請、及び（財）ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）「ESD重点校形成事業」（平成30年度は「ESDの深化による地域のSDGs推進事業」）サステイナブルスクールに応募し、認定され、継続的に研究を推進してきました。サステイナブルスクールとしての研究・実践を進めた結果、本校は平成30年7月27日、ユネスコ本部からユネスコスクール加盟を承認され、令和元年11月には、第10回ESD大賞の最高賞である文部科学大臣賞の受賞にも至りました。さらに令和元年度には、ユネスコ・バンコクが主催する国際的な「ハッピースクール事業」（Happy Schools Project）に参加し、バンコクでのカンファレンスで取組を発表するなど、ユネスコスクールとしての取組の充実を図ってきました。

学校をあげて進めてきた本校のESDに係る取組は、今年で10年目を迎えます。また、この数年間は、国際交流の充実にも取り組んでいるところです。本校教育活動の中で積み上げてきた様々な知見が、これからのESDの推進に資するものになれば幸いであり、本校として積極的に情報発信に努めて参ります。

また令和8年度は、現在の教育方針である第V期ビジョンの最終実施年度であるとともに、令和9年度からスタートする次期ビジョン（第VI期ビジョン）を策定する1年となります。次期学習指導要領において、「民主的で持続可能な社会の創り手」がキーワードのひとつであると公表されているとおり、これまでも増してESDの重要性は高まっています。このことを踏まえつつ、次期ビジョンの策定に向けた検討を進めて参ります。

また本校では、総合的な探究の時間の一環として、地元地域の12の企業・団体様から提示していただいた課題の解決策を、生徒の探究グループが企業・団体様に提案するという取組（地域課題解決プロジェクト・国際課題解決プロジェクト）も行っています。この取組は、「Hi-Hi ふくやま」として冊子にまとめ、市内の学校や関係機関に配付しています（PDFデータを学校HPに掲載）。これらのプロジェクトを進めるにあたり、多くの関係者のご賛同・ご協力を賜りました。特に、福山市企画政策課・産業振興課様、福山市教育委員会様、福山市立大学様、福山商工会議所様、各事業所様等、地元地域の皆様のご協力により、本校生徒たちが「次代に求められる資質・能力」を身に付けることに資する教育内容の創造・実践が叶っています。この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

福山中高 ESD実践10年の記録 (2016-2025) 冊子活用ガイド

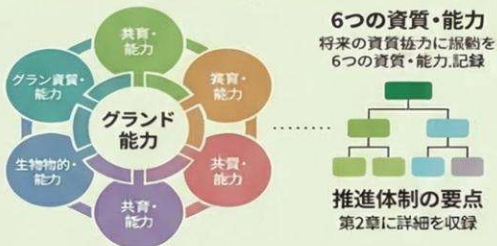


【第1・2章】 ESDの理念と 推進の仕組み

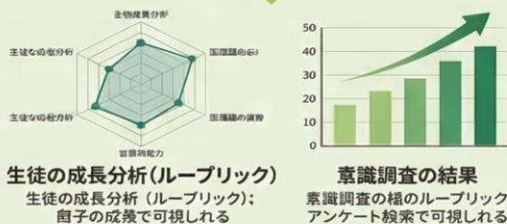
10年にわたる先駆的な認定実績



教育の全体像「グランドデザイン」



客観的な自己評価と教育効果



【第3・4章】 多彩な実践レポート と確かな成果

3つの研究プロジェクト



メディアが報じた10年の軌跡



冊子の章構成と主な収録内容の対応表

第1章：刊行にあたって	巻頭言、10年の取組まとめ、沿革
第2章：推進体制と概要	教育方針、グランドデザイン、評価ループリック、アンケート結果
第3章：事業報告(実践)	地域/国際/自己探究プロジェクト、他校交流(WWL等)、活動レポート
第4章：関係資料	各種認定証、新聞取材記事のアーカイブ

この冊子は、福山市立福山中・高等学校が歩んできた 10 年間の ESD(持続可能な開発のための教育)の実践を、毎年少しずつ蓄積してきたものです。目指してきたのは、「持続可能な社会の創り手」(学習指導要領・前文)を育てる学校。ゼロから始めたその挑戦は、特別なことを積み重ねるのではなく、日々の教育を ESD の視点で見直すことから始まりました。

(1) 学校全体での取組

本冊子の最大の特徴は、学校全体で取り組む「ホールスクールアプローチ」を 10 年にわたって続け、その変化を丁寧に記録している点にあります。本校の ESD は、「地域課題」「国際課題」「在り方生き方探究」という 3 つの柱で学びをつなぎ、生徒の成長を深めてきました。その際、「新たに創りすぎず、既存の実践を ESD の視点で再定義する」「必要に応じて追加・改善する」という、「持続可能な改革手法」を大切にしてきました。

成果の一端は、文部科学大臣賞の受賞や、生徒の意識・能力の着実な向上という形で現れています。

(2) 全 4 章で構成

本冊子は全 4 章で構成されています。紀要の刊行についての第 1 章、学校改革の設計図を示す第 2 章、生徒が主役となる実践が詰まった第 3 章、そして成果を裏付ける資料が並ぶ第 4 章。ページをめくられるごとに、「こんな取組もできるんだ」というアイデアを得ていただけるはずです。

(3) これからの教育へのヒントに

もちろん、この 10 年の取組は順風満帆ではありませんでした。「教科への広がり」や、生徒の「主体性」(エージェンシー)、「学校生活そのものの持続可能性」など、これからの課題も率直に記録されています。その点で、現実味も感じていただける冊子になっているはずはです。

この冊子は記録集であると同時に、これからの教育への実践のヒントが詰まった一冊になることを目指しました。

(4) 各章の見どころ

10 年間の軌跡をまとめたこの冊子の見どころを章別にご紹介します。

①第 1 章：10 年の歩みと「ESD の原点」

中高一貫校としての歩みと、なぜ ESD を教育の核に据えたのか、その思いと原点が語られています。学校長による「巻頭言」と、10 年を俯瞰した「まとめ」は、ぜひお読みいただきたいです。

②第 2 章：学校を変える「デザインと評価」

組織の共通理解を図る「グランドデザイン」や「要点マップ」など、運営の秘訣を公開。10 年間のデータに基づく「ルーブリック評価」は、「生徒は成長するのか？」という問いへの答えです。

③第 3 章：プロジェクト別の「ESD 実践レポート」

地域課題解決・国際課題解決・在り方生き方探究の 3 プロジェクトで、どんな実践をしてきたのかを 1 項目 2 ページで簡潔に紹介しています。目次を見て興味のあるページから開いてみてください。

④第 4 章：本校の実践を裏付ける「証拠資料」

ユネスコスクール加盟時の貴重な申請書類や、10 年分の新聞記事アーカイブを収録。外部からの評価を通じて、本校の取組がいかに地域や国外と取り組んできたかを示すものです。

まずは、次の目次からご覧ください。気になる項目はあるでしょうか。

■第1章 本紀要の刊行にあたって

- (1) 巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) ESD実践10年の取組を振り返って(まとめ)・・・・・・・・ 3
- (3) 目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

■第2章 本校ESDの推進体制と教育実践の概要(サステナブルスクール・ユネスコスクール・ハッピースクール)

- (1) 本校の教育方針(第V期ビジョン)・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (2) 学校グランドデザイン(令和6年度/2024年度作成)・・・・ 9
- (3) 福山中高ESD要点マップ(令和6年度/2024年度作成)・・・・ 10
- (4) ホールスクールアプローチ・デザインシート(本校ESD取組一覧)・・・・ 11
- (5) 本校ESDの概要(令和元年度)・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (6) ESD事業計画書の例(平成30年度)・・・・・・・・・・・・ 16
- (7) 研究実践に当たってのESD共通理解項目(ミニマム・エッセンシャルズ)・・・・ 17
- (8) カリキュラムマップ(全体計画・年間指導計画一覧表/6つの資質・能力とSDGs付き)・・・・ 18
- (9) 生徒に付けたい資質・能力ループリック(①②)・・・・・・・・ 19
- (10) 資質・能力の自己評価(振り返りシート) *中学校・・・・ 22
- (11) 事業の成果と課題(ループリック結果のまとめ)・・・・ 23
- (12) ハッピースクール・プロジェクト・・・・・・・・・・・・ 46
- (13) ESD大賞(文部科学大臣賞)・・・・・・・・・・・・・・ 51
- (14) 生徒はどのようなSDGs活動に取り組んでいるのか(令和6年度・高3)・・・・ 52
- (15) 自己・社会性意識調査(令和4年～6年の3年間の追跡調査)・・・・ 55
- (16) 本校の取組概要(新聞取材記事) 『大学新聞』掲載・・・・ 58

■第3章 本校ESDの実践事例(実践レポート)

I 地域課題解決プロジェクト

- (1) 福山のよさ再発見(中1、総合学習)・・・・・・・・・・・・ 61
- (2) 誰もが暮らしやすい福山の街づくりプロジェクト(中1、総合学習)・・・・ 63
- (3) グローカル人材育成事業(高1、総合的な学習の時間)①(平成29年度)・・・・ 65
- (4) グローカル人材育成事業(高1、総合的な探究の時間)②(令和元年度)・・・・ 67
- (5) グローカル人材育成事業(高1、総合的な探究の時間)③(令和4年度)・・・・ 69
- (6) グローカル人材育成事業(高1、総合的な探究の時間)④(令和6年度)・・・・ 73
- (7) グローカル人材育成事業(高1)⑤(令和7年、過去の連携先一覧)・・・・ 75
- (8) 夢チャレ「福山市立大学との高大連携事業」(高2)①「福山駅前再生計画」(平成29年度)・・・・ 77
- (9) 夢チャレ「福山市立大学との高大連携事業」(高2)②「郊外団地のまちづくり」(平成30年度)・・・・ 79
- (10) 夢チャレ「福山市立大学との高大連携事業」(高2)③「地域公共交通のありかた」(令和元年度)・・・・ 81
- (11) 夢プロ「福山市立大学との高大連携事業」(高2)④「山野町の魅力発見・地域活性化」(令和2年度)・・・・ 83
- (12) もふお(羊)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
- (13) 地域の課題解決に取り組む卒業生から学ぶ(令和5年度、講演)・・・・ 87
- (14) 多文化共生学会発表(4年探究「わかいふあーむ」)・・・・ 89

II 国際課題解決プロジェクト

- (1) 姉妹校との国際交流(希望者、課外活動)
 - ①(オーストラリア)ダウンランズ高校①(平成29年度)・・・・ 91
 - ②(オーストラリア)ダウンランズ高校②(令和6年度)・・・・ 93
 - ③(アメリカ)マウイ(平成29年度)・・・・・・・・・・・・ 97
 - ④(韓国)ポハン①(平成29年度)・・・・・・・・・・・・ 99
 - ⑤(韓国)ポハン②(令和元年度)・・・・・・・・・・・・ 103
 - ⑥(韓国)ポハン③(令和7年度)・・・・・・・・・・・・ 105
 - ⑦(マレーシア)メガリア高校とのディスカッション①(平成29年度)・・・・ 107
 - ⑧(マレーシア)メガリア高校と大学生とのディスカッション②(平成30年度)・・・・ 109
 - ⑨(マレーシア)セリララン高校と大学生とのディスカッション③(令和元年度)・・・・ 111
- (2) 海外ボランティア活動(SYD、課外活動)・・・・・・・・ 113
- (3) 模擬国連(ICC等有志、特別活動)・・・・・・・・・・・・ 115
- (4) 全国高等学校観光選手権大会(観光甲子園、ICC有志)・・・・ 117
- (5) 岡山イノベーションコンテスト2019(天保一プロジェクト)・・・・ 119
- (6) 外国にルーツを持つ児童・生徒への学習ボランティア(部活動)・・・・ 121

(7) コロナ禍におけるリモートでの国際交流（部活動）	123
(8) シンガポール国際交流（希望者、課外活動）JENESYS（令和7年度）	125
(9) 福山中・高等学校 国際交流マニュアル（令和7年度）	127

III 在り方生き方探究プロジェクト

(1) 自分発見学習（中1、総合学習）	129
(2) 夢チャレ（高2、課外活動）①（平成29年度）	131
(3) 夢チャレ（高2、課外活動）②（令和元年度）	135
(4) 夢プロ（高2、総合的な探究の時間）③（令和2年度）	137
(5) 夢プロ（高2、総合的な探究の時間）④（令和5年度）	139
(6)（SDGsの観点を取り入れた）課題研究（高3、総合学習）①（平成30年度）	141
(7) 課題研究（高3、総合的な探究の時間）②（令和3年度）	145
(7) 課題研究（高3、総合的な探究の時間）②（令和6年度）	147
(8) 個別最適な学び実証研究1年目（令和2年度、全学年総合）	149
(9) 個別最適な学び実証研究2年目（令和3年度、全学年総合）	151

IV 他校との実践交流・協働プロジェクト

(1) 名古屋国際中：サステイナブルスクール認定校①（平成29年度）	153
(2) 名古屋国際中高：サステイナブルスクール認定校②（令和元年度）	155
(3) WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）1年目（高2、課外活動）①（令和2年度）	157
(4) WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）2年目（高2、課外活動）②（令和3年度）	159
(5) WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）5年目（高2、課外活動）③（令和6年度）	161
(6) みろくの里日本語学校との交流事業（高1・2、令和3年度）	163
(7) Happy Schools 関係でシンガポールから先生が来校（令和5年度）	165
(8) 第17回ユネスコスクール全国大会 国際交流分科会ファシリテーター	167

■第4章 本校ESDに関する参考資料

(1) サステイナブルスクール／ユネスコスクール認定証／ハッピースクール／ESD大賞	169
(2) 各取組の新聞掲載記事	171
(3) ユネスコスクール申請資料（和文）	208
(4) ユネスコスクール申請資料（英文）	213
(5) ESD大賞受賞報告書	218
(6) 文科省「ESD推進の手引」における本校事例の紹介（令和3年度）	223

■第2章 事業概要

(1) 本校の教育方針（第V期ビジョン）

福山中・高等学校 第V期ビジョン（教育方針）

1 教育理念

ESD（持続可能な開発のための教育）を通じて、生徒一人一人が持つ潜在的な独創性を引き出し、溢れる知性とチャレンジ精神をエネルギーに、持続可能な社会を創造するために、グローバル（※）に活躍する人間を育成する。



「知性」とは、明白な答えがない問いに対して、その答えを探究する能力。

- ・ 物事の意義・本質を探り見極めようとする「旺盛な探究心」
- ・ 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える「豊かな創造力」
- ・ 広い視野、多面的な見方で物事を見て、考え、判断する「柔軟な思考力」

の3つの資質・能力の育成を目指す。

（※）グローバルとローカルを組み合わせた造語。地域性を考慮しながら、地球規模の視点で考え行動すること。

2 教育目標

旺盛な探究心、豊かな創造力、柔軟な思考力を育み、課題の解決に向け粘り強く挑戦する生徒を育成する。

3 育成する21世紀型“スキル&倫理観”

知識・技能 探究心・創造力・思考力 コミュニケーション力 協働 チャレンジ精神

4 めざす生徒像

- 積極的に地域や社会に働きかけ、課題を発見し、よりよい価値の創造に向け努力する生徒
- 多様性を認め合う寛容さを持ち、互いの思い・考えを大切にしながら協働する生徒
- 心身ともに健康で、困難に負けず粘り強く挑戦し続ける生徒

5 特色ある教育活動

子ども主体の学び「学びが面白い！」をベースに、「探究学習」「グローバル教育」「キャリア教育」「部活動」の4つの柱で、生徒一人一人の進路の実現を目指す。（別紙参照）

6 環境整備

生徒の夢の実現を支える教育環境を整える。

校舎改修、グラウンド拡張、屋内練習場新設、寄宿舍整備等

〔特色ある教育活動〕



中高一貫で育む「知（確かな学力）」「徳（豊かな心）」「体（健やかな体）」

探究学習	グローバル教育	キャリア教育	部活動
各教科・科目で身に付けた見方・考え方を活用し、自ら課題を発見・解決する学習を進めます	語学習得のみならず、アイデンティティを基に、地球的視野を持った主体的な行動力を育みます	社会的・職業的自立に向け、社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を充実します	県・国での活躍を目指し、目標設定、練習計画作成など、生徒主体の部活動へと活性化します

*** 課題研究**

「総合的な探究」「理数探究」を中心に、自ら設定した課題を研究します

*** 企業探究**

地元企業からの課題を受け、探究し、解決策を企画・提案します

*** 教科学習** 中高6年間を通して教科の本質を追求します

*** 大学合格支援プログラム** 難関大学入試問題、国際学力調査問題等に粘り強く取り組むことで、夢の実現に向けたモチベーションを維持・向上させます

*** My 探究(百人百探)**

一人一人が興味・関心に応じて課題を発見し、解決に向けて企業とのコラボ、製作等を企画・実践します

*** 模擬国連への参加**

国連大使になり切り、地球規模の問題の議論・交渉を体験します

*** 海外修学旅行**

現地の大学・高校との交流、日系企業での研修等を行います

*** コミュニケーション科**

英語、国語の両面から表現・議論の仕方を学びます

*** 海外提携校との交流**

韓国浦項の中学校とホームステイによる交流を行います

*** 夢プロ**

進路実現に向けた職業、大学、学部学科研究に取り組みます

*** 学問探究講座**

同窓生、大学教員を招聘した自己実現に向けた講座、講演を開催します

*** 職業体験学習**

「My 探究」と関連付け、自分のプロジェクトに関係する人・企業等の訪問・体験学習に取り組みます

*** 運動部**

〈高校のみ〉

- ・ソフトボール
- ・卓球
- ・ラグビー
- ・水泳

〈中・高〉

- ・野球
- ・陸上競技
- ・バレーボール
- ・バスケットボール
- ・バドミントン
- ・ソフトテニス
- ・サッカー
- ・剣道
- ・少林寺拳法

*** 文化部**

〈高校のみ〉

- ・将棋
- ・新聞
- ・書道
- ・ダンス
- ・FWC (ボランティア)

〈中・高〉

- ・吹奏楽
- ・自然科学
- ・演劇
- ・ICC (英語部)
- ・美術
- ・放送
- ・家庭研究

高等学校

中学校



ESDを通じたSDGs (持続可能な開発目標) の達成

☆2018年(H30年)ユネスコスクール加盟 ☆2020年(R元年)ESD大賞(文部科学大臣賞)受賞

(2) 学校グランドデザイン (令和6年度/2024年度作成)

本校の学校グランドデザイン(学校教育全体構想図)をA3・1枚で作成。
「持続可能な社会の創り手」を育む学校と明記。



1 「教育目標」と「今年度の重点目標」

(1) **教育理念**・・・ESD(持続可能な開発のための教育)を通じて、生徒一人一人が持つ潜在的な**独創性**を引き出し、溢れる**知性とチャレンジ精神**をエネルギーに、**持続可能な社会を創造するために、グローバル**(地域性を考慮しながら、地球規模の視点で考え行動すること)に活躍する人間を育成する。
 【つまり】福山中高は、「持続可能な社会の創り手」(=The creators/leaders of a sustainable society)を学校全体で育む学校である(6つの資質・能力を備えてグローバルに活躍)。
 ※「持続可能な社会の創り手」とは・・・自治・製団・地域の「ウェルビーイング」(より良い生活)を目指して、「主体的」に他者と「協働」して課題を解決し、よりよい社会を創る人(=「エンジェンシー」を発揮する人)

(2) **教育目標**・・・旺盛な「**探究心**」、豊かな「**創造力**」、柔軟な「**思考力**」を育み、「**課題の解決**」に向け「**粘り強く挑戦**」する生徒を育成する。

(3) **研究指定校等** H28 福山市グローバル人材育成事業 H30 ユネスコスクール [R1] ハッピースクール-ユネスコ/ユネスコ *ESD大賞(文部科学大臣賞) [R2-] 個別最適化実証研究(広島県教委) / WWW7-ワールドワイドラウンジ

(4) **重点目標** 「グローバル社会・地域社会で活躍する生徒をどう育成するか」

①長期継続研究テーマ 「主体的・対話的で深い学び」「コミュニケーション能力・探究能力」「ESDの2観点」(※「人間性を育む」+「地産・社会・自然とのつながりを尊重する」)
 ②年度別授業研究テーマ 毎年「現代的な諸課題」に関する研究テーマを1つ決め、教職員全員で実践レポートを書き、実践集を作成して学び合う(進歩型)

H30(2018)	教科に「SDGs」をどう取り入れるか	→「教科におけるSDGs授業実践集」作成
R1(2019)	教科で「課題発見・解決学習」にどう取り組むか	→「教科における課題発見・解決学習実践集」作成
R2(2020)	「ICT活用」実用性から「人」の価値をどう高めるか	→ICT学習10分間に基づく「ICT活用実践&リサーチ集」作成
R3(2021)	ICTを日常的・効果的にどう活用するか	→「ICT活用実践集」Vol.2作成
R4(2022)	思考力・判断力・表現力をどう育成するか	→「思考力育成実践集」作成
R5(2023)	思考力と学びに向かう力(主体)をどう育成するか	→「(思考力と主体)指導と評価の一体化実践集」作成

※本校「教育研究の推進」及び高等学校学習指導要領解説「総則編」、OECD関係資料を参考に作成

2 学校全体で「めざす生徒像」と「特に育成したい資質・能力」(卒業までに特に育てほしい6つの姿)

(1) **目指す生徒像**

- 積極的に地域や社会に働きかけ、課題を発見し、よりよい価値の創造に向け努力する生徒
- 多様性を認め合う寛容さを持ち、互いの思い・考えを大切にしながら協働する生徒
- 心身ともに健康で、困難に負けず粘り強く挑戦続ける生徒

(2) **特に育成したい資質・能力(21世紀型スキル&倫理観)**

- ①**【創造力】** 既存の発想にとらわれず、試行錯誤し、新しい解決方法や価値を考える(創造する)ことができる。
- ②**【思考力】** 身の回りで課題を発見し、様々な立場の対応方法を検討・実践できる。
- ③**【コミュニケーション】** 相手の意見を尊重しながら、自分の意見や思いを伝えることができる。
- ④**【探究心】** 好奇心や熱意をもって情報を整理・分析し、物事の意義・本質を知ろうとする。
- ⑤**【協働】** 価値観の多様な他者と協働して、集団・地域・社会に貢献しようとしている。
- ⑥**【チャレンジ精神】** 課題解決のために、困難に負けず粘り強く挑戦している。

(3) **特色ある教育活動**・・・生徒主体の学びをベースに、「探究学習」「グローバル教育」「キャリア教育」「部活動」の4つの柱で、生徒一人一人の進路の実現を目指す。

3 育成を目指す資質・能力 (何が身になるか)

①教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力(資質・能力の「3つの柱」)

- ・生きて働く「**知識・技能**」の習得
- ・未知の状況にも対応できる「**思考力・判断力・表現力等**」の育成
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「**学びに向かう力・人間性等**」の涵養

②「**全学習の基盤**」となる**言語能力/情報活用能力/問題発見・解決能力**等

③現代的な諸課題(ESD、キャリア教育、主権者教育等)に対応して求められる**資質・能力**

4 評価の充実 (何が身に付いたか)

- ①評価のための評価に終わらない、「**学習と指導の改善につなげる評価**」とする。
- ②学習成果に加え「**学習過程**」を一層重視することで学習・指導の改善につなげる。
- ③資質・能力の伸長のために「**パフォーマンス評価**」と「**ルーブリック評価**」を活用する。
- ④資質・能力の3つの柱を「**観点別評価**」(学習状況を分析的に捉える)と「**個人内評価**」(個人の良い点や可能性、進捗状況を評価)で見取る。

※本校「教育規定」及び高等学校学習指導要領解説「総則編」第4章を参考に作成

5 生徒指導上の配慮 (生徒の発達をどのように支援するか)

- ①多様な生徒が「**一人一人取り残されない**」教育を推進する(どの生徒も全人的(心・頭・身体)に成長、幸せに育つ)。
- ②「**一人一人を大切に**」した教育を進め、個々に必要な「**合理的配慮**」を推進する。(学習・生活上の困難の解消等)
- ③「**生徒理解**」を深め、情報の「**共有理解**」を図り、「**学生やチーム**」で組織的に取り組む。
- ④「**個別面談**」(ガイダンスの機会)を大切にし、学習、生活や進路面でサポートする。
- ⑤授業では目標、時間、進め方等を明確にし、「**創造の少ない授業環境**」にする。(掲示物、予定表、靴)

※本校「特別支援教育推進計画」及び高等学校学習指導要領解説「総則編」第6章を参考に作成



6 教育課程の編成方針 (生徒は何を学ぶか) *教科横断的な学習の必要性

- ①「**社会に関わった教育課程**」を実現する(グランドデザイン等の目標公表・校外との協働)。
- ②「**学習の基盤となる資質・能力**」の育成のために教科横断的に教育課程を編成する。(言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等)
- ③中・高6年間を見通した計画的な課程を編成する(学習機会、増加配当)。(中学:コミュニケーション、高校:少人数学級、中高:習熟度別指導等)
- ④探究・教科でSDGsに関連させて「**3Dプロジェクト**」(進路課題、国際課題、社会生活課題)に取り組む(ESD)。

※本校「教育課程」「教育研究の推進」及び高等学校学習指導要領解説「総則編」第3章を参考に作成

7 各種指導計画の作成と実施、指導の改善・充実 (生徒はどう学ぶか)

- ①「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む。
 【主体的】: 学びに興味・関心、進路と関連付け、見通しと粘り強い、振り返り&次につなげる
 【対話的】: 他者(生徒、教員や地域の人、書籍の著者)と協働(して考えを広げ、深める)
 【深い】: 関連付けて深く理解、自身の考えを形成、解決策、創造
 上記のため、単元などのまとまりの中で、「**習得・活用・探究**」の学習をバランスよく行う。
- ②「**カリキュラムマップ・授業計画表**」に授業や考查計画、評価方法を明示する。
- ③「**ICT**」を課題解決ツールとして活用し、「**個別最適化学習**」「**協働的な学習**」「**創造的な学習**」を実現する。

8 重点目標の実現のために必要な方策、家庭・地域との連携・協働 (教育課程の実施に何が必要か)

- ①全体計画に示す各教育活動を「**効果的に実施**」する。(各分野の全体計画や基本方針と関連付けるなどする) * 目標や取組を他教科・外部機関とも共有し、協力で効果的に実施
- ②学校評価は、教育課程の編成、実施、改善が教育や学校運営の中核となることを踏まえ、「**カリキュラム・マネジメント**」と関連付けて行う。
- ③「**教育課程外**」の学校教育活動(部活動など)と教育課程の関連を図る。(学習意欲の向上、責任感、連帯感の涵養等、目指す資質・能力の育成に資する)
- ④家庭や地域社会、社会教育団体など「**外部機関との持続可能な連携・協働**」を進める(人的・物的体制を整え教育活動の質の向上を)。世代を超えた交流をする。
- ⑤他の学校や異校種の生徒との連携や交流を、国籍や年齢や障がいの有無に関わらずに設けることで、互いに尊重し「**共生する態度**」を育む。

※高等学校学習指導要領解説「総則編」第7章を参考に作成

※本校教員・生徒の協働による作成

(3) 福山中高ESD 要点マップ (令和6年度/2024年度作成)

本校ESDの取組の要点を10の観点からA3・1枚に記載したもの。職員研修などにも活用。

持続可能な社会の創り手」を育む!

福山市立福山中・高等学校 ESD (SDGs教育) 要点マップ

(ホールスクールアプローチ実践校)

1 学校概要

① 公立の中高一貫校 (広島県福山市赤坂町赤坂910)

② 生徒: 中高約1000名 (中学: 360名 / 高校: 600名)

③ 教育理念: ESD (持続可能な開発のための教育) を通じて、生徒一人一人が持つ潜在的な独創性を引き出し、溢れる知性とチャレンジ精神をエネルギーに、持続可能な社会を創造するために、グローバルに活躍する人間を育成する

④ 教育目標
旺盛な「探究心」、豊かな「創造力」、柔軟な「思考力」を育み、「課題の解決」に向け「粘り強く挑戦」する生徒を育成する。

⑤ ESDの観点で教育内容づくり

- 2016~ サステイナブルスクール by ACCU (文科省委託) 24校
- 2018~ ユネスコスクール by UNESCO 世界11,000校
- 2019~ ハッピースクール by UNESCO (バンコク) 日本(5校)・タイ・ラオス
- 2019 ESD大賞 (文部科学大臣賞) 受賞
- 2020~ WWL連携校 by 文科省 (広島大学附属福山校が中心校)
- 2021 文科省「持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引」本校事例掲載

2 本校ESD実践の特徴・概要

① ホールスクールアプローチ
(→ 学校全体の取組: ESDと国際交流を学校の特色に)

② 無理なく過度の負担なく実践
(取組も無理なく持続的なものに)

③ 3PJで「資質・能力」向上
(地域課題解決・国際課題解決・在り方生き方探究Project)

▶ 【結論】ESD実践により…

① 「持続可能な社会づくり」② 「生徒の資質・能力の向上」③ 「学校の教育の質の向上」に。

3 学校全体で「特に育成したい6つの資質・能力」

① 創造力 ② 思考力 ③ コミュニケーション力
④ 探究心 ⑤ 協働 ⑥ チャレンジ精神

*年3回(学期1回)測定 *学校評価にESD関連事項(年2回評価)

4 外部機関・地域との連携

① 市役所(産業振興課), 商工会
② 福山市立大学 都市経営学部
③ 地元企業(オンリーワン・ナンバーワン企業含む)
④ アジア・ユネスコ文化センター (ACCU)
⑤ ユネスコ(ハッピースクールプロジェクト)
⑥ 文科省(『ESD推進の手引』『事例集』)
⑦ 市教委・県教委
⑧ コーディネーター・外部講師

5 なぜESD? (理念や必要性、導入の経緯)

(1) 学習指導要領の趣旨 (社会に開かれた教育課程)

① 教育で大切なのは、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創ること」

② 学校教育の理念は、「持続可能な社会の創り手」の育成 (=ESD)
*学習指導要領の前文・総則 *SDGsターゲット4.7「持続可能な開発のための教育」
*末松文科大臣「『持続可能な社会の創り手』の育成を行うESDは世界の標準となっていく教育」(2021.11.27)

③ その3方策

- ① 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」(目標)を学校と社会で共有する
- ② 学校と社会で新しい時代を担う生徒に必要な資質・能力を明確にする
(知識・技能 / 思考力・判断力・表現力 / 主体性・多様性・協働性 等)
- ③ 学校教育を学校内に閉じずに、地域や社会の方と連携・協働して目標を実現する

(2) 本校(中高一貫校)の開校以来の教育の方向性(数値目標→資質・能力へ)
(福山100NEN教育): ESD2観点(人間性、つながりを尊重)・21世紀型スキルと倫理観

6 ホールスクールアプローチで取組開始(10ステップ)

- ① 目指す姿は?(どんな姿・ビジョンを目指すか)
- ② 本校で育てたい力は?(具体的な資質・能力の検討)
- ③ 取組をどう構造化?(共通目的は持続可能な社会づくり)
- ④ 評価はどうする?(ルーブリック作成、測定頻度の検討)
- ⑤ 実践のまともめは?(取組の持続性や共有に不可欠)
- ⑥ 3プロジェクトの実践(各プロジェクトの実践)
- ⑦ 学校ビジョン・学校評価にESDを反映(取組が持続的に)
- ⑧ 保護者にも周知(PTA総会, 学校からの便り等で)
- ⑨ 授業とESDの関係(ESDカレンダー, カリキュラムマップ)
- ⑩ 教科でのESD実践(探究, 特活だけでなく各教科でも)

7 探究内でのESD

(1) 地域課題解決プロジェクト

- ① 職場体験学習(2年)
- ② 地元企業探究(4年)

(2) 国際課題解決プロジェクト

- ③ 姉妹校との国際交流(全学年有志)
- ④ 海外修学旅行での地元高校とのSDGsディスカッション(5年)

(3) 在り方生き方探究プロジェクト

- ⑤ My探究(1~3年) ⑥ 夢プロ(5年) ⑦ 課題研究(6年)

「調べ学習」「解決策の提案」で終わらず「実行」まで

8 教科・探究・特別活動・部活動・会誌等でのESD

「目的(SD)・内容(SDGs)・資質・能力・学習法」を各所で実践

*理解→自分事化(自分も関わる課題でもある)→行動→変容

- 目的→「持続可能な社会の創り手」育成
- 内容→内容とSDGsの関連付け (ゴールを参照すると具体的に)
- 資質・能力→批判的(代替案の)思考力, 分析能力, コミュニケーション力, リーダーシップ, 課題発見・解決力等
- 学習法→参加体験型, 現実的課題に実践的に, 多様な人と協働, 唯一正解がない問い

9 Happy Schools Project (ユネスコ・バンコク主催)

① 幸福は世界の政策議題のトップ (国際幸福デー, 国民総幸福量)

② 校内外のUnhappyな要素を減らし, Happyな要素を増やす取組
→SDG4(教育の質の向上)と関連: 生徒・教員の幸福向上につながる

③ 取組: 120周年合唱Pj, 生徒とスマホール作り, 癒しのひつじ「もふお」
他にも「人間関係」「前向きな態度」「協働」「自由」「創造性」「友好的」「自然」等

10 SDGs・ESD実践のためのポイント

各教科の学習は何のため?	SDGs(国際目標)のポイント5つ	ESDが目指すこと (ESDで育みたい力)	SDGsとリンクした探究課題(高2①)
<p>持続可能な社会の創り手(持続可能な開発のための教育)の育成</p> <p>ESDの観点から、各教科の学習内容を整理し、SDGsとリンクさせた探究課題を設定する。</p>	<p>① 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進</p> <p>② 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進</p> <p>③ 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進</p> <p>④ 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進</p> <p>⑤ 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進</p>	<p>① 持続可能な開発に関する価値観</p> <p>② 持続可能な開発に関する価値観</p> <p>③ 持続可能な開発に関する価値観</p> <p>④ 持続可能な開発に関する価値観</p> <p>⑤ 持続可能な開発に関する価値観</p>	<p>探究課題: 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進</p> <p>探究課題: 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進</p>
ESD大賞 (文部科学大臣賞) 受賞について	ESD教育の質の向上にも役立つ	ESDが大切にしてほしい「学びの方法」	SDGsとリンクした探究課題(高2②)
<p>ESD大賞(文部科学大臣賞)の受賞について</p> <p>ESD大賞(文部科学大臣賞)の受賞について</p>	<p>ESD教育の質の向上にも役立つ</p> <p>ESD教育の質の向上にも役立つ</p>	<p>ESDが大切にしてほしい「学びの方法」</p> <p>ESDが大切にしてほしい「学びの方法」</p>	<p>探究課題: 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進</p> <p>探究課題: 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進</p>

10

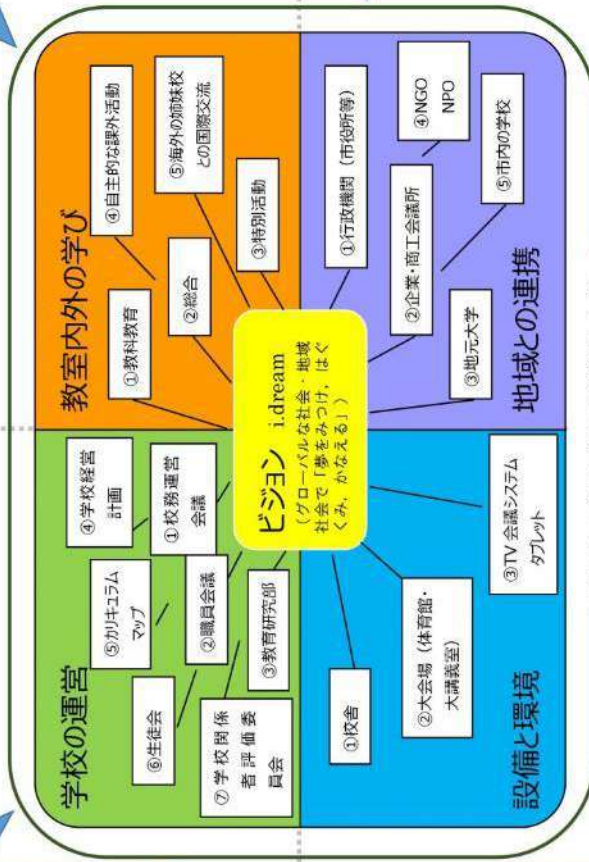
(4) ホールスクールアプローチ・デザインシート (本校 ESD 取組一覧)

ACCU 提出資料より (本校作成)

【学校名：福山市立福山中・高等学校 (広島県)】

平成 29 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業 ESD 重点校形成事業～輝け！サステイナブルスクール～

ホールスクールアプローチ・デザインシート



サステイナブルな学校文化

- 「持続可能な未来」の実現へのアクション
- ①本校で育みたい資質・能力策定
 - 【能力】情報分析・整理力/活用・表現力/課題発見・解決力
 - 【資質】協働/自他の尊重/チャレンジ精神
 - ②概念・活動内容の研修・共有実践レポート作成
 - ③ESD・総合担当委員会企画
 - ④⑤21世紀型スキル&倫理観”育成に向けた教育課程構成
 - ⑥ポランティア委員会・部の実働
 - ⑦学校評価自己評価表にESD関連の評価項目設定

- 「持続可能な未来」の実現へのアクション
- ①本校で育みたい資質・能力育成に向けて各教科で授業実施(協働・ハフォーマンスを含む)
 - ②総合学習・夢チャレ成果発表会(学習成果を毎学期学年発表)
 - ③海外の姉妹校とTV会議システムやタブレットを用いて交流・協議

- 「持続可能な未来」の実現へのアクション
- ①～⑤ 全校で3プロジェクト実践
 - 【地域課題解決プロジェクト】
 - ふるさと学習 ●誰もが暮らしやすい福山の街づくり ●高校版「ふるさと学習」
 - 5学年「夢チャレ」 ●福山市高校生議会
 - 【国際課題解決プロジェクト】
 - 国際理解 ●海外修学旅行 ●模擬国連
 - 姉妹校等との国際交流・語学研修・留学生受け入れ ●5学年「夢チャレ」
 - 【生き方・在り方探究プロジェクト】
 - 自分発見学習 ●職場体験学習
 - 東京修学旅行・企業・官公庁訪問研修
 - 課題研究 ●5学年「夢チャレ」
 - ライブプラン

- 「持続可能な未来」の実現へのアクション
- ①②
 - 【中学】「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」を研究・提案・発表
 - 【高校】福山市や地元企業と協力し「高校生がつくった『高校生のための企業ガイドブック』作成・発表
 - ③福山市立大学と高大連携事業「福山取組再生プロジェクト」
 - ④各団体が実施する「未来探究プロジェクト」「全国でのポランティア活動」「高校生議会」「模擬国連」等への参加

©ACCU 或託「平成 29 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業 ESD 重点校形成事業」事業推進委員会



* (注)

以下の記述は、ACCU『これからのユネスコスクールを考えよう ひろがり つながり
ふかまる ESD 推進拠点 Whole School Approach』のお二人の講演録 (p.1~95) と岡
山宣言からポイントをまとめたものです。

- アン・フィンレイソンさん (持続可能性と環境教育 SEEd 事務局長)
- 永田佳之先生 (聖心女子大学教授)
- ユネスコスクール岡山宣言 (2014年11月に岡山大学で開催されたユネスコスク
ール全国大会で採択)

(1) ユネスコスクール岡山宣言のポイント (ESD 推進のためのユネスコスクール宣言、2014年11月採択)

- ① 持続可能な社会の構築や ESD 推進の観点、学習指導要領や教育振興基本計画などに盛り込まれている。
- ② ESD のビジョンを取り入れると、学びと自己につながりが生まれる (地球、自然、他者、未来・・・)。
つながりの中で学びは深まり、心に宿り、持続可能な未来を創造する力となる。(行動と協働、問い続け
学び続ける力)
- ③ 各学校では、平和や環境などを入り口として、課題を体験的、探究的に発見し解決するプロジェクトが
開発。地域の特徴を生かした ESD を通じて、地域の良さと課題を知り、変革すべき事を考え行動に移す
ことを学ぶ。地域の課題は世界の課題とつながり、協働により持続可能な未来をつくれるという認識が
共有されつつある。
- ④ 持続可能な未来のために、身近な地域に貢献するとともに、グローバルな視点に立って行動する次世代
を育む。
- ⑤ 学びの入り口は何であれ、その先に世界の「平和」と「持続可能性」を見据える。
(多くの人と協働して、つながりを意識した教育を実践する。)
- ⑥ ESD の魅力を伝えるため、生徒の変容、教師の変容、学校・地域の変容を明確に示す。
- ⑦ 教師や生徒の主体的なアイデアを尊重し、創造的、教科横断的、探究的に学校全体で ESD を進める。

(2) ユネスコスクール・ESD とは何か？

- ユネスコスクールは、ユネスコの理念を実現する学校であり、世界に広がるネットワークである。
(英語名は ASPnet で、ユネスコスクールはそのネットワークに加盟している学校の日本での呼称。)
- ユネスコとは、国連教育科学文化機関のことで、「世界平和・安全保障」が目的である。そのために教
育、科学、文化を通して英知を集め、国内外の連帯を促進して平和に寄与することを目的としている。
- ユネスコスクールは、「持続可能な開発のための教育 (ESD) の推進拠点」である。
- ユネスコスクールの質的向上のヒントは、生徒の変容、教師の変容、学校・地域の変容の明確化にあ
る。

(3) ESD を達成するためになぜホールスクールアプローチが必要か？

- ① 変容的教育—新しいスキル、新しい考え方 (ESD では1つの教科や活動でなく、持続可能な将来に向け
スキルや強靭性を持ち、変容しうる制度を構築し、イノベーションやウェルビーイング (幸福) をもた
らす人づくり。)
- ② 学校全体で活動を継続 (一人のリーダー先生に依存するのではなく、学校全体が動いて取り組むもの。)
- ③ たくさんの活動から、全生徒向けの計画に順序あるカリキュラムへ (ホールスクールアプローチは、活
動だけでなく、活動を計画し、論理的に研究し、カリキュラム、プロセス、全体を通じて役立つもの
である。)
- ④ 持続可能性の全体像を見る—環境、社会、経済、文化 (サステナビリティは規模の大きな概念であり、
社会、経済、文化的側面の全てを網羅する。1つか2つに対応すればいいのではなく、全てに対応する。)
- ⑤ 自分の行動—何が効果的かを研究し学ぶ (学校そのものが学ぶ組織になる必要あり。どう持続可能な形
で生活や仕事をすべきかの教科書はまだ存在していない。OECD の PISA 調査では、自ら行動をとって研
究し、学ぶ先生がいる学校の生徒のスタンダードはさらに高まる。)

(4) ホールスクールアプローチを実践している学校に見られる特徴は？（どう見分けるか）

ホールスクールアプローチは、学校全体で活用される枠組みであり、校長室に掲げてあるものではない。

- ①全教室・どの科目でも ESD の教育アプローチが取られている。
- ②全学年のカリキュラムに、持続可能性の前進が見て取れる。
- ③学校のビジョンや使命感にフレームワーク・コアな概念が学校を構成するすべての要素に見て取れる。
（イギリスなら自分、他者、環境に対する「ケア」（気遣い）例）シリアやアフリカの見知らぬ他者に対しても。）
- ④生徒が学校の ESD 活動について説明できる。
- ⑤生徒が地域や学校の活動に参加している（「問い」から始まるやり方で挑むのが一番うまくいく）。

【永田先生コメント】

- *ホールスクールアプローチは、ESD に関するグローバル・アクション・プログラムの 5 つの「優先行動領域」の 1 つであり、どこの国でもなかなか定着しなかった世界的な課題であり、重要なチャレンジである。
- *学校全体計画や年間計画があるからホールスクールアプローチではない。学校の方針や授業の方法、内容、教材、校舎の素材、校庭、食べ物、交通手段など、あらゆる側面を変容させる。教科を超えて ESD に挑む、地域でプロジェクトを超えて ESD に取り組む、「どこを切っても ESD」「学校・地域丸ごと ESD」と言える状態。
- *教師も ESD を語り、サステナビリティを学び続けて実践する。一人一人が自己変容、社会変容を考える。

(5) ESD をどう評価するか？

- 成果物を評価することが大切（計画、やり方、実践）。
- 単に良い気分では事足りない。自分たちがよくやったと思っても、それだけでは評価とは言えない。
- どのような変革を自分がもたらしたか、現在持続可能ではない形で生活している現状から、どうすれば将来、持続可能な形で暮らせるようになるのか、研究を成果物にまとめる。

(6) 持続可能な学校の 5 つの「効果」とは？

- ①「学校の改善」（若者の学習や福祉の向上）
- ②若者の学習体験を「結びつける」（全ての教科も人間や環境のシステムの中で理解する）
- ③若者の「参加」を促す（学校だけでなく自らの人生に参加）
- ④学校の活動、考え方、計画に「貢献する」
- ⑤持続可能な行動・考え方・計画の模範・モデルをつくる（完璧な学校はない、持続可能のために学ぶ場）

(7) 学校を「ホールスクールアプローチ化」するポイント

- ①どこからでも始められる（トピックのドア・入り口は様々。3つか、5つか、または SDGs の 17 かもしれない。）
- ②すでに実施していることを確認する
- ③ホールスクールアプローチを発展させる
- ④各生徒の持続可能体験のための計画を立てる
- ⑤計り、計り続ける
- ⑥つながり（学びと社会をどうつなげるか）、「もしも・・・だったらどうなるか」（明るい社会ならどうか）
- ⑦生徒が完全に参加するよう促す
- ⑧ESD をビジュアル化して共有しよう（保護者や地域社会と）
- ⑨変化を理解し、見守る
- ⑩先生をサポートする

(5) 本校 ESD の概要 (令和元年度作成)

1 本校について

(1) 沿革・ESD の推進

- 明治 32 年創立 (来年 120 周年)、平成 16 年福山中学校併設、併設型中高一貫教育校 (15 年目)
- 平成 28 年サステイナブル・スクール (全国 24 校の 1 校)・平成 30 年ユネスコ・スクール認定

(2) 学校教育目標

- 「創造的な知性と豊かな心の調和的な発達を図り、国際社会に貢献できる人間を育成する」

(3) 生徒規模

- 中学校：40 人×3 クラス (120 人) ○高等学校：約 30 人×6 クラス (約 200 人)

(4) 第Ⅳ期ビジョン (2018 年度 (平成 30 年度) ~2020 年度)

- ①中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。
- ②中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協働できる生徒を育てる。
- ③国際理解・地域課題について探究し、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる。

(5) 本校教育の特色：グローバルな社会・地域社会で活躍する資質・生徒の育成

- 「国際交流」(オーストラリア、韓国等)と「ESD」を中心に「地域や国際課題解決」等に取り組む。

2 ESD の推進・目標

(1) ねらい

総合的な学習の時間を中心に他教科や特別活動と関連づけながら 3 つのプロジェクトを通して (①「地域課題解決プロジェクト」、②「国際課題解決プロジェクト」、③「在り方生き方探究プロジェクト」)、グローバルな社会・地域社会で活躍する資質・能力をもった生徒を育成する。

(2) 本校で育みたい 6 つの資質・能力 (6 観点目を含むカリキュラムマップを作成し全教科で推進)。

能力 (スキル)			資質 (気質・特性・情意)		
知識・技能 / 思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力、人間性等		
①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働	⑤自他の尊重	⑥チャレンジ精神
課題解決や新しい価値を創造するために必要なデータや情報を分析・整理することができる。	課題解決のために必要な基礎的な知識や技能を創造的・探究的に活用・表現することができる。	様々な場面で課題を発見し、最適解により近い解決方法を見つけることができる。	価値観の多様な他者と協働して、集団や社会に貢献し解決しようとしている。	個人的・社会的責任を重んじ、価値観の多様な他者を尊重するとともに自己肯定感を高めようとしている。	高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦している。

(3) ルーブリック作成

- 本校で育みたい資質・能力をルーブリック (5 段階) にして、全学年で年に 3 度測定する。

(4) 実践の積み上げ (毎年度の実践は実践集として「使える形」で集約)

- 1 年目 (平成 28 年度) ESD カレンダーの作成、目指す資質・能力の整理、3 プロジェクトの行動計画
- 2 年目 (平成 29 年度) サステイナブルスクール 2 年目の研究紀要作成、公開研究会
- 3 年目 (平成 30 年度) SDGs 授業実践集、サステイナブルスクール 3 年間の取組と成果 (まとめ) 作成
- 4 年目 (令和元年度) 課題発見・解決学習 実践集、ハッピースクール事業、4 年間のまとめ作成
- 5 年目 (令和 2 年度) 個別最適化実証研究事業、WWL (ワールド・ワイド・ラーニング)
- 6 年目 (令和 3 年度) 個別最適化実証研究事業最終年、WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) 2 年目

3 本校 ESD3 主要プロジェクトの主な取組

(1) 地域課題解決プロジェクト

実地見聞を伴う体験的な学習を通して、地域を知り、課題解決に取り組む力を育成する。

- ② 1 学年「ふるさと学習」(地元福山について歴史や資源等について理解を深める)
- ② 1 学年「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」(出身地域の課題について調査・研究・提案する)
- ③ 4 学年「グローバル人材育成事業」(福山市の企業を研究し、冊子「Hi-Hi ふくやま」を発行する)
- ④ 5 学年「夢プロ」(各自が夢の実現に資するプロジェクトを実施し、学びをまとめ発表する)
- ⑤ 5 学年「福山高校×福山市立大学 高大連携事業」(大学生と協働しまちづくりについて調査・研究・提案する)

(2) 国際課題解決プロジェクト

海外修学旅行先や姉妹校と国際交流・調査・発表を行う。思考・解決・提案型の交流活動を行う。

- ① 3 学年、5 学年「国際理解」(各自がテーマを設定し、調査結果を発表する)
- ② 5 学年「海外修学旅行」(マレーシアの高校生と地球環境問題 SDGs について発表・討論する)
- ③ ICC「模擬国連」(部活を中心に模擬国連に取組み、研修会・全国大会に出場)
- ④ 姉妹校等との「国際交流・語学研修・留学生受け入れ」(韓国、オーストラリア、マウイ)
- ⑤ 5 学年「夢プロ」(夢の実現に向けた活動に挑戦し、学びを発表する、フィリピン支援、観光甲子園等)

(3) 在り方生き方探究プロジェクト

自他の長所や魅力を発見し自尊心を高め、ライフプランを設定し、よりよい「在り方生き方」を考える。

- ① 1 学年「自分発見学習」(小学校の活動〔賞状、認定書等〕から自身の魅力を発見する)
- ② 2 学年「職場体験学習」(マナー学習を行ったうえで5日間体験を行う)
- ③ 3 学年「東京修学旅行、企業・官公庁訪問研修」(研修テーマを設け生徒が運営する)
- ④ 4 学年「ライフプラン」(講演会やインタビューを通して夢や目標を設定する)
- ⑤ 5 学年「夢プロ」(各自が夢の実現に資するプロジェクトに挑戦し、学びをまとめ発表する)
- ⑥ 6 学年「課題研究」(進路に関連した課題を SDGs に基づいて設定し、調査・研究を行い発表する)

4 主な変容と今後の課題(学校・教員・生徒) *詳細は p.15~参照

(1) 学校の変容

- ①「開校以来積み上げてきた実践を、ESD の観点で整理し構造化する」ことと、「本校で育みたい資質・能力を明確化し、教育内容を6観点で整理する」ことができた。
- ② 今後は、カリキュラムマップの質を「本当に使える」、「見てわかる」ものにさらに精度を高める。
- ③ ルーブリック評価の追跡を長期的に行い、本校で育みたい資質・能力を身に着ける教育内容にする。

(2) 教員の変容

- ① 研修等を通じて、各教員に ESD の考えが浸透。過去の取組の多くが ESD の方向性にあることを認識。
- ② 各教科の中で SDGs に関連した取組を実施する(平成 30 年の研究テーマ)。

(3) 生徒の変容

- ① 校長のリーダーシップ(講話等を含む)や諸活動を通して、主体的な活動に取組始めている。
(観光甲子園最優秀賞、全日本高校模擬国連大会4年連続5度目の出場、フィリピン国際ボランティア参加など)
- ② 資質・能力評価ルーブリック(5段階)を分析すると、次のような成果が見られる。
 - 資質・能力は、第1回(春)から第3回(冬)でどの学年も上昇(生徒が自己の成長を実感)。
 - 資質・能力の「学校平均」は、第1回(春)は5段階中2.0、第3回(冬)は2.8(平均0.8上昇)。
 - 資質・能力の伸びは、2年間実施学年では0.9上昇、1年間では0.7上昇(長い方が伸びる、初年度急上昇)。
- ③ 今後は、教員・生徒とルーブリックの内容や意義をさらに共有し、全方面での主体的な実践を促す。

(6) ESD 事業計画書の例（平成 30 年度のもの）

（例）ACCU に提出した【事業計画書】

ESD の深化による地域の SDGs 推進事業 事業計画書

学校情報			
学校名	福山市立福山中・高等学校	印	
校長名	向井 勝也（当時）		
担当者名	上山 晋平	役職	総合・ESD 担当主事
電話	084-951-5978	FAX	084-951-6518
E-mail	kou-ichifuku-t11@edu.city.fukuyama.hiroshima.jp		

1. 計画の概要とねらい

総合的な学習の時間を中心に教科や特別活動と関連づけながら、(1)「地域課題解決プロジェクト」、(2)「国際課題解決プロジェクト」および(3)「在り方生き方探究プロジェクト」の3つのプロジェクトを実施し、身近な地域社会の持続可能性の向上に取り組むとともに、地球的諸課題の解決を図ることで、個人としての在り方生き方を含めた資質・能力の向上に取り組む。

2. 年間スケジュール

	活動内容 (対象者（学年・人数等）、教科等の情報含む)	備考
4月	自分発見学習（中1、120名） 総合	自分の長所や魅力の発見
5月	国際理解（中3、120名） 総合	国調査とポスターセッション
6月	SDGsを含めた課題研究（高3、200名） 総合	地元企業ガイドブック作成
7月	ふるさと学習（中1、120名） 総合	福山の歴史や資源学習
8月	職場体験学習（中2、120名） 総合	体験を踏まえレポート作成
9月	進路探究（高3、200名） 総合	進路や学問分野で調査研究
10月	海外修学旅行（高2、200名） 総合	研究レポートを現地検証
11月	誰もが暮らしやすい街づくり（中1、120名）	地域の長所と問題解決策提案
12月	グローバル人材育成事業（高1、200名） SDGs教科実践レポート作成（全教職員）	福山市の企業を研究し冊子化 授業実践集作成
1月	「夢チャレ」発表会（高2、200名）	学校外課題活動の成果発表会
2月	サステナブルスクール発表会	SDGsの取組発表会（教科も）

上記の授業としての活動に加え、年間を通じて以下のような課外活動を随時行う。

- 「国際交流」（姉妹校への語学研修、協議、ホームステイや学校訪問の受け入れ）
- 「夢チャレ」（高2が各自の夢の実現に関する活動に挑戦し、レポートをまとめ発表）

3. 協力者、協力機関（名前、連絡先）

- 福山市役所（企画政策課・産業振興課・青少年課・市民相談課）、市民参画センター
- 福山市立大学 都市経営学部
- 福山商工会議所、福山青年会議所、みつぎ総合病院、中国銀行、他地域の18社

4. その他コメント、追記事項

上記3つのプロジェクトによって、「持続可能な社会の担い手」として生徒に付けさせたいと本校が考えている資質・能力は、以下の6つである。

- （能力面）情報整理力 / 表現力 / 課題解決力
- （資質面）協働 / 自他の尊重 / チャレンジ精神

(7) 研究実践に当たっての ESD 共通理解項目 (ミニマム・エッセンシャルズ)

年度当初校内研修資料より

(1) ESD とは「持続発展教育」のこと

- Education for Sustainable Development の略 (「持続可能な開発のための教育」)
- この言葉の普及促進のために、日本ユネスコ国内委員会はより簡単な「持続発展教育」を使用

(2) 「持続可能な開発のための教育」とは？

- 将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく
- 現在の世代のニーズを満たすような社会づくり

(出典)「持続可能な開発のための教育 (ESD)」『平成 27 年度広島県教育資料』p. 233

* (要するに) 現在の「経済発展」と将来の「環境保全」をどう両立させるか

(3) ESD を説明すると (概念整理に役立つ)

現代の世界には、貧困、人権、平和といった様々な問題があり、これらを自らの問題として捉え、身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動が「持続可能な開発のための教育」である。ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育む教育である。

(4) ESD の基本的な考え方は？ (出典) 同上

① ESD は、持続可能な社会づくりのための担い手づくりである。実施には、特に次の 2 つの観点が必要となる。

- 人格の発達や、自立心、判断力、責任感などの人間性を育むこと。
- 他人との関係性、社会との関係性、事前環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと。

② 環境教育、国際理解教育等の持続可能な発展に関わる諸問題に対応する個別の分野の取組にとどまらず、

(出典)『ユネスコ・スクールと持続発展教育 (ESD) について』(日本ユネスコ国内委員会、2008 年 6 月)

* ①「ESD 2 観点」は、福山 100NEN 教育でも「すべての教育課程に位置づける重要な役割」とされている。

(5) ESD 実践のポイント

- ① 何か新しい取組を始めるものではない。
- ② これまでの取組を ESD の観点から見直して、
- ③ 各取組に共通した「持続社会の構築」という共通目的を与えるもの

(6) 本校の研究テーマ

① ユネスコ・スクールの研究テーマ 4 つ：

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 人権、民主主義の理解と促進
- 国際理解教育
- 環境教育

② 本校 ESD は、各学年の取組を次の 3 つのプロジェクトで整理している。

- 地域課題解決プロジェクト
- 国際課題解決プロジェクト
- 在り方生き方探究プロジェクト

(7) ESD の実践とレポートについて

① 年間指導計画に基づき、教育研究部 (学年) が、実践及び実践記録の担当者を確定する。

③ 担当者は、ESD に該当する実践を終了後すぐにレポートを作成する (1 枚、様式は例を参照のこと)。

④ 11 月 14 日の公開研究会や各種 ESD 発表会などでの発表の事例集として活用する。(次年度の参考とする。)

(8) ESD サステナブルスクール 3 年間の流れ

① 2016 年度 (平成 28 年度) : 1 年目

実践を ESD カレンダーに整理し、各活動が育む「資質・能力」を整理する。3 プロジェクトの展開計画を立てる。

海外の学校と相互に思考・探究する場を創る。次年度に始める「高校版ふるさと学習」の計画策定をする。

② 2017 年度 (平成 29 年度) : 2 年目

新規プログラムを試行・評価し、30 年度以降のシラバス及び評価計画を作成する。公開研究会で指導助言を受ける。

③ 2018 年度 (平成 30 年度) : 3 年目

新シラバスで実践を行う。中学校 1 年・高等学校 1 年は新シラバスで、他学年は移行できるものから実践する。

(8) カリキュラムマップ (全体計画・年間指導計画一覧表 / 6つの資質・能力とSDGs付き)

■中3のカリキュラムマップ (全体計画・年間指導計画一覧表) * 6つの資質・能力と関連SDGsシール付き (教科会で貼付)

教科/科目	学年												
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
英語	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策	英検準2級対策 英検2級対策 英検1級対策
数学	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ	数Ⅰ 数Ⅱ
理科	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物	物理 化学 生物
社会	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民	地理 歴史 公民
外国語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
芸術	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育	音楽 美術 体育
総合	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習
特別の教科	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳
特別活動	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会	学校行事 部活動 委員会
習字	習字	習字	習字	習字	習字	習字	習字	習字	習字	習字	習字	習字	習字

(9) 生徒に付けたい資質・能力ループリック (2種)

①【～令和4年度】 「福山中高で育みたい資質・能力」ループリック (高校版)



「福山中・高等学校で育みたい資質・能力」ループリック (目標達成度の評価表)

このシートは3年間使います

(1) 表中の①～⑥は、皆さんが「21世紀の社会で活躍する」ために、学校内外の授業や活動を通して特に身につけてほしいと考えている資質・能力です。
 ①～⑥の各項目(3つの能力と3つの資質)について、レベルごとの説明文を参考に、あなたが現在到達していると考えられるレベルの□に大きな✓をつけてください。
 その後、下記の「レベル記入欄」にそれぞれのレベルを数字で書き込んでください。(どれにも当てはまらないと思う場合は「1」をマークしてください。) * 業に用語の説明があります。

育みたい「3つの能力」と「3つの資質」	【能力(スキル)】			【資質(気質・特性・情感・態度)】		
	①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働	⑤自他の尊重	⑥チャレンジ精神
レベル1	◆課題解決や新しい師匠を創造するために必要な基礎的な知識や技能を創造的・探究的に活用・表現することができる。 □ テーマに関して学んだことを(原簿などを)読んで伝えることができる。 □ 学んだことに加えて、他者の意見・アイデアを活用できる。自分の言葉で発表や説明ができる。	◆様々な場面で課題を発見し、最終的により近い解決方法を見つけることができる。 □ 自分の生活や社会などについて考えてきたことがある。 □ 自己の生活や社会などについて、改善したい(進歩したい)ことが1つ以上ある。	◆様々な場面で課題を発見し、最終的により近い解決方法を見つけることができる。 □ 他者と一緒に活動している。良き関係で話している。 □ 他者の意見を果敢と、全員が目標達成をするために、チームメンバーを守って責任を持って行動している。	◆価値観の多様な他者と協働し、集団や社会に貢献し解決しようとしている。 □ 他者と一緒に活動している。良き関係で話している。 □ 他者の意見を果敢と、全員が目標達成をするために、チームメンバーに助けを求め、かつ支援をしている。	◆個人的・社会的責任を重んじ、価値観の多様な他者を尊重するとともに自己肯定感を高めようとしている。 □ 自分のことは考えている。 □ 人からの指示を待たずとも、自ら行動(学習)している。	◆高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦している。 □ 人から指示されたことはやっていると。 □ 人からの指示を待たずとも、自ら行動(学習)している。
レベル2	□ テーマに関して学んだことを(原簿などを)読んで伝えることができる。 □ 学んだことに加えて、他者の意見・アイデアを活用できる。自分の言葉で発表や説明ができる。	□ 複数の意見・アイデア・計画を合わせて、より良いものを作ることができ、それを相手に分かりやすい方法で伝えることができる。 □ 独創的なアイデアや計画を創造し、校内で分かりやすく(説得力のある発表・発表)ができる。	□ 地域や国際社会について自ら解決したい課題を見つけている。課題の原因を自ら調査・探究している。 □ 地域や国際社会について改善・解決すべき課題を見つけ、調査・探究して解決案を提案する。解決のために行動している。	□ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。 □ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。	□ 地域やグローバル社会の一端として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重するとともに、自己肯定感を高めている。 □ 地域やグローバル社会の一端として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重するとともに、自己肯定感を高めている。	□ 志を持ち、課題解決のために自ら新しいことや困難なことに挑戦している。 □ 理想を追求し高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦している。
レベル3	□ 与えられた情報に加え、テーマに関連するデータや情報を自分で書籍やネット等で検索しおおよその特徴を理解できる。	□ 既存の情報と自分が集めたデータや情報を見て特徴を正確に比較・対比し、まとめることができる。	□ 課題解決や新しい価値を創造するために効果的な資料を複数集め、正確に分析・整理し、「分類・比較・対比」に加え「予測・提案・創造・発明」などして新しい情報を生産している。	□ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。 □ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。	□ 地域やグローバル社会の一端として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重するとともに、自己肯定感を高めている。 □ 地域やグローバル社会の一端として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重するとともに、自己肯定感を高めている。	□ 志を持ち、課題解決のために自ら新しいことや困難なことに挑戦している。 □ 理想を追求し高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦している。
レベル4	□ 課題解決や新しい価値を創造するために効果的な資料を複数集め、正確に分析・整理し、「分類・比較・対比」に加え「予測・提案・創造・発明」などして新しい情報を生産している。	□ 課題解決や新しい価値を創造するために効果的な資料を複数集め、正確に分析・整理し、「分類・比較・対比」に加え「予測・提案・創造・発明」などして新しい情報を生産している。	□ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。 □ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。	□ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。 □ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。	□ 地域やグローバル社会の一端として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重するとともに、自己肯定感を高めている。 □ 地域やグローバル社会の一端として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重するとともに、自己肯定感を高めている。	□ 志を持ち、課題解決のために自ら新しいことや困難なことに挑戦している。 □ 理想を追求し高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦している。
レベル5	□ 課題解決や新しい価値を創造するために効果的な資料を複数集め、正確に分析・整理し、「分類・比較・対比」に加え「予測・提案・創造・発明」などして新しい情報を生産している。	□ 課題解決や新しい価値を創造するために効果的な資料を複数集め、正確に分析・整理し、「分類・比較・対比」に加え「予測・提案・創造・発明」などして新しい情報を生産している。	□ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。 □ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。	□ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。 □ 課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを認めたりしている。新しい考えを蓄積し広げている。	□ 地域やグローバル社会の一端として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重するとともに、自己肯定感を高めている。 □ 地域やグローバル社会の一端として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重するとともに、自己肯定感を高めている。	□ 志を持ち、課題解決のために自ら新しいことや困難なことに挑戦している。 □ 理想を追求し高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦している。
レベル記入欄	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	
(2)項目						
本人	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	
名前	男	女	部活動			

(2) 評価レベル「4」「5」を選んだ人は、その項目の能力や価値を特に伸ばしたと考えられる活動や場面を「(2)項目」欄に「具体的に」記述してください。(5WHIHをできるだけ含めて)。
 例) ●教科や総合学習(活動や取組) ●校内外の自主研究・活動(ポスター等) ●行事(文化祭・体育祭・修学旅行等) ●生徒会活動 ●部活動 ●定期テストやパフォーマンステスト ●資格・試験 ●留学 他

【参考】 * 本ループリック作成に当たっては以下を参考にさせていただきました。
 ●岡山県立倉敷南高等学校「21世紀型能力」ループリック
 ●三宅なほみ(監訳)ほか(2014)『21世紀型スキル：学びと評価の新たなかたち』(北大路書房)

②【新版（令和5年度～）】 「福山中高で育みたい資質・能力」ルーブリック

このシートは3年間使います		「福山中・高等学校で育みたい資質・能力」ルーブリック(目標達成度の評価表)												
<p>ルーブリックの目的 この6つは福山中高で、特に育みたい資質・能力です。これらを伸ばすことは、みなさんが卒業後の大学生活・社会人生活を豊かに過ごすために大切な力となります。得意なものはさらに伸ばし、苦手なものは意識して、学校生活を過ごしてみましょう。</p> <p>ルーブリックの使い方 ①各学期に1回評価する ②右側の空欄に○をつける ③特に印象的なことは下欄に記述する（成長を言語化しよう）</p>														
5つのレベル▶1:見る▶2:見つける▶3:考える▶4:表現する▶5:実践する														
本校で育みたい「3つの能力」と「3つの資質」		レベル	内容	レベル	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年	
【能力（スキル）】	①創造力 (新たな解決方法や価値の創造)	レベ5	□自分なりの独創的なアイデアを継続して考えたことを、社会的に価値あるアイデアや計画を創造することができる。	5:実践する	4月	10月	1月	4月	10月	1月	4月	10月	1月	
		レベ4	□独創的なアイデアや計画を創造し、更に発展させる意欲を持ち、新しいアイデアを生み出すことができる。	4:表現する										
		レベ3	□目の前の課題に対して、これまでに得た知識や技術に関連づけながら、自分なりのアイデアを考えることができる。	3:考える										
		レベ2	□固定観念にとらわれず、他人の意見を柔軟に受け止め、自分なりのアイデアを見つけることができる。	2:見つける										
		レベ1	□身の回りの事柄について、あるべき姿(理想)と現状との差(問題点)を把握している。	1:見る										
		レベ0												
	②思考力 (多面的な方法で考え、精鋭する)	レベ5	□課題について、吟味して決定した対応方法を実践することができる。	5:実践する	4月	10月	1月	4月	10月	1月	4月	10月	1月	
		レベ4	□課題について、対応方法ごとのメリット・デメリットを比較し吟味することができる。	4:表現する										
		レベ3	□課題について理解し、複数の立場から、対応方法のメリット・デメリットが分かる。	3:考える										
		レベ2	□課題を見つけ、複数の立場から、既存の対応方法(課題解決策)を調べるができる。	2:見つける										
		レベ1	□身の回りの事柄に対して興味を持ち、課題を見つけようとしている。	1:見る										
		レベ0												
③コミュニケーション力 (コミュニケーションを図る力)	レベ5	□相手の意見を尊重して聞き、十分に理解し、周囲の共感を得られるように考えながら自分の意見を目的・場面・状況に応じて伝え合意形成を図ることができる。	5:実践する	4月	10月	1月	4月	10月	1月	4月	10月	1月		
	レベ4	□相手の意見を尊重して聞き、十分に理解し、相手のことを考えながら自分の意見を目的・場面・状況に応じて適切に伝えることができる。	4:表現する											
	レベ3	□相手の意見を理解し、相手のことを考えながら自分の意見を伝えることができる。	3:考える											
	レベ2	□相手の意見を理解し、自分の意見を伝えることができる。	2:見つける											
	レベ1	□相手の意見を理解しようとしている。	1:見る											
	レベ0													
【資質（気質・特性・情意・態度）】	④探究心 (物事の意義、本質を追求しようとする)	レベ5	□好奇心と熱意をもって、物事の本質を理解し、課題について発展性のある探究活動を行っている。	5:実践する	4月	10月	1月	4月	10月	1月	4月	10月	1月	
		レベ4	□熱意をもって既存のデータや情報と自分が集めたものを整理・分析して特徴を正確に理解し、物事の本質を理解しようとしている。	4:表現する										
		レベ3	□物事に関して与えられた情報に加え、既存のデータや情報を書籍やネット等で好奇心をもって調べ、課題について考えている。	3:考える										
		レベ2	□与えられたデータや情報の要点を正確に理解し、課題を見つけようとしている。	2:見つける										
		レベ1	□与えられたデータや情報をおおよそ理解している。	1:見る										
		レベ0												
	⑤団結力 (多様性を認め合う気質)	レベ5	□考えの違う他者の意見や存在を、課題解決のための重要なものと考えて受け入れ、集団のやる気を高め、集団・地域・社会に貢献している。	5:実践する	4月	10月	1月	4月	10月	1月	4月	10月	1月	
		レベ4	□考えの違う他者に対して、他者との違いを尊重しながら、集団の一員として物事に取り組んでいる。	4:表現する										
		レベ3	□集団や他者の考えを認め、思いやりを持って行動している。	3:考える										
		レベ2	□集団や他者の中で、相手の立場や考えを捉えようとしている。	2:見つける										
		レベ1	□集団や他者の中で、他者を観察している。	1:見る										
		レベ0												
⑥チャレンジ精神 (困難に負けずに粘り強く挑戦)	レベ5	□高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに立ち向かい、失敗から学び、粘り強く挑戦している。	5:実践する	4月	10月	1月	4月	10月	1月	4月	10月	1月		
	レベ4	□志を持ち、課題解決のために自ら新しいことや困難なことに挑戦している。	4:表現する											
	レベ3	□人から指示されなくても、(自分がすべきことに加えて)新しいことや困難なことに挑戦している。	3:考える											
	レベ2	□人から指示されなくても、自発的に行動(学習・実践)している。	2:見つける											
	レベ1	□人から指示されたことはやろうとしている。	1:見る											
	レベ0													
探究活動の中で印象的なものについて、5W1Hを意識して記録しておきましょう。(各文の後ろに学年・学期を記載すること)														
4年生生徒番号() 5年生生徒番号() 6年生生徒番号() 氏名()														

②「福山中高 ESD3 プロジェクト」ルーブリック（高校版）＊中学版は「概要説明」部分が異なる。



このシートは3年間使います 「福山中・高等学校 ESD3 プロジェクト」ルーブリック（目標達成度の評価表）

(1) 福山中・高は、持続可能な未来を育む(ESD)を進めています(全国24校のサステイナブルスクールの1校、かつユネスコスクール)。具体的には、総合的な学習の時間を中心にして、以下のような3つのプロジェクト、①地域課題解決プロジェクト、②国際課題解決プロジェクト、および③生き方・在り方探究プロジェクトを実施し、皆さんの地域社会や地球的課題の解決を図りつつ、皆さん個人としての生き方・在り方の向上を含めた「資質・能力の向上」に取り組むものです。
 (2) 以下の①～③の各項目について、レベルごとの説明文を参考にし、レベルごとの説明文を参考にし、あなたが現在到達していると考えられるレベルの□に大きな✓をつけてください。
 (3) その後、下記の「レベル記入欄」にそれぞれのレベルを数字で書き込んでください。(どれも当てはまらないと思う場合は「1」をマークしてください)
 (4) 評価レベル「4」「5」を選んだ人は、その項目の能力や価値を特に伸ばしたと考えられる活動や場面を「(2)項目」欄に「具体的に」記述してください(5WIHをできるだけ含めて)。

3プロジェクト	①地域課題解決(力)	②国際課題解決(力)	③在り方生き方探究(力)
プロジェクトの概要説明	◆実地見聞を伴う体験的な学習を通して、地域を知り、各種の課題を解決する力を伸ばす。 □「地域」の良さや課題を見つげることができる。 □「地域」の良さや課題を見つげることができる。また、それに対する自分の意見を持つことができる。 □「地域」の良さや課題を見つげることができる。また、それに対する自分の意見を持つことができる。 □「地域」の良さや課題を見つげることができる。また、それに対する自分の意見を持つことができる。 □「地域」の良さや課題を見つげることができる。また、それに対する自分の意見を持つことができる。 □「地域」の良さや課題を見つげることができる。また、それに対する自分の意見を持つことができる。	◆調査・発表を行い、海外修学旅行先や姉妹校と国際交流を行う。思考・解決・提案型の交流活動を行い、国際課題を解決する力を伸ばす。 □「日本と外国」に関する良さや課題を見つげることができる。 □「日本と外国」に関する良さや課題を見つげることができる。また、それに対する自分の意見を持つことができる。 □「日本と外国」の良さや課題を考察することができる。また、その良さや課題を将来の「日本と海外」にどのように活かせば良いかを提案することができる。 □「日本と外国」の良さや課題を考察することができる。また、その良さや課題を将来の「日本と海外」にどのように活かせば良いかを提案することができる。 □「日本と外国」の良さや課題を考察することができる。また、その良さや課題を将来の「日本と海外」にどのように活かせば良いかを提案することができる。	◆自分の長所や魅力を見出し自尊心を高め、各種講演や活動等からの学びを活かして自分のライフプランを設定し、よりよい「在り方生き方」を考える。 □「自分」の長所や課題を見つげることができる。 □「自分」の長所や課題を見つげることができる。また、これまでの学習や活動を参考にし、自分のライフプラン(人生設計)や進路に対する考えを持つことができる。 □「自分」の長所や魅力を見つげ自尊心を持っている(自分を大切に思う)。また、その長所や魅力を自分の将来にどのように活かすのかを提案することができる(長所を生かしたライフプランを設定して発表できる)。 □「自分」が設定した将来の夢の実現に向けて、「自分」の長所や魅力をさらに伸ばすと同時に、自分の課題を見つげ、それを様々な方法を使って解決するために行動することができる。 □「自分」が設定した将来の夢や持続可能なより良い未来(社会、世界)の実現に向けて、「自分」の長所や魅力をさらに伸ばし課題を解決するために行動することにも、「持続可能なより良い未来(社会、世界)」の実現に向けて行動することができる。
レベル1 (見つける)			
レベル2 (考える)			
レベル3 (提案する)			
レベル4 (行動する)			
レベル5 (人を善き込む)			
レベル記入欄	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年
(2)項目 *評価4や5の活動			
本人	4年 組 番号	5年 組 番号	6年 組 番号

※【主な活動】1年(自分の良さ、地域調べ、進路学習、海外交流) 2年(職業調べ、海外交流) 3年(外国調べ、修学旅行、進路学習、海外交流) 4年(グローバル事業・地元企業研究、ライフプラン) 5年(国際課題解決プロジェクト、夢チャレ、進路研究) 6年(課題研究、進路研究) 他、模擬国連、各種活動・講座

(10) 資質・能力の自己評価（振り返りシート） *中学校

生徒は、自分のプロジェクトの区切りに、下の「プロジェクト管理表（振り返りシート）」を記入する。育みたい資質・能力に関わるコンピテンシーについて自己評価するもの。全部を振り返る必要はなく、生徒が自分で伸びたと思うコンピテンシーについて振り返る。振り返りの欄には、行ったタスクを書く。

■プロジェクト管理表（振り返りシート）

年 月 日

プロジェクト名 学年・クラス・氏名 年 組

学校教育目標 創造的な知性と豊かな心の調和的発展を図り、国際社会に貢献できる人間を育成する

福山中で育みたい 資質・能力	日常的に意識するコンピテンシー (AiGrow)		振り返り (コンピテンシーを意識して記載)
	論理的思考	道徳や筋道に即って物事を深く考えることができ、複雑な中でも分かりやすく説明できる能力	
情報整理力	疑う力	他者の意見をそのまま呑み込むことなく、必要に応じて建設的な反論をすることのできる能力	
	創造性	自分ならではの独自性に加えて、実現可能な生産性を伴ったアイデアを出すことのできる能力	
表現力	表現力	自分の考えや思いはもちろん、どんなことでも相手が理解しやすいように伝えることのできる能力	
	課題設定	状況を的確に把握しながら「何をすべきか」「どうやって成し遂げるか」を自ら考え出せる能力	
課題解決力	決断力	自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら判断し、物事を決めることのできる能力	
	個人的実行力	自らの意思によって行動を起こして計画を進め、何事にも自ら進んで取り組むことのできる能力	
協働	柔軟性	変化への対応力とともに、その場で機転を利かせて行動を適宜修正することのできる能力	
	影響力の行使	他者に対して自分の考えや目的を伝えながら、ともに協働して物事を進めることのできる能力	
自他の尊重	共感・傾聴力	相手の話を真剣に聴き、相手を深いレベルで理解し、相手の気持ちを尊重することのできる能力	
	寛容	自分とは考えや意見の異なる相手に対しても理解を示し、それを許容する態度が持てる能力	
チャレンジ精神	地球市民	自分が住む地域や日本のことはもちろん、世界の一員として何ができるか考えられる能力	
	ビジョン	将来、自分がどのように成長していきたいかなど、未来の目標を明確に持つことのできる能力	
	自己効力	何らかの課題に直面しても、「自分ならできる」と自信を持って物事を進めることのできる能力	
	耐性	困難な状況であっても、自分で決めたことは最後までしっかりとやり抜くことのできる能力	

(11) 事業の成果と課題（ループリック結果のまとめ）

1 令和7年度（2025年度）ループリック評価（まとめ）

年次	項目1		本校で育みたい資質・能力						全体
			能力			資質（気質・特性・情意・態度）			
			① 創造力	② 思考力	③ コミュニケーション力	④ 探究心	⑤ 協働	⑥ チャレンジング精神	
高校3年生	3年第2回 (164名)	平均値	3.7	3.8	3.9	3.7	3.8	3.6	3.8
	3年第1回 (191名)	平均値	3.5	3.6	3.7	3.4	3.6	3.4	3.5
	変化量 (2回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2
	2年第3回 (159名)	平均値	3.6	3.7	3.8	3.6	3.7	3.5	3.7
	2年第2回 (188名)	平均値	3.4	3.5	3.6	3.3	3.6	3.2	3.4
	2年第1回 (195名)	平均値	3.1	3.2	3.4	2.9	3.4	2.9	3.2
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.5	0.5	0.4	0.7	0.3	0.6	0.5
	1年第3回 (141名)	平均値	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.1	3.4
	1年第2回 (195名)	平均値	2.9	2.7	3.3	2.5	3.3	2.5	2.9
	1年第1回 (199名)	平均値	3.0	3.0	2.0	3.0	3.0	3.0	2.8
高校2年生	2年第3回 (186名)	平均値	3.4	3.6	3.7	3.4	3.6	3.5	3.5
	2年第2回 (156名)	平均値	3.2	3.4	3.7	3.3	3.6	3.3	3.4
	2年第1回 (173名)	平均値	3.2	3.3	3.5	3.1	3.5	3.2	3.3
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.2	0.3	0.2	0.3	0.1	0.3	0.2
	1年第3回 (165名)	平均値	3.4	3.4	3.6	3.2	3.6	3.4	3.4
	1年第2回 (170名)	平均値	2.9	3.0	3.3	2.8	3.3	2.9	3.0
	1年第1回 (185名)	平均値	2.5	2.6	2.9	2.4	3.0	2.5	2.7
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.9	0.8	0.7	0.8	0.6	0.9	0.8
	1年第3回 (131名)	平均値	3.6	3.4	3.8	3.4	3.7	3.3	3.5
	1年第2回 (159名)	平均値	3.2	3.2	3.5	3.2	3.5	3.1	3.3
高校1年生	1年第1回 (184名)	平均値	2.5	2.4	3.0	2.4	2.9	2.4	2.6
	変化量 (3回-1回)	平均値	1.1	1	0.8	1	0.8	0.9	0.9
	3年第2回 (115名)	平均値	3.9	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	4.0
	3年第1回 (118名)	平均値	3.5	3.8	3.8	3.6	3.7	3.7	3.7
中学3年生	2年第3回 (119名)	平均値	3.5	3.7	3.9	3.6	3.8	3.7	3.7
	2年第2回 (120名)	平均値	3.4	3.6	3.8	3.5	3.7	3.5	3.6
	2年第1回 (120名)	平均値	3.2	3.4	3.5	3.3	3.5	3.3	3.4
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	0.3
	1年第3回 (名)	平均値							#####
	1年第2回 (84名)	平均値	3.4	3.5	3.6	3.4	3.6	3.4	3.5
	1年第1回 (83名)	平均値	2.9	2.9	3.1	2.7	3.2	2.7	2.9
	変化量 (2回-1回)	平均値	0.5	0.6	0.5	0.7	0.4	0.7	0.6
	2年第3回 (110名)	平均値	3.5	3.7	3.8	3.6	3.8	3.6	3.7
	2年第2回 (113名)	平均値	3.3	3.5	3.8	3.5	3.6	3.4	3.5
中学2年生	2年第1回 (116名)	平均値	3.3	3.4	3.6	3.4	3.4	3.3	3.4
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.2	0.3	0.2	0.2	0.4	0.3	0.3
	1年第3回 (117名)	平均値	3.4	3.4	3.6	3.5	3.4	3.2	3.4
	1年第2回 (118名)	平均値	3.2	3.2	3.4	3.2	3.2	3.0	3.2
	1年第1回 (119名)	平均値	2.6	2.6	3.0	2.4	2.9	2.7	2.7
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.8	0.8	0.6	1.1	0.5	0.5	0.7
	1年第3回 (120名)	平均値	2.9	2.8	3.4	2.7	3.2	2.8	3.0
中学1年生	1年第2回 (120名)	平均値	2.7	2.6	3.2	2.4	3.0	2.6	2.8
	1年第1回 (120名)	平均値	2.2	2.1	2.6	2.0	2.6	2.2	2.3
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.7	0.7	0.8	0.7	0.6	0.6	0.7

※黄色は未実施

2 事業の成果 【令和8年3月1日現在での分析結果】

(1) (6つの) 資質・能力の向上について

以下は、本校設定6つの資質・能力ルーブリック（5段階評価）の全6学年平均をまとめたものである。

学校平均	本校で育みたい資質・能力						G 平均
	能力			資質(気質・特性・情意・態度)			
	① 創造力	② 思考力	③ コミュニケーション力	④ 探究力	⑤ 協働	⑥ チャレンジ精神	
A 各学年の第3回の平均数値(学年末・除6年)	3.5	3.5	3.8	3.5	3.6	3.4	3.5
B 各学年の第1回平均数値(開始当初)	3.1	3.1	3.5	3.0	3.4	3.0	3.2
C 調査開始時からの伸び(3年間実施学年)	0.8	1.0	1.5	1.0	0.8	0.9	1.0
D 調査開始時からの伸び(2年間実施学年)	0.9	1.1	0.8	1.1	0.7	1.0	0.9
E 調査開始時からの伸び(1年間実施学年)	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8
F 調査開始時からの伸び(1～3年間平均)	0.9	0.9	1.0	0.9	0.8	0.8	0.9

3 分析

- ①AとBを比較すると、資質・能力の「学年平均」（中1～高3までの6学年）は、第1回調査（開始当初）から第3回調査（学年末）にかけてすべての項目で数値が上昇した。開始当初の学校平均は3.2であったのに対し、学年末の平均は3.5となり、学校全体では0.3ポイントの上昇が見られた。これらの結果から、生徒が学校生活やESDの学習活動を通して、資質・能力の成長を一定程度実感していることがうかがえる。
- ②各資質・能力の伸びを見ると、「③コミュニケーション力」が3.5から3.8へと上昇し、6項目の中で最も高い数値を示している。また、「④探究力」や「②思考力」もそれぞれ0.5ポイント程度向上しており、探究的な学習活動や協働的な学習が生徒の主体的な学びに一定の効果をもたらしていることが考えられる。
- ③C～EのデータからESDの実施年数ごとの伸びを比較すると、3年間実施学年では平均1.0ポイント、2年間実施学年で0.9ポイント、1年間実施学年で0.8ポイントの上昇した。実施年数が長いほど資質・能力の伸びが大きくなる傾向が確認され、ESDの継続的取組が生徒の資質・能力の育成に寄与していることが示唆される。

	3年間実施	2年間実施	1年間実施
令和7年度	1.0	0.9	0.8
令和6年度	0.9	0.8	0.8
令和5年度	1.3	1.2	0.6

- ④F（1～3年間の平均）を見ると、6つの資質・能力はいずれも平均で0.9程度上昇している。特に「コミュニケーション力」は1.0ポイントの上昇を示しており、地域課題解決プロジェクトや国際交流、探究活動などの学びが、生徒の対話力や発信力の向上につながっていると考えられる。
- ⑤一方で、「⑤協働」や「⑥チャレンジ精神」は他の資質・能力に比べて伸びがやや小さい傾向が見られる。これは、生徒が自ら課題に挑戦したり、主体的に役割を担う経験が、まだ十分とは言えない可能性を示していると考えられる。

4 まとめ・課題

本調査の結果から、ESDの取組により、生徒の資質・能力は全体として向上したことが確認できた。特に、コミュニケーション力、思考力、探究力の向上は、総探や地域・国際課題解決プロジェクトの成果と考えられる。

一方で、協働やチャレンジ精神など、主体的な行動や挑戦に関わる資質については、さらなる伸長が求められる。今後は、生徒自ら課題を設定し、試行錯誤しながら解決に取り組む機会の一層の充実が重要である。

そのためには、授業改善だけでなく、学校行事や課外活動、地域連携活動などを含めた学校全体の教育活動の中で、生徒が主体的に挑戦し、協働して学ぶ機会を意図的に設計していく必要がある。こうしたホールスクールアプローチを通して、本校が目指す資質・能力のさらなる向上を図っていきたい。

3-⑤ 教育効果等の分析サマリー（福山中学校）

実証研究概要	学校重点目標	創造的な知性と豊かな心の調和的発展を図り、国際社会に貢献できる人間を育成
	育成したい資質・能力	情報整理力、表現力、課題解決力、協働、自他の尊重、チャレンジ精神
	実証手法 （自己決定場面）	興味関心に応じたMy探究 - 各自の興味関心に基づいて探究テーマを決定（個別の問いや課題の設定） - 活動内容・方法・場所・時間・ペースなど全て自分で企画し、実行・振り返り・改善を繰り返す
	測定コンピテンシー	課題設定、論理的思考、創造性、実行力、自己効力、決断力、表現力、柔軟性など（AiGrow活用：R3.2）
	学力テスト	算数、国語、英語（ベネッセ：学力推移調査 R3.11）

① 資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自己決定するほど実行力や自己効力が高まり、実行するほど自己効力が高まる傾向あり。 ➢ その他、実行力と課題設定・論理的思考・耐性・柔軟性にも相関が見られた。 		
	区分	内容	割合
	決断力 - 実行力	決断力が伸びた生徒(52%)のうち、実行力も伸びた生徒	73%
	決断力 - 自己効力	決断力が伸びた生徒(52%)のうち、自己効力も伸びた生徒	74%
	実行力 - 自己効力	実行力が伸びた生徒(52%)のうち、自己効力も伸びた生徒	77%

② 資質・能力の変容	<p><各コンピテンシーが向上した生徒割合></p>	<p>・自分がやりたいことについて自分で目標を設定し、達成に向けて工夫しながら取り組むことで、6割近い生徒の「創造性」「ヴィジョン」「柔軟性」などが伸びた。</p> <p>・自分のプロジェクトを進めるために、いつ、どこで、何をすべきか、全て自己決定し、試行錯誤しながら粘り強く実行・改善を繰り返すことで過半数の生徒の「決断力」「実行力」「自己効力」「耐性」などが伸びた。</p>
	14	

(2) 過去の記録

9年目(令和6年度・2024年度)

各学年の回ごとのルーブリック平均値

※空欄はルーブリックの内容を変更したため

※黄色は未実施

年次	項目1	本校で育みたい資質・能力						全体	項目2	ESD3プロジェクト			全体
		能力			資質(気質・特性・情意・態度)					①地域課題解決(力)	②国際課題解決(力)	方③生き方・在り	
		①創造力	②思考力	③コミュニケーション力	④探究心	⑤協働	⑥チャレンジ精神						
高校3年生	3年第2回(181名)	3.4	3.5	3.7	3.4	3.6	3.3	3.5	3年第2回(181名)	3.0	2.8	3.1	3.0
	3年第1回(191名)	3.0	2.9	3.4	2.9	3.4	2.9	3.1	3年第1回(177名)	2.9	2.7	3.0	2.9
	変化量(2回-1回)	0.4	0.6	0.3	0.5	0.2	0.4	0.4	変化量(2回-1回)	0.1	0.1	0.1	0.1
	2年第3回(182名)	3.2	3.2	3.5	3.1	3.4	3.0	3.2	2年第3回(182名)	2.8	2.7	2.9	2.8
	2年第2回(191名)	3.0	2.9	3.4	2.9	3.4	2.9	3.1	2年第2回(189名)	2.7	2.6	2.8	2.7
	2年第1回(184名)	2.8	2.7	3.3	2.7	3.2	2.7	2.9	2年第1回(188名)	2.6	2.4	2.5	2.5
	変化量(3回-1回)	0.4	0.4	0.2	0.4	0.2	0.3	0.3	変化量(3回-1回)	0.2	0.3	0.4	0.3
	1年第3回(195名)					2.9	2.6	2.8	1年第3回(195名)	2.8	2.5	2.5	2.6
	1年第2回(197名)					2.7	2.4	2.6	1年第2回(195名)	2.5	2.3	2.3	2.4
	1年第1回(200名)					2.4	2.1	2.3	1年第1回(196名)	2.1	2.0	2.0	2.0
	変化量(3回-1回)					0.5	0.5	0.5	変化量(3回-1回)	0.7	0.5	0.5	0.6
高校2年生	2年第3回(159名)	3.6	3.7	3.8	3.6	3.7	3.5	3.7	2年第3回(171名)	2.9	2.8	3.1	2.9
	2年第2回(188名)	3.4	3.5	3.6	3.3	3.6	3.2	3.4	2年第2回(188名)	2.8	2.7	2.9	2.8
	2年第1回(195名)	3.1	3.2	3.4	2.9	3.4	2.9	3.2	2年第1回(195名)	2.5	2.4	2.6	2.5
	変化量(3回-1回)	0.5	0.5	0.4	0.7	0.3	0.6	0.5	変化量(3回-1回)	0.4	0.4	0.5	0.4
	1年第3回(141名)	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.1	3.4	1年第3回(142名)	3.0	3.0	3.0	3.0
	1年第2回(195名)	2.9	2.7	3.3	2.5	3.3	2.5	2.9	1年第2回(195名)	2.3	2.0	2.4	2.2
	1年第1回(199名)	3.0	3.0	2.0	3.0	3.0	3.0	2.8	1年第1回(199名)	2.0	2.0	1.5	1.8
	変化量(3回-1回)	0.4	0.4	1.5	0.5	0.5	0.1	0.6	変化量(3回-1回)	1	1	0.5	0.8
高校1年生	1年第3回(165名)	3.4	3.4	3.6	3.2	3.6	3.4	3.4	1年第3回(162名)	3.0	3.0	3.0	3.0
	1年第2回(170名)	2.9	3.0	3.3	2.8	3.3	2.9	3.0	1年第2回(170名)	2.4	2.4	2.5	2.4
	1年第1回(185名)	2.5	2.6	2.9	2.4	3.0	2.5	2.7	1年第1回(185名)	2.1	2.0	2.1	2.1
	変化量(3回-1回)	0.9	0.8	0.7	0.8	0.6	0.9	0.8	変化量(3回-1回)	0.9	1	0.9	0.9
中学3年生	3年第2回(118名)	3.8	3.9	4.1	3.7	3.9	3.8	3.9	3年第2回(118名)	3.0	2.8	3.2	3.0
	3年第1回(120名)	3.4	3.5	3.9	3.3	3.7	3.5	3.6	3年第1回(119名)	2.7	2.6	3.0	2.8
	変化量(2回-1回)	0.4	0.4	0.2	0.4	0.2	0.3	0.3	変化量(2回-1回)	0.3	0.2	0.2	0.2
	2年第3回(117名)	3.4	3.5	3.8	3.3	3.7	3.4	3.5	2年第3回(109名)	2.7	2.6	3.0	2.8
	2年第2回(117名)	3.3	3.3	3.6	3.2	3.5	3.2	3.4	2年第2回(117名)	2.7	2.5	2.8	2.7
	2年第1回(116名)	3.0	2.9	3.4	2.9	3.4	2.9	3.1	2年第1回(114名)	2.5	2.3	2.6	2.5
	変化量(3回-1回)	0.4	0.6	0.4	0.4	0.3	0.5	0.4	変化量(3回-1回)	0.2	0.3	0.4	0.3
	1年第3回(名)							#####	1年第3回(名)				#####
	1年第2回(119名)					2.7	2.6	2.7	1年第2回(116名)	2.3	2.2	2.3	2.3
	1年第1回(118名)					2.3	2.2	2.3	1年第1回(117名)	2.1	1.9	2.0	2.0
	変化量(2回-1回)					0.4	0.4	0.4	変化量(2回-1回)	0.2	0.3	0.3	0.3
中学2年生	2年第3回(119名)	3.5	3.7	3.9	3.6	3.8	3.7	3.7	2年第3回(118名)	2.8	2.7	3.0	2.8
	2年第2回(120名)	3.4	3.6	3.8	3.5	3.7	3.5	3.6	2年第2回(119名)	2.7	2.6	2.9	2.7
	2年第1回(120名)	3.2	3.4	3.5	3.3	3.5	3.3	3.4	2年第1回(118名)	2.6	2.5	2.7	2.6
	変化量(3回-1回)	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	0.3	変化量(3回-1回)	0.2	0.3	0.4	0.3
	1年第3回(名)							#####	1年第3回(名)				#####
	1年第2回(84名)	3.4	3.5	3.6	3.4	3.6	3.4	3.5	1年第2回(80名)	2.9	2.7	3.0	2.9
	1年第1回(83名)	2.9	2.9	3.1	2.7	3.2	2.7	2.9	1年第1回(79名)	2.6	2.4	2.5	2.5
	変化量(2回-1回)	0.5	0.6	0.5	0.7	0.4	0.7	0.6	変化量(2回-1回)	0.3	0.3	0.5	0.4
中学1年生	1年第3回(117名)	3.4	3.4	3.6	3.5	3.4	3.2	3.4	1年第3回(116名)	2.7	2.6	2.8	2.7
	1年第2回(118名)	3.2	3.2	3.4	3.2	3.2	3.0	3.2	1年第2回(117名)	2.6	2.5	2.6	2.6
	1年第1回(119名)	2.6	2.6	3.0	2.4	2.9	2.7	2.7	1年第1回(118名)	2.4	2.1	2.3	2.3
	変化量(3回-1回)	0.8	0.8	0.6	1.1	0.5	0.5	0.7	変化量(3回-1回)	0.3	0.5	0.5	0.4

2 事業の成果 【令和7年3月1日現在での分析結果】

(1) (6つの) 資質・能力の向上について

以下は、本校設定6つの資質・能力ルーブリック（5段階評価）の全6学年平均をまとめたものである。

学校平均 6つの	本校で育みたい資質・能力						G
	能力			資質(気質・特性・情意・態度)			平均
	造創①	考思②	ミコ③	究探④	働協⑤	ヤチ⑥	
A 各学年の第3回の平均数値(学年末・除6年)	3.5	3.6	3.7	3.5	3.6	3.5	3.6
B 各学年の第1回平均数値(開始当初)	3.0	3.0	3.4	2.9	3.3	3.0	3.1
C 調査開始時からの伸び(3年間実施学年)	0.7	0.9	0.6	0.8	1.1	1.1	0.9
D 調査開始時からの伸び(2年間実施学年)	0.6	0.7	1.3	0.7	0.6	0.7	0.8
E 調査開始時からの伸び(1年間実施学年)	0.85	0.8	0.65	0.95	0.55	0.7	0.8
F 調査開始時からの伸び(1～3年間平均)	0.7	0.8	0.8	0.8	0.7	0.8	0.8

*中3・高3の最終評価は第2回（2学期）とする。

	3年間実施	2年間実施	1年間実施
令和6年度	0.9	0.8	0.8
令和5年度	1.3	1.2	0.6
令和4年度	1.0	1.0	0.3

	①～⑥の合計数が上昇した生徒割合		①～⑥の合計数が上昇した生徒割合
1年	33.3%	4年	57%
2年	21%	5年	38.2%
3年	18.7%	6年	37.5%

8年目(令和5年度・2023年度)

各学年の回ごとのルーブリック平均値

* 令和5年度(第3回・冬)ルーブリック評価(まとめ) * 中3、高3の最終評価は第2回(2学期)。

* 表の空欄…ルーブリックの内容を学校ビジョンに合わせて今年度より変更したため該当項目なし。

* 表の黄色…未実施。

年次	項目1		本校で育みたい資質・能力						全体	項目2		ESD3プロジェクト			全体		
			能力			資質(気質・特性・情意・態度)						①地域課題解決(力)	②国際課題解決(力)	③生き方・在り方探究(力)			
			①創造力	②思考力	③コミュニケーション力	④探究心	⑤協働	⑥チャレンジ精神									
高校3年生	3年第2回(132名)	平均値	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.4	3.6	3年第2回(132名)	平均値	3.1	2.9	3.2	3.1		
	3年第1回(160名)	平均値	3.1	3.3	3.3	3.2	3.4	3.2	3.3	3年第1回(160名)	平均値	3.0	3.0	3.0	3.0		
	変化量(2回-1回)	平均値	0.4	0.3	0.3	0.4	0.2	0.2	0.3	変化量(2回-1回)	平均値	0.1	-0.1	0.2	0.1		
	2年第3回(186名)	平均値							3.0	2.9	3.0	2年第3回(186名)	平均値	2.8	2.6	2.8	2.7
	2年第2回(186名)	平均値							2.8	2.8	2.8	2年第2回(186名)	平均値	2.7	2.4	2.7	2.6
	2年第1回(190名)	平均値							2.5	2.5	2.5	2年第1回(190名)	平均値	2.4	2.2	2.4	2.3
	変化量(3回-1回)	平均値							0.5	0.4	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.4	0.4	0.4
	1年第3回(183名)	平均値							2.6	2.5	2.6	1年第3回(183名)	平均値	2.6	2.3	2.5	2.5
	1年第2回(193名)	平均値							2.3	2.3	2.3	1年第2回(193名)	平均値	2.3	2.1	2.2	2.2
	1年第1回(193名)	平均値							2.0	2.1	2.1	1年第1回(193名)	平均値	1.8	1.8	1.8	1.8
変化量(3回-1回)	平均値							0.6	0.4	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.8	0.5	0.7	0.7	
高校2年生	2年第3回(192名)	平均値	3.2	3.2	3.5	3.1	3.4	3.0	3.2	2年第3回(192名)	平均値	2.8	2.7	2.9	2.8		
	2年第2回(191名)	平均値	3.0	2.9	3.4	2.9	3.4	2.9	3.1	2年第2回(191名)	平均値	2.7	2.6	2.8	2.7		
	2年第1回(184名)	平均値	2.8	2.7	3.3	2.7	3.2	2.7	2.9	2年第1回(184名)	平均値	2.6	2.4	2.5	2.5		
	変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.4	0.2	0.4	0.2	0.3	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.3	0.4	0.3		
	1年第3回(195名)	平均値							2.9	2.6	2.8	1年第3回(195名)	平均値	2.8	2.5	2.5	2.6
	1年第2回(197名)	平均値							2.7	2.4	2.6	1年第2回(197名)	平均値	2.5	2.3	2.3	2.4
	1年第1回(200名)	平均値							2.4	2.1	2.3	1年第1回(200名)	平均値	2.1	2.0	2.0	2.0
	変化量(3回-1回)	平均値							0.5	0.5	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.7	0.5	0.5	0.6
	1年第3回(141名)	平均値	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.1	3.4	1年第3回(141名)	平均値	3.0	3.0	3.0	3.0		
	1年第2回(195名)	平均値	2.9	2.7	3.3	2.5	3.3	2.5	2.9	1年第2回(195名)	平均値	2.3	2.0	2.4	2.2		
1年第1回(199名)	平均値	3.0	3.0	2.0	3.0	3.0	3.0	2.8	1年第1回(199名)	平均値	2.0	2.0	1.5	1.8			
変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.4	1.5	0.5	0.5	0.1	0.6	変化量(3回-1回)	平均値	1	1	0.5	0.8			
高校1年生	3年第2回(106名)	平均値	3.0	3.2	3.4	2.9	3.4	3.0	3.2	3年第2回(106名)	平均値	2.4	2.4	2.5	2.4		
	3年第1回(111名)	平均値	2.7	2.7	3.0	2.5	3.1	2.5	2.8	3年第1回(111名)	平均値	2.3	2.2	2.2	2.2		
	変化量(2回-1回)	平均値	0.3	0.5	0.4	0.4	0.3	0.5	0.4	変化量(2回-1回)	平均値	0.1	0.2	0.3	0.2		
	2年第3回(112名)	平均値							3.2	3.0	3.1	2年第3回(112名)	平均値	2.8	2.7	2.7	2.7
	2年第2回(109名)	平均値							3.2	3.0	3.1	2年第2回(109名)	平均値	2.6	2.6	2.6	2.6
	2年第1回(120名)	平均値							2.9	2.6	2.8	2年第1回(120名)	平均値	2.6	2.5	2.4	2.5
	変化量(3回-1回)	平均値							0.3	0.4	0.4	変化量(3回-1回)	平均値	0.1	0.1	0.1	0.1
	1年第3回(113名)	平均値							2.8	2.6	2.7	1年第3回(113名)	平均値	2.5	2.3	2.4	2.4
	1年第2回(114名)	平均値							2.5	2.3	2.4	1年第2回(114名)	平均値	2.3	2.1	2.2	2.2
	1年第1回(120名)	平均値							2.2	2.1	2.2	1年第1回(120名)	平均値	2.1	1.9	1.8	1.9
変化量(3回-1回)	平均値							0.6	0.5	0.6	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.3	0.2	
中学2年生	2年第3回(117名)	平均値	3.4	3.5	3.8	3.3	3.7	3.4	3.5	2年第3回(117名)	平均値	2.7	2.6	3.0	2.8		
	2年第2回(117名)	平均値	3.3	3.3	3.6	3.2	3.5	3.2	3.4	2年第2回(117名)	平均値	2.7	2.5	2.8	2.7		
	2年第1回(116名)	平均値	3.0	2.9	3.4	2.9	3.4	2.9	3.1	2年第1回(116名)	平均値	2.5	2.3	2.6	2.5		
	変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.6	0.4	0.4	0.3	0.5	0.4	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.3	0.4	0.3		
	1年第3回(名)	平均値							#####	1年第3回(名)	平均値				#####		
	1年第2回(119名)	平均値							2.7	2.6	2.7	1年第2回(119名)	平均値	2.3	2.2	2.3	2.3
	1年第1回(118名)	平均値							2.3	2.2	2.3	1年第1回(118名)	平均値	2.1	1.9	2.0	2.0
	変化量(2回-1回)	平均値							0.4	0.4	0.4	変化量(2回-1回)	平均値	0.2	0.3	0.3	0.3
	1年第3回(名)	平均値							#####	1年第3回(名)	平均値				#####		
	1年第2回(84名)	平均値	3.4	3.5	3.6	3.4	3.6	3.4	3.5	1年第2回(84名)	平均値	2.9	2.7	3.0	2.9		
1年第1回(83名)	平均値	2.9	2.9	3.1	2.7	3.2	2.7	2.9	1年第1回(83名)	平均値	2.6	2.4	2.5	2.5			
変化量(2回-1回)	平均値	0.5	0.6	0.5	0.7	0.4	0.7	0.6	変化量(2回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.5	0.4			

1 事業の成果 【令和6年3月1日現在での分析結果】

(1) (6つの) 資質・能力の向上について

以下は、本校設定6つの資質・能力ルーブリック（5段階評価）の全6学年平均をまとめたものである。

学校平均 6つの	本校で育みたい資質・能力						G
	能力			資質(気質・特性・情意・態度)			平均
	造創①	考思②	ミコ③	究探④	働協⑤	ヤチ⑥	
A 各学年の第3回の平均数値(学年末・除6年)	3.3	3.4	3.6	3.3	3.5	3.2	3.4
B 各学年の第1回平均数値(開始当初)	2.9	2.9	3.0	2.8	3.2	2.8	2.9
C 調査開始時からの伸び(3年間実施学年)					1.4	1.1	1.3
D 調査開始時からの伸び(2年間実施学年)					1.2	1.1	1.2
E 調査開始時からの伸び(1年間実施学年)	0.45	0.5	1	0.6	0.45	0.4	0.6
F 調査開始時からの伸び(1～3年間平均)	0.5	0.5	1.0	0.6	1.0	1	0.8

*中3・高3の最終評価は第2回（2学期）とする。*空欄は今年度よりルーブリック項目変更のため。

	3年間実施	2年間実施	1年間実施
令和5年度	1.3	1.2	0.6
令和4年度	1.0	1.0	0.3
令和3年度	0.9	0.7	0.3

	①～⑥の合計数が上昇した生徒割合		①～⑥の合計数が上昇した生徒割合
1年	22.3%	4年	49.7%
2年	28%	5年	39%
3年	21.8%	6年	18.8%

7年目(令和4年度・2022年度)

年次	項目1		本校で育みたい資質・能力						全体	項目2		ESD3プロジェクト			全体
			能力		資質(気質・特性・情意・態度)							①地域課題解決(力)	②国際課題解決(力)	③生き方、在り方探究(力)	
			①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働	⑤自他の尊重	⑥チャレンジ精神							
高校3年生	3年第2回(180名)	平均値	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.2	3年第2回(178名)	平均値	2.9	2.6	2.9	2.8
	3年第1回(187名)	平均値	3.1	2.9	2.9	3.0	2.9	2.8	2.9	3年第1回(113名)	平均値	2.8	2.6	2.8	2.7
	変化量(2回-1回)	平均値	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.3	変化量(2回-1回)	平均値	0.1	0	0.1	0.1
	2年第3回(159名)	平均値	3.2	3.0	2.9	3.0	3.0	2.8	3.0	2年第3回(158名)	平均値	3.0	2.6	2.8	2.8
	2年第2回(159名)	平均値	3.0	2.8	3.2	2.9	2.9	2.7	2.9	2年第2回(159名)	平均値	2.8	2.5	2.7	2.7
	2年第1回(158名)	平均値	2.7	2.7	2.5	2.8	2.7	2.6	2.7	2年第1回(160名)	平均値	2.6	2.3	2.5	2.5
	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.2	0.2	0.1	0.3	0.1	0.2	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.2	0.2
	1年第3回(189名)	平均値	2.9	2.8	2.6	3.0	2.8	2.7	2.8	1年第3回(190名)	平均値	2.7	2.4	2.5	2.5
	1年第2回(190名)	平均値	2.8	2.6	2.5	2.7	2.7	2.5	2.6	1年第2回(186名)	平均値	2.5	2.3	2.3	2.4
	1年第1回(197名)	平均値	2.3	2.2	2.2	2.3	2.4	2.2	2.3	1年第1回(197名)	平均値	2.2	2.1	2.0	2.1
変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.2	0.4	0.2	0.3	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.2	0.3	0.3	
高校2年生	2年第3回(186名)	平均値	3.1	2.9	2.9	3.0	2.9	2.9	3.0	2年第3回(186名)	平均値	2.8	2.6	2.8	2.7
	2年第2回(186名)	平均値	2.9	2.7	2.7	2.8	2.8	2.8	2.8	2年第2回(186名)	平均値	2.7	2.4	2.7	2.6
	2年第1回(190名)	平均値	2.7	2.4	2.4	2.5	2.6	2.5	2.5	2年第1回(190名)	平均値	2.4	2.2	2.4	2.3
	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.2	0.2
	1年第3回(183名)	平均値	2.7	2.6	2.5	2.6	2.7	2.5	2.6	1年第3回(185名)	平均値	2.6	2.3	2.5	2.5
	1年第2回(193名)	平均値	2.4	2.2	2.2	2.3	2.4	2.3	2.3	1年第2回(195名)	平均値	2.3	2.1	2.2	2.2
	1年第1回(193名)	平均値	1.9	1.9	1.8	2.0	2.1	2.1	2.0	1年第1回(195名)	平均値	1.8	1.8	1.8	1.8
	変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.3	0.4	0.4
	1年第3回(195名)	平均値	2.8	2.7	2.6	2.9	2.9	2.6	2.8	1年第3回(195名)	平均値	2.8	2.5	2.5	2.6
	1年第2回(197名)	平均値	2.5	2.5	2.3	2.7	2.7	2.4	2.5	1年第2回(195名)	平均値	2.5	2.3	2.3	2.4
1年第1回(200名)	平均値	2.3	2.1	2.1	2.4	2.4	2.1	2.2	1年第1回(196名)	平均値	2.1	2.0	2.0	2.0	
変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.2	0.2	0.2	
中学3年生	3年第2回(113名)	平均値	3.2	3.0	3.0	3.1	3.0	3.2	3.1	3年第2回(113名)	平均値	2.6	2.6	2.8	2.7
	3年第1回(116名)	平均値	3.0	2.9	2.7	3.0	2.8	3.0	2.9	3年第1回(116名)	平均値	2.4	2.5	2.6	2.5
	変化量(2回-1回)	平均値	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	変化量(2回-1回)	平均値	0.1	0.1	0.1	0.1
	2年第3回(77名)	平均値	2.9	2.8	2.7	2.9	2.8	2.8	2.8	2年第3回(77名)	平均値	2.4	2.5	2.5	2.5
	2年第2回(77名)	平均値	2.7	2.6	2.5	2.6	2.7	2.6	2.6	2年第2回(77名)	平均値	2.2	2.3	2.3	2.3
	2年第1回(80名)	平均値	2.1	2.0	2.0	2.2	2.0	2.0	2.1	2年第1回(80名)	平均値	1.8	1.8	1.7	1.8
	変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.4	0.4	0.4
	1年第3回(名)	平均値								1年第3回(名)	平均値				
	1年第2回(名)	平均値								1年第2回(名)	平均値				
	1年第1回(名)	平均値								1年第1回(名)	平均値				
変化量(3回-1回)	平均値								変化量(3回-1回)	平均値					
中学2年生	2年第3回(112名)	平均値	3.4	3.0	2.7	3.2	3.0	3.0	3.1	2年第3回(113名)	平均値	2.8	2.7	2.7	2.7
	2年第2回(109名)	平均値	3.2	3.0	2.7	3.2	2.9	3.0	3.0	2年第2回(110名)	平均値	2.6	2.6	2.6	2.6
	2年第1回(120名)	平均値	3.0	2.7	2.5	2.9	2.7	2.6	2.7	2年第1回(120名)	平均値	2.6	2.5	2.4	2.5
	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	変化量(3回-1回)	平均値	0.1	0.1	0.1	0.1
	1年第3回(113名)	平均値	2.9	2.6	2.4	2.8	2.6	2.6	2.7	1年第3回(114名)	平均値	2.5	2.3	2.4	2.4
	1年第2回(114名)	平均値	2.6	2.4	2.2	2.5	2.4	2.3	2.4	1年第2回(115名)	平均値	2.3	2.1	2.2	2.2
	1年第1回(120名)	平均値	2.1	2.1	1.9	2.2	2.2	2.1	2.1	1年第1回(120名)	平均値	2.1	1.9	1.8	1.9
	変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.3	0.2
	1年第3回(名)	平均値							#####	1年第3回(名)	平均値				#####
	1年第2回(119名)	平均値	2.8	2.5	2.3	2.7	2.6	2.6	2.6	1年第2回(116名)	平均値	2.3	2.2	2.3	2.3
1年第1回(118名)	平均値	2.1	2.0	1.9	2.3	2.3	2.2	2.1	1年第1回(117名)	平均値	2.1	1.9	2.0	2.0	
変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.1	0.2	0.2	0.2	
中学1年生	1年第3回(名)	平均値								1年第3回(名)	平均値				
1年第2回(119名)	平均値	2.8	2.5	2.3	2.7	2.6	2.6	2.6	1年第2回(116名)	平均値	2.3	2.2	2.3	2.3	
1年第1回(118名)	平均値	2.1	2.0	1.9	2.3	2.3	2.2	2.1	1年第1回(117名)	平均値	2.1	1.9	2.0	2.0	
変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.1	0.2	0.2	0.2	

1 事業の成果 【令和5年3月1日現在での分析結果】

(1) (6つの) 資質・能力の向上について【令和6年3月1日現在での分析結果】

以下は、本校設定6つの資質・能力ルーブリック（5段階評価）の全6学年平均をまとめたものである。

学校平均 6つの資質・能力	本校で育みたい資質・能力						G 平均
	能力			資質（気質・特性・情意・態度）			
	① 情報 整理力	② 表現 力	③ 課題 解決力	④ 協働	⑤ 自他 の尊 重	⑥ チャ レン ジ精 神	
A 各学年の第3回の平均数値（学年末・除3、6年）	3.1	2.9	2.7	3.0	2.9	2.8	2.9
B 各学年の第1回平均数値（開始当初）	2.7	2.5	2.4	2.7	2.6	2.5	2.6
C 調査開始時からの伸び（3年間実施学年）	1.1	1.0	1.0	0.9	0.9	1.1	1.0
D 調査開始時からの伸び（2年間実施学年）	1.3	0.9	1.0	1.0	0.8	0.9	1.0
E 調査開始時からの伸び（1年間実施学年）	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3
F 調査開始時からの伸び（1～3年間平均）	0.9	1.0	0.7	0.7	0.6	0.7	0.7

*中3・高3の最終評価は第2回（2学期）とする。

	3年間実施	2年間実施	1年間実施
令和4年度	1.0	1.0	0.3
令和3年度	0.9	0.7	0.3

	①～⑥の合計数が上昇した生徒割合		①～⑥の合計数が上昇した生徒割合
1年	28.7%	4年	73.8%
2年	49.2%	5年	66.8%
3年	15.0%	6年	21.0%

6年目(令和3年度・2021年度)

年次	項目1		本校で育みたい資質・能力						全体	項目2		ESD3プロジェクト			全体
			能力		資質(気質・特性・情意・態度)							①地域課題解決(へ力)	②国際課題解決(へ力)	③生き方・存続方法探究(へ力)	
			①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働	⑤自他の尊重	⑥チャレンジ精神							
高校3年生 第1回 (4月) 第2回 (9月) 第3回 (3月)	3年第2回 (183名)	平均値	3.5	3.2	3.1	3.2	3.2	3.2	3.2	3年第2回 (183名)	平均値	3.1	2.8	3.0	3.0
	3年第1回 (185名)	平均値	3.2	2.9	2.9	3.1	3.0	3.0	3.0	3年第1回 (186名)	平均値	2.8	2.6	2.8	2.7
	変化量 (2回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	変化量 (2回-1回)	平均値	0.2	0.1	0.2	0.2
	2年第3回 (180名)	平均値	3.3	3.1	3.0	3.1	3.0	3.0	3.1	2年第3回 (180名)	平均値	3.0	2.6	2.9	2.8
	2年第2回 (176名)	平均値	3.2	3.0	2.9	3.1	2.9	2.9	3.0	2年第2回 (175名)	平均値	3.0	2.5	2.7	2.7
	2年第1回 (187名)	平均値	2.8	2.6	2.5	2.8	2.7	2.6	2.7	2年第1回 (187名)	平均値	2.6	2.3	2.4	2.4
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	変化量 (3回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.3	0.2
	1年第3回 (192名)	平均値	2.9	2.7	2.6	2.9	2.9	2.7	2.8	1年第3回 (176名)	平均値	2.8	2.4	2.5	2.6
	1年第2回 (191名)	平均値	2.7	2.7	2.5	2.9	2.6	2.6	2.7	1年第2回 (181名)	平均値	2.6	2.2	2.3	2.4
	1年第1回 (192名)	平均値	2.3	2.2	2.1	2.5	2.3	2.2	2.3	1年第1回 (189名)	平均値	2.0	1.9	2.0	2.0
変化量 (3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	変化量 (3回-1回)	平均値	0.4	0.3	0.3	0.3	
高校2年生 第1回 (4月) 第2回 (9月) 第3回 (3月)	2年第3回 (158名)	平均値	3.2	3.0	2.9	3.0	3.0	2.8	3.0	2年第3回 (158名)	平均値	3.0	2.6	2.8	2.8
	2年第2回 (159名)	平均値	3.0	2.8	3.2	2.9	2.9	2.7	2.9	2年第2回 (159名)	平均値	2.8	2.5	2.7	2.7
	2年第1回 (158名)	平均値	2.7	2.7	2.5	2.8	2.7	2.6	2.7	2年第1回 (160名)	平均値	2.6	2.3	2.5	2.5
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.3	0.2	0.2	0.1	0.3	0.1	0.2	変化量 (3回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.2	0.2
	1年第3回 (189名)	平均値	2.9	2.8	2.6	3.0	2.8	2.7	2.8	1年第3回 (190名)	平均値	2.7	2.4	2.5	2.5
	1年第2回 (190名)	平均値	2.8	2.6	2.5	2.7	2.7	2.5	2.6	1年第2回 (186名)	平均値	2.5	2.3	2.3	2.4
	1年第1回 (197名)	平均値	2.3	2.2	2.2	2.3	2.4	2.2	2.3	1年第1回 (197名)	平均値	2.2	2.1	2.0	2.1
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.2	0.4	0.2	0.3	0.3	変化量 (3回-1回)	平均値	0.3	0.2	0.3	0.3
	1年第3回 (183名)	平均値	2.7	2.6	2.5	2.6	2.7	2.5	2.6	1年第3回 (185名)	平均値	2.6	2.3	2.5	2.5
	1年第2回 (193名)	平均値	2.4	2.2	2.2	2.3	2.4	2.3	2.3	1年第2回 (195名)	平均値	2.3	2.1	2.2	2.2
1年第1回 (193名)	平均値	1.9	1.9	1.8	2.0	2.1	2.1	2.0	1年第1回 (195名)	平均値	1.8	1.8	1.8	1.8	
変化量 (3回-1回)	平均値	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3	変化量 (3回-1回)	平均値	0.4	0.3	0.4	0.4	
中学3年生 第1回 (4月) 第2回 (9月)		平均値							#####		平均値				#####
	3年第2回 (111名)	平均値	3.4	3.3	3.0	3.4	3.2	3.3	3.3	3年第2回 (113名)	平均値	3.2	3.0	3.2	3.1
	3年第1回 (114名)	平均値	3.1	2.9	2.7	3.1	2.9	3.0	3.0	3年第1回 (113名)	平均値	3.0	2.7	2.9	2.9
	変化量 (2回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	変化量 (2回-1回)	平均値	0.1	0.2	0.2	0.2
	2年第3回 (111名)	平均値	3.4	3.2	3.0	3.3	3.3	3.3	3.3	2年第3回 (名)	平均値	3.0	2.9	3.1	3.0
	2年第2回 (114名)	平均値	3.3	3.0	2.9	3.3	3.2	3.1	3.1	2年第2回 (名)	平均値	2.9	2.8	2.9	2.9
	2年第1回 (117名)	平均値	3.3	2.8	2.7	3.2	3.1	2.9	3.0	2年第1回 (名)	平均値	2.8	2.5	2.8	2.7
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	変化量 (3回-1回)	平均値	0.1	0.2	0.2	0.2
	1年第3回 (114名)	平均値	3.3	3.0	2.9	3.3	3.2	3.1	3.1	1年第3回 (114名)	平均値	3.1	2.6	2.8	2.8
	1年第2回 (115名)	平均値	3.1	2.9	2.6	3.2	3	2.9	3.0	1年第2回 (115名)	平均値	2.8	2.6	2.7	2.7
1年第1回 (119名)	平均値	2.7	2.5	2.3	2.8	2.7	2.6	2.6	1年第1回 (119名)	平均値	2.6	2.4	2.3	2.4	
変化量 (3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	変化量 (3回-1回)	平均値	0.3	0.1	0.3	0.2	
中学2年生 第1回 (4月) 第2回 (9月) 第3回 (3月)	2年第3回 (77名)	平均値	2.9	2.8	2.7	2.9	2.8	2.8	2.8	2年第3回 (77名)	平均値	2.4	2.5	2.5	2.5
	2年第2回 (77名)	平均値	2.7	2.6	2.5	2.6	2.7	2.6	2.6	2年第2回 (77名)	平均値	2.2	2.3	2.3	2.3
	2年第1回 (80名)	平均値	2.1	2.0	2.0	2.2	2.0	2.0	2.1	2年第1回 (80名)	平均値	1.8	1.8	1.7	1.8
	変化量 (3回-1回)	平均値	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	変化量 (3回-1回)	平均値	0.3	0.4	0.4	0.4
	1年第3回 (名)	平均値								1年第3回 (名)	平均値				
	1年第2回 (名)	平均値								1年第2回 (名)	平均値				
	1年第1回 (名)	平均値								1年第1回 (名)	平均値				
	変化量 (3回-1回)	平均値								変化量 (3回-1回)	平均値				
	1年第3回 (113名)	平均値	2.9	2.6	2.4	2.8	2.6	2.6	2.7	1年第3回 (114名)	平均値	2.5	2.3	2.4	2.4
	1年第2回 (114名)	平均値	2.6	2.4	2.2	2.5	2.4	2.3	2.4	1年第2回 (115名)	平均値	2.3	2.1	2.2	2.2
1年第1回 (120名)	平均値	2.1	2.1	1.9	2.2	2.2	2.1	2.1	1年第1回 (120名)	平均値	2.1	1.9	1.8	1.9	
変化量 (3回-1回)	平均値	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	変化量 (3回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.3	0.2	

1 事業の成果 【令和4年3月1日現在での分析結果】

(1) (6つの) 資質・能力の向上について

以下は、本校設定6つの資質・能力ルーブリック（5段階評価）の全6学年平均をまとめたものである。

学校平均 6つの資質・能力	本校で育みたい資質・能力						G 平均
	能力			資質（気質・特性・情意・態度）			
	① 情報整理力	② 表現力	③ 課題解決力	④ 協働	⑤ 自他の尊重	⑥ チャレンジ精神	
A 各学年の第3回の平均数値（学年末・除3、6年）	3.1	2.9	2.7	2.9	2.9	2.8	2.9
B 各学年の第1回平均数値（開始当初）	2.3	2.2	2.1	2.4	2.3	2.2	2.2
C 調査開始時からの伸び（3年間実施学年）	1.5	0.9	0.9	0.7	0.7	0.9	0.9
D 調査開始時からの伸び（2年間実施学年）	0.9	0.8	0.7	0.7	0.6	0.6	0.7
E 調査開始時からの伸び（1年間実施学年）	0.4	0.35	0.35	0.3	0.25	0.25	0.3
F 調査開始時からの伸び（1～3年間平均）	0.9	0.68	0.6	0.55	0.5	0.57	0.6

5年目(令和2年度・2020年度)

①令和2年度(第3回・冬)ルーブリック評価(まとめ)

*中3、高3の最終評価は第2回(2学期)とする。

年次	項目1		本校で育みたい資質・能力						全体	項目2		ESD3プロジェクト			全体	
			能力			資質(気質・特性・情意・態度)						①地域課題解決(力)	②国際課題解決(力)	③生き方・在り方探究(力)		
			①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働	⑤自他の尊重	⑥チャレンジ精神								
高校3年生	3年第2回(117名)	平均値	2.9	2.8	2.7	2.9	2.8	2.8	2.8	3年第2回(144名)	平均値	2.4	2.5	2.5	2.5	
第1回(4月) 第2回(9月) 第3回(3月)	3年第1回(185名)	平均値	2.8	2.7	2.6	2.8	2.7	2.6	2.7	3年第1回(179名)	平均値	2.5	2.6	2.6	2.6	
	変化量(2回-1回)	平均値	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	変化量(2回-1回)	平均値	0.2	0.1	0.2	0.2	
	2年第3回(195名)	平均値	2.7	2.7	2.6	2.8	2.8	2.7	2.7	2年第3回(192名)	平均値	2.5	2.5	2.6	2.5	
	2年第2回(191名)	平均値	2.6	2.5	2.4	2.6	2.6	2.4	2.5	2年第2回(189名)	平均値	2.3	2.3	2.3	2.3	
	2年第1回(195名)	平均値	2.4	2.4	2.3	2.5	2.5	2.3	2.4	2年第1回(195名)	平均値	2.2	2.2	2.2	2.2	
	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.3	
	1年第3回(198名)	平均値	2.6	2.6	2.3	2.7	2.6	2.4	2.5	1年第3回(196名)	平均値	2.4	2.3	2.4	2.4	
	1年第2回(195名)	平均値	2.3	2.3	2.2	2.5	2.4	2.2	2.3	1年第2回(195名)	平均値	2.1	2.1	2.2	2.1	
	1年第1回(198名)	平均値	2	2	1.9	2.2	2.2	1.9	2.0	1年第1回(198名)	平均値	1.8	1.9	2	1.9	
	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.6	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.4	0.4	0.5	
高校2年生	2年第3回(180名)	平均値	3.3	3.1	3.0	3.1	3.0	3.0	3.1	2年第3回(180名)	平均値	3.0	2.6	2.9	2.8	
第1回(4月) 第2回(9月) 第3回(3月)	2年第2回(176名)	平均値	3.2	3.0	2.9	3.1	2.9	2.9	3.0	2年第2回(175名)	平均値	3.0	2.5	2.7	2.7	
	2年第1回(187名)	平均値	2.8	2.6	2.5	2.8	2.7	2.6	2.7	2年第1回(187名)	平均値	2.6	2.3	2.4	2.4	
	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.3	
	1年第3回(192名)	平均値	2.9	2.7	2.6	2.9	2.9	2.7	2.8	1年第3回(176名)	平均値	2.8	2.4	2.5	2.6	
	1年第2回(191名)	平均値	2.7	2.7	2.5	2.9	2.6	2.6	2.7	1年第2回(181名)	平均値	2.6	2.2	2.3	2.4	
	1年第1回(192名)	平均値	2.3	2.2	2.1	2.5	2.3	2.2	2.3	1年第1回(189名)	平均値	2.0	1.9	2.0	2.0	
	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.5	0.5	0.5	
	高校1年生	1年第3回(189名)	平均値	2.9	2.8	2.6	3.0	2.8	2.7	2.8	1年第3回(190名)	平均値	2.7	2.4	2.5	2.5
	第1回(4月) 第2回(9月) 第3回(3月)	1年第2回(190名)	平均値	2.8	2.6	2.5	2.7	2.7	2.5	2.6	1年第2回(186名)	平均値	2.5	2.3	2.3	2.4
		1年第1回(197名)	平均値	2.3	2.2	2.2	2.3	2.4	2.2	2.3	1年第1回(197名)	平均値	2.2	2.1	2.0	2.1
変化量(3回-1回)		平均値	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.5	0.5	0.5	
3年第3回(名)		平均値							#####	3年第3回(名)	平均値				#####	
3年第2回(名)	平均値							#####	3年第2回(名)	平均値				#####		
3年第1回(112名)	平均値	3.2	3.0	3.0	3.2	3.1	3.1	3.1	3年第1回(112名)	平均値	2.9	2.8	2.9	2.9		
第1回(4月) 第2回(9月) 第3回(3月)	変化量(3回-1回)	平均値							#####	変化量(3回-1回)	平均値				#####	
	2年第3回(112名)	平均値	3.3	3.1	3.0	3.3	3.1	3.2	3.2	2年第3回(110名)	平均値	3.0	2.8	3.0	2.9	
	2年第2回(103名)	平均値	3.3	3.0	2.9	3.2	3.0	3.1	3.1	2年第2回(114名)	平均値	3.0	2.7	2.9	2.9	
	2年第1回(113名)	平均値	3.0	2.8	2.7	3.0	2.9	3.0	2.9	2年第1回(116名)	平均値	2.9	2.6	2.7	2.7	
	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.4	0.3	0.3	
	1年第3回(112名)	平均値	2.9	2.8	2.7	3.2	2.8	2.9	2.9	1年第3回(112名)	平均値	3.1	2.4	2.7	2.7	
	1年第2回(116名)	平均値	2.7	2.6	2.3	3.1	2.7	2.7	2.7	1年第2回(115名)	平均値	2.7	2.3	2.6	2.5	
	1年第1回(107名)	平均値	1.9	1.9	1.8	2.2	2.1	1.9	2.0	1年第1回(109名)	平均値	2	1.6	1.8	1.8	
	変化量(3回-1回)	平均値	1	0.9	0.9	1	0.7	1	0.9	変化量(3回-1回)	平均値	1.1	0.8	0.9	0.9	
	2年第3回(111名)	平均値	3.4	3.2	3.0	3.3	3.3	3.3	3.3	2年第3回(名)	平均値	3.0	2.9	3.1	3.0	
第1回(4月) 第2回(9月) 第3回(3月)	2年第2回(114名)	平均値	3.3	3.0	2.9	3.3	3.2	3.1	3.1	2年第2回(名)	平均値	2.9	2.8	2.9	2.9	
	2年第1回(117名)	平均値	3.3	2.8	2.7	3.2	3.1	2.9	3.0	2年第1回(名)	平均値	2.8	2.5	2.8	2.7	
	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.4	0.3	0.3	
	1年第3回(114名)	平均値	3.3	3.0	2.9	3.3	3.2	3.1	3.1	1年第3回(114名)	平均値	3.1	2.6	2.8	2.8	
	1年第2回(115名)	平均値	3.1	2.9	2.6	3.2	3	2.9	3.0	1年第2回(115名)	平均値	2.8	2.6	2.7	2.7	
	1年第1回(119名)	平均値	2.7	2.5	2.3	2.8	2.7	2.6	2.6	1年第1回(119名)	平均値	2.6	2.4	2.3	2.4	
	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.5	0.2	0.5	0.4	
	1年第3回(名)	平均値							#####	1年第3回(名)	平均値				#####	
	1年第2回(名)	平均値							#####	1年第2回(名)	平均値				#####	
	1年第1回(名)	平均値							#####	1年第1回(名)	平均値				#####	
変化量(3回-1回)	平均値							#####	変化量(3回-1回)	平均値				#####		

1 事業の成果 【令和3年3月1日現在での分析結果】

② (6つの) 資質・能力の向上について

以下は、本校設定6つの資質・能力ルーブリック(5段階評価)の全6学年平均をまとめたものである。

学校平均	本校で育みたい資質・能力						G 平均
	能力			資質(気質・特性・情意・態度)			
	① 情報 整理 力	② 表 現 力	③ 課 題 解 決 力	④ 協 働	⑤ 自 他 の 尊 重	⑥ チ ャ レ ン ジ 精 神	
6つの資質・能力							
A 各学年の第3回の平均数値(学年末) *除1、3年	3.2	3.0	2.9	3.1	3.0	3.0	3.0
B 各学年の第1回平均数値(開始当初) *除1年	2.9	2.7	2.6	2.9	2.8	2.7	2.7
C 調査開始時からの伸び(3年間実施学年) *中3、高3	1.5	1.0	0.8	0.9	0.9	1.1	1.0
D 調査開始時からの伸び(2年間実施学年) *中2、高2	0.9	0.9	0.9	0.8	0.75	0.8	0.8
E 調査開始時からの伸び(1年間実施学年) *高1	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6
F 調査開始時からの伸び(1~3年間平均)	1.0	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8

*高3の最終評価は第2回(2学期)とする。

4年目(令和元年度・2019年度)

①各学年の回ごとのルーブリック平均値 *令和元年度(第3回・冬)ルーブリック評価(まとめ)
*中3、高3の最終評価は第2回(2学期)とする。

年次	項目1	本校で育みたい資質・能力							全体	項目2	ESDプロジェクト			全体	
		①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働	⑤自他の尊重	⑥チャレンジ精神	①地域課題解決(力)			②国際課題解決(力)	③生き方・在り方探究(力)			
高校3年生	3年第2回(187名)	平均値	2.9	2.7	2.6	2.8	2.8	2.8	2.8	3年第2回(184名)	平均値	2.7	2.6	2.8	2.7
	3年第1回(190名)	平均値	2.7	2.6	2.5	2.7	2.6	2.6	2.6	3年第1回(186名)	平均値	2.5	2.5	2.6	2.5
	変化量(2回-1回)	平均値	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	変化量(2回-1回)	平均値	0.2	0.1	0.2	0.2
	2年第3回(187名)	平均値	2.7	2.5	2.5	2.7	2.6	2.6	2.6	2年第3回(184名)	平均値	2.4	2.4	2.5	2.4
	2年第2回(190名)	平均値	2.6	2.4	2.3	2.6	2.5	2.4	2.5	2年第2回(187名)	平均値	2.4	2.3	2.5	2.4
	2年第1回(185名)	平均値	2.4	2.2	2.2	2.5	2.4	2.3	2.3	2年第1回(182名)	平均値	2.3	2.2	2.3	2.3
	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.1	0.2	0.2	0.2
	1年第3回(174名)	平均値	2.4	2.3	2.2	2.4	2.3	2.2	2.3	1年第3回(186名)	平均値	2.2	2.2	2.3	2.2
	1年第2回(191名)	平均値	2.2	2.1	2.1	2.1	2.3	2.2	2.2	1年第2回(196名)	平均値	2.1	2.1	2.2	2.2
	1年第1回(198名)	平均値	1.9	1.8	1.8	2.1	2	1.8	1.9	1年第1回(196名)	平均値	1.9	1.8	1.9	1.9
変化量(3回-1回)	平均値	0.5	0.5	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.4	0.4	0.4	
高校2年生	2年第3回(195名)	平均値	2.7	2.7	2.6	2.8	2.8	2.7	2.7	2年第3回(192名)	平均値	2.5	2.5	2.6	2.5
	2年第2回(191名)	平均値	2.6	2.5	2.4	2.6	2.6	2.4	2.5	2年第2回(189名)	平均値	2.3	2.3	2.3	2.3
	2年第1回(195名)	平均値	2.4	2.4	2.3	2.5	2.5	2.3	2.4	2年第1回(195名)	平均値	2.2	2.2	2.2	2.2
	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.3
	1年第3回(198名)	平均値	2.6	2.6	2.3	2.7	2.6	2.4	2.5	1年第3回(196名)	平均値	2.4	2.3	2.4	2.4
	1年第2回(195名)	平均値	2.3	2.3	2.2	2.5	2.4	2.2	2.3	1年第2回(195名)	平均値	2.1	2.1	2.2	2.1
	1年第1回(198名)	平均値	2	2	1.9	2.2	2.2	1.9	2.0	1年第1回(198名)	平均値	1.8	1.9	2	1.9
	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.6	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.4	0.4	0.5
	1年第3回(192名)	平均値	2.9	2.8	2.6	3.0	2.8	2.7	2.8	1年第3回(176名)	平均値	2.8	2.4	2.5	2.6
	1年第2回(191名)	平均値	2.7	2.7	2.5	2.9	2.6	2.6	2.7	1年第2回(181名)	平均値	2.6	2.2	2.3	2.4
高校1年生	1年第1回(192名)	平均値	2.3	2.2	2.1	2.5	2.3	2.2	2.3	1年第1回(189名)	平均値	2.0	1.9	2.0	2.0
	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.5	0.5	0.5
	3年第3回(111名)	平均値	3.5	3.4	3.1	3.5	3.3	3.3	3.3	3年第3回(111名)	平均値	3.3	3.1	3.3	3.2
	3年第2回(110名)	平均値	3.4	3.3	3.0	3.4	3.2	3.3	3.3	3年第2回(110名)	平均値	3.2	3.0	3.2	3.1
	3年第1回(109名)	平均値	3.1	2.9	2.7	3.1	2.9	3.0	3.0	3年第1回(109名)	平均値	3.0	2.7	2.9	2.9
	変化量(3回-1回)	平均値	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.4	0.4	0.4
	2年第3回(112名)	平均値	3.1	2.9	2.7	3.1	2.8	2.8	2.9	2年第3回(112名)	平均値	3.1	2.6	2.8	2.8
	2年第2回(110名)	平均値	2.7	2.6	2.5	2.8	2.5	2.6	2.6	2年第2回(102名)	平均値	2.9	2.4	2.5	2.6
	2年第1回(116名)	平均値	2.4	2.4	2.2	2.4	2.2	2.3	2.3	2年第1回(112名)	平均値	2.6	2.2	2.3	2.4
	変化量(3回-1回)	平均値	0.7	0.5	0.5	0.7	0.6	0.5	0.6	変化量(3回-1回)	平均値	0.5	0.4	0.5	0.5
中学3年生	1年第3回(名)	平均値								1年第3回(名)	平均値				
	1年第2回(120名)	平均値	2.2	2.1	2	2.1	2	2	2.1	1年第2回(120名)	平均値	2.4	2.2	2	2.2
	1年第1回(120名)	平均値	1.5	1.4	1.4	1.5	1.4	1.4	1.4	1年第1回(120名)	平均値	1.9	1.6	1.6	1.7
	変化量(2回-1回)	平均値	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	変化量(2回-1回)	平均値	0.5	0.6	0.4	0.5
	2年第3回(112名)	平均値	3.3	3.1	3.0	3.3	3.1	3.2	3.2	2年第3回(113名)	平均値	3.0	2.9	3.1	3.0
	2年第2回(103名)	平均値	3.3	3.0	2.9	3.2	3.0	3.1	3.1	2年第2回(104名)	平均値	2.9	2.8	2.9	2.9
	2年第1回(113名)	平均値	3.0	2.8	2.7	3.0	2.9	3.0	2.9	2年第1回(114名)	平均値	2.8	2.5	2.8	2.7
	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.2	0.4	0.3	0.3
	1年第3回(112名)	平均値	2.9	2.8	2.7	3.2	2.8	2.9	2.9	1年第3回(112名)	平均値	3.1	2.4	2.7	2.7
	1年第2回(116名)	平均値	2.7	2.6	2.3	3.1	2.7	2.7	2.7	1年第2回(115名)	平均値	2.7	2.3	2.6	2.5
1年第1回(107名)	平均値	1.9	1.9	1.8	2.2	2.1	1.9	2.0	1年第1回(109名)	平均値	2	1.6	1.8	1.8	
変化量(3回-1回)	平均値	1	0.9	0.9	1	0.7	1	0.9	変化量(3回-1回)	平均値	1.1	0.8	0.9	0.9	
中学1年生	1年第3回(114名)	平均値	3.3	3.0	2.9	3.3	3.2	3.1	3.1	1年第3回(114名)	平均値	3.1	2.6	2.8	2.8
	1年第2回(115名)	平均値	3.1	2.9	2.6	3.2	3	2.9	3.0	1年第2回(115名)	平均値	2.8	2.6	2.7	2.7
	1年第1回(119名)	平均値	2.7	2.5	2.3	2.8	2.7	2.6	2.6	1年第1回(119名)	平均値	2.6	2.4	2.3	2.4
	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.5	0.2	0.5	0.4

② 6つの資質・能力ルーブリック（5段階評価）の全6学年平均（まとめ）

学校平均 6つの資質・能力	本校で育みたい資質・能力						G 平均
	能力			資質（気質・特性・情意・態度）			
	① 情報 整理力	② 表現 力	③ 課題 解決力	④ 協働	⑤ 自他 の尊重	⑥ チャ レンジ 精神	
A 各学年の第3回の平均数値(学年末・除6年)	3.2	3.0	2.8	3.2	3.0	3.0	3.0
B 各学年の第1回平均数値(開始当初)	2.7	2.6	2.4	2.8	2.7	2.6	2.6
C 調査開始時からの伸び(3年間実施学年)	1.5	1.5	1.3	1.4	1.4	1.5	1.4
D 調査開始時からの伸び(2年間実施学年)	1.1	1.0	1.0	0.9	0.8	1.1	0.9
E 調査開始時からの伸び(1年間実施学年)	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6
F 調査開始時からの伸び(1～3年間平均)	1.1	1.0	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0

* 高3の最終評価は第2回（2学期）とする。

3年目(平成30年度・2018年度)

①各学年の回ごとのルーブリック平均値 *平成30年度(第3回・冬)ルーブリック評価(まとめ)

年次	項目1	本校で育みたい資質・能力						全体	項目2	ESD3プロジェクト			全体		
		能力		資質(気質・特性・情意・態度)						①地域課題解決(力)	②国際課題解決(力)	③生き方・在り方探究(力)			
		①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働	⑤自他の尊重	⑥チャレンジ精神								
高校3年生	3年第2回(177名)	平均値	3.0	2.9	2.8	3.0	2.9	3.0	2.9	3年第2回(181名)	平均値	2.6	2.7	3.1	2.8
	3年第1回(184名)	平均値	2.8	2.7	2.5	2.9	2.7	2.8	2.7	3年第1回(184名)	平均値	2.5	2.6	2.8	2.6
	変化量(2回-1回)	平均値	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2	0.2	変化量(2回-1回)	平均値	0.1	0.1	0.3	0.2
	2年第3回(183名)	平均値	2.9	2.8	2.5	2.9	2.7	2.8	2.8	2年第3回(184名)	平均値	2.6	2.6	2.8	2.7
	2年第2回(185名)	平均値	2.5	2.4	2.3	2.6	2.5	2.4	2.5	2年第2回(187名)	平均値	2.3	2.5	2.5	2.4
	2年第1回(185名)	平均値	2.1	2.1	1.9	2.3	2.1	2.0	2.1	2年第1回(182名)	平均値	2.0	2.1	2.2	2.1
	変化量(3回-1回)	平均値	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6	0.8	0.7	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.5	0.6	0.6
	1年第3回(名)	平均値								1年第3回(名)	平均値				
	1年第2回(名)	平均値								1年第2回(名)	平均値				
	1年第1回(名)	平均値								1年第1回(名)	平均値				
高校2年生	2年第3回(187名)	平均値	2.7	2.5	2.5	2.7	2.6	2.6	2.6	2年第3回(192名)	平均値	2.4	2.4	2.5	2.4
	2年第2回(190名)	平均値	2.6	2.4	2.3	2.6	2.5	2.4	2.5	2年第2回(186名)	平均値	2.4	2.3	2.5	2.4
	2年第1回(185名)	平均値	2.4	2.2	2.2	2.5	2.4	2.3	2.3	2年第1回(186名)	平均値	2.3	2.2	2.3	2.3
	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	変化量(3回-1回)	平均値	0.1	0.1	0.2	0.1
	1年第3回(174名)	平均値	2.4	2.3	2.2	2.4	2.3	2.2	2.3	1年第3回(186名)	平均値	2.2	2.2	2.3	2.2
	1年第2回(191名)	平均値	2.2	2.1	2.1	2.1	2.3	2.2	2.2	1年第2回(196名)	平均値	2.1	2.1	2.2	2.1
	1年第1回(198名)	平均値	1.9	1.8	1.8	2.1	2.0	1.8	1.9	1年第1回(196名)	平均値	1.9	1.8	1.9	1.9
	変化量(3回-1回)	平均値	0.5	0.5	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	変化量(3回-1回)	平均値	0.3	0.4	0.4	0.4
高校1年生	1年第3回(198名)	平均値	2.6	2.6	2.3	2.7	2.6	2.4	2.5	1年第3回(196名)	平均値	2.4	2.3	2.4	2.4
	1年第2回(195名)	平均値	2.3	2.3	2.2	2.5	2.4	2.2	2.3	1年第2回(195名)	平均値	2.1	2.1	2.2	2.1
	1年第1回(198名)	平均値	2.0	2.0	1.9	2.2	2.2	1.9	2.0	1年第1回(198名)	平均値	1.8	1.9	2.0	1.9
	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.6	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	変化量(3回-1回)	平均値	0.6	0.4	0.4	0.5
	3年第3回(108名)	平均値	3.2	3.0	2.8	3.3	3.1	3.2	3.1	3年第3回(108名)	平均値	2.7	3.1	2.8	2.9
中学3年生	3年第2回(107名)	平均値	3.2	3.0	2.7	3.3	3.1	3.1	3.1	3年第2回(101名)	平均値	2.7	3.1	2.8	2.9
	3年第1回(109名)	平均値	3.1	2.8	2.5	3.2	2.9	2.9	2.9	3年第1回(110名)	平均値	2.6	2.5	2.7	2.6
	変化量(3回-1回)	平均値	0.1	0.2	0.3	0.1	0.2	0.3	0.2	変化量(3回-1回)	平均値	0.1	0.6	0.1	0.3
	2年第3回(名)	平均値								2年第3回(名)	平均値				
	2年第2回(111名)	平均値	2.9	2.7	2.4	3.1	2.6	2.7	2.7	2年第2回(112名)	平均値	2.5	2.3	2.5	2.4
	2年第1回(110名)	平均値	2.8	2.5	2.2	2.9	2.5	2.4	2.6	2年第1回(110名)	平均値	2.4	2.2	2.4	2.3
	変化量(2回-1回)	平均値	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.3	0.2	変化量(2回-1回)	平均値	0.1	0.1	0.1	0.1
	1年第3回(名)	平均値								1年第3回(名)	平均値				
	1年第2回(名)	平均値								1年第2回(名)	平均値				
	1年第1回(名)	平均値								1年第1回(名)	平均値				
中学2年生	2年第3回(112名)	平均値	3.1	2.9	2.7	3.1	2.8	2.8	2.9	2年第3回(112名)	平均値	3.1	2.6	2.8	2.8
	2年第2回(110名)	平均値	2.7	2.6	2.5	2.8	2.5	2.6	2.6	2年第2回(102名)	平均値	2.9	2.4	2.5	2.6
	2年第1回(116名)	平均値	2.4	2.4	2.2	2.4	2.2	2.3	2.3	2年第1回(112名)	平均値	2.6	2.2	2.3	2.4
	変化量(3回-1回)	平均値	0.7	0.5	0.5	0.7	0.6	0.5	0.6	変化量(3回-1回)	平均値	0.5	0.4	0.5	0.5
	1年第3回(名)	平均値								1年第3回(名)	平均値				
	1年第2回(120名)	平均値	2.2	2.1	2.0	2.1	2.0	2.0	2.1	1年第2回(120名)	平均値	2.4	2.2	2.0	2.2
	1年第1回(120名)	平均値	1.5	1.4	1.4	1.5	1.4	1.4	1.4	1年第1回(120名)	平均値	1.9	1.6	1.6	1.7
	変化量(2回-1回)	平均値	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	変化量(2回-1回)	平均値	0.5	0.6	0.4	0.5
中学1年生	1年第3回(112名)	平均値	2.9	2.8	2.7	3.2	2.8	2.9	2.9	1年第3回(名)	平均値	3.1	2.4	2.7	2.7
	1年第2回(116名)	平均値	2.7	2.6	2.3	3.1	2.7	2.7	2.7	1年第2回(115名)	平均値	2.7	2.3	2.6	2.5
	1年第1回(107名)	平均値	1.9	1.9	1.8	2.2	2.1	1.9	2.0	1年第1回(109名)	平均値	2.0	1.6	1.8	1.8
	変化量(3回-1回)	平均値	1.0	0.9	0.9	1.0	0.7	1.0	0.9	変化量(3回-1回)	平均値	1.1	0.8	0.9	0.9

② 6つの資質・能力ルーブリック（5段階評価）の全6学年平均（まとめ）

学校平均 (中1～高3)	本校で育みたい資質・能力						F 平均
	能力			資質(気質・特性・情意・態度)			
	① 情報 整理力	② 表現 力	③ 課題 解決力	④ 協働	⑤ 自他 の尊重	⑥ チャ レン ジ精 神	
A 各学年の第3回の平均数値(学年末・除6年)	2.9	2.8	2.6	3.0	2.8	2.8	2.8
B 各学年の第1回平均数値(開始当初)	2.0	2.0	1.8	2.2	2.0	1.9	2.0
C 調査開始時からの伸び(2年間実施学年)	0.9	0.9	0.9	0.8	.09	1.0	0.9
D 調査開始時からの伸び(1年間実施学年)	0.8	0.8	0.7	0.8	0.6	0.8	0.7
E 調査開始時からの伸び(1～2年間平均)	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.9	0.8

(3) これまでの取組を通じた変容と課題（学校・教員・生徒）について

■ 以下は、令和元年度（2020年度）における総括である（「ESD 大賞実践報告書」より）。

(1) 学校全体の成果は、次の3点である。

① ESDを中心としたホールスクールアプローチで学校の特色づくりに成功する。

ESD実践前は、(狭義の)学力重視の地域の進学校が、それに加えて「国際交流」と「ESD」を特色とする学校に変容を遂げた。学校教育目標、学校ビジョン、授業内外の学び、地域・国外連携まで幅広くESDの視点で教育活動を整理し実践できた(ホールスクールアプローチ)。

② 新規事業開発中心でなく、既存の取組をESDの観点で整理する。

ESD導入により、育みたい資質・能力と教育活動が構造化できた。新規事業導入で負担を過度に増やさず、現状を活かして特色づくりに成功した意味で、働き方改革に配慮した取組といえる。

③ 生徒は6年間で3つのプロジェクトに取組、スパイラルに資質・能力を向上させる。

生徒は中高6年間で、上述した3プロジェクトに取組、「地球・地域の持続可能性の向上」と「個人としての資質・能力の向上」に励む。

その結果、中高6学年の資質・能力の平均(ルーブリック評価)は、第1回(春)2.0から第3回(冬)2.8と、全学年で成長した。ESDを2年間実施した学年の平均は0.9伸び、1年間の学年では0.7である。ESDは長期間実施した方が資質・能力が伸びることが明らかになった。

また、ESD導入で生徒が校外活動に積極的に参加するようになっている。国際プログラム参加者は増加し(2016年:40人→2019年:65人)、全国規模で活躍する生徒も増えている(観光甲子園グランプリ、全日本高校模擬国連4年連続5度出場、フィリピン国際ボランティアなど)。

(2) 課題と今後の展望は以下の通りである。

① 各授業にESDのアプローチをさらに取り入れる。(課題解決・探究的な学びの推進)

② 生徒主体のESD活動を一層推進する。(生徒が取組を提案し実践)

③ 資質・能力ルーブリック評価追跡を長期的に行う。(資質・能力の育成に資する)

④ 市や企業と連携しSDGsに関連する地域の課題解決に力を注ぐ。(地域連携型)

⑤ 他校(国内外)との実践交流を無理なく増やす(学びと刺激の共有)。

■ (参考) 以下は、平成30年度までの総括である。

【学校の変容】

(主な成果)

① 「開校以来積み上げてきた実践を、ESDの観点で整理し構造化する」ことと、「本校で育みたい資質・能力を明確化し、教育内容を6観点でカリキュラムマップに整理する」ことができた。

② ESDの取組が本校の特色の1つとなっている。(もう1つはグローバルな取組)

(今後の課題)

① 今後は、カリキュラムマップの質を「本当に使える」、「見てわかる」ものにさらに精度を高める。

② どの授業・科目の中でもESDの教育的アプローチが取られている状態を目指す。(課題解決・探究的)

③ ルーブリック評価の追跡を長期的に行い、本校で育みたい資質・能力を身に着ける教育内容にする。

④ 「学校丸ごとESD」「どこを切ってもESD」の状態には至っていない。たとえば、ゴミ、交通手段、紙の資料、校舎の素材など、校内外のあらゆる面で持続可能な状態で暮らすにはどうするかを考える。

【教員の変容】

(主な成果)

① 研修等を通じて、各教員にESDの考えが浸透。過去の取組の多くがESDの方向性にあることを認識。

② 各教科の中でSDGsに関連した取組を実施する(平成30年の研究テーマでSDGs授業実践集作成)。

(今後の課題)

① 一人一人がサステナビリティを主体的に学び、校内外で実践できる状態を目指す。

【生徒の変容】

(主な成果)

<p>①校長のリーダーシップ（講話等を含む）や諸活動を通して、主体的な活動に取り組始めている。 （観光甲子園最優秀賞、全日本高校模擬国連大会4年連続5度目の出場、フィリピン国際ボランティア等）今後はさらに、自発的・継続的に校外の活動にも主体的に参加している状態を目指す。</p> <p>②資質・能力評価ルーブリック（5段階）を分析すると、次のような成果が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資質・能力は、第1回（春）から第2回（秋）でどの学年も上昇（生徒が自己の成長を実感）。 ●資質・能力の「学校平均」は、第1回（春）は5段階中2.0、第2回（秋）は2.3（平均0.3上昇）。 ●資質・能力の伸びは、2年間実施した学年では0.8上昇、1年間では0.5上昇（長い方が伸びる）。 <p>(今後の課題)</p> <p>①今後は、教員・生徒とルーブリックの内容や意義をさらに共有し、全方面での主体的な実践を促す。 （e-Portfolio との連携も含めて。）</p> <p>②生徒が本校のESD活動やその意義について説明できるレベルまでを目指す。</p>
--

(3) (参考) サステナブルスクール 3年間の取組自己評価 (基準は ACCU 作成)

5 かなり満たしている 4 ほとんど満たしている 3 満たしている 2 あまり満たしていない 1 満たしていない
*以下は平成30年度のサステナブルスクールの取組の総括である。

審査項目	審査基準	開始前	3年後	今後の具体的なアクション
ビジョン	<input type="checkbox"/> 持続可能な未来の実現に向けた目的が明確に示されている。 <input type="checkbox"/> 活動目的・目標と、活動内容に一貫性がある。	3	4	ビジョンの「持続可能な社会の担い手」を具現化。
継続性	<input type="checkbox"/> 今後3年以上継続的に活動していく意志が明確にある。 <input type="checkbox"/> 持続可能な社会を担う次世代を育てる明確な意志がある。	3	5	ユネスコスクール指定を受け、今後も継続できる。
統合	<input type="checkbox"/> 社会・経済・環境がバランスよく教育活動に反映されている。 <input type="checkbox"/> 持続可能性に関する内容が明確に教育活動に反映されている。 <input type="checkbox"/> 教育課程への位置付けが適切になされている。	2	4	授業にSDGsを取り入れる。教職員全員がSDGsレポートを作成する。
エンパワメント	<input type="checkbox"/> 学習と実践活動がつながっている。 <input type="checkbox"/> 学習者・実践者が対話を通して主体的に参画できるカリキュラムを作っている。 <input type="checkbox"/> 批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的、総合的に考える力などを育む教育を行っている。	2	4	生徒が主体的に参加できるよう、ポートフォリオの機能を研究する。
刷新性	<input type="checkbox"/> 既存の枠にとらわれず、ダイナミックにESD活動を創り上げている又は創り上げようとしている。	2	4	基本の枠はできたので、次はさらに生徒の発案も。
協働	<input type="checkbox"/> 教師間がチームとして協働し、ESD活動を推進している。または、その環境が整っている。 <input type="checkbox"/> 多様なステークホルダー（地域、家庭、NGO/NPO、企業）と協働し教育活動を実践している。または、しようと努力している。 <input type="checkbox"/> 国内や国外であらゆる学校・校種と相互に学びあう活動を展開している。または、しようと努力している。	2	4	姉妹校提携中の海外の学校と取組をしている。今後はユネスコスクールやサステナブルスクール同士の交流を考えたい。
変容	<input type="checkbox"/> 6.を踏まえ、それを学校に還元し学校も常によき変化を求め、柔軟である。 <input type="checkbox"/> 学校を「社会を変容させる拠点」と認識し、学校と社会の相互の学びを積極的に推進している。	3	5	校外活動が増えているので、校外活動の留意点をまとめ、生徒と共有をする。
汎用性 (拡張性)	<input type="checkbox"/> 重点校として、あらゆる学校が活用し実践することができる可能性のある活動を実践する意欲を持っている。 <input type="checkbox"/> 実践に見出される工夫や方法、理論等を他の学校にも拡大し、協働していく高い意欲がある。	1	4	指定3年目も、紀要を更新して持続的にまとめを作成して普及に努める。

1 資質・能力の向上について

(1) 資質・能力ルーブリック評価について

- ①中1～高3まで、第1回（春）と第2回（秋）にかけて資質・能力（6項目）は右の表のように上昇している。学校平均の上昇率は74.75%である。
②各学年の詳細は、p.13～14の通りである。

	①～⑥の合計値が 上昇した生徒数	割合	
1年	107	89.2%	【N=120】
2年	69	63.3%	【N=109】
3年	75	73.5%	【N=102】
4年	129	65.8%	【N=196】
5年	135	74.2%	【N=182】
6年	156	82.5%	【N=189】

(2) ESD3大プロジェクト評価について

- ①中1～高3まで、第1回（春）と第2回（秋）にかけて3大プロジェクトに関する値は右の表のように上昇している。
学校平均の上昇率は51.13%である。
②各学年の詳細は、p.13～14の通りである。

	①～③の合計値が 上昇した生徒数	割合	
1年	96	80.0%	【N=120】
2年	40	36.4%	【N=110】
3年	57	52.3%	【N=109】
4年	87	44.6%	【N=195】
5年	101	55.8%	【N=181】
6年	79	37.7%	【N=191】

(2) 資質・能力を向上させる行事や課外活動について

資質・能力ルーブリックの自己評価で「4」や「5」となるにいたった活動は、次のようになった。
どのような活動が資質・能力を伸ばすのか参考になる。（以下の記述は、5学年のもの）

①情報分析・整理力

模擬国連（でいろんな情報を集め、意見につなげた。）(8) 英語授業でのプレゼン (3) 駅前再生計画 総合学習 未来研究セミナー 演芸大会出場 高校生議会のプレゼン 放送部での番組制作 リーザスを使った資料作り テストまとめノート、宿題レポート作成

②活用・表現力

暗唱 プレ国連 英語での海外ディスカッション 総合での意見発表 英語のリテリング、ビブリオバトル 校内でのSYD紹介 部活動

③課題発見・解決力

模擬国連 (2) 地域問題解決 夢チャレ SYDにおける活動 福山駅前計画 自ら計画したボランティア活動 自分から行動してはしないけど修学旅行先で英語でディスカッションしたりした

④協働

修学旅行 (2) 部活動で意見交流・協力 (5) 学校行事 高校生議会 (2) 修学旅行 HAZE チーム 生徒会活動 福島のボランティア 地域問題解決 部活動での団体の練習 2つの意見が分かれた時に新しい意見を出そうと考える。 駅前再生計画 (2) 他者への意思表示 部長としてのとりまとめ SYDにおける活動 一樹祭保健展でのリーダー 文化祭実行委員 地域行事に積極的に参加 生徒会活動 (いろいろな行事で) 去年の文化祭で自分たちが協力してやるときに相手の意見をしっかり聞いて自分の意見をしっかり言える

⑤自他の尊重

修学旅行 HAZE 高校生議会 部活や勉強さまざまなことで自分と向き合い挑戦しているから 模擬国連で他校、他県の人とアイデアを出し合った SYDにおける活動 (2) 校内バディ、ISSP 授業や日々の生活 地域の清掃ボランティア活動 部活動 ネガティブな心をなくす努力

⑥チャレンジ精神

部活動 (3)、修学旅行 海外ボランティア参加 FWC (3)、生徒会 勉強するようになった 演芸大会 進路実現のための勉強 たくさんのボランティアに参加しているから 夢チャレでいろんな新しいことに取り組めた 県大会を目標とした部活練習 オーストラリア語学研修 (2) バディ 思いついたら即行動 サマースクールボランティアで子どもとふれあうことを経験したいと思い参加 棋部で理想の勝ち方ができるよう行動 悪いことをどうすればよいのか考えよう

(3) 授業実践とのリンク

2017年度（平成29年度）の研究主題は、「グローバルな社会・地域社会で活躍する資質・能力をもった生徒の育成」であり、これはESDや高大接続改革の流れとリンクしたものである。授業改善の一環として2016年度（平成28年度）は全教科で「活用」実践に取組「活用レポート集」を作成した。2017年度（平成29年度）は、「主体的・対話的で深い学び」の「3つの学び」の実現を目指し、「3つの学びレポート」を作成することができた。今後はさらにこれらの取組を、グローバルな社会・地域社会とリンクした活用・探究実践へと進化させていきたい。

2 課題と展望

(1) 資質・能力の向上について

本校では、2016年（平成28年）に「本校で育てたい資質・能力」を策定し、カリキュラム・マップを作成した。その翌年の2017年（平成29年）にp.9にあるルーブリック（資質・能力記述文）を作成した。現在は、カリキュラム・マップとルーブリックの整合性を図るため、授業で「本単元で育む資質・能力」を確認しながら両者の修正をかけているところである。

(2) 国際課題解決プロジェクトについて

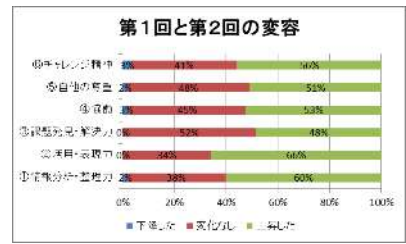
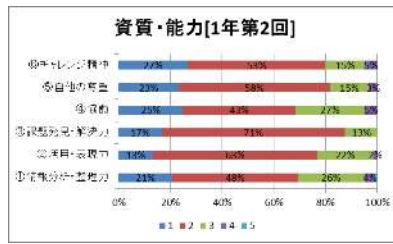
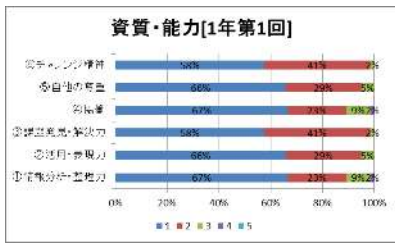
本校ESDの3主要プロジェクトの1つ「国際課題解決プロジェクト」においては、「交流からアクションへ」がキーワードである。5学年の「夢チャレ」におけるマレーシアでのプレゼンテーション&ディスカッションのように、今後も海外の中高生と共通課題について思考し解決策を英語で提案（提言）する「アクション型の交流」と発展させる。

(3) 地域課題解決プロジェクトについて

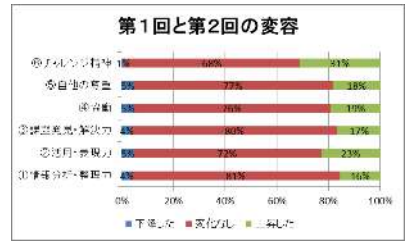
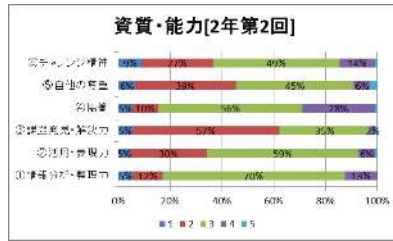
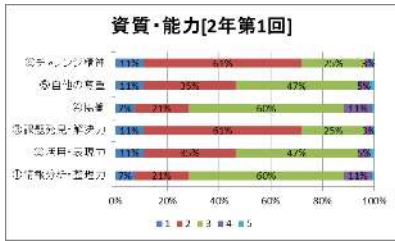
もう一つの柱である「地域課題解決プロジェクト」をより推進させたい。中学校ではすでに福山市全校で取り組んでいる「ふるさと学習」や本校独自の取組である「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」などの実地見聞を伴う体験的な学習を通して、身近な地域を知り、課題解決に取り組む基礎を育成している。高校でも高校1年と2年で、福山市や近隣の大学と連携した「高校版ふるさと学習」をスタートしている。次年度からより一層の「地域課題解決プロジェクト」の充実を図りたい。



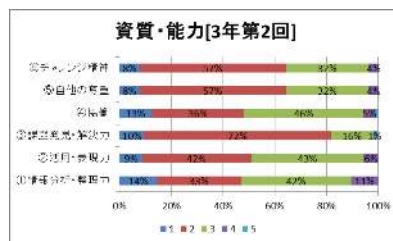
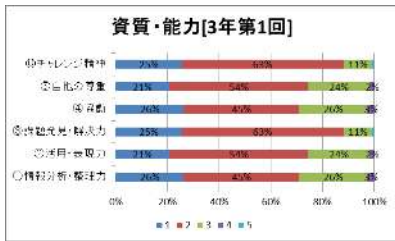
◆ 1 年生の結果



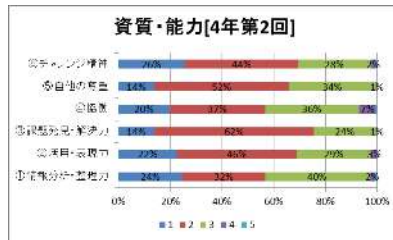
◆ 2 年生の結果



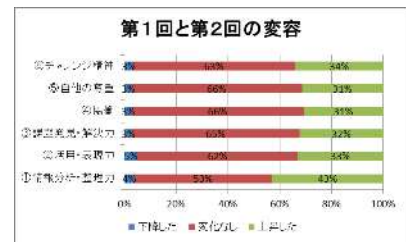
◆ 3 年生の結果



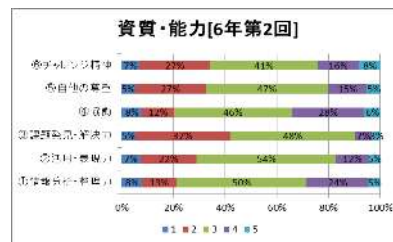
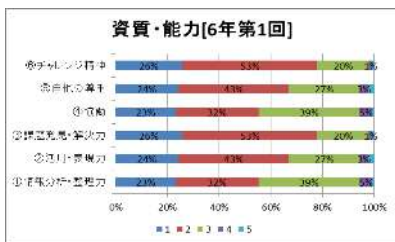
◆ 4 年生の結果



◆ 5 年生の結果

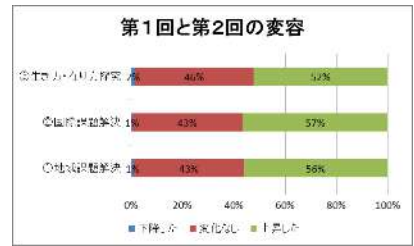
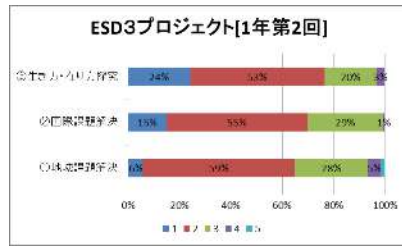
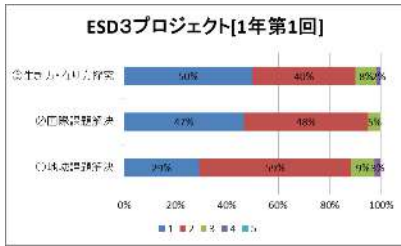


◆ 6 年生の結果

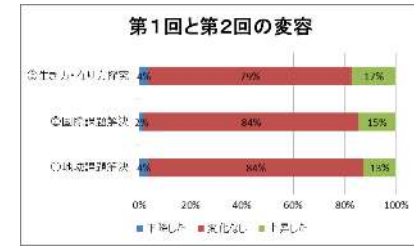
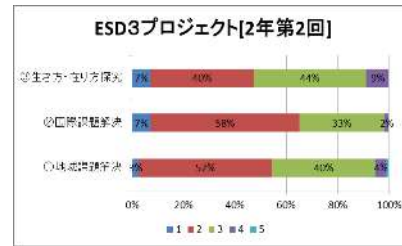
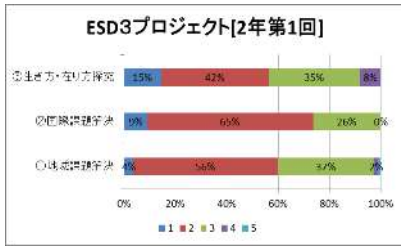


(参考) 平成 29 年度 ESD3 大プロジェクト評価・各学年の結果について

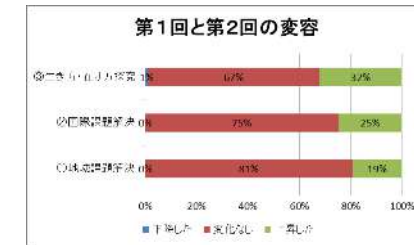
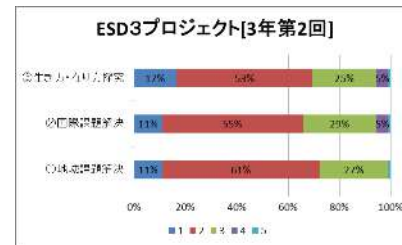
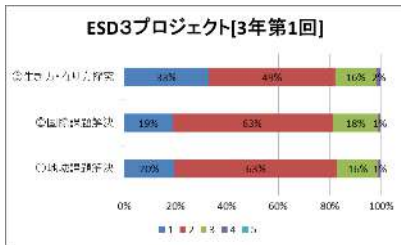
◆ 1 年生の結果 4



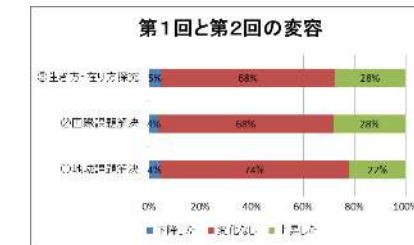
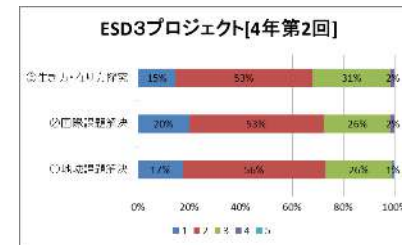
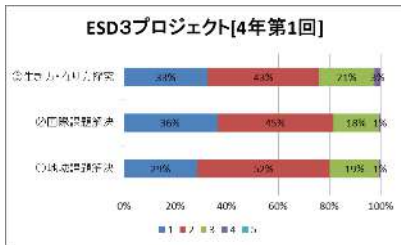
◆ 2 年生の結果



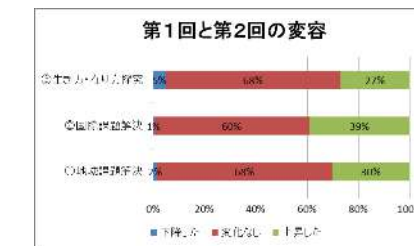
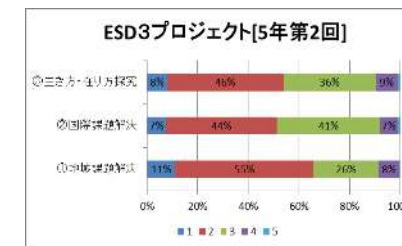
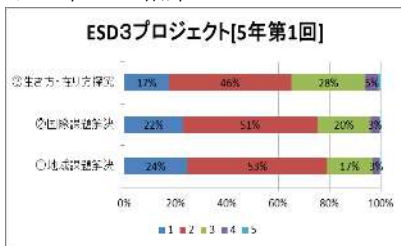
◆ 3 年生の結果



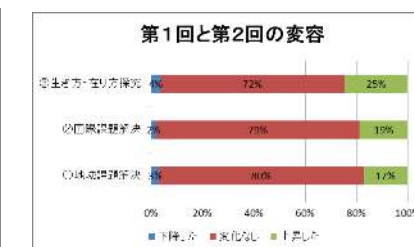
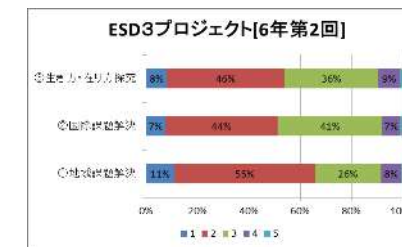
◆ 4 年生の結果



◆ 5 年生の結果



◆ 6 年生の結果



(12) Happy Schools Project とは？(ユネスコ・バンコク指定)

(1) はじめに

2019年10月21日～22日にかけて、タイ（バンコク）で開かれたユネスコセミナーで日本の教育事情についてプレゼンテーションを行う機会を得ました。

参加者は全45名（9か国）で、日本からは在タイ日本大使館1名、ACCU（ユネスコ関連団体）2名、教員1名（私）です。テーマは、Happy Schools Project。ユネスコが進めるこの国際的な取組は、教育改革が進む日本の学校で役立つ知見が多くあると思ひ、ご報告させていただきます。



(2) ユネスコ会議 in バンコクの概要

この会議の主催はユネスコ・バンコク事務所です。ユネスコは国連機関の1つで、使命は「教育を通じた平和の促進」とされています。SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の4番目にあたる「教育の質の向上」（SDG4）を図る取組を進めています。

今回の会議もその1つで、名称は、UNESCO Asia Pacific Regional Learning Seminar (themed) Happy Schools: Learner Well-being and Social Emotional Learning。つまり、ユネスコバンコク事務所が2014年からスタートしたHappy Schools Projectの、パイロット国3か国（日本、タイ、ラオス）の取組を他国とシェアし、「ウェルビーイング」と「社会情動的な学習」をどう促進するかを議論しようというものです。（今後の教育のキーワードである「社会情動的な学習」はここでは扱いません。参考文献をご参照ください。）

(3) ユネスコ会議への参加理由

Happy Schools Projectとは簡単に言うと、「学校が生徒や教員を含めてもっとハッピーになるにはどうしたらいいのか」について実践的に追求する取組です。概念だけでなく、実践を重視するのがポイントです。

日本国内では福山市立福山中・高等学校を含めて5校がハッピースクールの指定校になっています。本校はここ数年、学校づくりの軸としてユネスコの進めるESD(Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育)に力を入れており、この関係で本校の取組状況をHappy Schools Projectの観点で日本の事例として発表させていただいたというわけです。

(4) ハッピースクールとは何か

ハッピースクールの「ハッピー」とは、Well-beingの意味で使われています。「ウェルビーイング」とは、身体的、精神的、社会的な良好で満たされ、穏やかな状態の持続を指しています。つまりハッピースクールとは、一時的な幸福状態でなく、持続的なウェルビーイングを目指そうとするものです。ただし、ウェルビーイングという言葉は一般的にはなじみが薄いため、より多くの人に理解されやすい「ハッピー」という用語が使われているようです（研修会での説明より）。

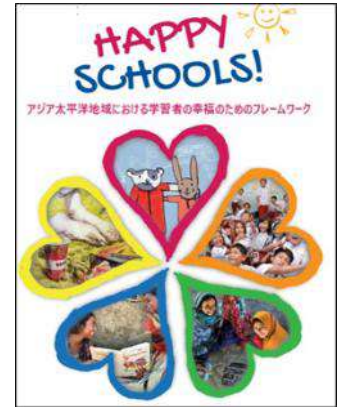
ちなみに、ポジティブ心理学（参考文献参照）によると、「人と比較した幸せ（「地位財」）は長続きしない」と言われています。たとえば、成績やお金や地位などです。それに比べ、「他人と関係なく得られる幸せ（「非地位財」）は長続きする」とされています。これは、自由、自主性、愛情、帰属意識などの「心」や、安全、健康などに当たります。さらには、幸せを感じやすいのは、「親切な人」、「自己肯定感の高い人」や「夢をもっている人」の傾向が高いとされています。

本校ではこのプロジェクトを、「学校内外のUnhappyな要素を減らして、Happyな要素を増やす取組」であり、それにより「教員・生徒のウェルビーイングと学校の質を向上させ、SDG4「教育の質的向上」に寄与する取組」と捉えて取組を行いました。

(5) Unhappy schools とは

それでは、Happy の反対である Unhappy schools とはどのような学校なのでしょう。ユネスコは、ポジティブ心理学などの知見や各種ワークショップ・セミナー、調査などを通して、「不幸せな学校の要件」を次のように5つにまとめています（「日本語版要旨」より）。

- ①いじめを誘発しやすい環境
- ②生徒の勉強の重い負担と試験や成績に起因するストレス
- ③ネガティブな学習環境や学校の雰囲気
- ④教師のネガティブな態度
- ⑤悪い人間関係



「いじめ」や「ネガティブな人間関係」に加え、「過度の勉強量」や「雰囲気・態度」も関係するとされています。Happy Schools を目指すためにはまず、こうした状態を再確認する必要があります。

(6) Happy schools とは

次に Happy schools の要件を考えてみましょう。「ハッピースクールの5つの要件」です。

- ①コミュニティ内での友情と関係性
- ②温かくフレンドリーな学習環境
- ③自由な学習環境、創造性
- ④チームワークと協調精神
- ⑤教師のポジティブな態度

これらは、先ほど見た「不幸せな学校の要件」の反対を表しているものが多いようです。

さらにユネスコは、「ハッピースクールのフレームワーク（枠組み）」をA4・1枚にまとめており、大変役立ちます。これらは、先ほど見た「不幸せな学校の要件」の反対を表しているものが多いようです。

そこでは、「People 人」「Process 過程」「Place 場所」の3つのカテゴリーごとに、6～9の項目（「基準」と呼ぶ）に分類しています（全部で22基準）。たとえば、「人」のカテゴリーでは、「友情」、「教師のポジティブな態度」、「教師の労働条件」などです。「過程」では、「学習量の適正化」「チームワークと協調精神」「学習内容の実用性」等。「場所」では、「いじめのない安全な環境」「ポジティブな規律」「学校のビジョンとリーダーシップ」等です。

私はこのフレームワークは、日本の学校改革に大変有益だと考えています。この基準を使えば、勤務校の良い点と改善点を発見しやすいからです。

たとえば、他の先生と一緒にフレームワークの22の基準を見ながら、「勤務校でできているものに○、惜しいものに△、まだまだなものに×」印をつけてみると、学校の状態が明らかです。さらに、「これらを参考に本校で取組たいものは？」と問いかけて、考えてみるのもよいでしょう。

実際に本校でやってみると、「幸福を学校ビジョンに入れる」「質問の意義を教える」「補習を選択にする」などの意見が出されました。学校を変えるための手掛かりが得られると思います。

People 人	Process 過程	Place 場所
学校コミュニティにおける友情と繋がりが	学習量の適正化	温かく友好的な学習環境
教師のポジティブな態度	チームワークと協調精神	いじめのない安全な環境
多様性と相違性の尊重	楽しく魅力ある教え方と学び方	開放的で自然のある学習および遊び空間
ポジティブで協調的な関係構築と実践	学習者の自由、創造性と参加	学校のビジョンとリーダーシップ
教師の労働条件と健やかさ	達成感	ポジティブな規律
教師のスキルと能力	課外活動と学校行事	良い健康、衛生、栄養状況
	生徒と教師がチームとなって学ぶ	民主的な学校運営
	学習内容の実用性と妥当性	
	精神の健全性とストレス管理	

このHappy Schools Projectの概説書が以下のQRコードからダウンロードできます（英語版）。
ウェルビーイングの観点で学校づくりが語られる機会が増え、世界中にHappy Schoolsが増えるきっかけになればと思います。



【参考文献】

- ・OECD・ベネッセ『社会情動的スキル 学びに向かう力』（明石書店）
- ・前野隆司『実践ポジティブ心理学』（PHP 研究所）
- ・UNESCO Bangkok Office “Happy Schools” A framework for learner well-being in the Asia-Pacific

■最終報告会（2020.1） * 文科省担当者出席

<p>(広島県) 福山市立福山中・高等学校</p> <p>発表者 上山 晋平 (研究企画主任)</p>	<h3>学校紹介① (沿革)</h3> <ul style="list-style-type: none"> ①高校創立120周年 (1899~) ②公立中高一貫校15周年 (2004~) 広島県の公立中高一貫校: 5校 公立中/高: 327校 (中学: 235校, 高校: 92校) ③生徒数1000名 (教員90名・27学級) ④学校の特徴: ◆国際交流 (姉妹校と) (オーストラリア, 韓国, マレーシア, マウイ...) ◆ESD (地域課題・国際課題解決Project等)
<h3>学校紹介② (ESDを軸にした学校づくり)</h3> <ul style="list-style-type: none"> ①ユネスコスクール by UNESCO 約1100校 (日本) 世界11000校 2018~ ②サステナブルスクール by ACCU (Asia-Pacific Cultural Center for UNESCO) 24校 (日本) 2016~ ③ハッピースクール by UNESCO (Bangkok) パイロット3カ国 (世界, 日本・タイ・ラオス) 日本国内5校 2019~ <p>第10回ESD大賞発表 文部科学省・経済産業省・国土交通省</p>	<h3>学校紹介③ (ESD大賞・受賞理由等)</h3> <ul style="list-style-type: none"> ①ESD推進は「持続可能性」に加え、生徒の「資質・能力」の向上、学校の「教育改革」推進につながる ②目的、活動、評価の一体化、SDGs等の取組 ③総合、探究、特活、各授業が密接に連携 ④資質・能力 (情報整理力、表現力、課題発見力、協働、尊重、チャレンジ精神) を定めてルーブリック評価 →生徒、保護者、教員が成長の見える可 ⑤行動変容 (ベクトルを変える教員等) ⑥市や企業と連携
<h3>ガイドについて①</h3> <p>日本語版要旨</p> <p>①ガイド2種類 ①日本語版資料 (厚い、全81p) ←印刷したが不使用 ②日本語版要旨 (薄い、全13p) ←こちらを使用</p> <p>②ガイド活用例 【名称】ESD校内研修会 (全教職員対象) 【内容】ESDとは、「Happy Schools Projectとは」 【目標】①両者を説明できる ②実践例・改善案を思いつく 【流れ】(Happy Schools Projectについて) ①Happy Schools Projectとは ②Unhappy Schoolsとは ③Happy Schoolsとは ④「本校の改善点は?」</p>	<h3>ガイドについて② (続き)</h3> <p>フレームワーク</p> <p>②ガイド活用例 ④「本校の改善点は?」(改善点を見つけるヒント) 例① フレームワーク (3カテゴリー、22の基準) を見て本校できているものに○ (惜しいもの△、まだ×) 例② これらを参考に本校で取り組みたいものは?</p> <p>③ コメント・意見例 ●学校ビジョンに「幸福」を取り入れる (幸福) ●皆が楽しめる食卓を設置する (交流・協働) ●協働の意義を生徒に教える (主体性) ●補習を選択式にする (主体性) etc</p> <p>④ ガイドの改善点 (忙しい現場で読まれる資料の特徴) ①磁紙 (分割、罫線書き、薄く) ②具体的 (×抽象的) ③意義とやり方、時間が明記 (体験研修全体の重要性)</p>
<h3>本校の課題 (4月)</h3> <p>4月のワークショップin福山でプロブレムツリーを作成した際に出てきた課題</p> <p>【人 (People)】 ●6月に120周年記念式典がある。そこで歴代校歌3曲を感動的に歌いたい。しかし、卒業式など校歌斉唱はいつも声が小さい。何とかならないか・・・</p> <p>【過程 (Process)】 ●地域の進学校として受験指導に力を入れ、開校時の数値目標はほぼ達成できた。が、時代は変わる。生徒と教師がチームで探究する形も取り入れたい。</p> <p>【場所 (Place)】 ●決められたルールは守れるようになってきた。が、「スマホ持ち込み可」など県の動きも加速。生徒や保護者も主体的に関わるルールづくりをしたい。</p>	<h3>活動 (人: People)</h3> <p>「人」においてウェルビーイングを高めるカギ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者とのポジティブな関係 (生徒同士、教員、保護者、地域の方を含む) ・ポジティブな価値観を持つ教員・生徒 ・協働的な価値観・実践 <p>*ガイドより</p>

活動 (人: People)①

活動名: 120周年記念式典 歴代校歌 (3曲) 斉唱Project

*この1年間で最大の行事
参加者 1600人 (市編を含む)

期間: 5月~6月 (2ヶ月間)

内容: 歴代校歌3曲を歌って
聴衆に感動してほしい
→一体感につなげたい

課題: 大きな声での校歌斉唱は容易でない
: 時間の捻出 (毎日練習?)

要 容: 次のスライド参照



・聴衆: 「感動した!」「生徒の可能性を感じた!」
・生徒: やり切った感、満足そう

活動 (人: People)②

活動名: 地域の方を学校に

期間: 通年

内容: 行事 (文化祭、体育祭等)
地域課題解決学習
進路講演会
(卒業生の講演)

課題: 保護者の理解
: 必要経費確保 (講演等)

要 容: 学校の状況を知って応援回になってくださる



活動 (人: People)③

活動名: 異年齢部活動 (中高合同)

期間: 通年

内容: 部活動 (中高合同)

課題: 場所・時間の確保
: 部活動指導者の確保

要 容: 先輩から達の伝承
(演劇、吹奏楽、少林寺等の強豪に)
社会性向上 (人間関係、友情、言葉づかい等)
反抗期が短い?



活動 (人: People)④

活動名: 他校との活動 (名古屋国府中・高)

*サステイナブルスクール同士で交流あり

期間: 8月1日 (10:00~12:00)

内容: 学校紹介・自己紹介
校内見学
実践発表 (観光甲子園での地酒の企画)
SDGsをテーマとしたディスカッション

課題: 担当者 (中・高校)
: 交流が一部の生徒 (中学は生徒会、高校は有志)

要 容: (生徒) お互いの活動から刺激 (教員) 刺激と「仲間感」



活動 (人: People)⑤

活動名: 校内研修

期間: 通年 (授業研究会は年4回)

内容: 毎年1テーマで実践集作成

全員参加、記名式 (1人2p)
2019 課題発見・解決学習
2018 SDGsを取り入れた授業
2017 3つの学び
2016 活用型授業

課題: 実践の基となる理論編の作成 (4月)

: 全教職員への提出呼びかけ

要 容: 毎年1冊実践集 (知恵) 蓄積・異年研修で「うち、けっこう進んでいるな」 (教職員)



活動 (過程: Process) HAPPY SCHOOLS!

「過程」においてウェルビーイングを高めるカギ

- ・学習者の幸福度を高める教え方・学び方
- ・適度な学習量
- ・自由に意見を言える環境
- ・学習内容が実用的

*ガイドより

活動 (過程: Process)①

活動名: 「生徒と教師がチームで学ぶ! 探究学習Project!

①生徒と教師でチームになって学ぶ
②課題発見・解決型の探究的な学習

期間: 4月~12月 (8ヶ月間)

内容: ①高校1年探究授業 (グローバル人材育成事業)
②全教職員で課題発見・解決学習推進 (冊子化)

課題: 探究 (課題発見・解決) とは何? (生徒・教員も)
: 探究する時間は? (授業外?)

要 容: 生徒も教員も探究 (授業実践集が年度末に完成)
課題発見・解決学習 (実践集が年度末に完成)



活動 (過程: Process)②

活動名: 「学習量軽減! Less Tests, More Contests!

①中期休暇の全員補習・学習会廃止 (高3も希望制拡大)
②テストの代わりにコンテストを積極的に実施

期間: 通年

内容: ①高1、2夏休み補習前期は廃止、後期は実施
②コンテストの例 (英語科)
・単語 (英作文) コンテスト
・プレゼンコンテスト
③本校キャラクター「市花ちゃん」

課題: 勇気、分学会、教科会での議論

要 容: 生徒も教員にも余裕が生まれる
やらされ感が減り、主体性が増す



活動 (過程: Process)③

活動名: 「夢チャレ! 総合・特活・部活・課程外でも!

教科外の学びに積極的にチャレンジ
(「社会情動的な学習」→非認知スキル)

期間: 通年

内容: (例) 保育所訪問、フラワーアレンジメント
コンテスト、地域の方のための演劇会、
高校生による小学生科学教室→レポート・発表

課題: 活動に時間がかかる (働き方改革との関連は?)

要 容: 校外の活動に主体的に参加し全国規模でも活躍
(観光甲子園グランプリ、全日本高校模擬国連4年
連続5度出場、フィリピン現地ボランティア等)



活動 (過程: Process)④

活動名: 「国際交流!」

- ①姉妹校を訪問・交流・協議する
- ②姉妹校から生徒を迎える・パティ

期間: 通年

内容: (写真) オーストラリア、韓国、マウイ、マレーシアでは高2修学旅行でSDGs協議(運送、エビの養殖の影響等)

課題: 交流に主体的な担当者が必要
: 時間がかかる(事前準備も含めて)

変容: 国際的なプログラムに参加者数が増加中
(2017 40人→2018 48人→2019 65人)



活動 (過程: Process)④

オーストラリアの生徒とのSDGs合同授業 (地理)



活動 (過程: Process)



活動 (場所: Place)

HAPPY SCHOOLS!

「場所」においてウェルビーイングを高めるカギ

- ・ポジティブでハッピーな環境 / 校風
- ・笑顔や挨拶
- ・いじめ問題の予防
- ・学校運営・リーダーシップ・学校ビジョン

*ガイドあり

活動 (場所: Place)①

活動名: 「ハッピー校則Project」(生徒・保護者・学校で)ルール作り

期間: 4月~7月(3ヶ月間)

内容: ①生徒会がアンケート(実施把握)

(中高) スマホ所有85%、1日2h以上25%、就寝直前まで使用50%

②保護者・教員協議

③生徒会・風紀委員会作成「スマホマナー」

変容: 学校「スマホ持ち込み」(許可制)

*校内では使用しない(電源off、各自保管)

生徒側に立ったルール増加の兆し(カバンも検討中)

課題: 協議に時間がかかる

: 生徒が関するルール作り≠全員がルール遵守



活動 (場所: Place)②

活動名: 学校ビジョンに「ESD」(地球全体の幸福状態の追求)

期間: 通年

内容: ①ビジョン検討委員会で学校ビジョンにESDを決定

②PTA総会で学校長から保護者にESDの説明(保護者の理解・協力)

変容: ③持続可能な社会の担い手

④ビジョンに入れることでESDの取組が持続的に(複数年継続)

新任教員に説明する際にもESDの重要性を伝えやすい(会議室掲示)

課題: 管理職との協力が不可欠

活動 (場所: Place)③

活動名: 学校庭園(生徒が管理)

期間: 通年

内容: ①FWC(ボランティア部)が学校庭園を担当

②福山市の市花(バラ)の選定講習など希望者に実施(講師は地域の方)

変容: 希望者が学校の美化に主体的に関わる

市の花文化の継承につながる(市唯一の市立校)

課題: 長期休暇中のボランティア部内の調整(担当など)



活動 (場所: Place)④

活動名: 地域の方と地域清掃(地域をより良い状態に)

期間: 毎年10月

内容: 地域の方と地域清掃(部活単位の申し出も)

変容: 地域の方と協働して地域や地域のへの改善up

課題: 保険などの事務作業担当者



ディスカッション

Happy Schools Projectのフレームワークは有益と考える。ただし、「余分な仕事が増えそう」などの反対意見も想定される。Happy Schools Projectをどう日本(や諸外国)に導入するかを考えたい。

(福山中・高の考え方・導入の仕方)

- ①学校全体でESDやSDGsに取り組んでいる前提あり。
 - ②ESDを通して「世界や身の回りをよりよくしよう」という意識が共有。
 - ③「ESDの志で学校内をよりよくしようというのがHSPである」と説明。
 - ④幸福は世界の政策議題でも話題である(3/20国際幸福デー、プータンGNH)。
 - ⑤教員・生徒の幸福向上(一時的なhappinessより持続的なwell-being)知見の共有
 - × 人との比較(金、物、地位): 長続きしない
 - 他と関係なく得られる幸せ: 長続きする
- 心(自由、自主性、愛情、帰属意識) 安全(治安、紛争が少ない)、健康 * 親しい人ほど幸せ * 自己肯定感の高い人や夢をもつ人は幸せ
- ⑥HSP = 「学校のUnhappyな要素を減らしてHappyな要素を増やす」取組
→ 生徒・教員・学校全体のwell-beingの向上 = 全学校で必要



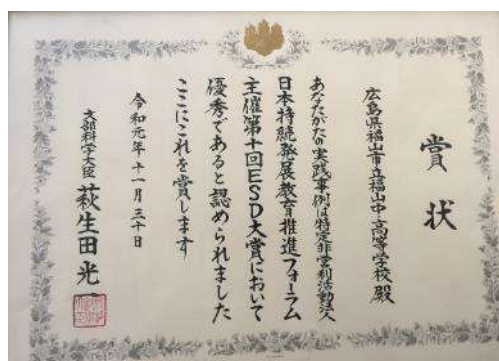
(13) 本校がESD大賞の最高賞である文部科学大臣賞を受賞！

2019年11月30日(土)に福山市立大学で、第11回ユネスコスクール全国大会(文科省など主催)が開かれ、全国から約800名の方が参加しました。この中で、NPO法人日本持続発展教育推進フォーラムから、本校がESD大賞(後援・文科省等)の最高賞である文部科学大臣賞に選ばれました。



ESDとは、Education for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されます。「持続可能な社会の創り手」(新学習指導要領)を育むために、全国(全世界)の学校で進められている取組です。簡単に言うと、「E(ええ)S(世界を)D(どうやって)つくるのかを考えて実践し周りに変容をもたらすことができる人を育む教育のこと」と本校では捉えています。

福山中・高では4~5年前から本格的にESDを軸に学校づくりを進めてきており、中学1年生から高校3年生までが、教科や総合的な学習(探究)の時間、校外活動などを通して、SDGs(Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」)を意識した取組を進めています(「地域課題解決」「国際課題解決」「在り方生き方探究」プロジェクトなど)。



本校が文部科学大臣賞を受賞した主な理由は、次のとおりとされています(一部要約)。

- ①「グローバルな社会・地域社会で活躍できる資質・能力をどう育成するか」を主題に、ESDの推進は「持続可能性」や「個人の資質・能力の向上」、「学校の教育改革推進」にもつながるとの仮説の下に取り組んでいる。
- ②ESDの視点に立ち、目的、活動、評価の一体化を図る学校運営、さらにESDを通じての教育活動をSDGs(国連加盟193か国の2020年までの達成目標)に向けるなど、持続可能な社会の構築につながる取組をしている。
- ③総合(探究)、特活、各授業が密接に連携している。
- ④情報整理力、表現力、課題発見力、協働、自他の尊重、チャレンジ精神などの育成に努め、5段階のルーブリック評価を実施し、生徒の成長を具体的に捉えている。(ESDの理解と推進に有意義な取組の一つ)
- ⑤福山市や地元企業と連携し、地域の課題に取り組むなど新たな動きも見られている。

また、ESD全国大会の中のパネルディスカッションでは、本校4学年の前田響くんが他の学校の中高生と一緒に登壇し、広島県教委主催の「ワールドピースゲーム」に参加して学んだことを報告しました。ワールドピースゲームとは、参加した一人ひとりが国の代表の役割を担って、地球温暖化や領土などの様々な国際課題の解決に挑み、平和な世界を築くシミュレーションゲームのことです。



本校としては、今後もESDを軸にした学校づくりを進め、地域社会や国際社会に貢献できる「グローバル人材」の育成につなげていきたいと思えます。福山市やACCU(ユネスコ・アジア文化センター)をはじめ、お世話になっている多くの関係機関にも感謝しつつ、引き続き連携ができればと思います。

(14) 生徒はどのような SDGs 活動に取り組んでいるのか (R6・高3)

【質問項目】

【3年間の探究の振り返り】本校は学校全体で SDGs を進めているユネスコスクールに加盟しています。あなたは、現在または高校時代に、どのような SDGs に関する活動に取り組んできましたか。高校入学以降で考え方や取組が変わったことなどがあれば、それも書いてください。

令和6年度の高校3年生の生徒に実施した SDGs アンケート結果を分析し、取組の種類ごとに人数の多い順に分類する。

1. 探究活動・授業を通じた SDGs への取組 (29人、24.2%)

アンケート内で最も多くの生徒が言及していたのは、学校の探究活動を通じた SDGs への取組である。

- 「探究活動はもちろんだが、特に英語では身の回りの問題について考える機会が多く環境、社会、文化など多くの分野で課題解決力を養ってきた。日々いろいろな知識を入れたり、いろいろな経験をするけどそれらに終始するのではなく、実社会に目を向け課題を見出していくことが必要だと分かった。」
- 「自分はこの3年間何をするかは大きく違っても「よりよいまちづくり」に繋がる活動に取り組んできた。」
- 「4学年と5学年では、SDGs4について関する活動を、6学年ではオリンピックの経済効果について調べるといふ、SDGs8について関する活動に取り組んできた。」

2. 健康・福祉に関する取組 (SDG3) (14人、11.7%)

- 「全ての人に健康と福祉をという課題に一番長く取り組んできた。人がどうしたらより健康でいられるのか考えた。」
- 「『全ての人に健康と福祉を』を主に取り組んできて、将来の夢が医療・保健系だったのでみんなが健康に過ごせる方法についてが多かった。」
- 「5年生と6年生の2年間、SDGs3番の『全ての人に健康と福祉を』をテーマに取り組んできた。5年では生活習慣について、6年では認知機能について探究した。」

3. ボランティア活動 (14人、11.7%)

- 「川の清掃ボランティアに参加した。SDGSの陸の豊かさを守ることに関係している。」
- 「ボランティア活動で学校清掃を行なった。」
- 「地域の川の清掃、夏冬休みに外国にルーツを持つ子供たちと勉強や会話をする日本語ボランティア、ふれあいランドの祭りの手伝いなどたくさんのボランティアを行った。」

4. 食品ロス・フードロス対策 (SDG12) (10人、8.3%)

- 「フードロスのことを考えて、消費期限、賞味期限の早い食材は早めに食べる。そして、宝石ロスの削減を実行した。」
- 「6年の探究でSDGs12の2030年までにお店や消費者のところで捨てられる食料を半分に減らすという目標を元にフードロスを重く受け止めフードロス対策を行った。」
- 「私は5年、6年の探究で食品ロス問題を扱い、食品ロスは地球の二酸化炭素排出につながることを知り、家では食品ロスをしないように毎日意識して取り組んでいた。」

5. 地域活性化・まちづくり (SDG11) (9人、7.5%)

- 「SDGs11の住み続けられるまちづくりを達成するために今回の探究で福山市の魅力を周りの人に伝えるたり、中学生の時はほとんどしていなかったゴミ拾いを高校生になってするようになりました。」

- 「尾道市の地域活性化のためにお祭りに参加し、盛り上げた」
- 「市内の映画館の活性化に向けて、具体的な解決を出すことができた。」

6. 教育関連の活動 (SDG4) (9人、7.5%)

- 「質の高い教育に取り組んできた。」
- 「高校1年生の時に夏休みにあった外国にルーツのある小中学生のための教室に探しわかりやすい日本語で勉強を教え、SDGs4のために活動した。」
- 「自分の進路につなげるために、SDGs4の質の高い教育を解決するために、探究活動をとおして教育現場の現状を知ったり、提案について考えた。」

7. 環境保全・ゴミ削減活動 (SDG14・15) (9人、7.5%)

- 「海洋プラスチック問題の原因であるポイ捨てされたゴミを拾って帰ることなど」
- 「SDGs14、15のように環境を守るためにゴミの分別などを今まで以上に気をつけて生活した」
- 「河手川という川の清掃活動を行い、海にゴミが放たれないようにゴミを集めた。」

8. 平等・不平等への取組 (SDG10) (7人、5.8%)

- 「平等や協力を目を向け、5・6年では「日本の日本語教室の教師不足」と「校則の顕在化」についての探究を行った。」
- 「差別を減らすきっかけを作るということを目指し、5年、6年の探究を行ってきた。」
- 「同性婚について調べる活動で、SDGs 10 「人や国の不平等を無くそう」の活動に取り組んだ」

9. 経済・産業に関する活動 (SDG8) (7人、5.8%)

- 「特にSDGsの8番について多くやったと思います。二酸化炭素の排出を抑えたり、飛行機との比較をしたりして新たな産業への発展に貢献したと思います。」
- 「株の始める方法をまとめた」
- 「SDGs8番に関して、魅力を伝えることで働きがいを、これによって増す人口で経済成長を効率的に行おうとした。」

10. 募金・寄付活動 (6人、5.0%)

- 「募金活動をした。KAKEHASHIProjectの帰りの空港でたまたま見つけたので貢献した。」
- 「使った鉛筆を本屋で寄付している。」
- 「ユニクロに服を寄付」

以上が、アンケート結果から見られた主な10種類のSDGsへの取組である。生徒は授業やボランティア活動、日常生活の中でさまざまな形でSDGsに関連した活動に取り組んでいることがわかる。



【本校生徒が特に積極的に頑張っている、特に顕著な活動の例】

1. 外国にルーツを持つ子どもたちへの支援活動

- 「5年生のときに外国にルーツのある子供たちに勉強を教えるボランティアに参加した。」
- 「高校1年生の時に夏休みにあった外国にルーツのある小中学生のための教室に探しわかりやすい日本語で勉強を教え、SDGs4のために活動した。」
- 「地域の川の清掃、夏冬休みに外国にルーツを持つ子供たちと勉強や会話をする日本語ボランティア、ふれあいランドの祭りの手伝いなどたくさんのボランティアを行った。」

これらの活動は、授業の一環ではなく、休暇期間を使って行われており、SDG4（質の高い教育）とSDG10（人や国の不平等をなくそう）に直接貢献している。

2. 地域の環境保全活動の継続的な取組

- 「河手川という川の清掃活動を行い、海にゴミが放たれないようにゴミを集めた。」
- 「中学生の時に川の清掃ボランティアに参加した。SDGSの陸の豊かさを守ることに関係している。」

これらの活動は、本校の側に流れている地域の自然環境を直接保全する実践的な取組であり、SDG14（海の豊かさを守ろう）とSDG15（陸の豊かさも守ろう）に貢献している。

3. 企業と連携した具体的な課題解決

- 「広島大学で行われたSDGs中国大会に出て、企業の話聞き、解決策を班で考え、全体に発表した」
- 「企業の取り組むSDGs、その解決策の考案に取り組んだ。」

この活動は学校の枠を超えて外部の大学や企業と連携し、実社会の課題に取り組んでいる点で特に顕著である（World Wide Learning）。

4. 具体的な製品開発による課題解決

- 「四年の時に企業から出たゴミを有効活用してキーホルダーを作った。つかう責任つくる責任にかかわることができた。」
- 「食料廃棄物を減らすために捨てられる果物を使って香水にした。また地球温暖化防止のために自分ができることを考え英語のプレゼンで発表し実行した。」

問題を議論するだけでなく、実際に製品を開発することで課題解決に貢献しようとする実践的な学びである。

5. 地域活性化のための具体的な取組

- 「市内の映画館の活性化に向けて具体的な解決を出すことができた。」
- 「映画館シネマモードに若者を動員するためにすべきことを考える活動、子どもたちに熱中症の危険性と予防方法を伝える活動。」

これらの活動は、地域の特定の場所や施設の活性化に焦点を当て、具体的な解決策を提案・実行している点で顕著である。

これらの取組は、授業内での学習にとどまらず、実社会の課題に直接関わり、具体的な解決策を実践している点で特に優れていると言える。また、継続的な活動や複数のSDGsに同時に貢献している点も評価できるものである。

(15) 自己・社会性意識調査 (R4～R6までの3年間の追跡調査)

この「自己・社会性意識調査」(3年間継続)は、日本財団が「18歳意識調査」として行っている「第62回一国や社会に対する意識(6カ国調査)」を参考に3年間継続実施したものである。

本校に入学した高校1年生が、高校3年生になるまで計4回実施することで、本校教育の強みと課題を明確にし、今後の教育活動に活かすことが目的である。

(1) 回数と人数

*高校在籍3年間で計4回実施(高1は入学時と年度末の2回)、各回約170～200名の回答)

- ① 高1・4月【N=195】
- ② 高1・2月【N=182】
- ③ 高2・3月【N=175】
- ④ 高3・7月【N=167】

(2) 全国平均を加味した比較

- 本校の教育で大きく伸ばしたもの:「社会貢献意識」「責任感」「将来の希望」
- ▲ 今後の課題:「自立意識」「挑戦する力」「リスクを取る勇氣」
- ★ 今後:「挑戦できる環境」「成長を促す教育」

(3) 結果の要約

本校教育には、「社会貢献意識が高く、将来への意欲が強い」という大きな強みがある一方で、「自立意識の低さ」や「安定志向の強さ」が全国平均と比べた際の課題として浮き上がった。今後は、社会との接点を増やし、自立心と挑戦する力を育てる教育を強化することで、さらなる成長が期待できる。

(4) アンケートのまとめ (本校教育の強み・課題)

【本校教育の強み】

【本校教育の課題】

本校教育の強み① 社会貢献意識の向上

① 社会貢献意識の向上 📈

●「社会を変えられると思う」
→ +15.6% (22.1→37.7%)
(全国45.8%より低い+15)

●「責任ある社会の一員だと思う」
→ +11.5% (72.3→83.8%)
(全国平均61.1%を大幅オーバー)

●「慈善活動に寄付したい」
→ +12.9% (48.2→61.1%)
(全国平均58.4%を超えた)

●「ボランティア活動に参加したい」
→ +10.0% (52.3→62.3%)
(全国60.4%より高い)

★本校教育で社会貢献意識が育った!
社会貢献やリーダーシップ教育でさらに向上。

本校教育の課題① 自立意識が低め

① 自立意識が低め 📉

●「自分は大人だと思ふ」意識が低い
+11.8%成長したが、
(20.5→32.3%)
全国平均49.6%と大きな差がある(32.3%)
*社会的責任感が高いが、自立意識は低め。
社会に出る準備や自己決定の機会が少ない可能性。

【改善策】
➡主体性や自己決定の機会を増やす
(生徒主体のプロジェクト、リーダーシップ活動、
勤労経験など)

本校教育の強み② 将来への希望が明確に

② 将来への希望が明確に 📈

●「将来の夢を持っている」
→ +12.0% (60.5→72.5%)
(全国平均60.1%より高い)
*進学・就職等の目標設定ができたか。

●「社会の変化が楽しみ」
→ +8.3% (67.7→76.0%)
(全国平均は不明)

【ポイント】
進路・キャリア教育の充実により、将来の展望が明確になり、それに向かって努力する姿勢が育まれている!

本校教育の課題② チャレンジ精神が伸び悩み

② 挑戦意識が伸び悩み 📉

●「高い目標のためにリスクを取る」
→ -0.2% (52.3→52.1%)
(全国平均は不明)

●「新しいことに挑戦したい」
→ +6.8% (62.1→68.9%)
(他の項目より伸びが低い)

【改善策】
➡挑戦する文化(チャレンジ精神)を育む
(失敗を学びに変える機会、クリエイティブな活動、
探究学習の促進)

本校教育の強み③ 勉強の意味の一つに「自己成長」

③ 「勉強の意味」が「就職・進学」+「自己成長」に

順位	高1(4月)	高3(7月)	変化のポイント
1位	よい就職(55.9%)	よい就職(46.1%)	約10%減少 → 就職重視の意識が弱まる
2位	よい進学(44.1%)	関心拡大(40.7%)	「よい進学」より「関心拡大」が2位に上昇!
3位	所得向上(36.9%)	よい進学(35.9%)	「所得向上」は順位低下(7位まで落ちる)

【ポイント】
●「勉強=就職・進学」中心から、「学びの楽しさ」にシフト!
●「よい就職」の割合が10%減少(55.9→46.1%)
●「関心拡大」が2位にランクアップ(33.5%→40.7%)
●「目標発見」が新たにランクイン(35.9%)
(★本校の授業や探究学習が「自ら学ぶ姿勢」を育てた可能性)
(★本校の進路指導が「単なる学歴」ではなく「学びの価値」を伝えた結果)

●「所得向上」よりも「関心拡大」「目標発見」へ!
●「所得向上」は3位から7位へ急落(36.9→22.8%)
(★「学び=お金のため」という考え方が減り、幅広い視点で勉強。)

【今後】
★さらに探究やプロジェクト型学習を進め、学びの楽しさを深める!
★「進学=目的」ではなく、「学びの意味」を意識させるキャリア教育を強化!

本校教育の課題③ 安定志向が根強い

③ 安定志向が根強い 📉

(リスクを取ることに慎重)

●「経済的安定を重視する」
→ +1.6% (ほぼ変化なし)

●「心理的安定を重視する」
→ -2.4% (変化はあるが依然高い)

【改善策】
➡「安定」と「挑戦」のバランスを学ぶ
(キャリア教育、地域貢献活動、社会課題解決型学習(PBL)、
政策提言、インターンシップなど)

(5) 各アンケートの詳細結果



4



5



6



10



11



12



第3章 事業報告（実践レポート）

I 地域課題解決プロジェクト

(1) 福山のよさ再発見（中1、総合学習）	61
(2) 誰もが暮らしやすい福山の街づくりプロジェクト（中1、総合学習）	63
(3) グローカル人材育成事業（高1、総合的な学習の時間）①（平成29年度）	65
(4) グローカル人材育成事業（高1、総合的な探究の時間）②（令和元年度）	67
(5) グローカル人材育成事業（高1、総合的な探究の時間）③（令和4年度）	69
(6) グローカル人材育成事業（高1、総合的な探究の時間）④（令和6年度）	73
(7) グローカル人材育成事業（高1）⑤（令和7年、過去の連携先一覧）	75
(8) 夢チャレ「福山市立大学との高大連携事業」（高2）①「福山駅前再生計画」（平成29年度）	77
(9) 夢チャレ「福山市立大学との高大連携事業」（高2）②「郊外団地のまちづくり」（平成30年度）	79
(10) 夢チャレ「福山市立大学との高大連携事業」（高2）③「地域公共交通のありかた」（令和元年度）	81
(11) 夢プロ「福山市立大学との高大連携事業」（高2）④「山野町の魅力発見・地域活性化」（令和2年度）	83
(12) もふお（羊）	85
(13) 地域の課題解決に取り組む卒業生から学ぶ（令和5年度、講演）	87
(14) 多文化共生学会発表（4年探究「わかいふあーむ」）	89

II 国際課題解決プロジェクト

(1) 姉妹校との国際交流（希望者、課外活動）	
①（オーストラリア）ダウンランズ高校①（平成29年度）	91
②（オーストラリア）ダウンランズ高校②（令和6年度）	93
③（アメリカ）マウイ（平成29年度）	97
④（韓国）ポハン①（平成29年度）	99
⑤（韓国）ポハン②（令和元年度）	103
⑥（韓国）ポハン③（令和7年度）	105
⑦（マレーシア）メガリア高校とのディスカッション①（平成29年度）	107
⑧（マレーシア）メガリア高校と大学生とのディスカッション②（平成30年度）	109
⑨（マレーシア）セリララン高校と大学生とのディスカッション③（令和元年度）	111
(2) 海外ボランティア活動（SYD、課外活動）	113
(3) 模擬国連（ICC等有志、特別活動）	115
(4) 全国高等学校観光選手権大会（観光甲子園、ICC有志）	117
(5) 岡山イノベーションコンテスト2019（天保一プロジェクト）	119
(6) 外国にルーツを持つ児童・生徒への学習ボランティア（部活動）	121
(7) コロナ禍におけるリモートでの国際交流（部活動）	123
(8) シンガポール国際交流（希望者、課外活動）JENESYS（令和7年度）	125
(9) 福山中・高等学校 国際交流マニュアル（令和7年度）	127

III 在り方生き方探究プロジェクト

(1) 自分発見学習（中1、総合学習）	129
(2) 夢チャレ（高2、課外活動）①（平成29年度）	131
(3) 夢チャレ（高2、課外活動）②（令和元年度）	135
(4) 夢プロ（高2、総合的な探究の時間）③（令和2年度）	137
(5) 夢プロ（高2、総合的な探究の時間）④（令和5年度）	139
(6)（SDGsの観点を取り入れた）課題研究（高3、総合学習）①（平成30年度）	141
(7) 課題研究（高3、総合的な探究の時間）②（令和3年度）	145
(7) 課題研究（高3、総合的な探究の時間）②（令和6年度）	147
(8) 個別最適な学び実証研究1年目（令和2年度、全学年総合）	149
(9) 個別最適な学び実証研究2年目（令和3年度、全学年総合）	151

IV 他校との実践交流・協働プロジェクト

(1) 名古屋国際中：サステイナブルスクール認定校①（平成29年度）	153
(2) 名古屋国際中高：サステイナブルスクール認定校②（令和元年度）	155
(3) WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）1年目（高2、課外活動）①（令和2年度）	157
(4) WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）2年目（高2、課外活動）②（令和3年度）	159
(5) WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）5年目（高2、課外活動）③（令和6年度）	161
(6) みろくの里日本語学校との交流事業（高1・2、令和3年度）	163
(7) Happy Schools 関係でシンガポールから先生が来校（令和5年度）	165
(8) 第17回ユネスコスクール全国大会 国際交流分科会ファシリテーター	167



次ページより、
プロジェクト別の
実践レポート。

■第3章 事業報告（実践レポート）

I 地域課題解決プロジェクト

(1)【事業報告】福山のよさ再発見（中1、総合学習）

文責 矢幡 愛

- 1 学年・教科等 1年 総合的な学習の時間 「福山のよさ再発見」
2 日時 平成29年度 中期（1学期～2学期）
3 担当者、招聘講師等 1学年教員（矢幡愛、有本一哉、瀧元美菜子、妹尾進一、山下一朗太）
4 対象生徒等 1学年生徒120名
5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本単元は、福山の有名な場所（もの）についての良さを再発見しその良さを発信するという活動の中で、郷土愛を育み、将来地域へ貢献する態度を培うことをねらいとしている。また、次単元の『誰もが暮らしやすい福山のまちづくりプロジェクト』での学習を見据え、福山の有名な場所（もの）についてグループで現地調査したり、調査内容を整理・分析しポスターセッションにむけてポスターや原稿作りをしたりすることを通して、協働して課題を解決する態度を養っていった。

7 単元の流れ

- (1) オリエンテーション：本単元の流れの確認、教員から地元自慢のプレゼン、福山の有名な場所（もの）をクラスごとに数個挙げさせ、挙げたものを3クラスで分担した（1学年全体）。
- (2) どの福山の有名な場所（もの）を調査するか決定した（グループ）。
- (3) 自分が担当になっているものについて、どのくらいの知識があるか挙げるよう促す（グループ）。
- (4) 知っていることをグループ内で交流した（グループ）。
- (5) 足りない情報やインターネットでは分からない部分を確認した（グループ）。
- (6) 現地調査へむけて、調査内容を決定した。また、調査先の情報を調べ、アポ取りを行った（グループ）。
- (7) 夏休みを使って現地調査を行った（グループ）。
- (8) 総合係が仕切り、今後の学習計画を立てた（クラス・グループ）。
- (9) 集めた調査内容をグループ内で交流し、整理分析した（グループ）。
- (10) 整理分析した調査内容を、ポスターや発表原稿にまとめていった（グループ）。
- (11) クラス内発表を行い、相互評価をもとに改善した（クラス・グループ）。
- (12) グループごとにポスターセッションを行った（学年全体で2時間を使い各グループ1回ずつ発表）。
- (13) 単元のふりかえりを行った（個人）。

8 生徒の評価（感想等）

- グループで協力して調査したり、調査したことをポスターにまとめたりする中で、自分の考えを言ったり、友達の考えを聞いたりすることが活発にできた。
- 福山も他の地域に積極的にアピールしたらよいと思った。
- 他の地域に負けられないような有名なものがあり、よさを再発見できた。
- もっと知らない人に発表したいと思った。

グループで作成したポスター
（1人1枚作成し4枚をつなぐ）



9 成果と課題

- 小学校のころと同じテーマだった生徒もいたが、調査の仕方や興味の対象が違い、違う面を発見できていた。
- 福山にも全国レベルの有名なものがあり、それを知ることによって地域への愛着が高まった。
- 校外へ調査に行くことを通じて、調査することや伝えることへの責任感が出てきた。
- 総合係になりたいと思う生徒が増えてきた。
- ▲ポスターセッションの時に、調査先の人を招待し、聞いてもらう機会があれば良かった。
- ▲次単元につなげるために、まちづくりの機関の人を招き、地域の良さから課題を発見すること等の意見を述べてもらうことがあれば良かった。

ワークシート（一部）

1. 福山代表の有名なものや人

福山の有名なものや人	どこで見かける？

2. なぜ違いがあるのか？？

--

学校ブログへ掲載した記事と写真

ふるさと福山への愛着と誇りを育てることを目的として、「地域のよさ再発見」と題して、福山の歴史、文化、自然、産業などについてグループ別にフィールドワークを行い、調べたことをポスターにまとめていきました。写真はポスターセッションの様子です。

作成したポスターは廊下に掲示していますので、11月の参観日にぜひ御覧ください。



(2)【事業報告】誰もが暮らしやすい福山の街づくりプロジェクト(中1、総合学習)

文責 矢幡 愛

- 1 学年・教科等 1年 総合的な学習の時間 「誰もが暮らしやすい福山の街づくりプロジェクト」
- 2 日時 平成29年度 後期(2学期～3学期)
- 3 担当者、招聘講師等 1学年教員(矢幡愛、有本一哉、瀧元美菜子、妹尾進一、山下一朗太)
- 4 対象生徒等 1学年生徒120名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本単元は、1学期総合の集大成として、課題発見から提言までを行う。その過程の中でさまざまな活動を通して未来の福山について考え、福山を離れたとしてもそれぞれが住む場所でよりよいまちづくりに参画していく力を培うことをねらいとしている。福山の地域の課題となるものを挙げさせ、課題に対応しているさまざまな機関を訪問し、具体的な課題について聞き取りを行った。そして、その課題を解決するための方法を考えていった。それをスライドにまとめ、訪れた機関を再訪問し自分たちの考えを発表した。そこからアドバイスや意見をもらった。

7 単元の流れ

- (1) オリエンテーション：まちづくりサポートセンターから所長を招聘し、まちづくりの考え方・まちづくりの活動具体例・中学生に期待すること等の話を聞いた(1学年全体)。テーマの決定をした。
- (2) テーマについて取材内容を話し合った(グループ)。
- (3) 取材先へアポを取った(グループ)。
- (4) 冬休みを使い、各機関へ取材活動を行った(グループ)。
- (5) 取材内容をもとに、グループ内で整理分析を行った(グループ)。
- (6) プレ発表を行い、相互評価を行った(地域別クラス)。
- (7) 取材先に再訪問し、自分たちの考えを発表した(グループ)。
- (8) 本単元のふりかえりをした(個人)。
- (9) 各グループが作成したスライドを、一つの冊子にまとめた(教員)。



生徒が地域へ取材をした時の様子

8 生徒の評価(感想等)

- <誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるにあたって、大切なことは何か。>
- 人を思うこと、自分のことばかり考えず、みんなのためになることを考えること。
 - みんなが近所の人たちとの交流を深め、いざというときにしっかり協力を得られるようになること。
 - 大人しかできないことばかりと思っていたが、自分たちでも工夫を重ねることで少しでも協力できることがある。そうとくところを積極的にやっていくこと。
 - なぜその課題が出てきてしまうのかを考えること。

9 成果と課題

- ふりかえりにおいては、人と関わることの大切さについて書く生徒が多かった。
- 中学生の視点で課題・解決策を考えることで地域がより身近になった。
- オリエンテーションで、まちづくりに関わる人の話を聞いたり、取材先に再訪問し自分たちの考えを発表したりすることによって、現実問題として考えることができた。
- クラスを越えて協働的な活動ができた。
- ▲グループで本単元のふりかえりができると良かった。
- ▲教員が訪問先へ行くことができなかった。
- ▲2年生の学習へどうつなげていくのか話し合いが十分でなかった。

(3)【事業報告】グローバル人材育成事業(高1)①(平成29年)

文責 西村礼志

- 1 学年・教科等 4年 総合的な学習の時間 「グローバル人材育成事業」
- 2 日時 2017年(平成29年)4月～12月
- 3 担当者 西村礼志(教育研究部)・松村和司(学年主任)
- 4 対象生徒等 生徒198名(4学年全員)と教員12名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

(目的) 地元企業の特徴や、オンリーワン・グローバル企業における経営・技術力・戦略を学ぶことで、グローバルな視点・資質・能力の育成を行うとともに、将来設計の中に地元企業を意識することができるグローバル(=グローバル+ローカル)な人材を育成する。

(目標) 高校生が作成した高校生のための福山の企業ガイド「Hi-Hi ふくやま2017」を作成し、福山市内の高校生に発信する。

7 内容の具体・展開の流れ

4月 ●研究方法の理解

講義: 有限責任監査法人トーマツ 時任奈穂 シニアディレクター

5月 ●基礎的経営学の学習

講義: 福山市立大学都市経営学部 玉井由樹 准教授

6月 ●福山市の産業構造の理解

講義: 福山市産業振興課 前原由幸 次長(産業振興担当)

●経営全般、技術開発の取組、グローバル展開・戦略、仕事のイメージ等を学ぶ
ラーニングカフェ: 協力企業18社(50音順)

青山商事株式会社、池田糖化工業株式会社、占部建設工業株式会社、柿原工業株式会社、株式会社栄工社、株式会社エフピコ、株式会社エブリィ、株式会社サンエス、株式会社ププレひまわり、株式会社ベッセル、坂本デニム株式会社、タカオ株式会社、日東製網株式会社、早川ゴム株式会社、広島化成株式会社、ホーコス株式会社、マナック株式会社、有限会社柿原銘板製作所

7月 ●企業訪問準備、マナー講座

講演: 青山商事株式会社 営業部 齋藤賢一 部長代理

8月 ●企業訪問研修(7月下旬～8月上旬)

●アウトプットの方法を学ぶ

演習: 有限責任監査法人トーマツ 時任奈穂 シニアディレクター

9月 ●成果物作成

10月 ●ポスターセッション(各班が研究内容を発表し、代表班2班を選出)

11月 ●企業ガイド作成、公開研究会で代表2班発表

12月 ●成果発表会(全18班)、「Hi-Hi ふくやま2017」発行、配付



トーマツ 時任シニアディレクターの講義



玉井由樹准教授の講義



ラーニングカフェ



成果発表会



ポスターセッション



企業訪問

8 成果物「Hi-Hiふくやま 2017」



成果物「Hi-Hiふくやま 2017」は、1社あたり4ページで作成し、1000印刷した。成果物は福山地区国公立高校28校に、各校1学年クラス数分を配付し、各校のキャリア教育・地域学習への活用を依頼した。また、地元商工会議所・商工会を通じて約300冊を、企業に配付し、本事業についての理解と次年度の協力を依頼した。

9 成果と課題

(1) 成果

① ルーブリック評価

資質・能力の向上について自己評価の変容をみるために、1学期と2学期において、ルーブリック評価を行った。ア「福山中高で育みたい資質・能力ルーブリック」については、4学年において上昇した生徒の割合は65.8%。イ「ESD3大プロジェクトルーブリック」については、4学年において上昇した生徒の割合は44.6%。事業完了後の3学期における評価で、事業の効果度を検証したい。

ア

	①～⑥の合計値が 上昇した生徒数	割合	
1年	107	89.2%	【N=120】
2年	69	63.3%	【N=109】
3年	75	73.5%	【N=102】
4年	129	65.8%	【N=196】
5年	135	74.2%	【N=182】
6年	156	82.5%	【N=189】

イ

	①～③の合計値が 上昇した生徒数	割合	
1年	96	80.0%	【N=120】
2年	40	36.4%	【N=110】
3年	57	52.3%	【N=109】
4年	87	44.6%	【N=195】
5年	101	55.8%	【N=181】
6年	79	37.7%	【N=191】

② 「福山市の企業」に関する関心度アンケート 事業の事前・事後に同一のアンケートを行った。

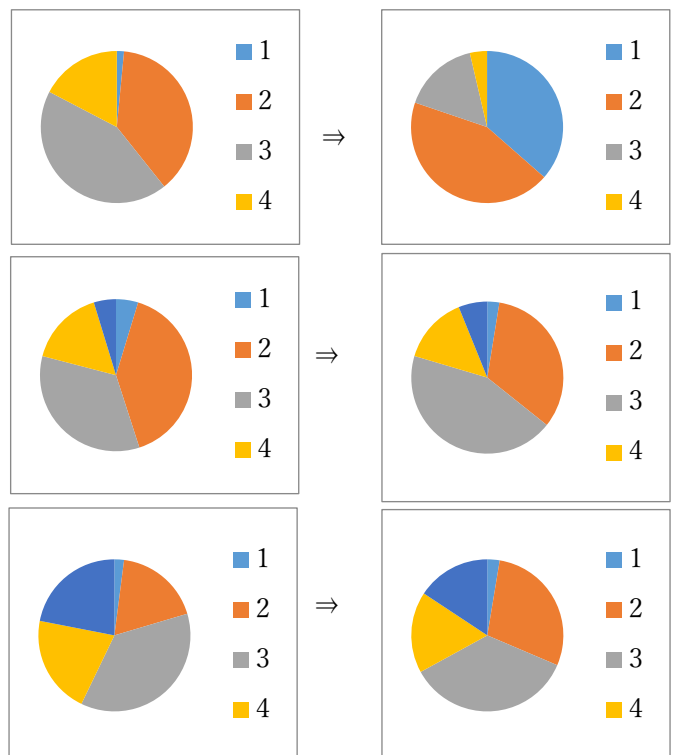
- ア あなたは福山市にどんな企業があるか
知っていますか。
- 1 知っている(10社以上)
 - 2 少し知っている(3社～9社)
 - 3 あまり知らない(1社もしくは2社)
 - 4 知らない(0社)

イ あなたは福山市の企業について興味がありますか。

- 1 ある
- 2 少しある
- 3 あまりない
- 4 ない
- 5 わからない

ウ あなたは将来、福山市の企業に就職したいと
思いますか。

- 1 思う
- 2 少し思う
- 3 あまり思わない
- 4 思わない
- 5 わからない



(2) 課題

- ・成果物やパワーポイントの内容、プレゼンテーションの方法や表現力に差が見られた。
- ・一部の班では、「協働的な学び・作業をする」という観点が欠けていて、一部の生徒による作業となった。
- ・協力企業からのアンケートを基に、次年度の実施計画を作成する。

(4)【事業報告】グローバル人材育成事業(高1)②(平成31年)

文責 井上 綾

- 1 学年・教科等 4年 総合的な探究の時間 「グローバル人材育成事業」
- 2 日時 2019年(平成31年)4月～2020年(令和2年)2月
- 3 担当者 井上 綾、上山 晋平、西田 知佳(教育研究部)
- 4 対象生徒等 生徒191名(4学年全員)と教員12名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

① 地元企業研究

ナンバーワン・オンリーワン企業の良さ・工夫点を知り、グローバルな資質・能力を身に付ける。

② 課題解決

探究に主体的・協働的・創造的に取り組むことを通して、他者と課題解決を図る。

③ 探究サイクル

上記①②を通して「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」を身に付ける。

(目標) 高校生が作成した高校生のための福山の企業ガイド「Hi-Hi ふくやま 2019」を作成し、福山市内の高校生に発信する。

7 内容の具体・展開の流れ

- 4月 ●事前学習
合宿にて「総合的な探究の時間」ガイダンス
- 5月 ●基礎的経営学の学習
講義：福山市立大学都市経営学部 玉井由樹 教授
- 6月 ●福山市の産業構造の理解
講義：福山市産業振興課 前原由幸 次長(産業振興担当)
●経営全般、技術開発の取組、グローバル展開・戦略、仕事のイメージ等を学ぶ
ラーニングカフェ：協力企業17社(50音順)
①アサヒグループ食品(株) ②アシード(株) ③(株)アスコ
④アマノ企業(株) ⑤(株)北川鉄工所 ⑥(株)キャステム
⑦(株)心石工芸 ⑧(株)ジーベック ⑨ツネイシCバリューズ(株)
⑩ツネイシLR(株) ⑪(株)ニチマン ⑫ヒロボー(株) ⑬福山青果(株)
⑭(株)福山臨床検査センター ⑮(株)メディアテック心/ホテルいんのしま
⑯(株)ユーホー ⑰リョービ(株)
- 7月 ●企業訪問準備、マナー講座
講演：青山商事株式会社 営業部 齋藤賢一 部長代理
- 8月 ●企業訪問研修(7月下旬～8月上旬)
- 9月 ●情報の整理
- 10月 ●ポスター掲示によるギャラリーウォーク
- 11月 ●校内発表会(全17班)
- 12月 ●成果発表会(各企業ごと・全17班)、
- 3月 ●「Hi-Hi ふくやま 2019」発行、配付



ラーニングカフェ



成果発表会(企業にて)

8 成果物「Hi-Hiふくやま2019」(例: リョービ(株))



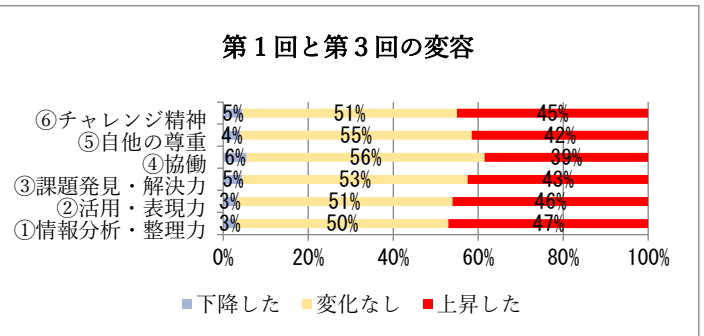
成果物「Hi-Hiふくやま2019」は、1社あたり4ページで作成し、1000印刷。成果物は福山地区国公立高校28校に、各校1学年クラス数分を配付し、各校のキャリア教育・地域学習への活用を依頼する。また、地元商工会議所・商工会を通じて約300冊を、企業に配付し、本事業についての理解と次年度の協力を依頼する。

9 成果と課題

(1) 成果

① ルーブリック評価

資質・能力の向上について自己評価の変容をみるために、1学期と3学期において、ルーブリック評価を行った。「福山中高で育みたい資質・能力ルーブリック」については、4学年において下の①～⑥の項目について上昇した生徒の割合はどれもほぼ40%以上である。6つの資質・能力の合計で伸びた人は145名/189名中で77%だった。



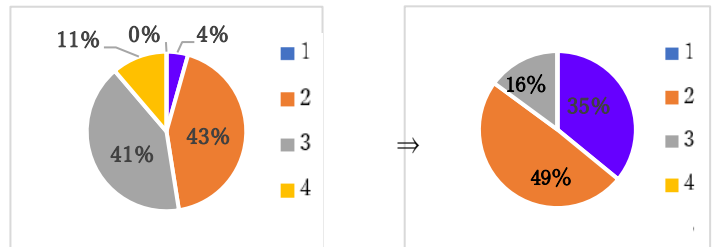
② 「福山市の企業」に関する関心度アンケート

事業の事前・事後に同一のアンケートを行った。

ア あなたは福山市にどんな企業があるか

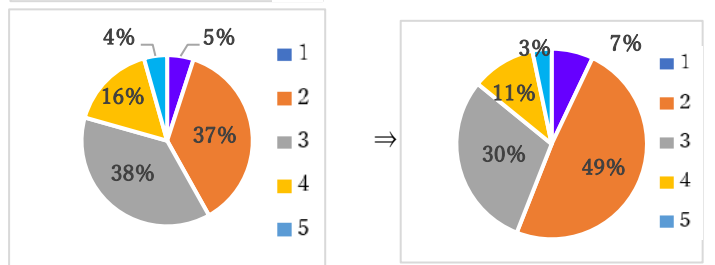
知っていますか。

- 1 知っている(10社以上) **4%→35%**
- 2 少し知っている(3社~9社) **43%→49%**
- 3 あまり知らない(1社もしくは2社) **41%→16%**
- 4 知らない(0社) **11%→0%**



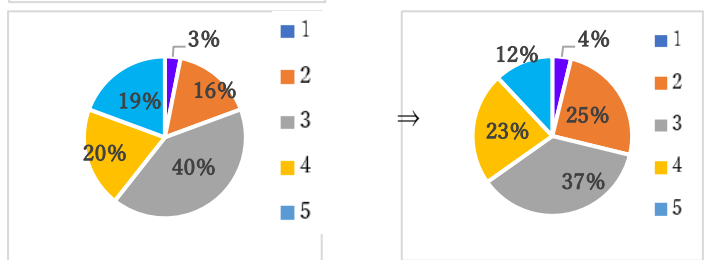
イ あなたは福山市の企業について興味がありますか。

- 1 ある **5%→3%**
- 2 少しある **37%→49%**
- 3 あまりない **38%→30%**
- 4 ない **16%→11%**
- 5 わからない **4%→3%**



ウ あなたは将来、福山市の企業に就職したいと思いませんか。

- 1 思う **3%→4%**
- 2 少し思う **16%→25%**
- 3 あまり思わない **40%→37%**
- 4 思わない **20%→23%**
- 5 わからない **19%→12%**



*他の職種(教員、医師等)希望者は、「(あまり)思わない」に含まれる。

(2) 課題

- ・グループ内の役割分担が適切に行われることで、グループとしての力を十分に発揮することができた。
- ・授業時間外での作業が多く、生徒にも担当教員にも負担となることもあった。

(5)【事業報告】グローバル人材育成事業(高1)③(令和4年)

文責 上山 晋平

- 1 学年・教科等 4年 総合的な探究の時間 「地元企業探究(グローバル人材育成事業)」
- 2 日時 2022年(令和4)4月~2023年(令和5)3月
- 3 担当者 西村礼二、西田 知佳、上山 晋平(教育研究部)
- 4 対象生徒等 生徒200名(4学年全員)と教員12名
- 5 本校ESDの観点 □国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■在り方生き方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

① 地元企業研究

ナンバーワン・オンリーワン企業の良さ・工夫点を知り、グローバルな資質・能力を身に付ける。

② 課題解決

探究に主体的・協働的・創造的に取り組むことを通して、他者と課題解決を図る。

③ 探究プロセス

上記①②を通して「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の過程を身に付ける。

(目標) 高校生のための福山の企業ガイド「Hi-Hi ふくやま 2022」を作成し、市内の高校生に発信する。

7 内容の具体・展開の流れ

- 4月 ●「総合的な探究の時間」ガイダンス(2時間)・企業企業アンケート
- 5月 ●福山市の現状についての講演(渡辺幸三様)
- 6月 ●ラーニングカフェの準備:協力企業13社
 ①JA福山市(ふくふく市) ②ナチュラルマーケット イコウ ③有限会社入江豊三郎本店
 ④山野峡大田ワイナリー ⑤FUKUYAMA MONO SHOP(天満屋)
 ⑥広島県立歴史博物館ふくやま草戸千軒ミュージアム ⑦福山八幡宮
 ⑧福山駅前シネマモード ⑨鞆の浦歴史民俗資料館 ⑩鞆鉄道株式会社
 ⑪アサヒタクシー株式会社 ⑫株式会社中国トラベル ⑬株式会社sun crea(オリエンタルホテル)
- 7月 ●ラーニングカフェ・企業訪問準備
- 8月 ●企業訪問研修(7月下旬~8月上旬)
- 9月 ●ギャラリーウォーク準備
- 10月 ●ポスター掲示によるギャラリーウォーク・校内発表準備
- 11月 ●校内発表会(対象:生徒)
- 12月 ●成果発表会(企業訪問 or 校内発表)
- 1月 ●Hi-Hi ふくやま 2022 冊子掲載スライド(8枚)準備
- 2月 ●探究成果(校外)発表会@イチセトウチ(200名来場)
- 3月 ●「Hi-Hi ふくやま 2022」発行、配付



ラーニングカフェ



8 成果物「Hi-Hi ふくやま 2022」(例: JA福山市) ギャラリーウォーク

成果発表会(企業にて)

(JA福山市Webより) 2月1日



4年生グローバル人材育成事業 探究活動の紹介

1	iti SETOUCHI 福山電業株式会社	iti SETOUCHI
2	JA福山市	JA福山市
3	JR西日本	JR西日本
4	株式会社 サン・クレア	SUNCREA
5	Wakai.Farm.my	Wakai.Farm.my
6	岡本亀太郎本店	岡本亀太郎本店
7	株式会社キャストゥム	CASTUM
8	株式会社中国トラベル	株式会社中国トラベル
9	二歳稲荷神社	二歳稲荷神社
10	藤原テキスタイル株式会社	SHINOTEX
11	伊賀土房白牡丹株式会社	伊賀土房白牡丹株式会社
12	山野株式会社ワイナリー	山野株式会社ワイナリー

「福山市グローバル人材育成事業」は、2017年から行っている福山高等学校1年生による地元探究活動です。地元企業や団体のSDGsにつながる取組を研究し、頂いた課題の解決を探る「探究的な学び」の活動です。この活動を通して備後地域の魅力と課題を発見し、地元の持続的発展に関わっていかせたいと願っています。

* 探究の様子は、福山中・高等学校 HP 内の「グローバル」サイトで発信しています。

QRコード



JA福山市



JA福山市様からは、食をめぐるSDGsの観点から、フードロス対策という課題をいただいております。生産現場の実態を知り、特産農産物を使ったメニューを考え、商品化の道を探ります。今年のテーマは、カレーです。

Iti-SETOUCHI



エフビコRiMの1階がリノベーションされ、iti-SETOUCHIがつけられました。利用者が主体的に参加し行動するアイデアに満ちた場所を目指します。昨年、4年生がここでグローバルフェスを行いました。これを引き継ぎ、賑わいづくりを考え、提案実行していきます。

JR西日本（備後赤坂駅）



多くの生徒が3～6年間にわたってお世話になる備後赤坂駅は、無人駅です。そこを、単なる通過点として利用するのではなく、情報の発信基地や交流の場にしては？全国の無人駅の活用例を探究しながら、私たちの備後赤坂駅を提案し、できることを探ります。

サン・クレア



駅前のアンカーホテルやオリエンタルホテルを運営されているサンクレア。単なる宿泊所だけでなく、地域産業とのつながりを大切にされています。地元食材を使ってフードロス対策としての朝食メニューを探ります。

Wakai farm.my



外国人向けの多種多様な野菜を栽培して日本中に出荷しています。ここは、単なる農場ではなく、多様性あふれる国際交流の場でもあり、近隣や、広島大学などから実習生や留学生も集まってきます。農業体験や交流をしながら、農業のことや多文化共生のことなど、楽しく考え、一緒に新たな農園を創造していきます。

岡本亀太郎本店



ベリーも飲んだという鞆の浦を代表する名産品の保命酒。岡本亀太郎本店の建物は、福山城の東にあった長屋門を移築した重要文化財です。今年は、ここをベースに、保命酒のこと、そして鞆の浦の魅力を探りながら、歴史伝統と風景に合った広報を考え、製作していきます。

カスタム



精密製造部品を主軸とするグローバルなオンリーワン・ナンバーワン企業です。御幸町にある会社の門を見てもわかるように、遊び心のある製品を発信し、話題を提供しています。この技術を使って、ストーリー性のある商品を考え、提案します。

中国トラベル



福山市内や瀬戸内の自然や文化、産業などの魅力ある素材を活用したオリジナルなツアーズを考え、提案します。

三蔵稲荷神社



お城の北西(良の方角)、二の丸に位置し、400年近く福山の文化を支えてきました。意外と知らない神社という日本独特の文化を探究し、様々な角度からその特色を発信します。また、お城を含め、神社付近の地域の歴史や魅力を再発見していきます。

篠原テキスタイル



福山特産であるデニム生地を生産を支えています。アップサイクル商品としてのSHINOTEXというブランドも発信しています。デニムの魅力や備後地域との関係を探り、デニム生地を使った商品を提案製作し、販売を目指します。

修復工房白牡丹



本通に靴の修復工房、白牡丹があります。思い入れある靴などの革製品を蘇らせてきました。この伝統技術を使って、どのようなことができるか考えていきます。また、このお店がある本通という商店街も探究していきます。過去の本通を知り、現在を歩いて交流して体験し、未来の姿を提案していきます。

山野峡大田ワイナリー



ワイナリーをベースに、四季折々の耕作放棄地でのブドウの栽培を追いつつ、豊かな自然を楽しみながら活動、交流していきます。山野町という福山郊外の里山里地の魅力とSDGsのための課題解決策も考え、関係人口を増やすためのACTIONを起こしていきます。



(6)【事業報告】グローバル人材育成事業(高1)④(令和6年)

令和6年度は、ご協力いただいた関連企業と、そこでのフィールドワークの様子を以下、ご報告する。

福山市グローバル人材育成事業は、2017年から行っている福山中・高等学校4年生(高校1年生)による地元探究活動です。地元企業や団体のSDGsにつながる取組を研究し、頂いた課題の解決を探る「探究的な学び」の活動です。この活動を通して備後地域の魅力と課題を発見し、地元の持続的発展に関わっていただくと願っています。

2024年度 4年生グローバル人材育成事業探究先			
グループ名(仮)	協力企業・団体	ロゴ	内容
1 商店街を元気にし隊	umbrella		福山本通商店街は、築城当時から「とり町」の名で親しまれてきました。2016年にアーケードが撤去され、街路樹の美しい公園のような商店街となりました。ここに元発祥のumbrellaというカフェがあります。本通の情報が集まるumbrellaをベースに、本通の魅力と課題を探究し、高校生ならではの活動をしていきます。
2 福山駅前を面白くし隊	iti SETOUCHI		エフビコム1Fに新しく生まれた「原宿のある公園」、iti SETOUCHI。この「小さなまち」で、一昨年度から4年生がグローバルフェスをしています。これを引き継ぎ、iti SETOUCHIを含めた福山駅前から西部地域周辺の賑わいづくりを考え、提案し、実行していきます。
3 ものづくりの楽しさを極め隊	株式会社キャスト		精密機軸部品を主軸とするグローバルなオンラインワン・ナンバーワン企業です。ニッチな遊び心のある製品も発売し、常に話題を提供しています。この技術を使って、昨年のユニークな先輩方の発想を継承するような、ストーリー性のある商品を考え、提案します。商品は、天満屋5FのFUKUYAMA MONO SHOPなどで見ることが出来ます。
4 フードロスをなくし隊	株式会社 ダイエットクック サプライ		業務用のサラダ・総菜類、マヨネーズ、ドレッシングなどの製造・販売を行っている「ケンコムマヨネーズ」のグループ会社です。地域密着をモットーに、地元で生産される食材を生かした商品の開発を行い、地産地消に努めています(HPより)。その商品のひとつが、「福山工場長」です。生産現場に足を運びながら、フードロス対策としての6次産業を考えていきます。
5 古墳を見つけ隊	御領の古代ロマンを蘇らせる会		「案内をしていたら古墳が見つかった!」、「土器の破片を見つけた!」、見つかった古墳は、240基以上、まだまだ大きな発見があるかも。そんな可能性を秘める「御領古墳群」。この西日本最大級の古墳群で、維持・広報活動を行っている「御領の古代ロマンを蘇らせる会」のサポートをいただき、古代の繋がりをイメージできるようなワクワクする探究を行っています。
6 福山デニムの魅力を広め隊	篠原テキスタイル株式会社		篠原テキスタイルは、1907年、地元特産の絹織物として創業しましたが、現在は、デニム生地製造が主で、世界へ福山デニムを提供しています。製造過程で発生する糸や布をアップサイクルし、SHINOTEXというブランドも展開しています。デニムの魅力や備後地域との関係を探り、昨年同様、デニム生地を使った商品を提案、製作して販売を目指します。
7 バスでワクワクし隊	株式会社中国バス		バス交通は、「今、正念場」です。しかし、自家車庫に頼らない移動手段として、また高齢化防止のためにも必要な公共交通です。卒業シーズンでの「送る音楽フェス」など、ユニークなバスで魅力発信をしている中国バス。バス交通の実態を探究し、ワクワクするようなバスやバス停を提案していきます。
8 福山の魅力を広め隊	福山観光コンベンション協会		2025年に世界パワ会議を控えた福山。協会の主催する観光イベントに様々な形で参加するなど、福山の魅力を高め方を高校生の目線で発見し、提案して行きます。観光というテーマで他の地元探究グループとのつなぎ役になることも期待されます。
9 大学でのまちづくりに繋がり隊	福山市立大学 都市経営学部		同じ市立の学校として新高学府にあたる福山市立大学。新たな学部(情報工学部)の新設も発表されていますが、開学当初から、持続可能なまちづくりを考える「都市経営学部」があります。高校生が考えている以上に、その研究は、幅広いものがあります。高大連携しながら、その研究に触れ、大学での探究の面白さを発見していきます。
10 瀬戸内海の恵みを守り隊	マルコ水産 有限会社		瀬戸内の豊かな海に面した内海町の田舎で、海苔や牡蠣の養殖をしています。海苔の田舎は、福山ブランドにも認定されました。牡蠣は、山野ワイナの肥料となり、山と海のつながりにも出会えます。水産業の現場や内海町の魅力を知るとともに、SDGsに向けた海の環境問題も広く考えていきます。
11 里山の魅力を伝え隊	山野峡大田ワイナリー		ワイナリーをベースに、四季折々のブドウ栽培を体験しつつ、豊かな自然を楽しみながら活動、交流していきます。ワイナリーのことだけでなく、山野町という里山の魅力と課題解決も考え、持続可能な地域作りに向けて、関係人口を増やすためのACTIONを起こしていきます。
12 農業で国際交流し隊	ワカイファーマー		養蚕におもしろい農園があります。若井さんとインドネシア人のファミリーさん夫婦(美さんは、日本人)が経営され、特産野菜に加えて、アジア人向けの多様な野菜を栽培しています。ここは、多様なあふれる国際交流の場でもあり、近隣や、広島大学などから留学生や留学生も集まっています。農業のことや多文化共生のことなど、楽しく考え、一緒に新たな農園を創造していきます。

2024(R6) 年度 4年生探究活動（グローバル人材育成事業）フィールドワークの様子



(7)【事業報告】グローバル人材育成事業(高1)⑤(令和7年、過去の連携先一覧)

「福山市グローバル人材育成事業」協力企業・団体様一覧(2017～2025年度)

■1年目(2017年度)企業研究

- | | | |
|--------------|---------------|-----------------|
| 1. 青山商事株式会社 | 2. 池田糖化工業株式会社 | 3. 占部建設工業株式会社 |
| 4. 柿原工業株式会社 | 5. 株式会社栄工社 | 6. 株式会社エフピコ |
| 7. 株式会社エブリイ | 8. 株式会社サンエス | 9. 株式会社ププレひまわり |
| 10. 株式会社ベッセル | 11. 坂本デニム株式会社 | 12. タカオ株式会社 |
| 13. 日東製網株式会社 | 14. 早川ゴム株式会社 | 15. 広島化成株式会社 |
| 16. ホーコス株式会社 | 17. マナック株式会社 | 18. 有限会社柿原銘板製作所 |

■2年目(2018年度)企業研究

- | | | |
|--------------|--------------------|-----------------|
| 1. 青葉出版株式会社 | 2. 株式会社石井表記 | 3. 株式会社オービス |
| 4. カイハラ株式会社 | 5. キングパーツ株式会社 | 6. 株式会社クラハシ |
| 7. 株式会社啓文社 | 8. 三和製作株式会社 | 9. 株式会社シギヤ精機製作所 |
| 10. 大和建设株式会社 | 11. ツネイシカムテックス株式会社 | 12. 常石造船株式会社 |
| 13. 東洋額装株式会社 | 14. 株式会社なかやま牧場 | 15. 日本ホイスト株式会社 |
| 16. 株式会社ハローズ | 17. 福山通運株式会社 | 18. ローツェ株式会社 |

■3年目(2019年度)企業研究+課題解決

- | | | |
|----------------------------|--------------------|-------------------|
| 1. アサヒグループ食品株式会社 | 2. アシード株式会社 | 3. 株式会社アスコン |
| 4. アマノ企業株式会社 | 5. 株式会社北川鉄工所 | 6. 株式会社カスタム |
| 7. 株式会社心石工芸 | 8. 株式会社ジーベック | 9. ツネイシCバリューズ株式会社 |
| 10. ツネイシLR株式会社 | 11. 株式会社ニチマン | 12. ヒロボー株式会社 |
| 13. 福山青果株式会社 | 14. 株式会社福山臨床検査センター | |
| 15. 株式会社メディアテックー心/ホテルいんのしま | | 16. 株式会社ユーホー |
| 17. リョービ株式会社 | | |

■4年目(2020年度)企業研究+課題解決 *コロナ禍での実施

- | | | |
|---------------------------|-------------------|------------------|
| 1. 株式会社アカシン | 2. 占部水産株式会社 | 3. 社会福祉法人春海会エクセル |
| 4. 関西工業株式会社 | 5. 株式会社ケンユウ | 6. 株式会社三共冷熱 |
| 7. 昭和陸運株式会社 | 8. 社会福祉法人「ゼノ」少年牧場 | |
| 9. 株式会社虎屋本舗 | 10. 福山プラザホテル | 11. 徳永製菓株式会社「豆徳」 |
| 12. 株式会社エフエムふくやまレディオBINGO | | |

■5年目(2021年度)企業探究+課題解決 *コロナ禍

- | | | |
|---------------------|--------------------------|--------------------|
| 1. 御菓子所勉強堂 | 2. 株式会社エコログ・リサイクリング・ジャパン | |
| 3. 株式会社ニチエー | 4. 株式会社ファーマシイ | 5. 株式会社フューレック |
| 6. 株式会社前田組 | 7. 山陽染工株式会社 | 8. 山陽パッケージシステム株式会社 |
| 9. テラル株式会社 | 10. 福山ガス株式会社 | |
| 11. 弥勒の里国際文化学院日本語学校 | 12. 山野峡大田ワイナリー | |

■ 6年目（2022年度）企業探究+課題解決 *コロナ禍

- | | | |
|-------------------|------------------------|------------------------|
| 1. アサヒタクシー株式会社 | 2. 株式会社中国トラベル | 3. SUN CREA（オリエンタルホテル） |
| 4. JA 福山市 | 5. 鞆鉄道株式会社 | 6. 鞆の浦歴史民俗資料館 |
| 7. ナチュラルマーケット イコウ | 8. 福山駅前シネマモード | 9. ふくやま草戸千軒ミュージアム |
| 10. 福山八幡宮 | 11. FUKUYAMA MONO SHOP | 12. 山野峡大田ワイナリー |
| 13. 有限会社入江豊三郎本店 | | |

■ 7年目（2023年度）企業探究+課題解決

- | | | |
|---------------------------|----------------|------------------|
| 1. iti SETOUCHI（福山電業株式会社） | 2. JA 福山市 | 3. JR 西日本 |
| 4. 株式会社サンクレア | 5. わかいふあーむ | 6. 岡本亀太郎本店 |
| 7. 株式会社カスタム | | |
| 8. 株式会社中国トラベル | 9. 三蔵稲荷神社 | 10. 篠原テキスタイル株式会社 |
| 11. 修復工房白牡丹株式会社 | 12. 山野峡大田ワイナリー | |

■ 8年目（2024年度）テーマ研究+企業・団体協力+課題解決

- | | | |
|---------------------|-------------------|------------------|
| 1. umbrella | 2. iti SETOUCHI | 3. 株式会社カスタム |
| 4. 株式会社ダイエットクックサプライ | 5. 御領の古代ロマンを蘇らせる会 | |
| 6. 篠原テキスタイル株式会社 | 7. 中国バス | 8. 福山観光コンベンション協会 |
| 9. 福山市立大学都市経営学部 | 10. マルコ水産有限会社 | 11. 山野峡大田ワイナリー |
| 12. わかいふあーむ | | |

■ 9年目（2025年度）テーマ研究+企業・団体協力+課題解決

- | | | |
|------------------------|------------------------|-------------|
| 1. 福山本通商店街 | 2. 福山市医師会 | 3. 福山市公園緑地課 |
| 4. 福山工場長 | 5. 御領の古代ロマンを蘇らせる会 | |
| 6. 篠原テキスタイル株式会社・三島屋楽器店 | 7. Village Green books | |
| 8. 福山観光コンベンション協会 | 9. 福山市立大学都市経営学部 | |
| 10. マルコ水産有限会社 | 11. 山野峡大田ワイナリー | 12. わかいふあーむ |

2025年度探究グループ

健康を守り隊
with 福山市医師会



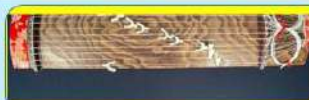
福山の魅力を広め隊
with 福山観光コンベンション協会

公園に出かけ隊
with 福山市公園緑地課



大学と繋がり隊
with 福山市立大学
都市経営学部

里山の魅力を広め隊
with 山野峡大田ワイナリー



地場産業を広め隊
with 三島屋楽器店
篠原テキスタイル



街を面白くし隊
with 本通umbrella

開発商品を届け隊
with 福山工場長



海の恵みを守り隊
with マルコ水産

農業で国際交流し隊
with わかいふあーむ



本に出会い隊
with Village Green
Books, unlearn, 羅秀夢

備後の歴史を知り隊
with 御領の古代ロマンを
蘇らせる会



(8)【事業報告】夢チャレ「市立大学との高大連携事業」(高2)①(平成29年度)

文責 川高佐知子

- 1 学年・教科等 5年「夢チャレ」 福山市立大学との高大連携事業
「地元高校生が考える福山駅前再生計画!」
- 2 日時 2017年(平成29年)5月~11月
- 3 担当者、招聘講師等 川高佐知子(福山高校)・太田尚孝講師(福山市立大学都市経営学部)
- 4 対象生徒等 生徒23名(5学年希望者)
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

福山市の将来を担う福山市立の高校生が、福山市や福山市立大学の教員・大学生から、今後のまちづくりに必要な考え方やスキルを学び、高校生目線でのまちづくり提案を行う。(5学年の「総合的な学習の時間」において、『夢チャレ』と名付けたプログラムを立ち上げた。これは、生徒個人個人が学校の枠組みを超えた活動に挑戦し、その体験を報告し合うことで、人間力を高め合うというもの。その一環として福山市立大学との高大連携事業「地元高校生が考える福山駅前再生計画!」にも取り組ませていただいた。)

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 5月26日(金)17:00~18:00 @福山市立高等学校:出前講座
太田先生による出前講座(30分程度):本事業の概要とスケジュールの説明
「(仮称)まちづくりは面白い!~まちづくりを行うための3つの視点~」
- (2) 5月末 参加者の確定
- (3) 6月9日(金)17:00~18:00 @福山市立高等学校:太田先生とゼミ学生来校
大学での学び・まちづくりデザインゲーム
- (4) 7月14日(金)16:30~18:00 @福山市立大学:大学訪問
大学内キャンパスツアー・RESAS/WEB GISの演習
- (5) 7月28日(金)9:00~16:00 @福山駅前・ローズコム:まち歩き&WS
福山市職員とまち歩き・ゼミ学生とWS
- (6) 8月3日(木)4日(金)9:00~16:00 @ローズコム:まちづくりWS・中間発表
- (7) 9月~10月上旬 校内で提案に関するブラッシュアップ
- (8) 10月13日(金)17:00~18:00 @福山市立高等学校:太田先生とゼミ学生来校
最終発表に向けた作戦会議
- (9) 10月30日(月)17:00~18:00 @福山市立大学:大学訪問
最終発表会リハーサルと最終確認
- (10) 11月11日(土)の午後@福山市立大学:学園祭で最終発表会
大学学園祭の企画として、高校生によるまちづくり提案発表会を実施。
高校・大学・市関係者を審査員として、投票により最優秀賞、優秀賞の決定

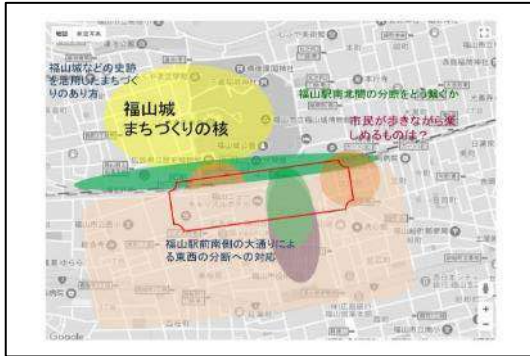
8 生徒の評価(感想等)

- 町とのつながりなどいろんな視点で福山を見ることによって何が足りないか、どのようにするともっと発展するのかなど考えて、大変だったけどとても楽しかったです。自分の将来の夢は建築業なのでいろんなことが学べて良かったと思います。また、市立大学の都市経営学部の方たち、先生などに関わり、多くのことを知りました。工学だけでなくあらゆる学問のことを学べていいなと思います。

9 成果と課題

- (成果)まちづくり意識・街を見る目の獲得・プレゼンテーションについては相手意識など参加生徒の様々な側面での成長が感じられた。生徒にとっては大学が身近に感じられ、大学進学についての認識が具体化し、大学での学びについて学問分野的な理解や、地域と大学の関わりについての理解も進んだ。
- (課題)次年度、大学側で担当する指導者が変わってしまいそうなので、今年度のノウハウや、良かった点をいかに継承するか、または、全く新しい取組として始めるべきか、検討する必要がある。

● 駅西[家族が安心して歩ける街]チーム プレゼンスライド (作成中)



福山駅前全体と駅西の繋がり

- 福山駅南北間の分断をどう繋ぐ？
- 福山城などの史跡を活用したまちづくりのあり方
- 福山駅前南側の大通りによる東西の分断への対応
- 市民が歩きながら楽しめるものは？

↓

駅西の課題点

- ① 放置自転車
- ② 駅西の魅力の欠如
- ③ 歩道の狭さ、道の通りづらさ



② 駅西の魅力の欠如

駅西に現在ある建物は？

CASPA 2012/1/31 閉館

エフピコRim

トモテツビル 2017/9/5 解体することを発表



解決案

別の道に魅力を！とは・・・

通りにあるお店の魅力を集めた広告

三の丸公園の活用

駅前が単なる通過点にならないために...

福山市全体で広い世代の人に来てもらえるようなイベントを行う

福山デニムについてのイベント

坂本デニム
稼原テキスタイル株式会社
TO BE ALIVE
カイハラデニム など

FUKUYAMA BRAND

福山で生み出される、創造性あふれる商品・サービスや素材・技術、取組・活動の数々の中で可能性を秘めたものを「福山ブランド」として認定・登録。

坂本デニム

藍 indigo blue

「藍にこだわりを生かす」

坂本の包は世界の色。坂本の包は世界の色。坂本の包は世界の色。

弊社で染め上げた糸を使用したデニム地を用いて、数シーズンを経験する職人さんたちが丁寧に縫い上げた純国産デニム

FUKUYAMA BRAND

ニュース ブランド一覧 マップ お問い合わせ

FUKUYAMA BRANDを利用したイベント → 天満屋地下一階に販売

マチモト株式会社

(9)【事業報告】夢チャレ「市立大学との高大連携事業」(高2)②(平成30年度)

文責 和佐田知子

- 1 学年・教科等 5年「夢チャレ」 福山市立大学との高大連携事業
「地元高校生が考える郊外団地(幕山台)のまちづくり」
- 2 日時 平成30年5月～12月
- 3 担当者、招聘講師等 和佐田知子(福山高校)・渡邊 一成教授(福山市立大学都市経営学部)
- 4 対象生徒等 生徒20名程度(5学年希望者)
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

福山市の将来を担う福山市立の高校生が、福山市や福山市立大学の教員・大学生から、高齢化が進む郊外団地における今後のまちづくりに必要な考え方やスキルを学び、高校生目線でのまちづくり提案を行う。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 6月19日(火) 17:00～18:00 場所: 福山市立福山高等学校
スタートアップ授業
- (2) 7月21日(土)・22日(日) 場所: 福山市立大学
オープンキャンパス GIS授業
- (3) 7月23日(月) 17:00～18:00 場所: 福山市立福山高等学校
現地視察の事前説明
- (4) 8月7日(火) 9:00～16:00 研修場所: 福山市東部支所 現地視察: 幕山台
～ ワークショップ ～ 幕山台学区の説明、提案発表作成
- (5) 8月10日(金) 9:00～16:00 研修場所: 福山市東部支所 現地調査: 幕山台
～ ワークショップ ～ ミニ講義、提案発表作成
- (6) 10月9日(火) 15:00～17:30 場所: 福山市立大学
～ ワークショップ ～ 提案発表まとめ
- (7) 10月23日(火) 14:50～17:30 場所: 福山市立大学
～ ワークショップ ～ 提案発表まとめ+リハーサル
- (8) 11月4日(日) 10:40～ 幕山台学区文化祭にて開催
提案発表(発表は2グループ)
- (9) 11月17日(土) 11:00～12:00 場所: 福山市立大学(大学祭にて開催)
最終提案発表
- (10) 12月7日(金) 16:00～17:00 場所: 福山市立福山高等学校
振り返り、意見集約



8 生徒の評価(感想等)

- 僕たちのような若い世代がこのような活動に参加することにすごく意味があると感じました。大学生の課題に対するアプローチの仕方はとても参考になりました。たくさんの方々が関わってできた事業だと思うので、感謝するとともに、この活動が意味のあるものになってほしいと思いました。
- 大学ではより専門的な知識を勉強することがわかりました。また、実際に目で見て回ることで、表などからはわからない発見をすることができました。坂に何か工夫をすることで改善できると考えていましたが、幕山台に住む方の年齢や地域の特色などを考慮して、現実可能な解決策を考えることは想像以上に大変でした。

9 成果と課題

- (成果) 幕山台学区や東部支所の方々等の協力を得て、大学教授のご指導のもと、大学生とともに高齢化する町の活性化について考えて提案することで、大学進学後の専門的な学問について理解を深め、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を伸ばすことができました。また、高1でのグローバル事業に続き、学びをプレゼンする形だったため、昨年度の経験を生かして、パワーポイント作りや提案発表を行うことができました。
- (課題) 本校での担当者が毎年代わるため、次年度への引き継ぎを徹底することが必要である。前年度の学びをいかに活かすかを考えて取り組んでいく。

まち全体で
くらしを
やりくりする
まねじめんと

福山市立福山高校 村上咲耶 福山立大生 竹部成海
恩林杜志 竹下美希
風道祐澄
新井悠介

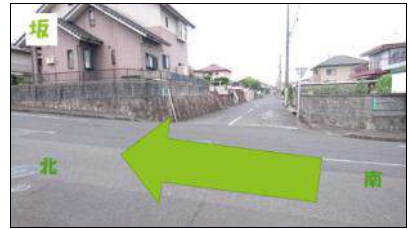
1

幕山台の課題

- ▶ 買い物をしづらい
- ▶ 坂がきつい
- ▶ バス利用が不便
- ▶ 高齢者が多い



2



3



4

約30分の一歩く已り



バス時刻表

5

解決策

- ▶ バスの本数を増やす
- ▶ 移動型の店舗をつくる
- ▶ 坂の負担を軽減する取り組み



6

事例1 移動販売 とくし丸


- ▶ 名前の由来は、創業者の「徳島」と社会事業や公共の福祉に貢献する「善志」の意味がある。また、地域のスーパーマーケットと連携して、スーパーの商品を運ぶことでコストを削減している。



7

特徴

- ▶ 1つの商品を支那先まで届けるという付加価値として、一律10分を値上げする「プラス10分ルール」を導入している。
- ▶ 生鮮食品を含めた400品目以上の商品を取り扱い、また、地域の見守り隊としての役割を果たすことも目指している。
- ▶ 福山市、尾道市、三原市などは二チャーターと連携して営業している。



8

事例2 貨客混載システム



9

移動販売×貨客混載

移動販売のメリット

- ・長距離歩く必要がない
- ・生鮮食品が手軽に購入できる
- ・地域との親密性が高い

貨客混載のメリット

- ・人件費削減
- ・輸送費削減
- ・バス路線の維持

10

幕山台に対する提案

- ▶ バスに食料、薬などの日用品を積み込み、商店街コミュニティスペースに改装した各ポイントの空き家に配給する、交通を軸とする拠点をつくる。



11

参考文献

- ▶ <http://www.chugokubus.jp/routebus>
- ▶ <http://www.tokushimaru.jp/>
- ▶ <https://lnews.jp/2017/06/j063013.html>



12

感想



13

ご清聴ありがとうございました



14

(10)【事業報告】夢チャレ「市立大学との高大連携事業」(高2)③(令和元年度)

文責 西村礼志

- 1 学年・教科等 5年「夢チャレ」 福山市立大学との高大連携事業
「若者が考える地域公共交通のありかた」
- 2 日時 令和元年5月～11月
- 3 担当者、招聘講師等 西村礼志(福山高校)・大門 創准教授(福山市立大学都市経営学部)
- 4 対象生徒等 生徒13名(5学年希望者)
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

高大連携事業とは、「大学が教育施設や教育研究機能・資源などを提供し、高校生と大学生が連携・協力して取り組む教育活動」のことである。高校生にとっては、大学における学習に対する目標意識や将来に対する意識の向上を図ろうとするものである。また大学生にとっては、テクニカルスキル(事業遂行能力)、ヒューマンスキル(対人関係能力)、コンセプチュアルスキル(概念化能力)を身につける貴重な機会になる。

福山市立福山高校と福山市立大学による高大連携事業は2017年度から実施しており、今年度で3年目となる。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 6月5日(水) 16:30～18:00 場所: 福山市立大学
スタートアップ授業
- (2) 7月10日(水) 16:30～18:00 場所: 福山市立大学
演習 GIS JSTAT Map
- (3) 7月24日(水) 16:30～18:00 場所: 福山市立福山高等学校
グループワーク(課題設定)
- (4) 9月21日(土) 10:00～17:00 場所: 福山市立大学
グループワーク(解決策検討)
- (5) 10月30日(水) 16:30～18:00 場所: 福山市立大学
中間発表(資料作成)
- (6) 11月6日(水) 16:30～18:00 場所: 福山市立大学
グループワーク(資料作成)
- (7) 11月16日(土) 11:00～12:00 場所: 福山市立大学(大学祭にて開催)
最終提案発表



8 生徒の評価(感想等)

- グループワークを通して、答えのない問題を自分たちなりの解決方法を探ることができた。説得力のある理由を考えるために、資料や自分自身の経験を活用することができた。これまでは論理的思考力に基づいた左脳的な発想をしていたが、今回自由でクリエイティブな直観的で右脳的な発想でアイデアを出すことができた。

9 成果と課題

- (成果) 数ある情報の中から必要と思われるものを選ぶ力、それらの情報を伝えるためにまとめる力、伝えたい相手に分かりやすく表現する力を培うことに役立った。答えのない問題に向き合い、解決していこうとする経験と興味・関心・意欲を身につける生徒が多かった。メリットとデメリットを同時に考えるなど、物事を多面的に思考する力も身につけた。また、福山市をよりよい町にしていきたいと思う気持ちを育てることができた。大学でさらに学びを深めたいと思える研修でもあった。
- (課題) ひとえに大学関係者の方のおかげでよい経験を積ませていただくことができた。しかし大学の先生方・学生の負担は大きなものがあり、来年度の活動自体を根本的に見直してはどうかという提案をいただいている。3年間を一区切りとして、総合的な時間の在りようとともに再検討することが必要と考える。



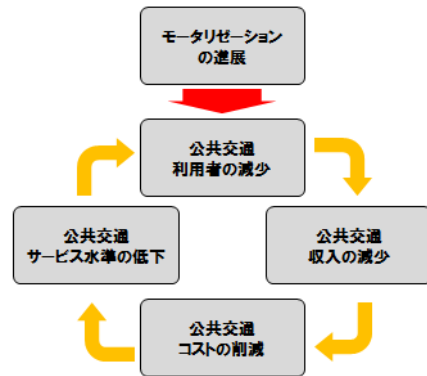
2. 自動車と公共交通(自動車の維持管理費用) 4

- ・クルマは、もっているだけで約1,000円/日
 - ・クルマは、普通に使うと約2,000円/日
 - タクシーで毎日約7km走行分に相当
 - ・もう少しいい車、事故、罰金含めると、3,000~5,000円/日
 - タクシーで毎日約11~18km走行分に相当
 - ・クルマは所有したらタダで移動できると思いがち・・・
- タクシーで7km、11km、18kmってどれくらいの範囲？

費目	年間費用	費目	年間費用
保険(自賠責・任意)	18万円/年	ガソリン代	12万円/年
税金(自動車税・自動車重量税・自動車取得税等)	7万円/年	高速・駐車場など	6万円/年
車検	5万円/年	車両	12万円/年
駐車場(自宅or通勤先)	12万円/年		
小計	42万円/年	小計	30万円/年

→1日当たり1,150円 →1日当たり820円

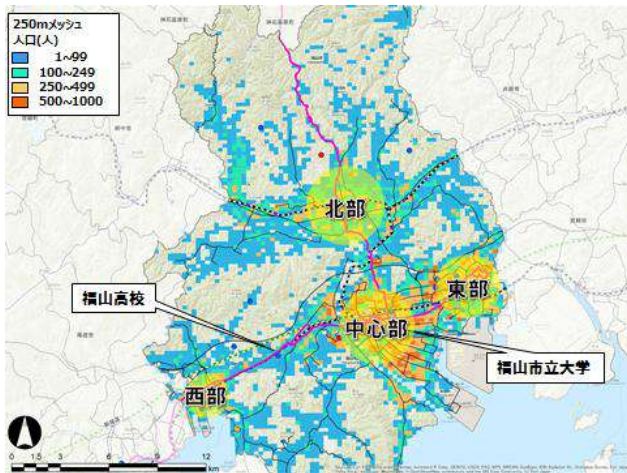
2. 自動車と公共交通(公共交通の現状) 3



2. 自動車と公共交通(自動車の利用状況) 5

- ・乗用車稼働率は4.2%
 - 自動車を所有しても、24時間中1時間程度しか利用していない
 - 24時間中23時間は、自宅車庫や駐車場で眠っている・・・
 - ・平均乗車人員は1.3人
 - 座席は5~7席あっても、ほとんどは1人しか乗っていない・・・
 - ・平均走行距離は3km未満が44%、5km未満が69%
 - 多くは自転車で行ける範囲内でしか利用していない
- ・あなたは、それでもクルマを買いたいですか？
- ・地方はクルマがないと生活していけない！本当ですか？

(出典)国土交通省「平成27年度自動車保有動向調査」



3. 検討状況(対象地域のバス系統の基本情報) 8

	グループバス 若狭安芸	多岐	西条	東部	中心部	東
①系統名称	油木線 (横山駅-油木)	東海線 (横山駅-東海)	東山田線 (横山駅-東山田)	本わろ線 (横山駅-本わろ)	備前線 (横山駅-備前)	備前線 (横山駅-備前)
②バス種別	44箇所	43箇所	33箇所	23箇所	23箇所	23箇所
③上り発車 下り発車	08:38油木発 17:55横山発	08:38油木発 18:30横山発	08:30横山発 21:30横山発	09:10横山発 18:30横山発	08:50本わろ口 20:30横山発	08:50本わろ口 20:30横山発
④運行本数	片道 往復本数	5本/日 10本/日	5本/日 10本/日	2本/日 4本/日	1本/日 2本/日	1本/日 2本/日
	ピーク ノンピーク	1本/h 1本/h	2本/h 1本/h	1本/h 1本/h	2本/h 2本/h	1本/h 1本/h
⑤運行距離	片道	42km	42km	12km	12km	12km
	往復	84km	84km	24km	24km	24km
⑥所要時間	片道	80分	80分	40分	40分	40分
	往復	160分	160分	80分	80分	80分
⑦定員	必要定員	30名	30名	18名	18名	18名
	必要乗客数(1台バス)	2名(人)	2名(人)	3名(人)	3名(人)	3名(人)
⑧供給(コスト)	⑧必要運行経費 (乗×8300円)	126,000円/日	126,000円/日	185,000円/日	126,000円/日	126,000円/日
	⑧1日当たりの乗客利用人数 (乗×2000人/人)	630人/日	630人/日	945人/日	630人/日	630人/日
	⑧1人当たり必要利用人数 (乗×2000円/人)	63人/日	35人/日	18人/日	22人/日	19人/日
⑨乗客	⑨乗客人口 (乗×21)	21,000人	36,000人	36,000人	18,000人	15,000人
	⑨運行距離あたり人口 (乗×21)	525人/km	1,714人/km	3,000人/km	2,571人/km	1,500人/km
⑩供給 バランス	⑩維持に必要な利用 (乗×2000円/人)	年間9往復利用	年間9往復利用	年間9往復利用	年間9往復利用	年間9往復利用
	⑩乗客の乗車 状況	ほとんどの乗客収入 で賄えない	半分は乗客収入 で賄えている	乗客乗車収入で 賄えている	-	半分は乗客収入 で賄えている

福山市立大学都市経営学 大門 創准教授 提供資料より抜粋

- 1 学年・教科等 4・5年総合的な探究 「山野町の魅力発見・地域活性化」
- 2 日時 2021年(令和3年)4月～2022年(令和4年)3月(現在継続中)
- 3 担当者 藤田憲弘
- 4 対象生徒等 生徒29名(4学年19名・5学年3名・美術部7名)
- 5 本校ESDの観点 ■地域課題解決プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

福山市山野町は、福山市最北部に位置する自然豊かな山間地域である。しかし、人口は約550人で高齢者が55%を占める限界集落でもある。この地域に耕作放棄地を利用して、ワイナリーを経営しているのが、「山野峡大田ワイナリー」だ。ほとんどの生徒は、山野町に行ったこともないし、知らない生徒も多い(5年生アンケートによると約4分の3の生徒)が、ワイナリーの活動に関わることで、山間地域の魅力を発見してもらえたらと、探究グループを立ち上げた。「日常を発掘して、地域を元気にするデザインを提案してください」というのが、ワイナリーから当初いただいた課題だった。この山野町では、以前から、福山市立大学都市経営学部の岡辺教授(現副学長)が古民家を借りて家屋を再生したり、周辺で蕎麦の栽培をしたりと、大学生と様々な取組をされている。本校生徒も、可能なところでその活動を共に参加しながら、山野町での体験型探究活動を楽しむことができた。10月の収穫シーズンには、生徒の手でプチフェスティバル(秋祭り)を行い、地域の盛り上がりに一瞬の貢献をすることもできた。この高大連携事業は、本校ブログやホームページだけでなく、福山市立大学のホームページでも、その都度紹介されている。

7 内容の具体・展開の流れ

(1) 春季「山野との出会い」

- 4月25日(5年生)
 - ・山野峡大田ワイナリーを訪れ、山野町を初体験する。
 - ・ブドウ畑の様子や、ワインづくりの概略を醸造長の案内で把握する。
- 5月2日(4年生数名・5年生・ALT)
 - ・山野町で春秋に開かれる「いろどり市」に参加し、山野町に関係する人たちと出会う。
 - ・岡辺教授の古民家も訪れ、その取組みについてレクチャーを受ける。
- 5月29日(5年生・ALT)
 - ・ブドウ栽培の「芽かき」を体験する。
 - ・学校の廃校など、山野町の課題について、大田社長からお話を伺う。
 - ・ワイナリー周辺以外の山野町の名所を訪れ、山野町の地理的環境を把握する。



(2) 夏季「山野をめぐる高大連携のスタート」

- 7月21日(4・5年生)
 - ・福山市立大学で山野峡について探究している大学4年生を学校に招き、探究している内容を紹介してもらい、情報交換を行う。
- 8月1日(4年生数名・5年生・ALT)
 - ・岡辺教授の古民家周辺で、大学生と蕎麦の種まきを行う。
- 8月5日・6日(美術部)
 - ・「アートで地域おこし」を校内で提案し、賛同してくれた美術部7名が大学生1名と合宿を行う。・山野の自然を水彩画にするとともに、古民家での大田さんとのBBQ、川遊びなどを体験し、山野峡の魅力に触れる。
- 8月21日・28日(教員のみ)
 - ・ブドウの収穫を近隣から集まったボランティアと行き、情報交換を行う。
 - ・収穫後、山野の産物を扱う市内店舗の方から、食品をめぐる問題について大学生とお話を伺う。



(3) 秋季「プチフェスティバル開催に向けて」

- 9月19日(5年生)
 - ・秋に自分たちで行う予定のプチフェスについて、大田社長や町内で染色をされている方からアドバイスをいただく。



● 10月3日・10日（4年生数名・5年生）

- ・岡辺教授の古民家周辺の蕎麦の収穫と脱穀を大学生と行う。
- ・脱穀は、地元の方の指導の下、昔ながらの唐箕を使って体験する。

● 10月17日（5年生）

- ・ポスター、材料集めなど、プチフェスに向けての準備を現地で行う。
- ・町内で木彫りをされている方から、材料の提供と御指導をいただく。



● 10月31日（5年生 ＊助っ人2名）

- ・通常の日曜朝市にコラボレーションして、プチフェスを大学生とともに開催する。・アンケートを含むクイズ、石こアート、リースづくり、蕎麦がき、ライブコンサートを行い、山野町内や近郊から来た人と触れ合う。

(4) 冬季「探究のまとめ」と「これから」

● 1月26日（4年史全員・5年生）

- ・学校に山野ワイナリーの方3名をお招きし、4年生、5年生、大学生がそれぞれ探究成果を発表する。
- ・カナダに帰国したALTや岡辺教授からビデオメッセージを頂き、最後に大田社長から講評をいただく。

● 3月26日（5年生）

- ・山野峡大田ワイナリー主催の「山野から未来を考える」というプログラムに参加し、山野中学校において、参加者に自分たちが行ってきただけのプレゼンを行う。

8 生徒の評価（感想等）

- イベントができたことは達成感があったが、当初めざした山野町の認知度を上げるということについては、まだ不十分だ。まだまだ私たちにできることはたくさんあると思うので、それぞれの関わり方で、これからも魅力あふれる山野町の探究活動を続けていきたい。

- 4月のブドウ畑見学から始まって、ワイナリーを中心に、山野町をめぐる様々な方たちと出会い、助けていただくことができた。ベースキャンプとしてのワイナリーの活動や山野峡での魅力あるアクティビティ、情報発信の仕方など、まだまだ考え続けていきたい。

9 成果と課題

コロナ禍もあり、「探究活動」が、今年度から各自がもつ端末を駆使して、ネット空間だけで「探究」し、課題への空想を提案して終わりがちになる傾向がある。年度当初、岡辺教授は、学生たちに「この人たちは、外からいろんなアイデアを言われてきた。言うだけじゃなくて、何でもいっから自分たちでやってみてください」とアドバイスされた。しかし、日に1本しかないバスに高い運賃を払って現地に入ることを高校生に要求するのも酷である。そのような中、5年生の「山野ガールズ（と、校内で呼んでいる）」たちは、自分たちで「フェスをやる」と無謀な目標を掲げ、現地へ足を運びながら、山野峡ワイナリーの大田さん御夫妻や峯松醸造長、木彫り細工の安田様など、様々な方たちの御協力を得て、大学生とともに、それをやり切ってしまった。4年生は、山野町との関わり方を4つのレベルに分けた。「レベル1は、SNS等で情報に触れる、2は、市内中心部でのイベントに参加する、3は、現地へ行く、そして4は、住む」。様々なイベントが中止になるなか、4年生の多くは、レベル1で終わってしまったかもしれない。しかし、5年生の背中を見て、第2、第3の「山野ガールズ&ボーイズ」が出てくることを期待している。今回は不十分だったレベル4の方たちの話にも耳を傾ける機会があればと思う。そのための入り口を用意していくことをワイナリーや大学などと連携しつつ、教員も一緒に楽しみながら持続していきたい。

*プチフェスの様子



(12)【事業報告】癒やしの羊「もふお」がやってきて笑顔が増えた【令和2年度】

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 全学年
- 2 日時 令和2年～3年3月
- 3 担当者、招聘講師等 小林純子さん（スクール・サポート・スタッフ） ＊帯広畜産大卒の学習支援員
- 4 対象生徒等 全校生徒（生き物役：生徒有志 60名）
- 5 本校 ESD の観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

コロナ禍における令和2年7月の1カ月間に保健室を利用した生徒は141人で、これは前年同月の79人から倍増となる。コロナ禍で生活環境が変化し、不安を訴える生徒が目立つ。学校生活に新たな潤いや癒しをもたらすために、管理職が羊を飼うことを企画。広島県北広島町の牧場に交渉して、実現した。

本校は「ハッピースクール」プロジェクトの1校であり、学校をよりハッピーにする指標の1つに「精神の健全とストレス管理」があり、羊を導入することでこの部分の解決を図ろうとした取組である。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 管理職が生徒のストレス軽減を目指して羊を飼うことを企画。
- (2) 北広島町の牧場と交渉する。(令和3年3月までのレンタル)
- (3) 市教委等関係部署と必要な調整を行う。
- (4) 学習支援員が羊の主な世話を担うこととする。
- (5) 本校卒業生（同窓生）に小屋を制作していただく。
- (6) 生徒会が、「生き物係」や「名前」「小屋」等の募集をする。
＊60名程度の有志が集まる。
- (7) 生き物係が朝や休憩中、放課後に散歩などの世話をを行う。

【生徒会作成】

福山中高の取組 (どんな【課題】があったのか)

Process 過程

1. 高3で公明な仕事
2. テームワークと協働精神
3. 楽しく勉め動物と共生する
4. 学習者の視点、創造性の向上
5. 準備
6. 課外活動と学校行事
7. 広島畜産大がチームを立ち上げる
8. 学習内容の理解と実践
9. 精神の健全とストレス管理

新型コロナウイルス感染世界マップ (日程)

ストレスを抱える生徒が増加
↓
保健室利用生徒(月)【7月】
今年 141人
昨年 79人
＊前年度から倍増



毎日の朝や放課後の様子

朝「もふお」を散歩させる生徒たち(8:00前)

もふおを家族と呼んで愛でる教職員

生徒と一緒に校長先生も

保健室来室人数の推移は？(保健室より)

月	昨年度	本年度(昨年度比)
5月	86人	0人
6月	129人	145人
7月	84人	141人(1.68倍)
8月	26人	59人(2.2倍)
9月	128人	168人(1.3倍)
10月	131人	136人(1.04倍)
11月	111人	136人(1.2倍)
12月	40人	66人(1.6倍)

8 生徒の評価(感想等) ＊新聞取材より

- (高3)「(コロナで)楽しい学校行事がなくなり、受験勉強だけで息苦しかった。愛嬌ある「もふお」と、最後の思い出をつくりたい」
- (高2)「もふおの性格はツンデレで癒されます」
- (学習支援員)「もふおはさみしがり屋で人がいなくなると鳴く。地域住民からも愛されている。最近はかわいがられすぎてわがままにふるまう愛嬌もある」

9 成果と課題

- 「生徒の笑顔が増え、予想以上の反響。教員には見えにくいストレスを抱える生徒もいる。明るい話題が増えるきっかけになれば」(山口教頭) ＊中国新聞取材
- 生徒1～5学年の690人中、「もふおが来てよかった」は641名で93%。「もふおが来て変わったこと」を尋ねると(複数回答)、「学校に癒しができた」が301名(44%)、「動物への理解が深まった」は156名(23%)、「学校に行くのが楽しみになった」75名(10%)である。「特になし」は44%。

【生徒会作成】

羊が我が校にやってくる！(改訂版)

福山中高生徒会

○飼育場所○

(1) 夕方～夜～朝
北棟と中棟の間の中庭
冊のある小屋(本校卒業生の桑田大さん製作)に、干し草を敷き、水・混合飼料・食塩を置く。

(2) 日中
首輪と鑑をばらめて、草が自生している場所に杭を打って、鑑の長さ分自由中に草を食べさせる。
草の残り具合を見て、杭は移動させる。

○注意事項○

(1) 植物を育成する際の肥料に硝酸態窒素が含まれており、スーパー等で購入した野菜は、それを含
有しているため、羊に悪影響を与えます。家庭の野菜くず等は、羊に与えないでください。「無農
薬・無化学肥料」の野菜はOK。

(2) 牛用の混合飼料には、銅成分が含まれています。羊は、銅を分解することができないので、他の
動物用の混合飼料は与えてはいけません。必ず羊専用混合飼料を与えてください。

(3) 羊は感音動物です。大きな声で話しかけず、やさしく話しかけてください。

(4) 動物用レトルト、ダストレトルト等がある場合は、羊に近づかないでください。

(5) 羊の首輪は、下あごにだけあり、上あごにはない。羊の口は指を近づける時は、指の腹を下に向
けてください。

(6) 羊の奥歯は、強く噛める臼歯があるので、羊の喉奥に指を入れてはいけません(指が弾ける)。

○その他○

(1) 羊は、広島県広島市北広島町の飼育農家「前ファーム」さんからレンタルしました。

(2) レンタル料金および飼料代金は、PTAと同窓会からの寄付により、支払っています。感謝しまし
よう。

(3) 広染農家は、飼育農家が厳重に管理しております。羊の飼育に関して、福山市教育委員会に申し
出しています。

○生き物係募集○

(1) 餌をやったり掃除をしたりするいきいきの力を募集します。

(2) 希望者は配布された紙を10月26日(月)までに職員室前の生徒会BOXに入れてください。

【「もふお」掲載の新聞記事】

HAPPY SCHOOLS! 【対策】学校に羊がやってきた！大人気！

福山市赤坂町の福山中高が、羊1頭を飼育し始めた。新型コロナウイルスの感染でストレスを抱える生徒が増えているとして、動物との触れ合いで心を癒やすアニマルセラピーの効果を目指す。牧場から毎年5月まで運び寄った。

同校では、ことし7月の1カ月間で保健室を利用した生徒は141人で、前年同月の15人から急増。コロナ禍で生活環境が変化し、不安を抱える生徒が目立つという。学校生活に新たな楽しみをもたらそうと、山口南三教団が羊を飼育することを企画。北広島町の牧場に交渉し、実現した。

同校で毎年開催するのは、2月に生まれた若い雌。毛量が多く、名前も事前に校内公募して「もふお」に決まった。休学時短に多くの子供が驚き「かわいらしい」「かわいいたい」と触れていた。小原君には、近くで木工製作所を営む宗福

羊を飼育 コロナ禍の癒やし 福山中高

生が協力した。高3の小原君(18)は「楽しい学校行事がなくなり、受験勉強だけで悲しかった。気持ちも悪く、最後の思い出をつくりたい」と書いた。世話は、帯広畜産大学の学習支援員と生徒有志50人が受け持つ。山口教頭は「生徒の笑顔が増え、予想以上の反響。教員には考えにくいストレスを抱える生徒もいる。明るい話題が増えるきっかけになれば」と話す。(朝日新聞)

『中国新聞』2020/11/4 (デジタル版) https://www.chugoku-np.co.jp/local/news/article.php?comment_id=696358&comment_sub_id=0&category_id=112

(中国新聞) 2020年11月4日

「もふお」でコロナ禍のストレス撃退 広島・福山中高で飼育のヒツジ

福山市赤坂町の福山中高で、7月下旬から飼育されている、広島県赤坂村から借入したオスの「もふお」で、新型コロナウイルスの感染からストレスを軽減させるべく、生徒の心を癒やす「動物との触れ合い」が期待されている。2021年5月まで貸与される予定とされている。

コロナ禍で保健室を利用する生徒が急増。中3の山口南三教団が羊を飼育することを企画。山口南三教団が羊を飼育することを企画。山口南三教団が羊を飼育することを企画。

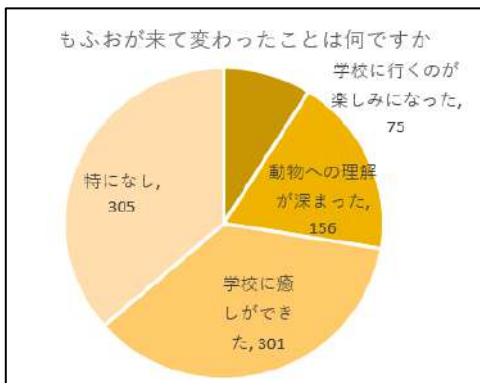
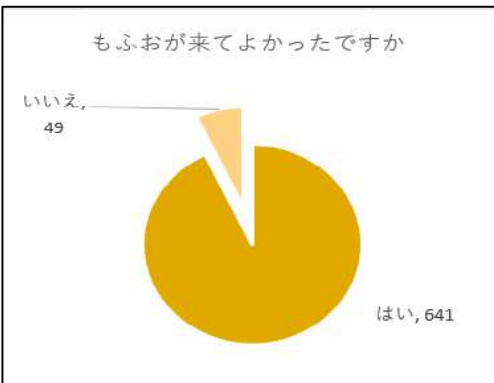
飼育を担うのは、(17)と(18)の「もふお」の管理「ワンデー」で担当します。休学時短の1時間(18)は「福中が羊を飼育するきっかけになった」と話している。また、「もふお」も飼育している。

毎日新聞オンライン(2020年12月16日)

(毎日新聞) 2020年12月16日

(生徒会 1～5学年 690名アンケート結果)

*変化の例



- 授業中に笑うことが多くなった
- 会話の種になった
- 先生や他学年との交流が増えた

(要望) これからもずっといてほしい / 洗って綺麗にしてあげたい / アルバムを作ってほしい
毛を刈ってほしい / 他の動物も飼いたい / 学校にいなくなってもまた定期的に会いたい

(13)【講演】地域の課題解決に取り組む卒業生から学ぶ【令和5年度】

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 5 学年・探究
- 2 日時 令和5年6月21日
- 3 担当者、招聘講師等 藤本悠太さん（福山大学4年） ＊本校卒業生
- 4 対象生徒等 5 年生生徒・教職員（約200名）
- 5 本校 ESD の観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

5年夢プロを進めるにあたって、「課題の発見と解決」を目指す活動をより具体的なイメージを持ってもらおうと、本校卒業生で地域課題解決の活動を進め、全国のプレゼン大会で1位にもなっている先輩を招き、講演会を実施する。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 事前に講師を紹介する用紙を作成し、事前情報を入れておく。
- (2) 講師から活動の様子を伺う（講師によるプレゼンテーション）。
- (3) 生徒と質疑応答をする。
- (4) 生徒は感想を Forms に入力する。
- (5) 感想をまとめて講師に届ける。本校 HP にもアップする。

8 生徒の評価（感想等） ＊新聞取材より

- 課題を見つけてから、すぐにアイデアを出すのではなく、まずその街の事を知り、たくさんもの解決アイデアの中から1つを実行するというのがすごいなと思いました。
- 地域のダメなところを直すために探究するのではなく、活用したら光りそうな原石を利用して解決アイデアを考える。
- 一定期間そこで暮らし、体験して課題や学びを得るという課題発見の方法の素晴らしさに胸を打たれた。
- 私は、自分達だけで課題解決アイデアを考えようとしていたけれど、藤本さんのお話を聞いて、地域の特徴を考えて実際に地域の人に話を聞いて解決アイデアを立てることが大切だと思った。
- 藤本さんは、事業を考えると、解決策を30～40個も考えられていた。今まで1つの問題に1つの解決策だと思っていたので、驚いた。
- 「現場で体験して学びや課題を得る」というのは是非とも取り入れたい。そこで得た気づきについて、いかにして人、資源、コストのような面を横断的かつ効果的に表現できる解決策を生み出せるかというのは、非常に困難や苦悩のあることだと思うが、大変価値が大きく努力してみたい。
- 自分が夢プロで考えている課題はかなり大きかったので、1つの地域に絞るなどする事でより深く考えて実行できるようにする。
- 地域の特徴を考えて地域の人に実際に話を聞いたりして地域の人と一緒に解決アイデアを考えること。藤本さんはまず三次市甲奴町という所に1ヶ月間住んでみていたので、それは私にはできないけれど、それを参考にしてまずは地域の人にインタビューしてみる。
- 私はお米を使ったレシピを考案しようと思っているので、その他の廃棄されやすい食物にも目を向けてみたい。
- とても為になる講演をありがとうございました。この講演で初めて REBORN SAUNA について知りました。私もこのプロジェクトのように自分の探究を深めて実行していきたいです。
- お忙しい中ありがとうございました。たくさん学べた事も多く、自分にはない探究の進め方をつかめたとても良い機会でした。貴重なお話が聞けて良かったです。アイデアをアイデアのままにせず、課題だと思ったことを行動に移したり、常に課題意識を持って過ごしたりしたいと思いました。



9 成果と課題

- 上の生徒の感想を見ると、先輩から大変刺激を受けたことが分かる。講演を受けて、今後自分に取り入れたいことを聞いたら、右のようになった。

(探究) 本校卒業生(藤本悠太さん)による探究講演



6月21日(水)に、本校卒業生である藤本悠太さんが探究講演会の講師を務めてくださいました。対象は、5年生の生徒および教職員の約200名です。

藤本悠太さんは現在、福山大学に在学中で、「社会人基礎力育成グランプリ」に出場し、大賞(=全国1位)を受賞されるなど、目覚ましい活躍をされています(福山大学のCMにもご出演中です)。

彼は福山大学の3人で、三次市甲奴町を中心に、「過疎化の進む中山間地域の課題を解決したい」という思いで、プロジェクト「REBORN」を立ち上げました。その一環として、廃棄される作物や雑木などの未利用資源を活用し、その地域ならではの「REBORN SAUNA(リボーン サウナ)」という活動を展開されています。福山城でも、400年記念イベントでサウナを実施されました。

彼らの活動の目的は「地域の活性化」です。地域の未利用資源を活用し、地域経済の活性化につなげたり、サウナを通じて地域コミュニティを形成したり、地域の課題を解決することを目指しています。

彼らの活動は多くのニュースや雑誌(ウィンクなど)でも取り上げられており、ご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。

生徒の少し年上の先輩が、本当に地域の課題解決を目指して、実践的な活動を行っていることを、向井(前)校長先生から伺いました。現在「夢プロ」という探究活動を行っている5年生に、課題解決の事例を知ってもらおうとこの企画を立ち上げました。

以下(左ページ)に参加した5年生からの感想をいくつか紹介します。先輩から、探究のヒントとなるさまざまな刺激を受け取れたようです。

地域や社会の課題解決に向けて活動している先輩(卒業生)は多いと思います。「こういう面白い取組をしているよ」「きっと生徒の探究活動に参考になるのでは」という事例がありましたら、何かの機会に学校まで情報をお寄せいただくと幸いです。

(14)【事業報告】多文化共生学会発表（4年探究「わかいふぁーむ」）

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 4年探究・多文化共生に関する国際ボランティア学会第27回大会発表（於：立教大学）
- 2 日時 2026年（令和8年）3月7日
- 3 担当者 藤田憲弘・柏野全潤・上山晋平
- 4 対象生徒等 希望生徒2名（わかいふぁーむチーム所属）
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト □生き方・在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

4年探究では、藤田探究コーディネーターのもと、生徒約200名が福山市内12か所の企業・団体と連携して探究活動を行っている。その連携先の一つに「わかいふぁーむ」がある。この農園は福山ブランドの一つであり、農業を通じた多文化共生の実践を進めており、NHK取材など、全国から注目されている。

ファームの理事である、先家茉莉（せんげ まこ）氏から情報提供を得て、国際ボランティア学会において、わかいふぁーむチーム（わかいふぁーむ、福山市立大学、福山市立福山高校）の一員として高校生による発表を行う機会を得た。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 4月～3月 4年探究活動として、わかいふぁーむと連携した探究活動を行う。
- (2) 11月頃 学会発表の話を伺う。要旨を提出して受理される。
- (3) 2月3日 校長会からの依頼を受け、探究活動の取組を発表する。
- (4) 3月 校内リハーサルを繰り返す。
- (5) 3月4日 直前ミーティングを行う（わかいふぁーむ、市立大学、福山高校）。
- (6) 3月6日 東京でイスラム文化を体験する（モスクや礼拝所、ハラールショップ）。
- (7) 3月7日 立教大学にて国際ボランティア学会で探究成果を発表する。
- (8) 3月11日 参加生徒が学校長に活動報告を行う。



8 生徒の評価（感想等） ※国際ボランティア学会での発表を通して（振り返り）

- 探究活動の成果を学会で発表し、多くの参加者から質問を受けた。
- 発表自体はこれまでの経験もあり落ち着いて行うことができたが、質問に対して自分の考えを十分に伝えられない場面もあり、探究をさらに深める必要性を感じた。
- 発表後の交流では、海外の人に日本語を教える高校生や、環境問題や国際交流に取り組む学生など、主体的に行動している同世代の活動を知ることができた。
- 他の発表から、インドネシアの課題として「教育・文化的活動の機会不足」「就職の難しさ」「農作物価格の低さ」など、具体的な問題を知った。
- また、ミャンマーのクーデター体験を伝える発表から、遠い国の出来事を自分事として考えることの大切さを学んだ。
- 学校の外にも、高校生が国際交流や社会課題に関わることができる機会があると分かった。
- 学会での経験をきっかけに、探究活動をさらに深め、自分から積極的に行動していきたいと感じた。

9 成果と課題

- 高校生が学会発表するという貴重な経験を積むことができた。
 - 「わかいふぁーむ」と連携した探究活動の成果を学会で発表することで、生徒が多文化共生や国際課題を自分事として捉える視点を深めることができた（将来の希望進路に国際や多文化共生も含めたいとの話）。
 - 大学生や研究者、同世代の高校生との交流を通して、社会課題に主体的に関わろうとする意識の高まりが見られた。さらに、地域団体・大学・高校が連携して発表を行ったことは、地域と学校が協働した探究活動の成果発信の機会となった。
- △学会での質疑応答では、自分たちの探究内容や考えを十分に説明することが難しい場面もあり、課題の分析や根拠の整理、発信力をさらに高めていく必要がある。
- △今回の経験を校内の探究活動全体にどのように共有・還元していくかについても今後の課題である。
- （何らかの形で、ほかの生徒に還元する機会を持ちたい）



【発表資料の一例】



【参加生徒の感想】

1日目は、日本にいるイスラム教の人達の為のモスクや礼拝所、ハラルショップを巡れた(後略)。

2日目の学会での発表では、マコさんの発表でも福山市立大学の方々の発表でも面白いことを知ることができた。大学生の発表では、実際にインドネシアに行ってみつけた、特に大きな3つの課題をまとめており「衣食住のその先のこと(教養や遊びなど)」「人が多くて就職できない」「農作物の価格が上げられない」だった。(略)

「若者ならではのボランティア」と聞いたとき、本当に時間があって、高校に行けている今しかできないことを時間に無駄にせず全力でやってみたいと思った。

学会では他の発表も聞くことができた。特に印象に残っているのはミャンマーのクーデターに実際に遭った方の発表だった。発表内でいくつかの小さく折った紙を適当に傍聴者引くという物があった。私の紙の中に書いてあったことは「弟が国軍に撃たれて亡くなり、国民防衛軍に入ることを決意」というものだった。他に人は「車を運転していると銃弾が飛んできて死んだ。」といったものや「母が撃たれて、お腹の中の子供と一緒になくなった」というものだった。これは実際にクーデターで起ったことであり、私達が巻き込まれていたら、明日起きることかも知れないことという残酷な現実を知った。ガチャみたいに適当に引いたものが突然襲いかかるかもしれない、その運命が自分よりも小さな子供にいくかもしれないと考えると怖くなった。「遠い国の出来事」という他人事のように思っていた考え方が大きく変わった。クーデターに発表者が遭ったのが自分と同じ高校生年生のときで、そこからミャンマーの現実を伝える一つ手前の段階である「ミャンマーのファンを増やす」ことを目的とした「ヤンゴンかるた」を作ったそうだ。クラウドファンディングで資金を集め、かるたを作り、全国70箇所以上の学校や会社で、延べ万人が参加した。イベントという形では一時的なものだけど、「知る」だけでも大切なこと、という質問に関する回答をしていた発表者に私は結構共感している。

今回の学会で、わかいふあーむで学んだことがまだまだ少なく、他国に関する問題や活動を全く知らなかった事がわかったし、新たな知識や世界で起こっている現状も知れた。これはほんとに大きな一歩だと自分で思っているし、学会で聞いた高校生のボランティア活動についても調べるきっかけになった。学校だけでは知ることができない世界についてたくさん学べ、これからもっと学校の外に出て学んでいきたいと思った。

●生徒の活動の様子



ホストファミリーのお迎え



ランチタイム



アダムス先生の授業



日本語選択の生徒との授業



バディーと一緒に授業へ



毎朝提出のしおり



いよいよお別れ



さよならトゥーンバ

(1)【事業報告】姉妹校との国際交流（希望者、課外活動）②ダウンランズ（令和6年度）

- 1 学年・教科等 高1・高2 希望者
- 2 日時 2024年（令和6年）7月21日（日）～8月4日（日）
- 3 担当者、招聘講師等 引率教員 2名（中野誠也・金尾千恵美）
- 4 対象生徒等 高1 男子2名・女子3名、高2 男子2名・女子5名 計12名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本研修の目的は、次の2点である。

- (1) オーストラリアでホームステイを探検し、姉妹校であるオーストラリアの中・高校に短期留学することで、オーストラリアの人々の生活や文化に触れ、異文化、さらには自国文化に対する理解を深める。
- (2) 生活のなかで英語を使うことで、英語によるコミュニケーション能力の基礎を養う。

以上の目的を達成するために、次のような研修方法を採用した。

- ① 生徒に希望を取りながら姉妹校と連携し、ホストファミリーを決定する。
- ② 現地校においては、約2週間にわたり、現地の生徒と同じ授業を受ける。
- ③ 一般家庭にホームステイし、家族の一員として生活する。

7 内容の具体・展開の流れ

- 7月21日（日） 関西空港出発
7月22日（月） ブリスベン空港着 午後トゥーンバ着
 ダウンランズカレッジ校にてホストファミリーと対面
 各家庭に移動
7月23日（水）～8月1日（木） 現地での学校生活とホームステイ体験
8月 2日（金） トゥーンバ出発 ゴールドコースト着 ゴールドコースト市内研修
8月 3日（土） ゴールドコースト出発 ブリスベン着 ブリスベン市内研修
8月 4日（日） ブリスベン空港出発→帰国

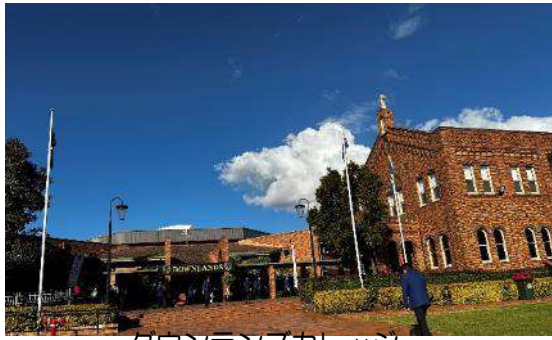
8 生徒の評価（感想など）

- 最初はとても緊張しましたが、ホストファミリーをはじめ、交流する人たちが皆とてもフレンドリーだったので、徐々に慣れることができました。全校生徒の前でソーラン節を披露したり、アボリジンのダンスを学んだり、他にもいろいろとチャレンジできたことは、自分にとって良い経験になりました。
- ホームステイをして、オーストラリアと日本の生活様式の違いを知ることができました。学校生活においても、オーストラリアではランチタイムが2回あったり、休憩時間が短かったりと、日本の学校とは違うことを知り、他国の文化を知ること大切だと思いました。
- アダム先生がわかりやすい授業をしてくださり、英語で考えたり話したりして毎日楽しく受けることができました。
- この研修に参加し異なる文化の人たちと交流して、日本人が持っている常識が標準ではないということに気づきました。勇気を出して研修の参加を希望してよかったです。
- 英語力にあまり自信がなく話すことが恥ずかしかったけれど、思い切って話してみるとホストファミリーも学校の人たちも助けてくれて、徐々にたくさん話をするできるようになりました。

9 成果と課題

- 2週間の滞りで、生徒が英語を話すことに積極的になり、コミュニケーション能力や主体的に行動する力の変容が見られた。
- オーストラリアの人々の時間の使い方や家族との過ごし方、生活様式や文化の違いを知ることで、改めて日本での生活や文化を見直す態度が生徒たちのなかに生まれていた。異文化を理解することは、生徒たちの今後の進路やキャリア選択時に少なからず影響を及ぼすと思われる。
- △ 生徒たちが研修に参加して経験したことや得たことを、周囲の生徒に効果的に波及できていない。例えば授業で報告会を設けるなどして、グローバル意識を全体に広めるアクションが必要であると思われる。
- △ 研修終了後、生徒が決めた「行動プラン」の達成度を明確に確認できていないので、教員がフォローアップしてその後の状況を聞き取り、意識の維持・向上をサポートする必要がある。

●生徒の活動の様子



タウンランスカレッジ



アダム先生による授業



日本語クラスに参加



全校集会でソーラン節を披露



ランチタイム



学校近隣の施設で歴史と伝統を学習



ホストファミリーとの別れ



小・中学生と交流



1 学年・組 第5学年 理系地理選択者 33名＋ダウンランズ校生徒 25名（社会科教室）

2 単元名 地球の課題を考える～SDGs（持続可能な開発目標）について～

3 本時の展開 （*9月21日（水） 4限）

(1) 本時の目標

- ①日本とオーストラリアの社会について比較検討する。
- ②自分たちが社会で活躍する15年後に向け、地球上で解決すべき課題について他国の生徒と考える。

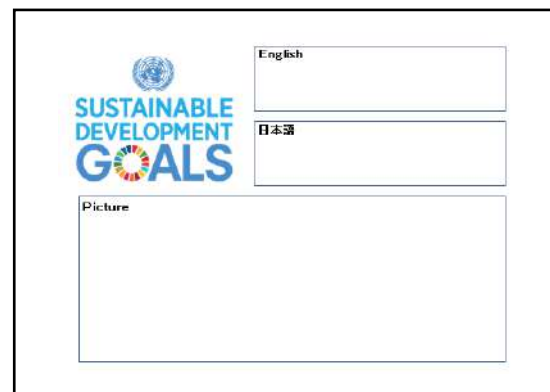
(2) 授業参加者に見てもらいたいポイント

- ①他国の生徒と英語を使って、積極的にコミュニケーションをとりながら、課題解決に向けた行動を取っているか。
- ②視聴覚を使った教材や発問などは、日豪の生徒の思考を促し、関心意欲を喚起するものになっているか。
- ③生徒は、達成感を持って終わることができたか。

(3) 本時の学習展開 【記号】△基礎・基本の定着 ◆AL（主体的・対話的で深い学び） □ESD（人間性・他との関連）

学 習 活 動	形態	指 導 上 の 留 意 点	3要素	評価規準
1 グループでリーダーを決める。 (自己紹介含めて、話し合いの時間は5分以内)	グループ	◆□決め方は、各グループに任せる。	協働性	
2 日本とオーストラリアの各種統計を通して、お互いの社会・生活を比較する。 (12～13分)	グループ	◆□経済や国民生活など、幅広い分野での統計を用意するが、問いが多くなならないよう、後の展開にもヒントになるような分野にしぼる。解答に対し、補足すべきところは、補足する。 ・オーストラリアの生徒にもわかるよう教師もダウンランズの先生と協働する。	思考力 協働性	日本とオーストラリアの社会の違いについて比較・検討している。 (ワークシート)
3 SDGsについての概要を知り、この時間のテーマについて確認する。 (5分程度)	一斉	△映像を使ってSDGsについて確認させ、本時、日豪の生徒でともに考えることを押さえる。	知・技	
4 これからの世界が解決すべき目標について考え、互いに意見を出し合う。 (12～13分程度)	グループ	◆□文字やイラスト表現で、お互いの意見を出し合い、グループとしてまとめるよう促す。 ・各グループを回り、フォローする。	思考力 表現力 協働性	地球上で解決すべき課題について積極的に検討している。(観察)
5 グループの意見を発表する。 (7分程度)	一斉	◆イラスト掲示を通じて、各班で考えた課題を3つ以上発表させたい。背景を問い、発表の相違点にも気付かせる。	表現力 知・技	
6 国連で確認されている目標を知り、自分たちの考えたことと比較する。 (7分程度)	一斉	△□視聴覚教材でSDGsの内容を確認させ、自分たちの思考を振り返らせる。 ・それぞれにこれからの世界、そのなかでの自分のあり方についての課題意識を持たせて、終わらせたい。	主体性	

4 生徒用資料（各生徒に配付）



5 グループの発表したSDGs

リサイクル 教育（6） きれいな水 栄養のある食べ物 戦争を減らす（2）
 医療（4） スポーツでつながる 大気をきれいに 絶滅危惧種を守る
 再生エネルギー（2） 協力 言論の自由 男女平等

6 生徒の評価・感想等

①授業のなかで、オーストラリア生徒とコミュニケーションがとれたか？

・充分にとれた 6% ・ほぼとれた 68% ・あまりとれなかった 31% ・全くとれなかった 0%

②グループの意見は、どうやって決めましたか？

・みんなで話し合った 7チーム
 ・オーストラリア生徒が適当に決めた 1チーム

③感想

・楽しかった、とても楽しかった。
 ・環境問題は、世界的なものなので、みんなでいろんな意見を出せてよかった。
 ・また来て交流できたらいい。



7 成果と課題

- ・日本とオーストラリアの統計比較では、お互いに、自分の国のことや相手国のことを知らないことがわかり、盛り上がった。知識レベルは、同程度ということであろうか。
- ・準備した視聴覚教材は、両国の生徒とも、よく反応してくれたので、適切であったと思う。
- ・グループでの意見交流は、少しテーマが難しかったことと、時間的制約があって、まとめきれてないようだったし、お互いの意見検証に時間を取ることができなかった。内容的に2時間あってもよかった。
- ・オーストラリアの引率教諭にうまく訳してもらいながら進行することができ、両国の生徒は、内容についてくることができたと思う。ぶっつけ本番であったが、こうした授業は、ALTの先生とうまく協働すれば、日常の授業でも仕掛けていけるのではないか。

8 授業風景



(1)【事業報告】姉妹校との国際交流（希望者、課外活動）マウイ（平成29年度）

文責 原朋代

- 1 学年・教科等 希望者
- 2 日時 2017年（平成29年）3月13日（月）～17日（金）
- 3 担当者、招聘講師等 引率教員 2名（原朋代、石井康代）
- 4 対象生徒等 高校1年生男子6名 女子12名 計18名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本研修の目的は、次の3点である。

- ①福山市の友好都市マウイの家庭にホームステイをし、現地の高校に短期留学することで、ハワイの人々の生活や歴史文化に触れ、異文化、さらには自国の歴史文化に対する理解を深める。
- ②生活の中で英語を使うことで、英語によるコミュニケーション能力の基礎を養う。
- ③海外語学研修を希望する多数のニーズに応えるため、夏季研修だけではまかないきれない現状のなか、研修機会を提供する。

以上の目的を達成するために、次のような研修方法を採用した。

- ①福山市市民相談課と連携しながら、交流校およびホストファミリーを決定する。
- ②現地校においては、1週間にわたり、現地の生徒と同じ授業を受ける。
- ③一般家庭にホームステイし、家族の一員として生活する。

7 内容の具体・展開の流れ

- | | |
|----------|---|
| 3月13日（月） | ハワイマウイ大学キャンパスツアーおよび大学総長会見
キングケカウリケ高校ジャズバンド訪問 |
| 3月14日（火） | マウイ高校にて”A Day at School” |
| 3月15日（水） | マウイ高校にて”Cultural Presentations” |
| 3月16日（木） | マウイ郡長・郡議会表敬訪問 / マウイオーシャンセンター観光 |
| 3月17日（金） | ハレアカラ山・ラハイナ観光 / マウイ高校にてお別れのアロハディナー |

8 生徒の評価（感想など）

- 今回の研修で一番楽しかったのはマウイ高校で体験授業をしたことだ。マウイ高校には日本の普通科の高校にはない授業があった。それはphoto classだ。授業中に教室の外に出て本格的なカメラで好きなところを撮る授業だった。初めての体験だったのでとても楽しかった。マウイにはきれいな景色がたくさんあって、たくさん写真を撮った。マウイ高校ではステッカーを作ったりTシャツや消しゴムのハンコを作ったり、体験授業をしたり、外国のゲームをしたり、太鼓をたたいたりとたくさんのことを体験できてとても楽しかった。
- マウイ大学で英語の授業を受けました。発音をもう少し頑張らないといけないと思いました。特にRとL。夜にお父さん（ホストファーザー）と発音の練習をしました。LとR、THなど色々例を出してもらいました。walkとworkはすごく難しかったです。writeとrightの発音は同じだと教えてもらいました。日本で学ぶよりもすごく発音もよくて身につくのが早いような気がしました。
- 今日はホストファミリーと過ごす最後の日。朝一番に習字をしました。ママとパパの名前を漢字に換えて書いてあげました。二人ともすごく喜んでくれました。ママも好きな日本語を書いたりしてとても楽しんでもらったのでよかったです。
- 今回の研修ではわりとコミュニケーションが取れたのがうれしかった。正直、文法はゴチャゴチャな時もあったが、中学レベルの英語でけっこうできたのでうれしかった。相手が言うことも、正確に一言一句とは言わないが、大体の意味は分かったので良かった。これからもこういう海外語学研修に行きたいと思った。
- 初の海外で英語がうまく伝わるのか、海外でちゃんと生活してけるのかなど初めは心配だったけど、いざ行ってみると英語でコミュニケーションを取ることができたし、ホストファミリーもやさしくて心配はなくなりました。進路もこの研修に行ったことである程度決めることができました。

9 成果と課題

- 【成果】本プログラムを通して、英語学習に対する生徒の姿勢が積極的になり、目的意識をもつようになった。
- 【課題】同様の研修を継続して実施するためには、コーディネーターの確保等、課題が残る。

●生徒の活動の様子



マウイ到着 ホストファミリーのお出迎え



ハワイマウイ大学の壁画 カメハメハ大王



自分でデザイン・プリントしたTシャツを着て



マウイ高生に和太鼓を指南してもらう



はっぴを着て福の山音頭を披露



お別れ会でのゲーム じゃんけん列車



マウイ校ジャパニーズクラブの皆さんと



マウイ郡庁舎 福山市から贈られたバラの花

(1)【事業報告】姉妹校との国際交流（希望者、課外活動）ポハン①（平成29年度）

文責 矢幡愛

- 1 学年・教科等 希望者
- 2 日時 2017年（平成29年）10月14日（土）～17日（火）
- 3 担当者、招聘講師等 引率教員 2名（向井勝也、矢幡愛）
- 4 対象生徒等 中学校1～3年生 23名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本研修の目的は、次の3点である。

- ①福山市の友好都市浦項市の家庭にホームステイをすることで、韓国の人々の生活や歴史文化に触れ、異文化、さらには自国の歴史文化に対する理解を深める。
 - ②生活の中で英語を使うことで、英語によるコミュニケーション能力の基礎を養う。
 - ③中学生に国際交流のための海外研修の機会をもうける。
- 以上の目的を達成するために、次のような研修方法を採用した。
- ①生徒に希望を取りながら大東中と連携し、ホストファミリーを決定する。
 - ②大東中において1日授業を受ける。
 - ③一般家庭にホームステイし、家族の一員として生活する。

7 内容の具体・展開の流れ

- 10月14日（土） 大東中においてホストファミリーと対面
ホストファミリー宅で終日過ごす
- 10月15日（日） 慶州石窟庵・仏国寺見学後ホストファミリーと過ごす
- 10月16日（月） 大東中で授業・部活動に参加
- 10月17日（火） 浦項・九龍浦見学

8 生徒の評価（感想など）

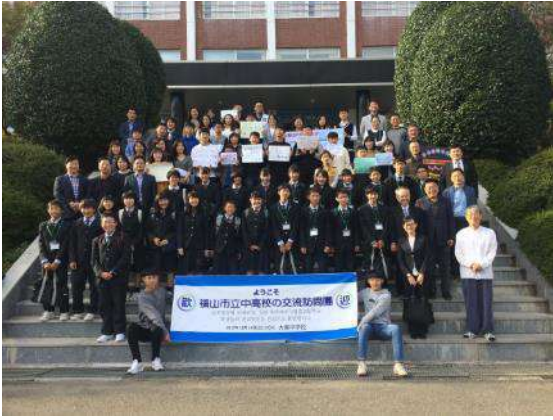
- とにかくみんな優しくかった。みんな歓迎してくれてうれしかった。でも、自分がバディーになった時は、こんなに話しかけたり、優しくしたりというのができなかったの、申し訳なくなった。もし次に日本に来てくれた時は、部活をいっしょにしたいなと思う。わからない言葉ばかりだったけど、先生も生徒もみんなが通訳のアプリをスマホに入れて会話してくれたので、私はそれに英語で答えるだけで良かった。でも次に会うときは少しでも韓国語ができるようになったらいいなと思う。
- 言葉が通じにくいなかでも、みんな笑顔で優しく接してくれてとても楽しかった。英語の時間では、とくに自分の英語力のなさを感じた。自分は英語が苦手、英文も早く読めないし単語も覚えにくいのもっと勉強すべきだなと思った。大東中の人はオーバーに気持ちを表現してくれるので楽しんでくれていることがよくわかった。自分も気持ちをうまく表現できるようになりたいと思った。
- 一番強く思ったことは英語力の違いだ。同じ1年生なのに、向こうは少し考えながらもスラスラ話せていた。それなのに自分は声も自信がなくて小さかったし英語の文も多分ぐちゃぐちゃで…。伝えたいことがちゃんと伝えられないもどかしさを感じた。それと同時に自分が話そうとするのを優しく見守ってくれる優しさもたくさん感じた。母国語ではない1つの言語を介して話すのはとても難しいということを改めて感じさせられた。この経験を生かしてこれからの学校の授業に生かしていきたい。
- 今回の研修で、人は好きなことや嫌いなことが同じときにコミュニケーションをとることができ、友達になれるということも学びました。家に帰って、韓国での話をたくさんしました。辛い物を食べられるようになったし、洗濯も自分でできるようになったので母に「ちょっと成長した気がする」と言われて嬉しかったです。
- 今回の研修で学んだことは、まだまだ自分の力が足りないということだ。自分の目標は「世界で活躍する人になること」。しかし、英語でのコミュニケーションで難しいところもあったし、初めて会った時から積極的に話すことができなかった。いろいろな人たちのおかげでよい経験ができた。このことを生活で生かしていく。

9 成果と課題

【成果】本研修を通して生徒も教員も国際交流の重要性を感じる事ができている。

【課題】本年度以降の交流体制についてはどのようにするのか、検討していく必要がある。

●生徒の活動の様子



大東中でのホストファミリーとの対面



慶州石窟庵・仏国寺見学



大東中での授業に参加している様子



大東中での授業に参加している様子



大東中の音楽コンサートを見ている様子



カフェテリアにて



九龍浦で韓国の歴史を学ぶ様子



釜山にて韓国での最後の食事

ポハン生徒本校受け入れ授業例①（中学・理科）

文責 山下一朗太

- 1 学年・教科等 2年 理科
2 日時 2017年（平成29年）5月22日（月） 1、2、3限
3 担当者 山下 一朗太
4 対象生徒等 2-3 39名（+デドン中5名） 2-2 39名（+デドン中5名） 2-1 38名（+デドン中6名）
5 本校 ESD の観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本時の目的は、「モデルや化学式を用いた課題に韓国人留学生と協働して取り組むことで、国際課題解決に必要な積極性を養うことができる」である。2学年は理科の授業において、原子・分子をモデルで表すことや、世界共通である化学式について学習したばかりである。そこで、言語でのコミュニケーションが取りづらい韓国人留学生と、モデルや式を用いた課題に取り組みせ、英語以外にもコミュニケーションを取る手段があると伝えたいと考えた。

7 内容の具体・展開の流れ （授業は基本的に英語で行う）

(1) 導入 (15分) 自己紹介

- ①座席決めを行う (5班に分ける)
- ②両国がコミュニケーションをとる手段として、英語、ボディーランゲージ、図などがあることを確認する
- ③お互いに自己紹介をする

(2) 展開① (17分) 絵描き伝言ゲーム (No.1 台風)

- ①絵描き伝言ゲームのやり方を理解する (班別対抗で連帯意識を高める)
 - ・ゲームをする ・各自がどんな絵を描いたかを班内で共有する
 - ・どんな絵を描いたかを教室全体で共有し、一つの事象を表すにもいろいろな表し方があることに気付く

(3) 展開② (12分) クイズ (No.2 気体)

- ・ゲームをする ・各自がどんな絵を描いたかを班内で共有する
 - ・どんな絵を描いたかを教室全体で共有し、粒子モデルの有用性に気付く
- 言葉で伝える以外の方法があることに気付かせる声掛けを行う
○化学式が出てきた場合には、化学式が世界共通であることに触れる
- ・No.1 水素、酸素、二酸化炭素を韓国語に翻訳せよ
 - ・No.2 용해 (溶解) を日本語に翻訳せよ

(4) まとめ○今日の感想を記述する

(写真は、용해 (溶解) という用語を日訳するために、デドン中生が福山中生に説明をしている様子。)



8 生徒の評価（感想等）

(福山中) 絵などを使って楽しく交流できたと思います。クイズでは、身ぶり手ぶりで答えを書けていました。言語が違って、コミュニケーションがとれるんだと感じました。

(福山中) 様々な視点から考え、伝えよう、伝えてくれようとしていて、楽しかったのと、団結できました。

(福山中) 韓国の人も日本の人も分かるような世界共通なものがあるってすごいと思いました。

(デドン中) 韓国での授業は、教科書を読んだりテストを受けたりすることが多いので、今日やった活動はとても面白かったです。また、日本の生徒は絵を使って説明するのがとても上手であることを学びました。

9 成果及び課題・改善策

- 成果① 通訳をお願いすることはなく、授業者も生徒も英語を用いた。英語を使わなければ課題が解決できないという状況の中で、多少の文法間違いは気にせずとにかく英語を使ってみようとする生徒が増えていった。
- 成果② 両国の生徒が協力をしなければ解けない問題を解く中で、「言いたいことを伝えたい」という思いが大きくなり、授業後半には、身振り手振りを使って主体的にコミュニケーションを取ろうとする生徒がみられた。
- 課題・改善策① 授業冒頭で自己紹介（自分のことをどのような呼んでほしいかや特技など）をワークシートに記入し班内で交流したが、ワークシートを読み上げるだけの活動となってしまった。
- 課題・改善策② デドン中の生徒は、中1から中3までいたようで、韓国の中1にとっては「溶解」という概念が未習ということになってしまった。韓国の生徒の既習内容を把握しておく必要がある。

- 1 学年・教科等 3年 総合的な学習の時間
 2 日時 2017年（平成29年）5月22日（月） 5～6限
 3 担当者、招聘講師等 前田卓巳 高橋毅 山田健司 松枝美貴子 石川玲弥
 4 対象生徒等 生徒119名（3クラス合同）とデドン中学校の生徒16名
 5 本校ESDの観点 □国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト ■在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

めあては、「国際交流を円滑に行う」である。大東中の生徒と授業をする中で、お互いの言葉を越えて、交流できるのではないかと考えたからである。また、3学年として体育大会、修学旅行などの行事を控え、今回のこの機会を通して、リーダーの育成、他者とのつながりを育てていきたいと考えた。

7 内容の具体・展開の流れ

1. 開会行事
2. ジェスチャーゲーム
3. 借り人競争
4. ドッジボール
5. 閉会行事



8 生徒の評価（感想等）

- 今日の5、6時間目到大東中学校の生徒と交流しました。特にジェスチャーゲームが心に残っています。言語が通じなくても、ジェスチャーだけで通じることが分かりました。みんなで楽しむことができて思い出に残る授業でした。
- 今日の5、6時間目到大東中学校の生徒と交流会がありました。僕はバディーだったので色々大東中学校の生徒と話そうと思っていたけれど、何から話せばよいのか全く分かりませんでした。途中からは話せるようになったけれど、笑顔や身振り、手振りなどできないことがたくさんありました。今日のこの時間はコミュニケーションの大切さについて知らされました。
- 浦項の大東中学校とのレクリエーションは、忘れられない体験になりました。用意した英語を丸ごと使えなかったのですが、不慣れで不手際だったなりに臨機応変に対応できたし、困っている大東中学校の人や頑張っていた人とコミュニケーションがとれて、とても嬉しかったです。オーストラリア研修にもつながる、そして、修学旅行にもつながる「リーダー」という大きな役目をさせていただけて本当に嬉しく思います。また、応援も声がガラガラになるまで大東中学校の人も一緒に歌ったり円陣を組んだりできて、お互いの絆が深まりました。

9 成果と課題

- 成果は2点ある。1点目は国際理解、2点目はリーダーの育成である。国際理解については、競技を一緒に行ったり応援を行ったりするため、大東中の生徒と本校の生徒が交流する機会が多くあり、国際交流の観点からも多くのことを生徒たちは学ぶことができた。
 2点目のリーダーの育成については、この授業を行うにあたって、代議委員や生徒会などの今まで決まっていたリーダーではなく、3年生全体からリーダーやバディーを募集した。この選び方により、普段リーダーをやったことがない生徒もリーダーをやることができ、集団づくりの良い機会となった。リーダーたちが企画、運営を行う中で臨機応変に対応する態度や、リーダーの指示を受け行動する生徒たちにも自治、自律の力が身についた。
- 課題として、「積極的なコミュニケーション」が挙げられる。バディーだけではなく他の生徒たちの積極的な交流がもっとできて良かった。ドッジボールにおいては本校の生徒が自分たちが楽しむことに重点が置かれ、本来の趣旨である「おもてなし」の心遣いが足りなかった。
- 改善策
 国際交流を行う前の事前学習をもっと行っておくべきであった。「おもてなし」の心遣いはもちろんのこと、言語や文化の違いなど、十分な知識を伝えておかなければならないと感じた。



(1)【事業報告】姉妹校との国際交流（希望者、課外活動）ポハン②（令和元年度）

文責 橋本 賀代

- 1 学年・教科等 希望者
2 日時 令和 元 年 10 月 19 日（土）～22 日（火）
3 担当者 引率教員 3 名（高田芳幸、山口裕三、橋本賀代）
4 対象生徒等 中学校 2～3 年生 28 名
5 本校 ESD の観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本研修の目的は、次の 3 点である。

- ①福山市の友好都市浦項市の家庭にホームステイをすることで、韓国の人々の生活や歴史文化に触れ、異文化、さらには自国の歴史文化に対する理解を深める。
- ②生活の中で英語を使うことで、英語によるコミュニケーション能力の基礎を養う。
- ③中学生に国際交流のための海外研修の機会をもうける。

以上の目的を達成するために、次のような研修方法を採用した。

- 生徒に希望を取りながら大東中と連携し、ホストファミリーを決定する。
- 大東中において 1 日授業を受ける。
- 一般家庭にホームステイし、家族の一員として生活する。

7 内容の具体・展開の流れ

- 10 月 19 日（土） 大東中においてホストファミリーと対面 ホストファミリー宅で終日過ごす
10 月 20 日（日） 引き続き、ホストファミリーと過ごす
10 月 21 日（月） 大東中で授業・部活動に参加
10 月 22 日（火） 浦項・九龍浦見学

8 生徒の評価（感想など）

●今回、韓国との関係もあまりよくない中訪問させてもらって、行ってきてよかったと素直に感じました。訪問を終えて特に印象に残っているのは、どこのお店へ行ってもどこの人とかかわっても、私たち日本人へきちんと対応してくださったということです。気遣って日本語を使って話してくださる方もいました。今回の訪問で学んだことは、外国の人との関わりを持つことは、これからの社会にも、日常生活でも重要になってくる、ということです。私はこれからも海外へ行く機会を増やし、たくさんの人とコミュニケーションをとって関わりを持ち、自分自身をもっと成長させられるように努力を続けていきたいです。

●日本と韓国は、国の位置的には近いけれど、違うところがたくさんあるんだなと感じた。（言語、食べ物、街並み等）。韓国の男の子はみんな紳士的で優しかった。また、日本と韓国の間で色々問題があるけれど、あくまで国と国との問題で、民間レベルでは何もなかった。正直、韓国に行く前はテレビの報道を見てとても心配だったし、行くのをやめようかとも思ったけど、本当に行ってよかったなと思ったし、自分の目で見て、実際に体験することはとても大切なことなんだと改めて実感した。コミュニケーションは言葉だけでなく、心と心もつなげてくれるんだなと思った。

●今回の韓国訪問を通して、英語でコミュニケーションをとる楽しさを実感することができた。日本の授業などは英語であっても日本語は使うから、わからなかったら日本語にしとけ、みたいな感じだったしかし韓国での家族との会話の時は、日本語が通じないため英語だけになる。伝えたいけどどういかわからない場面があったが、自分の持っている知識の単語や、身ぶり手ぶりでなんとか伝えようとしたところ、EUN くんに伝わった。また英語での会話でも笑いが起きたこともあった。そんな時の達成感はとてもとても大きいものだった。

大東中での授業中や休憩時間なども英語を使ってコミュニケーションをとったが、日本と変わらないくらい楽しい学校生活だった。日本に帰ってきた僕は、これからも英語を頑張って、世界の人たちと笑って会話できるくらいに成長したい、と思った。

9 成果と課題

【成果】本研修を通して生徒も教員も、実際に体験する国際交流の重要性を感じることができている。

【課題】持続可能な交流体制の在り方を、検討していく必要がある。

●生徒の活動の様子



来年度の再会を約束して



(1)【事業報告】交流校との国際交流(希望者、課外活動)ポハン③(令和7年度)

文責 角田 喜彦

- 1 学年・教科等 希望者
2 日時 令和7年9月4日(木)～8日(月)
3 担当者 引率教員 2名(脇谷靖伸、中原正人)
4 対象生徒等 高等学校1～2年生 24名
5 本校 ESD の観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □在り方生き方探究プロジェクト
6 テーマ設定の背景・目的等

本研修の目的は、次の3点である。

- ①福山市の友好親善都市大韓民国浦項市の家庭にホームステイをすることで、韓国の人々の生活や歴史文化に触れ、異文化、さらには自国の歴史文化に対する理解を深める。
②生活の中で英語や韓国語を使うことで、外国語によるコミュニケーション能力の基礎を養う。
③中学時だけでなく、高校の中入生には継続的に、高入生には新規に海外研修の機会をもうける。

以上の目的を達成するために、次のような研修方法を採用した。

- 生徒に希望を取りながら浦項高校(男子校)及び浦項女子高校と連携し、ホストファミリーを決定する。
- 浦項高校(男子校)及び浦項女子高校においてそれぞれ半日授業を受ける。
- 一般家庭にホームステイし、家族の一員として生活する。
- 釜山市内を、団体での観光だけでなく、計画的かつ安全に海外の市内でのグループ別自主研修の企画立案を行い、その計画に基づいて活動を実施する。

7 内容の具体・展開の流れ

- 9月4日(木) 出国 浦項高校にてホストファミリーと対面 ホストファミリー宅で過ごす
9月5日(金) 浦項高校(男子校)及び浦項女子高校において授業・部活動に参加
9月6日(土) 引き続き、ホストファミリーと過ごし浦項市や周辺都市で体験活動 夕刻に釜山へ移動
9月7日(日) 釜山市での観光及び自主研修
9月8日(月) 釜山市内での観光 帰国

8 生徒の評価(感想など)

●この4泊5日の韓国での交流を振り返って、本当に貴重で忘れられない5日間だったと感じています。毎日が初めての経験の連続で、初めて見る景色、新しい文化、そして新たな友達との出会いなど、「初めて」があふれる毎日でした。

私にとってこの時間は、韓国の文化や雰囲気、人々の温かさを肌で感じることができた、本当に大切な時間でした。世界に友達ができるということが、こんなにも素敵で嬉しいことなんだと改めて実感しました。言葉では表しきれないほどの優しさをたくさんいただき、いつか何らかの形で恩返しができると思っています。もしこのプログラムに参加していなかったら、経験できなかったことが本当にたくさんあったと思います。参加できて本当に良かったと心から思います。毎日美味しい食事をいただき、楽しい活動をたくさん体験する中で、私は韓国という国が大好きになりました。この貴重な経験を無駄にしないよう、これからも勉強に励み、自分の進路にしっかりとつなげていきたいと思っています。この機会を与えてくれた家族や先生方、そして温かく受け入れてくださったホストファミリーの皆さんに心から感謝しています。いただいた皆さんの思いや支えに応えられるように、日々の学校生活を一生懸命がんばっていききたいと思っています。

●最初は、行ったことのない場所で、見知らぬ人たちと過ごすことに対して不安がありました。しかし、ホームステイ先の方々がとても優しく接して下さり、韓国の文化や生活についてたくさん学ぶことができました。毎日が新しい言葉や体験との出会いで、とても充実した4泊5日を過ごすことができました。今回の経験を通して、今後も韓国との交流ができる行事には積極的に参加しようと思いますし、勉強へのモチベーションにもつなげていきたいと思っています。この貴重な研修に参加させていただいたこと、そして支えてくださった先生方、スタッフの皆さん、そして家族に、心から感謝の気持ちを伝えたいです。

●最初は、現地の人たちとどのようにコミュニケーションを取ればよいのか不安でしたが、自分の英語が通じると分かったとき、自信が持てるようになり、積極的にいろいろな人と会話を楽しむことができました。日本と韓国の文化の違いも実際に体験することができ、「日本の当たり前が韓国の当たり前ではない」と実感できたことは、とても新鮮で安心感にもつながりました。たくさんの新しい友達と出会い、異なる文化に触れることができたのは、本当に貴重な経験だったと思います。

また、釜山市内での自主研修も、最初はとても緊張しましたが、事前しっかりと準備をして臨んだことで、大きな失敗もなく、時間も守って行動することができました。自分たちが訪れたいと思っていた場所にも予定通り行くことができ、とても満足のいく、充実した時間を過ごすことができました。

9 成果と課題

○本研修を通して生徒も教員も、実際に体験する国際交流の重要性を感じることができている。

△持続可能な交流体制の在り方を検討するとともに、中高の教職員に国際交流の意義を広く共有することが肝要である。とかく引率業務にのみ目が向けられがちであるが、計画的・戦略的な準備や関係機関との連携の重要性について理解を深め、担当部署だけでなく学校全体の重要業務として組織的に取り組むことが鍵となる。

△また、国際交流に係る知識や手続き上のノウハウを蓄積し、継承していく事も必要。

△近年の国際環境の激しい変化と国際為替環境における日本の脆弱性を鑑みて、国際交流に係る経費の確保も福山市や広島県、各省庁の協力を得て十分に確保する必要がある。

10 経緯と国際交流構築のための確認事項

◆ ポハン市との国際交流（高校部門）経緯

2015年～2019年

福山市と友好親善都市である大韓民国浦項市の私立大東中学校と福山中学校が相互訪問交流を継続

2020年～2021年

新型コロナウイルスの影響で交流を中断

2022年

福山中・高等学校の担当者がポハン市を訪問

- ・大東中学校に中学校交流の再開を打診
- ・併設されている大東高校に高校生の交流開始を提案するも、学校事情により断られる
- ・浦項市役所の国際交流担当課を訪問し、浦項市内の高校との交流ができないか調査を依頼

2023年5月

ポハン市役所から、浦項高校（男子校）・浦項女子高校（女子校）と福山高校（男女共学）の三校連携による交流案の提案あり

2023年6月

3校によるオンライン会議を実施し、福山側が「今年度中に交流開始」を強く希望し、交流実施に合意

2023年7月

ポハン高校・ポハン女子高校の管理職・国際交流担当教職員が福山中・高等学校を視察

2023年10月

福山高校の生徒12名（女子8名・男子4名）が浦項市を3泊4日の日程で訪問

- ・午前：ポハン高校訪問 午後：ポハン女子高校訪問

2024年1月

ポハン高校の男子生徒12名が福山高校を訪問（高2生のため5月訪問が困難なことへの代替対応）

2024年5月

浦項高校、浦項女子高校の生徒各10名合計20名が、福山中・高等学校を訪問 授業・文化交流を実施

2024年9月

福山高校の生徒（男子10名、女子11名）が浦項を訪問 4泊5日とし、釜山市内研修を1日追加

2025年5月

浦項高校、浦項女子高校の生徒各10名合計20名が、福山中・高等学校を訪問 授業・文化交流を実施

2025年7月

ポハン高校の生徒が個人で福山市を訪問し、福山中・高等学校にも来校

→ 交流が個人レベルでも継続し始めている。

2025年9月

福山高校の生徒（男子10名、女子14名）が浦項を訪問 4泊5日とし、釜山市内研修を1日追加

11 実現の背景にある支援体制の確立を図る

- ・浦項市役所：国際交流課による継続的な協力体制
- ・福山市役所：世界バラ会議推進室、多様性社会推進課の制度的支援、相互の訪問時記念品の提供
- ・福山市内ボランティア団体・通訳者等の協力体制の確立
- ・福山中・高等学校同窓会、PTAの支援体制

●生徒の活動の様子



(1)【事業報告】姉妹校との国際交流（希望者、課外活動）マレーシア①（H29、ディスカッション）

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 5年修学旅行「マレーシア高校生とのプレゼン&ディスカッション」(Haze)
- 2 日時 2017年(平成29年)10月2日(月)午前
- 3 担当者、招聘講師等 高橋俊光(物理)・上山晋平(英語)
- 4 対象生徒等 生徒6名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

5学年の修学旅行ではシンガポール・マレーシアに行く。マレーシアの高校では、シンガポールとマレーシア両国で問題になっている煙害(Haze)について、現地の高校生とプレゼンテーションやディスカッションを行う。この取組を通して、生徒は課題解決力、英語での表現力を養い、さらには交流にとどまらずに「アクション」に踏み込む一歩進んだ国際交流となることをねらいとする。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 4月～5月に5学年の実施する「夢チャレ」の活動の一端として、参加希望者を募る。
- (2) 参加確定者(6名)と担当教員(2名)でミーティングをしてねらいや今後の動きを確認する。
- (3) 生徒がHazeについて「日本語」で情報収集をする(担当:高橋教諭)。
- (4) 8月に、名古屋国際中学校(サステナブルスクール)との実践交流でHazeについてプレゼンを行う。
- (5) 修学旅行前(9月)に、5学年生徒と教員(約200名)の前で、Hazeについて20分間のプレゼンを行い、修学旅行でのディスカッション(全員参加)に備えて、Hazeについての情報提供を行う。
- (6) マレーシアの高校とやりとりをして、当日の流れを決定する(プレゼン5分、ディスカッション15分)。
- (7) 9月に、修学旅行での「英語」プレゼンに向けて生徒が英語版のスライドを作成する。
本校ALTの前で英語でHazeについてプレゼンとディスカッションを行い、英語表記等の修正を行う。
- (8) 当日全員が全員参加できるよう、「定義」や「関連公害等」について英語でまとめる用紙を配布する。
- (9) マレーシアの高校生と、英語でプレゼンとディスカッションを行う。
(流れ) ①両国プレゼン(各5分)→②全員でディスカッション(20分)→③両国まとめ(各3分)



(6名によるプレゼン)



(代表生徒のディスカッション)



(参加生徒同士のディスカッション)

8 生徒の評価(感想等)

- 修学旅行を通して一番英語を使ったのが、学校交流でのディスカッションだった。英語の即興力が必要とされ、最初は緊張したが、プレゼンをすることで普段通りに英語でコミュニケーションを取ることができた。
- 主にHazeのディスカッションが修学旅行の中でも印象的だった。「伝える」ということに関しては、文法が正しくなくても例えばジェスチャーを使ったり、自分の知っている単語をうまく伝えてみたり、工夫することで会話は続けることができた。また、自分が意見をまとめて発言したときには、なかなか即興での話は難しいなああと改めて感じた。特に「わかりやすく伝える」ということが難しかった。わかりやすく、かつ頭に残してほしいスピーチにする中で、すでに出ていた解決先を交えることができたのはよかった。

9 成果と課題

生徒から次のような成果と課題が出された。成果としては、「マレーシアの生徒と英語でのプレゼンが落ちてきてきたこと」、「楽しくコミュニケーションが取れたこと」であり、反省点としては、「ディスカッションの時に、もっと日本らしい日本の立場を強く反映したアイデアを準備しておけばよかったこと」と「発音やリスニングなどを鍛えてどんな英語にも対応できるようにすること」である。

(1)【事業報告】姉妹校との国際交流(希望者、課外活動)マレーシア②(H30、ディスカッション)

文責 柳浦達宏

- 1 学年・教科等 5年修学旅行「マレーシア高校生・大学生とのプレゼン&ディスカッション」
テーマ 「エビ養殖による東南アジアのマングローブ林・熱帯雨林の破壊と日本」
- 2 日時 2018年(平成30年)10月2日(火)午前
- 3 担当者、招聘講師等 柳浦達宏(地歴公民)
- 4 対象生徒等 生徒11名
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

5学年の修学旅行先はシンガポール・マレーシアである。マレーシアの大学・高校では、シンガポールとマレーシア両国を含む東南アジア全域で問題になっている「マングローブ林・熱帯雨林の破壊」について、現地の大学生・高校生と英語でプレゼンテーションやディスカッションを行う。この取組を通して、生徒は国際課題解決力や英語での表現力を養い、さらには交流にとどまらずに「アクション」に踏み込む一歩進んだ国際交流となることをねらいとする。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 4月～5月に5学年の実施する「夢チャレ」の活動の一端として、参加希望者を募る。
 - (2) 参加確定者(11名)と担当教員でミーティングをしてねらいや今後の動きを確認する。
 - (3) 生徒が「エビ養殖」「マングローブ林・熱帯雨林の破壊」について「日本語」で情報収集をする。
 - (4) 修学旅行前(9月)に、5学年全員の前で、「エビ養殖とマングローブ林・熱帯雨林の破壊」について20分間のプレゼンを行い、修学旅行でのディスカッション(全員参加)に備えて情報提供を行う。
 - (5) マレーシアの高校とやりとりをして、当日の流れを決定する(プレゼン5分、ディスカッション15分)。
 - (6) 9月に、修学旅行での「英語」プレゼンに向けて生徒が英語版のスライドを作成する。本校ALTの前で英語でプレゼンとディスカッションを行い、英語表記等の修正を行う。
 - (7) マレーシアの高校生と、英語でプレゼンとディスカッションを行う。
- (流れ) ①両国プレゼン(各10分)→②全員でディスカッション(20分)→③両国まとめ(各10分)



8 生徒の評価(感想等)

- とても充実した活動ができたと思う。修学旅行を終えてもっと前に進みたいような思いがある。英語をどうしても使わなければならない状況になって、意外に英語を使うことに抵抗がなく取り組めた。国内での日本語を使った活動なら、こうした思いはもてなかつただろう。
- 今回のテーマで研究ができたのはとてもよかったです。私たちの日常生活に欠かすことができないエビやパームオイルが東南アジア諸国の、いや世界にとってとても貴重な熱帯雨林を破壊しながら生産されていることに初めて気づくことができました。そして、そうした環境破壊に対して、環境に優しく安全な食品を生み出そうと努力する企業や大学が身近にあることを知ることができ、自分ももっと頑張るって社会の役に立つようにならなければいけないという気持ちになりました。

9 成果と課題

生徒から次のような成果と課題が出された。成果としては、ディスカッションの場では多くの生徒が大学生や高校生と英語を介してコミュニケーションがとれていたこと。反省点としては、まだまだ、コミュニケーション力が十分ではなかったということ。日頃の学習にもっと積極的に取り組まねばならないこと。

●マレーシアの高校のプレゼンテーションで使用したスライドの例（生徒作成）

Destruction of Mangrove Forests

Roles of Mangrove Forests

Natural breakwater	Remove contaminant	Protect wild animals and fish
Suction of CO ₂		Fisheries
Prevent desertification	Medicine	Lumber

If Mangrove Forests Disappear ...

CO₂
Cause CO₂

Decrease of sea grass

Decrease of Marine products

Salinity concentration Rises

Soil become acidity or alkalinity

Soil get worse

Erosion of shoreline

The Present Circumstance of Mangrove

- World: decreased more than 1/3 (1980~1990)
- South-East Asia: decreased 2% : about hundred thousand hectares (2000~2012)
- Thailand: decreased 63% (1978~1988)
- India: decreased 80% (21 century)
- Malaysia: decreased 12% (1980~1990) and decreasing about 1% year by year

The Variation of Mangrove Forests in Vietnam

Mangrove Preservation Activity

← mangrove forests in Langkawi Malaysia

RICOH.co.LTD's Project

- The preserving project in Kuala Selangor (2011)

PARCIC • PIFWA's Activity

- They started planting activity from 2010.

← Planting mangrove

What are Destroying Mangroves? especially this!

Aqua farming

Oil palm plantations

Rice cultivation

Mangrove live in both of land and sea.

2 kinds of Aquaculture

① extensive aquaculture
It's a traditional method of aquaculture. We can use ponds effectively.

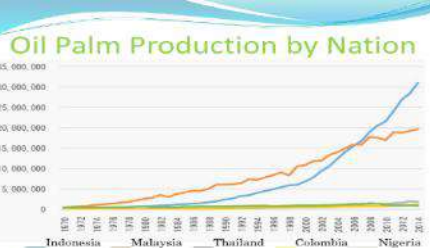
② intensive aquaculture.
A lot of shrimp are raised in one pond. Producers add chemicals in their feed. It made soil bad and we can't use the ponds forever.

Result

- In Thailand...100 million hectares of mangrove forests are destroyed.
- In Southeast Asia...30~50% of mangrove forests are destroyed.

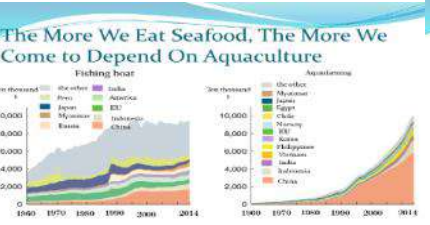
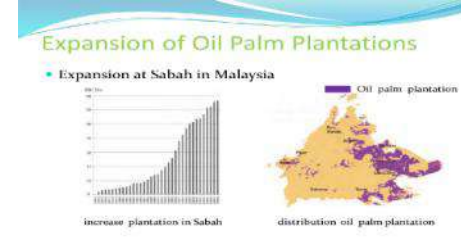
Oil Palm Plantation

Foods (chocolate, snacks, ice cream, and so on)
Others (soap, paint, cosmetic, and so on)



Damage of Oil Palm Plantations

Oil palm plantations are built in the areas where mangroves were cut.
2 million hectares of tropical rain forest were cut in 30 years after 1963.



World

Consumption of shrimp—increasing
Background: • many people interested in fish dishes
• technology for importing fish developed

← the main consumption

- China
- America
- Japan

Indoor Shrimp Farm

It is environment-friendly.

MSC • ASC

責任ある養殖により生産された水産物

海のエコラベル 持続可能な漁業で獲られた水産物

MSC 認証

www.msc.org/jp

RSPO: Roundtable on Sustainable Oil

Producer of oil palm

Oil company • trader company

retailer

Bank investment trust

maker

Society • development NGO

Conservation of nature NGO

(1)【事業報告】姉妹校との国際交流(希望者、課外活動)マレーシア③(ディスカッション)

文責 高尾香織

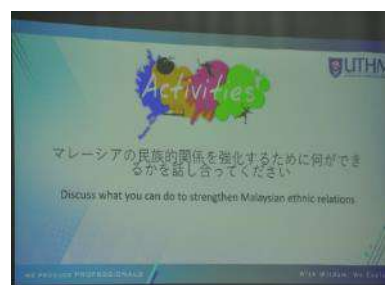
- 1 学年・教科等 5年 「夢チャレ」(修学旅行「マレーシア高校生・大学生とのプレゼン&ディスカッション」)
- 2 テーマ 「What individuals can do to diversity ?」
- 3 日時 2019年(令和元年)10月7日(火)午前
- 4 担当者 高尾香織(国語)
- 5 対象生徒等 生徒11名
- 6 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □在り方生き方探究プロジェクト

7 テーマ設定の背景・経緯・目的等

5学年の修学旅行ではシンガポール・マレーシアに行く。マレーシアの大学・高校では「多様性」をテーマに、多民族国家であるマレーシアにもある問題点や、将来外国籍の人が増えていくはずの日本が目指すべき方向性について、現地の大学生・高校生とプレゼンテーションやディスカッションを行う。この取組を通して、生徒は課題解決力、英語での表現力を養い、さらには交流にとどまらずに「アクション」に踏み込む一歩進んだ国際交流となることをねらいとする。

8 内容の具体・展開の流れ

- (1) 4月～5月に5学年の実施する「夢チャレ」の活動の一端として、参加希望者を募る。
- (2) 7月に参加確定者(11名)と担当教員でミーティングをしてねらいや今後の動きを確認する。
- (3) 8月に生徒が「多文化共生」「多様性」について情報収集をする。一部の生徒は外国籍の小学生を対象にした「日本語ボランティア」に参加する。
- (4) 9月上旬に、「やさしい日本語」についてレポートを提出する。5年生全員に「多様性」に関するアンケートを実施。
- (5) マレーシアの高校・大学と当日の流れを決定する(プレゼン5分、ディスカッション15分)。
- (6) 9月下旬に、修学旅行での「英語」プレゼンに向けて生徒が英語版のスライドを作成する。本校ALTの添削を受けて、英語表記等の修正を行う。
- (7) マレーシアの高校生・大学生と、英語でプレゼンとディスカッションを行う。
(流れ) ①両国プレゼン(各10分)→②全員でディスカッション(20分)→③両国まとめ(各10分)



9 生徒の評価(感想等)

- 日本の「多様性」の問題の一つに外国人と日本人との間にある「言語の壁」があげられます。総務省は将来に向けて「やさしい日本語」を全国に広げていく取組を行っています。言語の壁には外国人と日本人のお互いの積極性が足りないために出来てしまうものだと感じました。日本で「多様性」が実現するためには、私たちの世代が外国人とコミュニケーションをとっていくことが大切だと改めて感じる事ができました。
- 「多様性」を実現するためには、いろいろな視点から人と人との関係について見なければいけないことを学びました。また、人と関係を築く中で言語能力以上に積極的な態度が大切ということも学びました。大学の先生の講義の後、「実際にどのように接することが良いのか」についてテーブルごとに話しました。私たちは音楽やスポーツなどを通じてコミュニケーションを取ると言う意見を出しました。言語が通じなくても心を通わせることができることを考えると、相手と関わりを持つきっかけを作ることはとても大切だと思いました。姿勢や態度は、自分たちの意識ですぐに実践できることだと思います。

10 成果と課題

- 成果 ①決められたテーマの中から問題や課題を発見し、解決策を探究する力がついたこと
②積極的に発言していくことで発表する内容が深まり、問題点を明らかにできたこと。
- 課題 ①語学力と表現力を磨くこと。 ②日本語のプレゼンテーションの質を上げること。

●マレーシアの高校・大学のプレゼンテーションで使用したスライドの例 (生徒作成)

1

What can individuals do to diversity?

2

What's diversity?

- race
- nationality
- gender
- ideology
- language
- religion
- custom

etc...

3

The present condition of Fukuyama

People from abroad living in Fukuyama in 2019

Total 8632 people

- Vietnamese
- Chinese
- Filipino
- Korean
- Brazilian
- Indonesian
- Nepalese
- Thai
- Myanmarese

4

cultural exchange

Relaxing places for people from abroad

Shingu café ↑

5

The result of the survey from Fukuyama high school students

1. Did you come up with something about diversity?

<For instance>
global, culture, society, language, personality, world, creature and religion

6

2. Can you accept other cultures?

- YES
- NO
- OTHER
- NO ANSWER

"YES"

- I want to have local food in the local ways
- To search the other culture
- Cultural exchanges
- Home stay

"NO"

- I don't have confidence that I can accept all of the cultures
- I don't know what they do to us
- I can't speak English
- Indifferent

7

3. Do you want to communicate with people from abroad actively?

- YES
- NO
- OTHER

"YES"

- Seems interesting
- To grow their English skills
- I want to have valuable experiences
- In order to improve communicative skills

"NO"

- I don't want to communicate too much
- I don't feel like it
- Scary
- Bad at English

8

To improve communicative skills

To accept other culture is one thing, to speak another language is another.
"Let's listen, find, and think as your own problem!"

9

Yasasi (Easy and Kind) Japanese

- **Easy and Kind Japanese** is easier than normal Japanese for people from abroad to understand.

For example

避難 < にげる
↑
Easy to understand

10

Easy and Kind Japanese

Easy and Kind Japanese
... the attitude for communication and consideration

11

POINT

Be polite even if you can't make yourself understood .

- Use easy words.
- Be considerate of your expressions.
- Show yourself with a positive attitude

12

Can you understand these Japanese sentences?

Please explain what situation you use them in?

13

① 非常口はどこですか？

14

② 気分が悪いです。

15

What we can do and what we should do as Japanese people

16

① More Japanese people should learn "Easy and Kind Japanese".

17

② Get used to communicating with people from abroad.

18

③ Understand the importance of connection with people from abroad.

(2)【事業報告】海外ボランティア活動 (SYD、課外活動)

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 4・5年 総合的な学習の時間及び生徒の自主的な活動
(SYDと連携した「国際交流・国際貢献」活動)
- 2 日時 通年実施 (ボランティア・アクション in フィリピンは2017年 (平成29年) 8月実施)
- 3 担当者、招聘講師等 上山晋平 (教育研究部)
- 4 対象生徒等 生徒4名 (講演会は学年全員参加)
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □在り方生き方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本校では、ESDの3プロジェクトの一つに「国際課題解決プロジェクト」を設定し、総合的な学習の時間や生徒の自主的な活動として、文科省所管の社会教育団体・SYDと連携して、国際課題の解決に係る事業を実施している。主な事業は以下の5つである。①SYDの講師によるフィリピンでの支援活動に関する講演を聞く。②生徒同士で可能なアクションを考える。③文化祭で支援物資の呼びかけ及びSYD活動内容の発表をする(有志)。④代表生徒がSYDのボランティア・アクション in フィリピンに参加し、支援物資を届ける。⑤学年集会や市主催のイベントで活動を発表する。なお本校からは、フィリピンでの活動に4年連続で参加している。

7 内容の具体・展開の流れ

(1) SYDの講師によるフィリピンでの支援活動に関する講演を聞く

4年生は2月の総合的な学習の時間で、SYDの青木講師から、フィリピンの貧困地区における支援活動について講話を聞き、「国際交流」と「国際貢献」(ボランティア活動)について考え、生徒がアクションを起こすきっかけとする。世界の貧困について知るだけでなく、考え、自分たちにできることを「行動する」ことにつなげる。

(2) 生徒同士で可能なアクションを考える

生徒は講演後に感想文を書き、さらに自分なりに何ができるのかを付箋に書き出しクラスでまとめた(画像参照)。

(3) 有志が文化祭で支援物資の呼びかけ及びSYD活動内容の発表をする

6月の文化祭では、ボランティア部や有志が中心となって、SYDの活動を紹介するポスター掲示を行ったり、フィリピンに届ける支援物資を学校全体から回収したりする取組を行った(次項参照)。

(4) 代表生徒がSYDのボランティアアクション in フィリピンに参加し、支援物資を届ける(次項参照)

8月にはSYDが全国から募集し実施するボランティア・アクション in フィリピンに、本校生徒4名が応募し、選ばれる。学校全体で回収した物資を支援物資に入れて届けたり、現地の子どもたちと交流したりした。

(5) 学年集会や福山市主催の人権・平和フェスタで活動内容を発表する。

フィリピンでのボランティア活動に参加した生徒が、学年全員の前で総合的な学習の時間で活動内容を報告した。さらに、市から依頼で、人権後援会でも取組を発表した。



ボランティアに参加するだけではなく
そこで体験したこと、学んだことをみんなに
伝え、みんなの「きっかけ」になること。

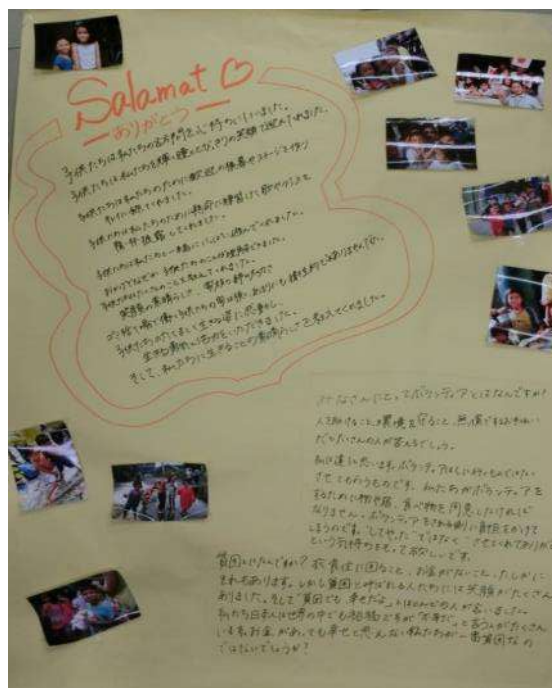
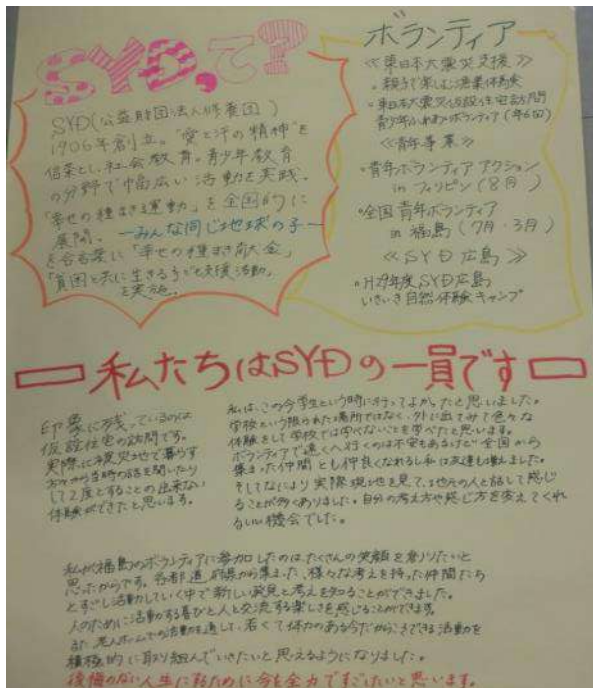
8 生徒の評価(感想等)

- 私が考えたこともないような暮らしをしている人々が世界にはたくさんいる。私は今日、この事実を改めて知りました。ストリートチルドレン、死を待つ人の家、ゴミ捨て場で働く子どもたち、どれも衝撃的でした。正直「かわいそう」という気持ちが大きすぎてつらかったです。でも、この子どもたちは必死で生きています。そんな立派な彼らの姿を見て、自分が情けなく恥ずかしいとさえ思いました。●●さんの発表で、●●さんが言っていた「ボランティアの目的はボランティアがなくなる」という言葉、これが私の心に響きました。一人一人が協力して、みんなが助け合おうという気持ちになったら、全員に未来が訪れるのではないかなと思います。

9 成果と課題

- 世界の状況は「知る」ことがまず必要である。その意味では、SYD講師による心に響く講演と参加生徒による体験談がとても大きな影響を与えた。しかし、聞くだけでは時間と共に記憶は風化する。そこで「生徒が動く」につなげるために、「ボランティア部」やESDの取組と関連させて、できることを全員が考える取組を行った。付箋は全クラス及び図書館に掲示し、全校生徒での支援物資の回収行動につながった。
- 5学年の「夢チャレ」の取組もあり、フィリピンや福島でのボランティア、広島や小豆島での小学生キャンプリーダーなどのイベントにも多くの生徒が参加し、体験的に学びを深めている。

(1) 文化祭での生徒作成ポスター



(2) ボランティア・アクション in フィリピン (参加生徒感想文) ~ 「私が泣いた理由」

私は、8月終わりの一週間をフィリピンで過ごした。その一週間は、今までの私の人生の中で、一番楽しくて刺激的だった一週間であり、一番後悔して悔しい思いをした一週間になった。

私は毎日、日本から一緒に来た仲間たちと一緒に、フィリピンのいろいろな所へ行って、家や学校などを訪問し、現地の方々や子どもたちと交流したり、物資や食べ物を配ったりした。ナボタス、ハッピーランド、サンマテヨ、旧スモーキーマウンテン、パヤタス、そしてマザーテレサの施設。フィリピンの人たちは皆優しく、どこへ行っても歓迎してもらえた。特に子どもたちは、どの子も皆笑顔で寄ってきてくれたり、遠くからでも私たちに手を振ったりしてくれた。子どもたちと交流するときは、英語が話せない子が多かったので、言葉を使う以外の方法でコミュニケーションをとらなければならなかった。だから、何を伝えたいのか正確に理解してあげることは出来なかったが、一緒に遊んで一緒に楽しむことは出来た。抱っこしてあげたり、ハイタッチしたり、鬼ごっこをしたり。子どもたちは、言葉の通じない私たちにもキラキラまぶしい笑顔で笑って、全力で遊んでくれた。全身で楽しんでることを伝えてくれた。言葉がなくても仲良くなれたことを実感した時は、とてもうれしかった。子どもたちと笑いあうことに幸せを感じていた。

でも、5日目。パヤタスに住む女の子たちと一緒に遊園地で遊んだ時のことだった。帰りの集合時刻が迫ってきている頃、私は一緒に遊んだ1人の女の子に、「楽しかった?」と聞いてみた。私は、今までの子がそうであったように、きっと「楽しかったよ!」と言ってもらえると思っていた。でも、その女の子は笑顔で「NO!」と言った。私はすごくショックだった。彼女は笑顔で答えたので、もしかしたら、私の英語が拙くて、他のことを聞いたように聞こえたのかもしれない。もしかしたら、イタズラ心で思っていることと逆のことを言っているのかもしれない。けれど、もし「NO!」が本心だったらと思うと、怖くて「NO!」と答えた理由を聞くことは出来なかった。

その日の夜、私はフィリピンに来てから毎日つけてきた日記を読み返してみた。すると、日記の終わりには必ず「明日はもっと頑張ろう」といった内容が書いてあることに気づいた。私はもっと頑張れたのではないだろうか。そうしていたら、もっと何かしてあげることが出来たのではないだろうか。もっと行動を変えていけば、「YES!」と言われてたのかな。もし他の子も心の底では「楽しかったな」と思っていたら。私は一緒にいる子たちをどのくらい幸せにしてあげられたら。考えれば考えるほど不安になったし、1日中一緒にいた子すら幸せにしてあげられなかったのかもしれないと思うとすごく悔しくて、自分がとても情けなく感じた。

次の日の夜は、評価会があった。1人1人前に出て感じたこと、思ったことを発表していった。多くの人が、幸せについての自分の意見や、誰かを笑顔に、幸せに出来た体験などを語った。私はそんな皆をとても羨ましく思った。私もフィリピンの人たちからたくさんの幸せをもらったけれど、2倍以上のもの、そもそももらった分の幸せを返せたか…自信がもてなかったからだ。とても、とても悔しかった。だから私は、自分の番が回ってきて、皆の前に立って話したとき、今までの記憶とそれらの思いが頭の中でごちゃ混ぜになってしまっ、涙がポロポロ出てきた。

私は「幸せ」とは何か、「愛」とは何か、まだわからない。知らないものは怖いから、早く答えを見つけたいけれど、私は、焦らずゆっくり自分の長い人生の中で、「これだ!」と思う答えを探していく。誰かの受け売りじゃなく、一番納得のいく自分の言葉で。

そして、私はいつかもう一度あの女の子と一緒に遊園地に行きたい。今度こそ「楽しかった!」と言ってもらうために!

(3)【事業報告】 模擬国連 (ICC 等有志、特別活動)

文責 藤田憲弘

- 1 学年・教科等 高校生 希望者
- 2 日時 夏休み前後～11月
- 3 担当者、招聘講師等 藤田 憲弘
- 4 対象生徒等 希望者及び情報収集サポーター (2～4名程度)
- 5 本校 ESD の観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

模擬国連は、世界の様々な課題に対し生徒が国連大使を演じながら、参加国での合意形成をめざしていくプログラムで、そこでは、課題に対する分析力や、合意形成にいたる交渉力、英語力など多くの力が必要とされる。本校では、国連大学(東京)で行われる全日本高校模擬国連大会に、第11回大会を含めて4回出場しており、この大会出場を核に、様々な取組を行ってきた。

7 内容の具体・展開の流れ【参加した全日本高校模擬国連大会】

- 第6回 全日本高校模擬国連大会 (担当国:インド/テーマ:核軍縮に向けて)
- 第9回 全日本高校模擬国連大会 (担当国:アルゼンチン/テーマ:移民問題)
- 第10回 全日本高校模擬国連大会 (担当国:キューバ/テーマ:サイバースペースのルールづくり)
- 第11回 全日本高校模擬国連大会 (担当国:マレーシア/テーマ:ジェンダーフリー)

8 生徒の評価(感想など)

- 模擬国連の取組の中で最も変わったのは、「授業を聴いていても単なる受け身でなく、反論したいという気持ちがあわくようになった」ことです。(湯崎知事とのチャレンジトークにて)

9 成果と課題

模擬国連の取組は膨大で、時間がない中で成果を挙げるには多くの工夫が必要となる。いくつか記す。

(1) 模擬国連活動の広がりに向けて

①出場者だけでなくサポーターの募集

- ・大会に向けて膨大な資料収集が要求される。そこでサポーター生徒を募集し、資料作りに参加してもらう。サポーター生徒は、下の学年にも呼びかけ、本大会へも見学者として連れて行くことで、取組を持続させる。

②校内模擬国連の開催

- ・本校には、大学での模擬国連活動で活躍したOBもいて、その方の指導の下、文化祭で校内模擬国連を過去2回行った。中高校生に加え近隣の大学生にも呼びかけ、模擬国連活動の普及活動を行った。

③核となる部活動の設置

- ・「英語研究部」は、英語によるコミュニケーションだけでなく、国際問題への取組や多文化理解などを含めた部にすべく、平成29年度からICCに変更し、国際問題に興味を抱く広い人材を集めようとしてきた。

*●I:Ichiritsu International ●C:Communication Cross Culture Cooperation ●C:Club

④全日本大会以外の模擬国連への参加

- ・今年度は、8月に東京で希望者を対象とした教育模擬国連が行われた。本校5学年生徒10名も、OBによる事前指導等を受けて、この大会に参加し、そのなかから全日本大会への出場者も出すことができた。
- ・広島県内でも、様々な模擬国連が開かれており、ICCを中心に希望生徒が広島での各種大会に参加している。

(2) 校外とのつながり

①大学とのつながり

- ・第6回大会:担当国の専門である広島大学大学院の吉田修教授から、事前学習会で数度指導いただいた。
- ・第9回大会:OBのつながりから、関西の大学での模擬国連研修に参加しアドバイスをいただいた。
- ・第10回大会:福山市立大学の上別府隆男教授から指導いただいた(資料収集、大学生の校内模擬国連参加)。

②他の高校とのつながり

- ・第10回大会から、灘高校での勉強会に参加させていただいた。その後も生徒はSNSで交流している。

③その他の機関とのつながり

- ・第9回大会では、担当国であるアルゼンチン大使館へ連絡し、メールで情報のやりとりを行うとともに、大会出場前日には、大使館を訪問し、領事の方から2時間にわたる英語でのレクチャーを受けることができた。

第 10 回全日本高校模擬国連大会

昨年に続き、3 回目の出場となりました。

今年は、事前に灘高校での研修会にも招待され、毎夜、資料と格闘して臨みました。

今回のテーマは、サイバースペースにおける安全保障問題でした。キューバ大使を演じ、公式スピーチでは、各国が内向きにならないよう交渉の門を開くことの重要性を訴えました。

予選を勝ち抜いて出場したのは、5 年生 1 組の田林佳純さんと宮崎美風さんです。2 日間にわたる延々とした会議を知力・体力とコミュニケーション力をフル活用して乗り切りました。

4 年生有志（4 組・松本和子さん 6 組・佐藤瑠楓さん）もオブザーバーとして参加し、来年度へ向けて研修を積みましました。



国連大学は、東京・青山にあります



キューバ国連大使



各大使 2 分の英語での
公式スピーチ



本校生徒作成：公式スピーチ（キューバ大使役）

Thank you (Honorable)、 chair.

Next year、 50 years will have passed since Che Guevara died. 57 years ago、 they did their best to make a peaceful and non-disparate society. Their dreams are not only legacies of the past; they are still the hopes of people in our country、 Cuba、 and the people of the world. Recently、 I saw the news that young people in Europe did a demonstration by hanging up the picture of Guevara. Their anger is about present day disparate societies.

And、 this gap exists in cyberspace as well. This gap must not be allowed to be used by technologically advanced countries to gain political or economic advantages over technologically developing countries.

If ICT technology is used as a new tool of exploitation、 we flatly refuse that offer.

Now a lot of cyber-attacks cross our borders、 we can't keep this unstable ICT environment in our technologically developing countries because it will be a terrible threat to world peace. But、 we think technologically developed nations already know this.

Cuba opened our border to our neighbor last year. On the other hand、 some developed countries made the big decision to close their borders this year. We hope that this tide will not be an obstacle of happiness and peace.

For world peace、 for the happiness of every national citizen、 and for the sake of making the correct decisions、 let us continue an open and friendly dialogue.

(4)【事業報告】第10回全国高等学校観光選手権大会（観光甲子園、ICC有志）

文責 新宮正一

- 1 学年・教科等 5年 「夢チャレ」観光甲子園海外部門での発表
- 2 日時 2018年（平成30年）8月23日（木）午後
- 3 担当者、招聘講師等 新宮正一（地理歴史）
- 4 対象生徒等 生徒2名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

「観光甲子園」は平成30年度で10度目をむかえる全国規模の大会である。従来は地域におけるインバウンドに対する観光プランの発表であったが、平成30年度から「ハワイ移民150年」を記念して海外部門が設立された。これはハワイに関するスピーチコンテストであり、優秀なスピーチ・プレゼンが全国大会へ参加できるというものである。

今回は、参加生徒の高祖父（祖父母の祖父）がハワイへ移民しており、残された高祖父の写真から高祖父や日本人移民の足跡を旅するというスタディツアーを企画することになった。この一連のスピーチ・プレゼンを作成する時に、様々な資料を収集し、関係各所にメールで問い合わせを行う必要がある。特に今回の場合は、ハワイが対象であったために「ワヒアナ広島県人会」や「ドールプランテーション農場」などに英語でメールを送って取材・写真などの使用許可をいただいた。これらの実践的な国際交流過程を通して、生徒は課題解決力や英語での表現力を養うことができた。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 4月～5月に5学年が実施する「夢チャレ」の活動の一端として、参加希望者を募る。
- (2) 本事業担当者と参加者が今後の方針について話し合う。
- (3) 生徒がハワイの関係各地に「英語」で情報収集をする。
- (4) 6月に「観光甲子園・海外部門」に応募する。
- (5) 7月に「観光甲子園・海外部門」の本選出場が決定する。（場所：神戸）
- (6) スピーチ原稿・プレゼンテーション資料の作成を行う（プレゼンテーション10分間）。
- (7) 8月23日 神戸ポートオアシスで第10回全国高等学校観光選手権大会が開催される。
海外部門で本選出場3組のうち最優秀としてグランプリを獲得する。



8 生徒の評価（感想等）

- ハワイの歴史について調べてみました。私の高祖父がハワイでパイナップル栽培をしていたので、「日系移民」をテーマとしてレポートを作成しました。今回の取組を振り返ってみて、今まで移民について少しは触れたことがあったけど、「日系移民」という絞られたターゲットについて調べるのはこれが初めてでした。私の高祖父の歴史について知ることが出来てよかったです。

9 成果と課題

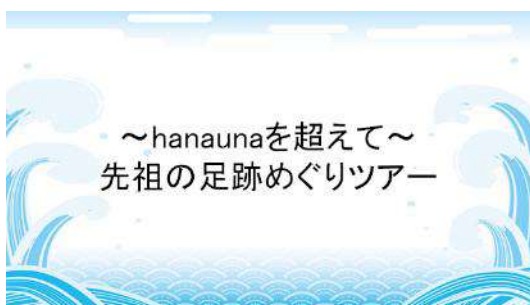
- （成果）成果としては、リサーチや取材を英語で行うことができたことが挙げられる。プレゼンテーション資料で使用する写真等の著作権関係に関しても学ぶことができたのはよかった。日系移民の歴史を生徒のファミリーヒストリーを通して学ぶことができ、共有できたのも非常に評価できる。
- （課題）一方で、こうした取組を一過的なものにしてはならない。今回は偶然に生徒の高祖父の話があって、一定の課題意識をもってリサーチ・プレゼンテーションを行うことができたが、こうした取組の裾野を拡大していくためには、もっと広く情報を提供していく必要があると感じる。

●観光甲子園のプレゼンテーションで使用したスライドの例（生徒作成）



広島県人会の方々から学んだこと

- ・ハワイまでは船で**一週間、無料**で行った。
- ・多くの労働者たちは、県や市、町、寺などから**支援**を受けていた。
- ・農園労働者たちは、**69セント～1.5ドル**を一日で稼いだ。
- ・一ヶ月に**26日働き、12時間**工場で働くか、**10時間**畑で働いた。
- ・お盆に盆踊りをするなど、今も尚ハワイで**受け継がれている日本の文化**がある。



ハワイプランテーションビレッジ

「アロハプログラム 記事名ハワイプランテーションビレッジより」

ハワイ日本文化センター

「アロハプログラム 記事名ハワイ日本文化センターより」

ドールプランテーション

<https://doileplantation.jp/activitydirect.com/pinesapple-express/>

- 1 学年・教科等 高校2年生の有志・希望者
2 日時 令和 元 年6月6日(木)～12月20日(金)
3 担当者 新宮正一
4 対象生徒等 高校2年生 3名
5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

① テーマ設定

- ・地元神辺の地酒「天寶一」を外国人観光客に紹介し、地域の活性化をはかると同時に地域の伝統的なモノ作りを見直すことによって、伝統的なモノ作りに新しい価値を見出す。
- ・日本の伝統文化である酒造りを神事の面から訪日外国人観光客に紹介する
- ・田植体験を通して、自らが携わった酒米が地酒天寶一になるまでをSNSで発信し、製品となった天寶一を頒布する。
- ・一連の企画を通して最終的に神辺地域の活性化とモノ作りの町福山を海外にPRする。

② 経緯

昨年度応募した「全国高等学校観光選手権大会(観光甲子園)」に向けた取組であったが、48万人の人口を持つ中核都市福山は、地方の一都市に過ぎず、町おこしに特化している訳でもないため、観光としての福山市を前面に出して観光プランを作ることは難しいと感じていた。しかし、地域に残る伝統的なモノ作りにフォーカスすることで新しい観点でのインバウンドが期待できるのではないかと考えた。そのような中で、日本酒の女性ソムリエの方の記事を読んだことから、「伝統的な日本文化の象徴としての酒造り」と「ミスマッチな高校生と酒」をテーマとした本企画を考案した。

7 内容の具体・展開の流れ

- 6月6日(木) 酒蔵天寶一へ取材依頼を行う
- 7月12日(金) 全国高等学校観光選手権大会書類審査通過
- 7月30日(火) 酒造米栽培農家 横山氏への取材
- 10月11日(金) 稲刈りの取材
- 10月17日(木) 天寶一の仕込み作業取材
- 11月23日(土) 岡山イノベーションコンテスト2019 ファイナル
- 12月20日(金) 全国高等学校観光選手権大会結果発表

8 生徒の評価(感想など)

- 今まで漠然としか進路のことを考えていなかったが、この活動を通してモノ作りに携わることもしてみたいと思えるようになった。
- 動画のコンテからプレゼンテーション用の資料まで色々と考えて作成できたことがよかった。それぞれが役割分担して取り組めたこともよかったと思う。
- 岡山イノベーションコンテストで自分たちの企画が評価されなかったのは悔しかったが、一つの企画に取り組めたことは楽しかった。

9 成果と課題

【成果】①全国高等学校観光選手権大会書類審査通過(参加企画2)

②岡山イノベーションコンテスト2019 ファイナル進出

③取材を通して多くの方と出会い、様々なお話を聞くことができた。自分たちの世界が広がった。

【課題】①全国高等学校観光選手権大会では、本選に選出されるために3分間の動画を作成する必要があったが、取材時の機材や編集ソフト等に不慣れで不十分なものしか作成できなかった。今後、こうした

IT 機器の扱いを生徒と共に学んでいく必要がある。

②岡山イノベーションコンテストでは、バーチャルリアリティのキャラクターを使用した企画の方が高く評価されたが、これは反面本企画のテーマが分かりにくかったといえる。企画のブラッシュアップが必要である。

●生徒の活動の様子



酒造天寶一の取材の様子



酒の神様 松尾さんを祀る



岡山イノベーションコンテスト 2019 の様子



山陽新聞 2019年10月30日掲載

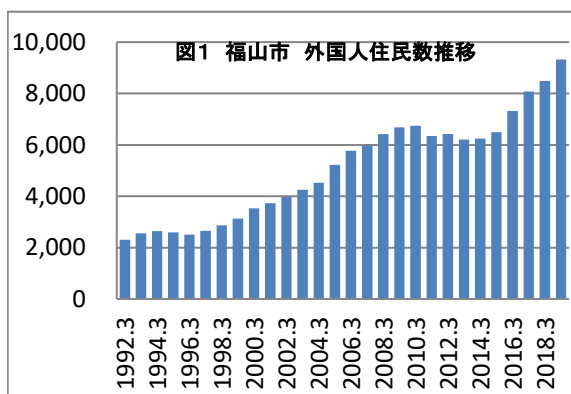


(6)【事業報告】外国にルーツを持つ児童・生徒への学習ボランティア(部活動)

文責 藤田憲弘

- 1 学年・教科等 ICC 部員および4・5年有志
- 2 テーマ 外国にルーツを持つ児童・生徒への学習支援(ふくやま国際交流協会およびNPOとの連携)
- 3 日時 2019年(令和元年)7月～
- 4 担当者 藤田憲弘
- 5 対象生徒等 ICC 部員生徒8名および4・5年生希望者
- 6 本校 ESD の観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 生き方・在り方探究プロジェクト
- 7 テーマ設定の背景・経緯・目的等

2019年の7月、以前から連携を取っている福山市のふくやま国際交流協会(市民相談課)から、「夏休みを利用して、地域の外国人児童・生徒に、宿題をしながら日本語学習支援をしたいので、高校生が参加できないだろうか」という相談を頂いた。福山市内でもベトナム人を中心に、外国人居住者が増えており(図1・2参照)、地域における多文化共生について肌で考える良い機会と考え、参加させて頂いた。参加者は、ICC部員だけでなく、4・5年生にもHRを通じて公募したところ、国際交流のイメージや探究活動の一環として参加する生徒など、全体で15名前後の生徒が手を挙げた。また、ふくやま国際交流協会で設定された機会だけでなく、ここでの縁を広げて、地域での多文化共生に関するプログラムにも発展していった。



8 内容の具体・展開の流れ

- (1) 夏季および冬季休暇前にふくやま国際交流協会と連携してボランティアの内容と日程を確認する。
- (2) ICC部員を含め、校内で参加者を募集し、事前レクチャーを行う。
- (3) ボランティア実施期間は、主催者である協会の方と生徒の活動を支援する。
- (4) 活動の様子を校内ブログで発信したり、紹介された新聞記事を掲示したりして、地域における課題を広く知ってもらう。
- (5) 協会の活動だけでなく、NPO等での活動も紹介し、関心のある生徒が持続的に関われる場を提供する。

* 活動実績

- 2019年夏季休暇中：7日間 参加者17名(4年生1名 5年生16名)
2019年冬季休暇中：3日間 参加者19名(4年生12名 5年生6名 6年生1名)
2020年夏季休暇中：5日間 参加者13名(4年生7名 5年生6名)
2020年冬季休暇中：3日間 参加者6名(4年生2名 5年生4名)

9 生徒の評価(感想等)

- 僕は小学1年生の男の子を教えました。小学1年生なので日本語を話すことも、理解することも難しい様子だったので、教える側の僕も焦りました。詳しく説明しようすればするほど言葉が難しくなるので、言葉選びがとても大変でした。でも、相手の子が僕の言葉で理解してくれた時はとても嬉しかったです。
- 私は中学生の女の子を教えました。日本語なのに日本語で説明できないもどかしさを感じたり日本人なのに知らないことが多く恥ずかしくなりました。また、外国にルーツのある子どもが日本で暮らすことの難しさを感じるとともにその中で生きる力強さに感動しました。
- クリスマス文化の違いやキリスト教の考え方を知ることができ、改めて国際交流の面白さ、多文化共生の大切さを感じました。

10 成果と課題

成果 ①以前は、大人のボランティア活動に高校生も参加する形になったが、参加する児童や国際交流協会の方々からも信頼を得ることができ、本校のグローバルな活動として、継続定着している。

②地域で増加しつつある外国人と接することにより、多様な人が暮らす社会で、自分たちができるとや共生社会のあり方を考える契機となった。特に、中学3年生を支援した生徒は、受験勉強から入学手続きまでを支援する中で、外国にルーツを持つ生徒が日本で進路を切り拓いていくことの困難さを痛感することができ、自分たちができる活動を見直し、チャレンジしていった。

課題 ①日本語で教えることで、日本語を客観視し、「やさしい日本語」の使い方について考える生徒は多かったが、外国人児童・生徒が抱える背景や課題にまで視野を広げていける生徒は限られていた。

②現在は、小学生がおもな対象であるが、この児童たちが中学・高校と進学するなかで、ボランティアのニーズは高まっていくし、既に潜在的に必要としている生徒は多い。ともに持続可能な地域社会を築いていくために、長い世代に渡って付き合っていくよう、ICCがそのベースキャンプに発展していければと思う。

2019.8.中国新聞

2020.2.中国新聞



2019.8.NHK

2020.12.朝日新聞

(7)【事業報告】コロナ禍におけるリモートでの国際交流（部活動）

文責 藤田憲弘

- 1 学年・教科等 ICC（部活動）4～5年
- 2 テーマ ZOOM カフェ（リモートでの国際交流）
- 3 日時 2020年（令和2年）6月1日～
- 4 担当者 藤田憲弘
- 5 対象生徒等 生徒8名
- 6 本校 ESD の観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □生き方・在り方探究プロジェクト
- 7 テーマ設定の背景・経緯・目的等

旧「英語部」である ICC (Ichiritsu International Communication Cross culture and Communication Club) の主な活動の一つに国際交流がある。例年は、各国・地域から本校を訪れる交流団の方々をバディとして支援することが中心だった。しかし、コロナ禍で対面交流が途絶えたため、ZOOM を使ったリモート交流を模索。本校に縁のある外国人や国際的に活動する卒業生に声をかけたところ、快く参加して下さり、例年以上に交流の幅が広がった。さらに、活動を報じた新聞記事を見た方が、「リモートもいいけど、やっぱりリアルで」と、地元ケニア人を紹介して下さるなど、新たな出会いにもつながった。

8 内容の具体・展開の流れ

- (1) 交流相手を様々なネットワークから探して依頼し、当日のテーマについて相談する。
- (2) 事前に学習が必要な場合は、グーグルクラスルームを使って、資料を提示する。
- (3) 学校全体に呼び掛けた方が良い場合は、ポスター等で全体に紹介する。
- (4) 特別教室に wifi 環境を設定し、パソコンやタブレットを数台用意して、3蜜を避ける状況をつくる。
- (5) ZOOM を使って、交流する。

* 交流実績（2020年6月～2020年11月）

- アフガニスタン在住のアマン・アタエイさん（カブール市公務員、JICA で来日時に本校生徒と交流）
テーマ「アフガニスタンの現状、民族文化」3回
- シアトル留学中の宮本一希先輩（大学3年生）テーマ「留学事情、最近のアメリカ事情」
- 神戸在住今春卒業した曾祢メラティ先輩（大学1年生、ICC 前部長）
テーマ「難民問題サークルでの活動」
- 福山在住のケニア人、エリック・ムネネさん（留学生を支援する会前会長・小川久志様の紹介）
テーマ「ケニアについて知っていますか？」 *リアルカフェ
- ドイツ、フライブルク大学トバヤさん（カナダ人 ALT リースさんの友人）

9 生徒の評価（感想等）

- 海外におられる方とも気軽にトーキングができるので、とても楽しいし、良い経験になっています。卒業後も参加してみたいと思っています。
- 去年より、部活が ZOOM カフェで増えたのが嬉しかったです。部員以外の参加もあっていいと思います。
- コロナ禍でできることが限られる今、沢山の方と交流できたことはとても良い経験になったと思います。ただ、英語での会話は意味がわからないこともあり、自分でもどうやって伝えたらいいのかが難しいです。
- 専門用語を英語で言われると、理解が難しいが、テーマをもとに話し合えるようにしたいです。

10 成果と課題

成果 ①リアルでの交流は、機会が限定される。対して、リモートでの交流は、相手を見つけることができれば、世界中で様々な背景を持った人たちと交流することができ、例年以上の出会いがあった。

②卒業生のネットワークからも交流できたことは、生徒にとっても身近に感じることであった。自分たちもあのように活躍したいと夢見ることができたのではないかな。

課題 ①会話を進めるための語学力がまだ充分でなく、アフガニスタンの方との通訳をシアトルにいる先輩がしてくれるという場面もあった。

②相手への質問内容が、食べ物や見所で終わりがちである。例えば、アフガニスタンの現状や歴史文化について、ある程度の基礎知識がないと会話が進まない。「質問するとき、相手に関して無知はだめ」と、社会学の先生から部員も学んでいたが、前もっての学習も必要である。



福山高 ICC が「ラーニングカフェ」

オンラインで異文化交流
海外の卒業生や外国人

福山赤坂町の福山私立福山高のICC(国際交流クラブ)は、海外にいる卒業生や外国人とオンラインで交流する「ラーニングカフェ」を始めた。新型コロナウイルスの影響を受けて減少した異文化交流の機会を確保する。

放課後の教室で毎週水曜日に「Zoom(ズーム)」を用いて現地となる。17日は、かつては最大に留学した、同校を訪れたことも短期留学プログラムや留学

オンラインで異文化交流

海外の卒業生や外国人との交流を促す。この日は米国に留学中の卒業生も参加。アメリカや日本企業との交流も積極的に行われている。同校は、今年予定していた新入生や



中国新聞での紹介記事と実施風景



リアルカフェの校内案内ポスター



ケニアについてのリアルカフェ



ALTのサポートでドイツと交流



国内外の複数拠点から参加



文化週間にて中学生も参加



大学の先生からアドバイス

(8)【事業報告】シンガポール国際交流（希望者、課外活動）JENESYS（令和7年度）

文責 角田 喜彦

- 1 学年・教科等 希望者
- 2 日時 令和8年2月3日（火）～10日（火）
- 3 担当者 引率教員 1名 JICE スタッフ同行
- 4 対象生徒等 高等学校志望生徒 9名
- 5 本校 ESD の観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □在り方生き方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・目的等

本研修は、日本政府が実施する青少年交流事業「JENESYS（対日理解促進交流プログラム）」の一環として実施されたものである。本研修の目的は、次の3点である。

- ①シンガポールの社会や文化、教育制度を体験的に学ぶことで、日本との共通点や違いを理解し、国際社会に対する視野を広げる。今派遣のテーマは「街づくり」である。
- ②現地学生との交流やホームステイを通して、英語によるコミュニケーション能力を高める。
- ③日本文化や日本社会の魅力を海外の若者へ発信することで、日本とシンガポールの相互理解を促進する。

以上の目的を達成するために、次のような研修方法が採用されている。

- 現地教育機関を訪問し、学生との交流活動を実施する
- 日本文化紹介プレゼンテーションやワークショップを通して相互理解を深める
- 企業訪問を通してシンガポールの産業や国際ビジネスについて学ぶ
- 多文化社会であるシンガポールの都市や文化施設を訪問し、社会構造や都市政策について理解する
- 現地家庭にホームステイし、家族の一員として生活を体験する

7 内容の具体・展開の流れ

- 2月3日（火） 出国 シンガポール到着
- 2月4日（水） 在シンガポール日本国大使館訪問 National Youth Council 訪問 企業訪問
- 2月5日（木） 教育機関（Ngee An Polytechnic）訪問
- 2月6日（金） 教育機関（Temasek Polytechnic）訪問 都市視察
- 2月7日（土） ホームステイ
- 2月8日（日） 市内視察 文化体験
- 2月9日（月） 成果発表 帰国
- 2月10日（火） 日本到着

8 生徒の評価（感想など）

- 今回のシンガポールでの交流を振り返って、とても貴重で忘れられない経験になりました。多民族社会の中で様々な文化や宗教が共存している様子を実際に見ることができ、日本とは違う社会の在り方を学ぶことができました。現地の学生との交流では、英語でコミュニケーションを取ることに難しさ楽しさの両方を感じることができました。日本文化を紹介する活動では、日本の魅力を改めて考えるきっかけにもなりました。
- 最初は英語での会話に不安がありましたが、現地の学生やホストファミリーの方々がとても親切に接してくださり、安心して交流することができました。実際に生活を共にする中で、教科書だけでは学ぶことのできない文化や生活習慣の違いを知ることができ、とても良い経験になりました。
- 企業訪問や都市視察を通して、シンガポールが国際都市として発展している理由を知ることができました。特に、多様な人々が協力しながら社会をつくっている点が印象に残りました。今回の経験を今後の学習や進路にも生かしていきたいと思えます。

9 成果と課題

【成果】本研修を通して、生徒は多文化社会に対する理解を深めるとともに、英語によるコミュニケーション能力の向上を実感することができた。また、日本文化を海外に発信する経験を通して、日本について主体的に考える機会となった。

【課題】今後は、海外研修で得られた学びを学校全体で共有し、国際理解教育の充実につなげていくことが重要である。また、事前学習や事後学習・帰国後のアクションプランの充実を図り、研修成果をより深い学びへと発展させる必要がある。近年の国際環境の変化や為替環境の影響により、海外研修の実施には財政的な課題も生じている。国際交流活動を持続可能な形で継続していくためには、関係機関や自治体との連携をさらに強化し、必要な支援体制を確保していくことが求められる。

10 経緯と国際交流構築のための確認事項

◆ シンガポールとの国際交流（高校部門）経緯

本研修は、日本政府・外務省が推進する対日理解促進交流プログラムの青少年交流事業（JENESYS）の一環として実施されたものであり、日本とシンガポールの青少年が交流を通して相互理解を深めることを目的としている。

シンガポールは多民族国家として知られ、教育・産業・都市政策の分野で国際的に高い評価である。本校としても、生徒が国際社会の多様な価値観に触れる機会として重要な研修であると位置付けている。

今回の研修では、教育機関訪問、政府機関訪問、企業視察、ホームステイ、文化体験など多様な活動を通して、シンガポール社会の特徴を多角的に学ぶ機会を得た。

青少年交流事業には北米エリア（KAKEHASHI Project）、南米エリア（Juntos）、欧州エリア（Mirai）と本事業がある。2019年にKAKEHASHI Projectでアメリカ合衆国のハワイ州よりジェームズキャンベル高校の生徒教職員の訪問受け入れを行った。2022年のニューヨーク派遣に本校生徒が参加した経緯がある。2023年にはニューヨークの交流校 Eastside community highschool から本校に生徒教職員の訪問があった。この訪問実現には交流校担当者との連携継続が背景にあった。ニューヨークとの交流継続が難しい中、JICEとの粘り強い交渉の結果、2024年には、アメリカ合衆国ネヴァダ州の Centennial Highschool とのオンライン交流を新規で実施している。

広島県に対しての KAKEHASHI Project の募集が当分見込めない状況もあり、引き続き JICE との連携と交渉を重ねた結果、JENESYS への応募を勧められた。JENESYS での高校生派遣は全国多数の応募から、本校と長崎県の長崎南山高校の2校だけが選抜された。長崎南山高校はタイへの派遣であった。

対日理解促進交流プログラムへの参加必要経費は国費負担であり生徒保護者の経済的負担はほぼ発生しない。1派遣で1000万円程度の予算が組まれる本事業での選定校となる機会は、JICEに対して継続的・積極的アプローチをかけないと獲得できない。また、参加後のアクションプランの実践とその報告が義務付けられているために、安易に応募することも許されない。担当教諭の負担は著しく重いために、校内業務の調整など、分掌内での配慮も必要である。福山市や関係機関との連携を密にして協力体制を構築するだけでなく、中長期的に維持して事務局に報告する責任が問われる、非常に困難なプログラムであることを忘れてはならない。応募に関するレポート作成には、事務局の選定委員に訴えかける、応募時期に対応した時勢内容を推察含有できる特別な技量が必要である。

11 実現の背景にある支援体制の確立を図る

- ・ JICE（一般財団法人日本国際協力センター）による事業運営
- ・ 在シンガポール日本国大使館及び在日本シンガポール大使館の協力
- ・ シンガポール教育機関・関係団体の協力
- ・ 福山中・高等学校と福山市の総合的な国際交流推進・協力体制

12 アクションプラン

- (1) シンガポール大使館
- (2) レディオ備後 令和8年3月9日（月）17:15～17:30
- (3) 市役所での表敬訪問・報告会 令和8年3月27日（金）10時～
- (4) こども新聞への寄稿
- (5) YouTube 投稿
- (6) 学年だよりでの紹介
- (7) バラ祭り 緑町公園西側付近 浦項市・多様性社会推進課のブース近く
- (8) 食品ロス削減活動
- (9) 一樹祭での発表
- (10) 福山高校教職員向け報告会 令和8年3月19日（木）
- (11) 福山市教育委員会との連携 市役所1階ホール掲示大型ポスター掲示



● 生徒の活動の様子



1 企画立案・準備

- ・渡航準備は最低7か月前から開始し、可能であれば1年以上前から企画立案や現地の下見を行う。
- ・下見は可能な限り渡航の半年前までに実施し、安全性や現地状況の把握に努める。
- ・渡航先は英語圏を中心に検討し、福山市・広島県・国の推奨プログラムの活用を優先的に検討する。
- ・旅行業者は6か月前までを目安に選定し、教育的観点や安全面に配慮しつつ、学校との連携が円滑に行える業者を選定する。
- ・渡航費用は欧米で40万円以内、アジアは10～20万円程度を目安とする。
- ・福山市、広島県、国の補助金については積極的に活用を検討し、申請・受領・報告まで適切に対応する。

2 参加者(生徒)の選抜基準と望ましい姿勢

(1) 選抜基準

- ・企画内容の確定後、概ね3か月前を目途に参加希望者を募集する。
- 書類審査では以下の点を確認する
- 出席・遅刻状況 評定平均値(前年1年間)
- 全体平均：最低ラインの目安は3.5以上、4.0以上を標準とする。
- 英 語：4.0以上を目安とし、英検準2級以上を原則とする(3級は対象外)。- ・担任・学年教員による授業態度の評価を5段階で数値化する。
- ・過去の国際交流参加歴、ホストファミリー経験、語学研修参加、校内バディ経験などを加点する。
- ・志望理由書は面接担当者が評価し、評価区分はAA、A、AB、BA、B、BC、C、Dとする。
- ・各評価はエクセル等で点数化し、総合点を参考に選抜を行う。

○選抜面接：ALT(英語ネイティブ)を含む複数名で実施する。

 - ・英語3問、日本語3問を基本とし、評価はAA、A、AB、BA、B、BC、C、Dとする。
 - ・書類提出の遅延や不備については評価に反映する(多くの場合はD評価)。
 - ・定員に満たない場合は人数調整や男女比、宿泊グループのバランス等に配慮するが、男女それぞれ偶数となることが望ましく、補欠合格者を数名程度確保する。

(2) 参加姿勢

- ・国際交流は学校全体(手作り運営)で支える取組だと理解し、主体的かつ協力的に関わる。
※「お金を払っているから、学校や旅行業者がすべてを準備するのが当然」とはしない。
- ・海外の異文化や慣習に対して寛容な姿勢を持ち、日本の価値観を一方向的に当てはめないよう心掛ける。
- ・ホストファミリーやマッチングは、相互理解と尊重を前提に対応する(不当なクレームをしない)。
- ・帰国後も国際交流活動に積極的に協力する意欲を持つことが期待される。
- ・パスポート・ビザの取得は渡航の2か月前までを目安に準備する。
- ・2か月～1か月前の「保護者説明会」および「出発直前の説明会」への参加を原則とする。
- ・参加生徒の安全・健康管理に十分配慮し、海外保険への加入を原則とする。

3 教職員(引率教員含む)の選定基準と役割

(1) 選定基準

- ・1～2年前から計画的に候補者を検討し、学年・役職のバランスを考慮する。
- ・高校3年担任は可能な限り避け、高1・高2担任、副担任、学年付き教員を優先する。
- ・国際交流に関心が高く協力的で、海外からの来校時にもプログラムに積極的に関わる教員を優先する。
- ・費用負担や業務面で協力的な姿勢を持つ教員が望ましい(渡航先でお世話になり、お返しなどが必要な場合もある)。

(2) 役割と姿勢

- ・国際交流の運営は総務部だけの業務で、自分は引率だけをするという意識を持たずに、国際交流の円滑な運営に向けて、協力し主体的に役割を担う。
- ・異文化理解に柔軟な姿勢を持ち、相互理解を尊重する。
- ・補助金申請や事後処理などについても、責任ある対応が求められる。

※補助金申請と事後処理

- ・補助金の申請から受領、報告、精算まで適切に対応する。
- ・事後処理についても関係者が協力しながら責任をもって進める。
- ・教職員・生徒ともに責任ある姿勢を重視し、選抜基準にも反映する。

4 健康管理・安全対策

- ・生徒・教職員は海外保険に必ず加入し、補償内容を最大限充実させる。
- ・海外での医療費負担が大きいことを踏まえ、健康管理や予防に十分配慮する。

5 ホストファミリー対応・記念品準備

- ・ホストファミリーへの記念品は、学校・PTA・同窓会・市役所・国際交流協会等の協力を得え準備する。
- ・クリアファイル、ノベルティ（タオル・文具類）、学校パンフレット（英語版含む）などを用意する。
- ・参加者自身もプレゼントを準備し、先方への感謝の気持ちを示すことが望ましい。

6 その他運営上の留意点

- ・緊急連絡体制および緊急時対応マニュアルを整備し、迅速な対応が可能な体制を整える。
- ・異文化理解やコミュニケーション能力向上のため、事前研修の実施を積極的に検討する。
- ・帰国後は報告会や体験発表会、校内研修会等を通じて、交流成果を学校全体へ共有する。

7 通常渡航先別プログラム概要

(1) 大韓民国 浦項市

- 5月 浦項高校、浦項女子高校による福山高校訪問
 - ・約20名の浦項市生徒が来校し、2泊3日のホームステイと学校交流を実施。
 - ・到着は土曜日、月曜日に帰国。月曜日には学校交流やフェアウェルパーティーを実施。
- 9月または10月 福山高校の浦項高校・浦項女子高校訪問
 - ・本校生徒約20名が浦項市を訪問し、学校交流を実施。
 - ・3泊4日または4泊5日を基本とし、都市によっては1日の自主研修を設定する場合がある。
 - ・費用は約10万円程度を目安とする。

(2) オーストラリア クインズランド州 トゥーンバ市（姉妹校 ダウンランズカレッジ）

- ・約20名の本校生徒が7月末～8月初旬にダウンランズカレッジを訪問する。
- ・ホームステイを行い、約10日間の学校交流・授業参加を経験する。
- ・帰路ではゴールドコーストやブリズベンでの自主研修を行う場合がある。
- ・必要経費は30万～40万円程度を目安とする。

(3) フィリピン セブ島

- ・3月にフィリピンで約10日間のマンツーマン英会話レッスンを受講する。
- ・ホテル滞在型の語学研修で、ホームステイは実施しない。費用は30万～40万円程度。
- ・研修の合間の土日にはセブ市内研修や自主研修を行う。
- ・SDGs研修として離島訪問やマリリゾート体験などを組み込む場合がある。
- ・参加に係る選抜は行わないが、学業状況等を踏まえて参加可否を判断する。

Ⅲ 在り方生き方探究プロジェクト

(1)【事業報告】自分発見学習(中1、総合学習)

文責 矢幡愛

- 1 学年・教科等 1年 総合的な学習の時間 「自分のよさをみつけよう」
2 日時 平成29年度 前期(1学期)
3 担当者、招聘講師等 1学年教員(矢幡愛、有本一哉、瀧元美菜子、妹尾進一、山下一朗太)
4 対象生徒等 1学年生徒120名
5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

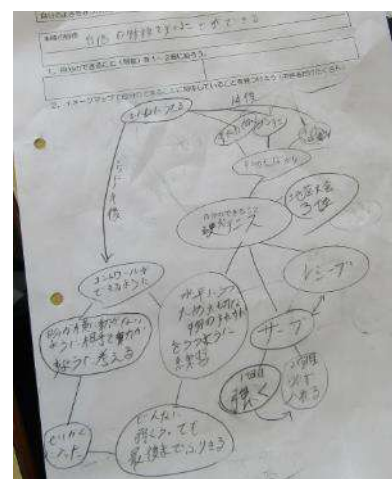
6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本単元は、本校中学校の開校当初から設定したものである。自分の得意なことを再発見し他の生徒に発表したり、クラスメイトがどんな良さを持っているのかを互いに知ったりすることを通して、生徒の自己肯定感や協働性を高めることをねらいとしている。福山市の様々な小学校から入学してきた生徒同士の関係づくりも視野に入れながら、個人やペア、グループ、クラス全体と授業形態をさまざまに取り入れながら学習を行った。また、教員同士のめざす生徒の共有化を図るため、単元を始める前に授業で毎時間使用するルーブリックを作成した。生徒にも配布できるような簡単な言葉を使い、いつでも確認できるようにファイルさせた。これをもとに毎時間の目標設定や自己評価やふりかえりを実施した。

7 単元の流れ

- (1) オリエンテーション：1年間の学習の流れ、本単元の流れの確認(1学年全体)
- (2) 自分が現在できることを書き友達と交流する。ルーブリックを使い、自己分析する。(グループ)
- (3) 究極のプレゼンを動画(TED)で見る。(学年全体)
- (4) イメージマップで自分の新たな面を見つけ、交流する。(グループ)
- (5) 自分のよさ(得意なこと)を絞り、発表の大まかな構成を作り交流する。(グループ)
- (6) 自分のよさ(得意なこと)を1枚の画用紙に表す。下書きの相互評価をする。(ペア)
- (7) 発表原稿をもとにプレ発表し、相互評価をする。(グループ)
→原稿の修正をする。
- (8) クラス内で発表を行い、相互評価をする。(全体)
- (9) 相互評価をもとにクラス内のベストプレゼンターを3名決め、発表する。(学年全体)
- (10) 本単元のふりかえりをする。

生徒が書いたイメージマップ



8 生徒の評価(感想等)

- 自分たちで単元の計画を立てたり、1時間の目標を考えたりするのは難しかったけど、だんだん慣れてきてできるようになるんだなあと思いました。
- みんなの発表を見て、小さいころから頑張っていることとかあって、すごいと思いました。自分も良いところをたくさん見つけて頑張りたいです。
- ▲計画を立ててもうまくいかないことがありました。時間配分に気をつけたいです。

総合係が授業を進めている様子



9 成果と課題

- ふりかえりにおいては、ほぼ全員が肯定的な感想を書いていた。
- 他の生徒の発表を見ることで、自分の発表の改善策を考えていた。
- ルーブリックの作成で、教員同士や教員と生徒の間での「つきたい力」の共有化が図れた。
- ルーブリックによって生徒に主体性が生まれた。
- ▲課題設定が少し弱かった。もう少し早い段階で単元の意味づけ(必要性)をしておくべきだった。
- ▲生徒が得意なことを自分の強みにしたいと思えるような展開にできなかった。

●ワークシートや実施要項等

ループリック

「自分のよさ（得意）を見つけよう」の単元でのICEモデルループリック

つきたい力	I (ideas)	C (connections)	E (extensions)
1. 活用・表現力	1-I 特技を発表するための適切な方法を知ることができる。	1-C プレゼン技術や友人からのアドバイスを自らのプレゼンに生かすことができる。	1-E 特技を最大限に発揮するための方法を選択し、効果的なプレゼンをすることができる。
2. 自他の尊重	2-I 自他の特技を知ることができる。	2-C 自他のよさ・改善点を見つけることができる。	2-E 友人から言われた改善すべき点を受け入れ、よりよいものを作ることができる。
3. チャレンジ精神	3-I やったことがなくても興味を持つことができる。	3-C 他者から新しい刺激（アイデア）を得ることができる。	3-E 自ら新しく挑戦することを見出し、提案できる。

計画表（一部抜粋）

2. 予定を立てよう（計画表の作成）

4/25 (火)	①	生徒がここに計画を書き込む。
	②	
5/2 (火)	①	
	②	
5/9 (火)	①	
	②	
5/16 (火)	①	
	②	
5/30 (火)	①	
	②	
6/6 (火) (予備)	①	
	②	
6/13 (火) (予備)	①	
	②	

※一樹祭・・・6/16 (金)・6/17 (土)

(2)【事業報告】夢チャレ(高2、課外活動)①

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 5年 総合的な学習の時間「夢チャレ」
- 2 日時 2017年(平成29年)4月～2018年(平成30年)3月
- 3 担当者、招聘講師等 上山晋平(教育研究部)ほか 5学年所属教員
- 4 対象生徒等 生徒178名(5学年生徒)
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

5学年が行っている「夢チャレ」とは、生徒それぞれが自分の夢を叶えるために(学校の枠組みを超えた活動に挑戦し、その体験や学びを報告し合うことで、今後大きく変化する時代(AI時代)に必要とされる「学力+α」の力(資質・能力)を高め合うことを目的として行う活動である。「学力+α」の力とは、次を想定している(高大接続改革答申と次期学習指導要領より)。**①知識・技能+②能力(思考力・判断力・表現力等)+③資質(学びに向かう力、人間性〔主体性・多様性・協働性等〕)**

7 内容の具体・展開の流れ

(1) 4年次3学期

- プログラムの準備(プログラム内容、レポートの体裁の検討)
- 学校長による講話(変化の激しい社会に必要な資質・能力の育成について)

(2) 5年次5月

- 「夢チャレ」ガイダンス(なぜこのような活動が必要なのか)
- 「参加プログラム希望アンケート」 ●名称募集
- 「夢チャレ」の取組のポイント

- ①全員がこの1年間でいずれかのプログラムに参加する(進路に関係するものや強い動機があるもの)。
- ②以下のプログラム以外でも、自分が参加したいものへの参加は可能(むしろ強く奨励、自分で申し込む)。
- ③活動「終了後一月以内」にレポートを担当に提出する。(可能なら「夢チャレ」にも記録。入試で活用可。)
- ④学期に1回ずつ、それぞれが外で学んだことを学年集会等で発表して全体で学びを共有する。

(3) 各自が必要な申込等を行い(学校が行うものもある)、プログラムに参加する。

(4) 各自がレポートを担当に提出する(プログラム終了一月以内)。

(5) 各学期で、夢チャレ成果発表会を行う(1組5～10分程度で学びについてプレゼンする)。



8 生徒の評価(感想等)

- それぞれの活動で、いろいろ学べることがあるんだなと思いました。自分はすでに物理チャレンジの活動をしましたが、自分の視野を広げるために他の活動もしてみたいと思います。いろいろ探してみます。
- 外国では、異文化を学び、いろいろな体験を「夢チャレ」でできることがわかったので、海外修学旅行では実際に自分自身で異文化について学んでいきたいと思った。市立大学との高大連携事業やSYDの活動は、何をやるものなのか分かっていなかったから、今回の体験談を聞いてどのようなことをどのような目的で行っているのか理解することができた。また、これからの夢チャレの体験をしっかりと人に発信できるくらい自分から積極的に話を聞いたり活動したりしていきたい。
- 今まで外国に行ったり、ボランティアに参加したりすることはめんどくさくてやりたくないと思っていたが、今回いろんな人の体験談を聞いて、積極的にやってみようかなと思えました。

9 成果と課題

【成果】①学校設定の「資質・能力」の平均は全て向上(合計で伸びた人は138名/178名中で73.8%)している(詳細は別ページ参照)。

②活動履歴と学びの蓄積(レポート)がある程度できている。

③学びの発表会(プレゼン)が効果的に実施できている。

④夢チャレにより「身についた資質・能力」(生徒自由記述より):チャレンジ精神、自他の尊重、注意力、奉仕、忍耐力、創造性(工夫)、社会の変化、視野の拡大、言葉遣い、表現力、積極性、導く力、思考力、協働性等

【課題】①未体験者が10月末現在で8名いる(2学期中に全員実施目標)。

②活動履歴や学びのデジタル化を進める。

③全活動での資質・能力の意識化が必要である。

【重要】平成29年度5学年「夢チャレ」について
～「学力+α」が必要とされる時代に～

平成29年4月10日
教育研究部

1 目的
夢を叶えるためにチャレンジし、今後の変化する時代 (AI時代) で必要とされる「学力+α」の力をつける
●知識・技能 ●思考力・判断力・表現力 等 ●学びに向かう力、人間性 (主体性・多様性・協働性) 等

2 教育改革の流れ (ポイント整理)
(以下の出典) 中央教育審議会「新しい時代に向けた高等教育の展望」次学教育、次学入学者選抜の一体的改革について ～すべての志者が夢が実現できる社会、未来に花開かせるために～(答申)平成29年12月22日

① 未来を見据えて「待ったなし」の教育改革の必要性 (上記参考 p.1)

生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、グローバル化・多極化の激化に挟まれた厳しい時代を迎えている我が国においても、世の中の流れは大人が予測するよりもはるかに早く、将来は職業の在り方も様変わりしている可能性が高い。そうした変化の中で、これまでと同じ教育を続けていくだけでは、これからの時代に通用する力を子供たちに育むことはできない。
この激しい時代を乗り越え、子供や孫の世代に吾等の国民と我が国が、希望に満ちた未来を歩めるようになるため、国は、新たな時代を見据えた教育改革を「待ったなし」で進めなければならない。

② 育むべき力 (p.2)

子供たちに育むべきような力を言い換えるならば、それは「豊かな人間性」「健康・体力」「豊かな学力」を総合した力である「生きる力」にほかならない。

③ 「生きる力」を構成する「①豊かな人間性」「②健康・体力」「③豊かな学力」(p.6～7)

① 豊かな人間性	<ul style="list-style-type: none"> □ 国家及び社会の責任ある形成者として必要な教養と行動規範を身に付ける □ 国、地域社会、国際社会等において主体的に活動する方を醸成する □ 社会で自立して活動するために必要な健康・体力を養う
② 健康・体力	<ul style="list-style-type: none"> □ 自己管理等の方法を身に付ける □ 社会的役割を果たすために必要な肉体的、精神的能力を醸成する
③ 豊かな学力	<ul style="list-style-type: none"> 「学力の三要素」(を社会で自立して活動するために必要な力)という観点で捉え直したものを □ 知識・技能 (基礎力) □ 思考力・判断力・表現力等 (知識・技能を活用して、課題を見出し解決に向けて探究し、成果等を実践するために必要な力) □ 主体性・多様性・協働性 (主体性を発揮して多様な人々と協働して学ぶ態度)

【注】新学習指導要領の「学力の三要素」は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」。「学びに向かう力、人間性等」

④ 上記①～③のすべてを向上させる (p.9)

「高大接続」改革は、知識・技能の習得を無視する改革ではないという点も重要である。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」のすべてを十分に向上させることを目指すものであり、改革によって高校生、大学生が身に付けられるようになる力は、十分な水準の知識・技能はもろろのこと、自分で目標を持って他者と協力しながら新しいことを成し遂げていく力でも含むものである。

⑤ 個別選抜でどう評価するか (p.12)

具体的な評価方法としては、下記②に示す「大学入学者選抜学力評価システム(仮称)」の成績に加え、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、大学入学者選抜理由書や学修計画書、資格・検定試験などの成績、各種大会等での活動や顕彰の記録、その他受験者のこれまでの努力を証明する資料などを活用することが考えられる。「確かな学力」として求められる力を的確に把握するためには、こうした多面的な評価尺度が必要である。各大学はその教育方針に照らし、どのような評価方法を組み合わせて選抜を行うかを、応募条件として求める「大学入学者選抜学力評価システム(仮称)」の成績の具体的提示を含め、アドミッション・ポリシーにおいて明確に示すことが求められる。

3 関連プログラム例

- ① 5 学年全員がこの1年間でいっしょのプログラムに参加する(進路に関係するものや強い動機があるもの)。
- ② 以下のプログラム以外でも、自分が参加したいものへの参加は可能(むしろ強く奨励、自分で申し込む)。
- ③ 活動終了後1ヶ月以内にレポートを担任に提出する。(可能なら「夢チャレ」にも記載、入試で活用可)。
- ④ 学期に1回ずつ、それぞれが外で学んだことを学年集会等で発表して全体で共有する。

プログラム	関連情報	担当
①本校語学研修	●オーストラリア語学研修 129 7/24(月)～8/6(日) ●マウイ研修 3月	藤田
②福山市高校生講演会	●10人の高校講演員が、7つの委員会に分かれ質問・提案を行い、市長・教習長から答申 ●委員会の例:福山の衣衣を担う人材育成、市街地活性化、水質改善の啓発、健康に越ぐす	藤田
③高校検校検講	●国際理解のための検校検校活動(研究・国際問題の理解と解決策の探求) ●未来の国際社会に指導的立場からいらに貢献できる人材育成 ●第1回全国高校検校検校大会 8月7日(月) 8日(火) 8日(水) 8日(木) 8日(金) 8日(土) 8日(日) 委員30名	藤田 根田
④トビタテ! 留学 JAPAN	●官民協力してグローバル人材育成のために留学支援(詳細は「トビタテ! 留学 JAPAN」で 検索) 例) 2～3週間の語学研修 (30万円支援) 4ヶ月程度の留学 (80万円支援)	藤田
⑤広島大学 ESG (サステナビリティ) 研修	●広島大学と連携して継続的に課題研究(年間継続) 2ヶ月に1回程度大学で講義、1年間かけて自由研究をして発表	松村
⑥広島県高等学校科学オリンピック	●数学科分野の知識と技能を競い合う「科学の甲子園全国大会」の県予選 ●28の取り組み:11月6日(日)に開催 県内18校の代表生16名が、物理・化学・生物・地学・数学・情報の筆記と実験、総合競技において知識と技能を競い合う	高橋
⑦広島県高等学校数学オリンピック	●国際数学オリンピックの日本代表を選抜する県予選 ●数学が得意な人、好きな人 ●広島大学や科学オリンピックを利用して40人単位がスタート:医学部医学科のAO入試の出願資格に数学オリンピック、夏祭り、サイエンスフェスティバル、ふれあいキャンプ等のボランティア ●(絶対的)希望者向け:夏祭り、サイエンスフェスティバル、ふれあいキャンプ等のボランティア ●ユースフル・ボランティア事業学生ボランティア(小中学校の自然体験活動のスタッフ) *詳細は http://www.city.hiroshima.jp/ で随時アップ	藤田 大家
⑧ふれあいランドボランティア	●5月 都市経営学部による出前講座「(仮称)まちづくりは面白い!」 定員20名程度 6月 希望者限定 7月 セミの学生との研修会(まちづくりセミナー) 8月 まちづくりワークショップ(秋田市の学生と共同開催) 11月 市立大学で発表	川原
⑨教育ネットワーク中国の大学講座	●高校生が大学の高度な教育・研究に再参加し、高校と大学の連携を深めることを目的 ●福山市立大学・福山大学 ●単位認定が可能なケースもある	元岡 藤田
⑩SD	●文科省所属の社会教育団体 ●フイリピン・福島・広島等のボランティア(補助あり) ●7月25日(水)～ ●福山青年会議所主催 ●アジアと日本のことたちのコミュニケーションサポーター(熟意がある人は誰でも可能) ●夏休みの期間中の1日 ●福山市民病院 ●医療系の看護・医学科以外(臨床検査、リハビリ、放射線、言語聴覚士、医科栄養) ●Dr.体験や看護体験は別にプログラムあり。	菅田 栗原
⑪マレーシア高校生の訪問・授業	●5 学年・海外修学旅行でマレーシアの高校生と交流するプログラムあり。 ●マレーシアの高校生とボランティアやディスカッションを行う。当日まで準備する。8人程度、 ついて見学の高校生とボランティアやディスカッションを行う。当日まで準備する。8人程度、 対象 ●敬愛、空襲、生活体験の聞き取りや遊園めぐり、集いへの参加など	高橋 土山
⑫グローバル未来	●国際平和を求め世界に活躍できる人材を目指して、英語力、検定資格や競争解決などの 国際的課題を学ぶ広島県が実施するプログラム。●全10回、半年間、毎月研修、通訳研修、 研修成果発表会。●フイリピンでの海外研修(7日間)あり。●全県から20名程度。	小川 藤田

名前	5年()組 番号()	名前()
希望プログラム	(1) 第1希望 番号()	プログラム名()
	(2) 第2希望 番号()	プログラム名()
	(3) 上記①～⑪以外のプログラムに参加希望 (□0希望するかも (横計) □2申し込み済)	
希望理由(重要)	主催団体()	プログラム名()
	活動内容()	

(1)「夢チャレ」実施状況

プログラム	関連情報	1	2	計
⑰上記以外	●プログラム外(サマースクール13、看護体験9、寺子屋4、ローズボランティア4、神原病院4、歴史フォーラム4、ブレインアタックセミナー3、未来100人委員会、保育所、スターバックス、大学薬学部での講義、翻訳、畳制作講座、JICA、農業体験)	32	19	51
⑬コ・メディカル研修	●夏季休業期間中 ●福山市民病院 ●医療系の看護・医学科以外(臨床検査、リハビリ、放射線、言語聴覚士、医科栄養) *Dr体験や看護体験を含む。	27	7	34
⑧ふれあいランドボランティア	●(保幼小希望者向け)夏祭り、サイエンススクール、ふれあいキャンプ等のボランティア ●学生ボランティア(小学校の自然体験活動のスタッフ)	19	8	27
①海外語学研修	●オーストラリア研修 ●マウイ研修 ●セブ島研修 ●中期留学	19	6	25
⑪SYD関係プログラム	●文科省所管の社会教育団体 ●フィリピン・福島・広島・小豆島でのボランティア	11	12	23
⑨福山市立大学との高大連携事業	●ゼミの学生との研修会(まちづくりゲームとGIS) 8月 まちづくりワークショップ(駅周辺の再生策を高大で提案) ●11月 市立大学祭で発表	17	5	22
④福山バラ祭り	●福山バラ祭り(5月)のボランティア活動(ローズボランティア)	13	2	15
③高校模擬国連(教育模擬国連含む)	●国際理解のための模擬国連活動(研究・国際問題の理解又解決策の探究) ●全国高校教育模擬国連大会 8月7日(月)8日(火)&東京の大学OS2泊3日	8	5	13
⑫アジア少年少女国際交流事業 in 福山	●福山青年会議所主催行事 ●アジアと日本のこどもたちのコミュニケーションサポート(熱意があれば誰でも可)	10	2	12
②市高校生議会	●40人の高校生議員が7委員会に分かれ質問・提案を行い、市長・教育長から答弁	6	3	9
⑭マレーシア高校生との協議・提案	●5学年・海外修学旅行でマレーシアの高校を訪れ、マレーシアで問題になっている煙草について現地の高校生と英語でプレゼンやディスカッションを行う。	4	2	6
⑥広島県高等学校科学オリンピック	●理数系分野の知識と技能を競い合う「科学の甲子園全国大会」の県予選 ●物理・化学・生物・地学・数学・情報の筆記や実験、総合競技で知識と技能を競う	5	0	5
⑩教育ネットワーク中国の大学講座	●高校生が大学の高度な教育・研究に触れ、高校と大学の円滑な接続に資する(目的) ●福山市立大学・福山大学 ●単位認定が可能なケースもある	4	0	4
⑤広島大学GSC(グローバルサイエンスキャンパス)	●広島大学と連携して継続的に課題研究(年間継続) 2ヶ月に1回程度大学で講義、1年間かけて自由研究をして発表	3	0	3
⑱参加していない	●まだ参加していない。	7	1	8
合計		182	72	254

(2)「夢チャレ」前後の「資質・能力」の変化(成果と課題) *生徒アンケートによる

	①情報分析・整理力		②活用・表現力		③課題発見・解決力		④協働		⑤自他の尊重		⑥チャレンジ精神	
	5月	10月	5月	10月	5月	10月	5月	10月	5月	10月	5月	10月
平均値	2.1	2.5	2.1	2.4	1.9	2.3	2.3	2.6	2.1	2.5	2.0	2.4
中央値	2	3	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2
最大値	4	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5
伸びた人	80	42.8%	62	33.2%	63	33.7%	58	31.0%	61	32.6%	65	34.8%

【成果】

- ①資質・能力の平均は全て向上(合計で伸びた人は138名/178名中で73.8%)
- ②活動履歴と学びの蓄積(レポート)
- ③学びの発表会(プレゼン)
- ④身についた資質・能力(自由記述より):チャレンジ精神、自他の尊重、注意力、奉仕、忍耐力、創造性(工夫)、社会の変化、視野の拡大、言葉遣い、表現力、積極性、導く力、思考力、協働性 等

【課題】

- ①未体験者8名(10月現在、2学期中に全員実施目標)
- ②活動履歴や学びのデジタル化 ③全活動での資質・能力の意識化

「夢チャレ」生徒レポート例

①コ・メディカル研修

平成 29 年 5 学年「夢チャレ」活動レポート (2)

1 今回の活動概要

①プログラム名	コ・メディカル研修
②主催団体	福山高校 × 福山市民病院
③活動概要 (1行)	市民病院で薬剤師体験をする
④活動日時 プログラム	8/4 (金) 13:00 ~ 17:00
⑤参加理由・目的 (参加前に記述) *進路との関係も	私の将来の夢が薬剤師になることなので、今のうちに薬剤師について少しでも多くの知識が欲しかったから。

2 学びの詳細レポート
*以下の⑥~⑧の全項目について学びをレポートしなさい。(ていねいに、具体的に書くこと)

⑥体験から学んだこと3つ (以上)

私は今回、福山市民病院で薬剤師体験をさせていただきました。そこで学んだことを紹介していきたいです。

1つ目は、病院薬剤師の仕事内容です。病院薬剤師は、たくさんの業務を任されています。例えば、患者さんに薬を出す調剤、病院内にある薬剤の在庫管理、抗がん剤や点滴調剤を混ぜて作る製剤、患者さんへの服薬指導、日々まぐらくなる薬剤の情報と集める告知するDI業務、そしてチーム医療への参加。他にもたくさんの業務について紹介していただきました。福山市民病院では、このような業務を薬剤師 30人程で行っています。

2つ目は、薬の危険性についてです。私は抗がん剤を製剤している作業式を見学させてもらうことができました。抗がん剤の製薬は危険な薬品を扱うため、全身を覆い、顔をマスクやゴーグルで守り、手袋は二重という厳重な体制の下で行われます。少しのミスも許されないため、量を間違えないかなどの項目を他の人にチェックしてもらいます。製剤中も、製剤用の機械の中で安全に、そして清潔な状態で行います。私はこの作業室への見学で、薬の危険性、丁寧に扱う

⑦活動を通して特に身についたと思う資質・能力 (とその理由) *3の (1) (2) を参照
私は、今回の実習で身についたと思う資質は、自他の尊重だと思っています。より詳しく薬剤師について知ることができたので、改めて薬剤師の仕事の重要性を学ぶことができました。

⑧大学での学びとどうつながるか
この実習の前に、薬科大学のオープンキャンパスに行きました。市民病院にはその大学で見たものと同じ機械や棚や薬がありました。薬を分量を間違えずに調剤することは、大学でしっかり学ばないといけないことの一つです。薬剤師にとって大学での勉強は、将来働く上でとても大切なことです。

⑨今後さらに調査・研究・活動したいこと (やその計画案)
今回の実習では、病棟でどのように活躍されているのか、患者さんとはどのようなやり取りを見学することはできませんでした。薬剤師として、他どのようなことができるのか、調べていこうと思いました。

⑩最後に一言
今回の活動で、私の夢への想いはより一層強くなりました。今以上に勉強して私の理想の薬剤師になれるように頑張ります。

(注1) 活動終了一月以内に担任に報告。(注2) (下書き用) ペンで清楚して提出 (パソコン可、印刷・製本して全体で共有)。

②Youth Connection@STARBUCKS

平成 29 年 5 学年「夢チャレ」活動レポート (2)

1 今回の活動概要

①プログラム名	Youth Connection@STARBUCKS
②主催団体	スターバックスエスエー 福山ポストアサナ店
③活動概要 (1行)	スターバックスエスエーの企画と計画し、お客さんに披露する。
④活動日時 プログラム	7月3日 打ち合わせ 7月25日 オリエンテーション 8月1日 8/22の本番に向けて計画を練る 8月8日 本番への準備
⑤参加理由・目的 (参加前に記述) *進路との関係も	私の将来の夢はテレビ局でプロデューサーになること。今の時代は流行や人々のニーズに合わせるものと一緒に知り、現状、発信する力が求められる職業です。私はこの体験を通じて、人々のニーズにどのように応じるかを学ぶ、実行ができるようになることが目的です。

2 学びの詳細レポート
*以下の⑥~⑧の全項目について学びをレポートしなさい。(ていねいに、具体的に書くこと)

⑥体験から学んだこと3つ (以上)

私が「Youth Connection@STARBUCKS」で学んだことは2つです。

1つ目は、本番を見届け、達成感を感じることができました。いざスターバックスのステージに立つと、実際に計画してお客さんに披露していくのは自分たちです。スターバックスエスエーの店員さんは何も手付けはなしと自分に言い聞かせることで、自分からどんな発表し、実行に移せばいいか。私と今までの計画は行動することが苦手でした。やらなければならない量が決まっていたら、とりあえずやりたいことから手をつけていくという方法で何かと物事を成し遂げることが多くなりました。だから今回これだけの準備と時間、日程を見て、一緒に企画を進める3人にはこんなふう。「これをどうやっていかに00時までにこうしよう」といった声かけをして本番までスムーズに進むように心がけるという経験は、私の意識改革にも繋がったと思います。

2つ目は、「これだけ緊張感に耐えられたこと」です。先ほど私は「スターバックスエスエーの店員さんは何も手付けはなしと言いつつ」と述べましたが、実際はこれだけ準備していたにもかかわらず、自分の本来の仕事もこなしながら、私たちにも対応してくださいます。いかに緊張感に耐えられたか、ワグが「メッセージを書いたものと卒業証書をしたいただきました。他にも人のために動き回る方の素晴らしさを身辺に学びました。

⑦活動を通して特に身についたと思う資質・能力 (とその理由) *3の (1) (2) を参照
私が「Youth Connection」を通じて身についたと思うのは「相手の気持ち」と「相手の気持ち」です。初めに会った他の高校の人と協力してこの企画を成し遂げるためには相手の気持ちを考える、計画的に動くことが必要不可欠だと感じました。また、お客さんの気持ちを表情や目線、言動から汲み取り、次に自分たちが行動は何か、臨機応変に対応できたと思います。

⑧大学での学びとどうつながるか
私は将来プロデューサーになりたいと考えています。そのためには多岐にわたる知識が必要で、今更には、周囲の状況を見極める力を使えば、大学で学んだものは使え、良い経験をつむこともできると思います。今この出会いと機会に感謝しながら進みます。

⑨今後さらに調査・研究・活動したいこと (やその計画案)
今後は身近な人の見聞に番組を開き調査し、(ニーズを知り) それにどう対応するかなら考えたいです。取材先の人との関わり (これは今回 Youth Connectionを通じて学んだ「力」を7/1活用していきなさい。

⑩最後に一言
これからもいよいよ社会経験を積み重ねたいです。

(注1) 活動終了一月以内に担任に報告。(注2) (下書き用) ペンで清楚して提出 (パソコン可、印刷・製本して全体で共有)。

(3)【事業報告】夢チャレ(高2、課外活動)②

文責 教育研究部 5 学年

- 1 学年・教科等 5 年 総合的な学習の時間「夢チャレ」
2 日時 2019 年(平成 31 年) 4 月～2020 年(令和 2 年) 3 月
3 担当者 5 学年所属教員
4 対象生徒等 生徒 198 名(5 学年生徒)
5 本校 ESD の観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

5 学年が行っている「夢チャレ」とは、生徒それぞれが自分の夢を叶えるために(学校の枠組みを超えた活動に挑戦し、その体験や学びを報告し合うことで、今後大きく変化する時代(AI 時代)に必要なとされる「学力+ α 」の力(資質・能力)を高め合うことを目的として行う活動である。「学力+ α 」の力とは、次を想定している(高大接続改革答申と次期学習指導要領より)。**①知識・技能+②能力(思考力・判断力・表現力等)+③資質(学びに向かう力、人間性〔主体性・多様性・協働性等〕)**

7 内容の具体・展開の流れ

(1) 4 年次 3 学期

- 第 1 回「夢チャレ」ガイダンス(なぜこのような活動が必要なのか)

(2) 5 年次 4 月

- 第 2 回「夢チャレ」ガイダンス(昨年度の活動プログラムの紹介)
- 「参加プログラム希望アンケート」
- 「夢チャレ」の取組のポイント



- ①全員がこの 1 年間でいずれかのプログラムに参加する(進路に関係するものや強い動機があるもの)。
- ②紹介したプログラムには学校から案内したものと、先輩が個人で開拓したものの両方がある。案内されるもの以外でも、自分が参加したいものへの参加は可能(むしろ強く奨励、自分で申し込む)。
- ③活動をレポートにして記録を残す。(入試にも活用できる。)

(3) 各自が必要な申込等を行い(学校が行うものもある)、プログラムに参加する。

(4) 各自がレポートを担任に提出する(プログラム終了一月以内)。

(5) 学年で夢チャレ成果発表会を行う(1 組 5～10 分程度で学びについてプレゼンする)。

- 2 学期後半～3 学期にかけて 25 の活動の成果発表(学年全体へのプレゼンテーション)を実施。

8 生徒の評価(感想等)

- 誰かのために行動することは、自分のためになることがよくわかった。「情けは人のためならず」という、人のためにしたことが巡りめぐって自分のためになるということわざがあるが、本当にそうだと思う。私たちはボランティアをしに行った立場なのに、逆にたくさんのもをもらった。自分にできることに限りがあることは変えることができない。今できる精一杯のことをしようと思った。
- 今回の体験で責任感・空間把握能力・協調性について学んだ。これから大人になるに向かって持っておかなければならない力を少し身に着けることができたのではないかと考えている。それとともに、日々私たちのことを気にかけてくださっている両親や学校の先生方の大変さやありがたさを、身にしみて感じる事ができた。
- 同級生の発表を聞いて、みんながこの 1 年間国内外でいろんなところに行って交流して、夢につながる活動をしている中で、自分は何をしたのだろうと情けなくなった。

9 成果と課題

【成果】①学校設定の「資質・能力」の平均は全て向上(合計で伸びた人は 100 名/193 名中で 52%)している(詳細は別ページ参照)。②活動履歴の蓄積(レポート)がある程度できている。③学びの発表会(プレゼン)が効果的に実施できている。④夢チャレにより「身についた資質・能力」(生徒自由記述より): チャレンジ精神、自他の尊重、注意力、奉仕、忍耐力、創造性(工夫)、社会の変化、視野の拡大、言葉遣い、表現力、積極性、導く力、思考力、協働性等

【課題】①学びの蓄積の質の向上が不十分 ②成果発表会の時期 ③活動履歴や学びのデジタル化

- ④全活動での資質・能力の意識化が必要

(1)「夢チャレ」実施状況

* 学期をまたぐ場合は活動が始まった学期でカウント

プログラム	関連情報	～1	2～	計
コ・メディカル研修	●夏季休業期間中 ●福山市民病院 ●医療系の看護・医学科以外(臨床検査、リハビリ、放射線、言語聴覚士、医科栄養) * Dr 体験や看護体験を含む	17		
地域医療体験	●公立みつぎ総合病院での医療体験	2		
ふれあい看護体験	●夏休みを中心として各自で病院と連絡をとり参加 看護体験	14		
保育所実習	●夏休み中に福山市内の保育所にて保育の仕事を経験	12		
ふれあいランドボランティア	●(保幼小希望者向け)夏祭り、サイエンススクール、ふれあいキャンプ等のボランティア ●学生ボランティア(小学校の自然体験活動のスタッフ)		33	
海外語学研修	●オーストラリア研修 ●翔けジャパン ●カナダ短期留学	11		
SYD 関係プログラム	●文科省所管の社会教育団体 ●フィリピン・福島・広島・福山・小豆島でのボランティア・キャンプリーダー研修	12		
福山市立大学	●ゼミの学生との研修会 8月 ワークショップ ●11月市立大学祭で発表	13		
福山バラ祭り	●福山バラ祭り(5月)のボランティア活動(ローズボランティア)	11		
高校模擬国連 (教育模擬国連含む)	●国際理解のための模擬国連活動(研究・国際問題の理解又解決策の探究) ●全国高校教育模擬国連大会 8月&東京の大学 OS2泊3日	10		
災害福祉講座	●夏休み中に、福山平成大学で災害福祉講座を受講し、ゲームを通して災害福祉を学ぶ。	10		
アスペン古典セミナー	●日本アスペン研究所主催 ●特に哲学についての古典の文献を読み高校生が「対話」を通して学びを深める	3		
外国にルーツを持つ子どものための 日本語チャレンジ教室	●外国にルーツを持ち、日本語の理解や表現が苦手な小学生に対する学習支援 ●夏休み&冬休み中	14		
福山市高校生議会	●24人の高校生議員が5委員会に分かれ質問・提案を行い、市長・教育長から答弁 ●本会議は10月	4		
マレーシアの大学生・高校生 との協議・提案	●5学年・海外修学旅行でマレーシアの大学・高校を訪れ、マレーシアで問題になっている多様性について現地の高校生と英語でプレゼンやディスカッションを行う ●「多様性」について		11	
広島県数学コンクール	●提示された数学の問題への解答を独創的な発想で競い合う ●県内のコンクールへの応募 ●講評会への参加	10	8	
教育ネットワーク中国	●高校生が大学の高度な教育・研究に触れ、高校と大学の円滑な接続に資する(目的)	6		
観光甲子園	●国内またはハワイの観光プランを提案	17	3	
岡山イノベーションコンテスト	●ビジネスアイデアを考案してプレゼンテーションを行う ●天保一プロジェクトを提案		3	
ビジネスコンテスト	●福山駅前再開発会議に参加	4	1	
その他	●イベント・大会ボランティア(尾道あかり祭り・広島県東部地区親善スポーツ大会・松永ゲタリンピック・演劇公演) ●スピーチコンテスト(英語・韓国語) ●未来の建築技術者育成イベント ●夏のリコチャレ 2019 ●尾道市民病院祭高校生医療体験プログラム ●高校生ドクター・メディカルスタッフ体験セミナー ●演劇ワークショップ ●歴史フォーラム	22	38	
合計		183	110	293

(2)「夢チャレ」前後の「資質・能力」の変化(成果と課題) * 生徒アンケートによる

	①情報分析・整理力		②活用・表現力		③課題発見・解決力		④協働		⑤自他の尊重		⑥チャレンジ精神	
	5月	2月	5月	2月	5月	2月	5月	2月	5月	2月	5月	2月
平均値	2.4	2.7	2.4	2.7	2.3	2.6	2.5	2.8	2.5	2.8	2.3	2.7
中央値	3	3	2	3	2	3	3	3	3	3	2	3
最大値	5	5	5	5	4	4	5	5	4	5	5	5
伸びた人	60	30%	55	28%	59	30%	56	28%	49	26%	61	31%

【成果】 ①資質・能力の平均は全て向上(合計で伸びた人は106名/198名中で53.5%)

②活動履歴と学びの蓄積(レポート)

③学びの発表会(プレゼン)

③身についた資質・能力(自由記述より): チャレンジ精神、自他の尊重、注意力、奉仕、忍耐力、創造性(工夫)、視野の拡大、表現力、積極性、導く力、思考力、協働性等

【課題】 ①学びの蓄積の質の向上 ②成果発表会の早期実施 ③記録のデジタル化 ④全活動での資質・能力の意識化

(4)【事業報告】夢プロ(高2、総合的な探究の時間)① 【コロナ禍】

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 5年 総合的な探究の時間「夢プロ」
- 2 日時 2020年(令和2年)4月～2021年(令和3年)3月
- 3 担当者 5学年教職員
- 4 対象生徒等 生徒187名(5学年生徒)
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

個々の夢や興味・関心に応じた地域や身の回り・社会の問題をテーマに調べて、課題解決策を考え、実行・検証する(探究型の)プロジェクト(PBL=Project-Based Learning)。

4年次にグループで行った探究プロセス(問題発見→課題設定→解決策→実行→振り返り)の経験を生かして、個人・または少人数でプロジェクトに取り組む。以下の3つを主な目的とする。

- ①「探究(課題解決)プロセス」を自分でまわせるようになる(課題設定→情報収集→解決策→実行→振り返り)。
- ②(課題解決を通して)AI時代に必要とされる「資質・能力」を身につける(特に課題解決力)。
「正解はない」「AIが仕事を奪う?」と言われる時代だからこそ、自ら課題を発見し解決する力を育む。
- ③(6学年年の)課題研究につなげる。
5学年の「夢プロ」の取組をまとめて、6学年で2000字の課題研究論文に仕上げる。
(別の課題に取り組むことも可能。)

*以上①～③を通して、④「社会の進歩に貢献する」。(未解決の問題を解決し他者・地域・社会に貢献する)

7 内容の具体・展開の流れ 【コロナ禍により当初の予定と大幅変更】

(1)4月:「夢プロ」ガイダンス(ガイダンス冊子を用いて、「夢プロ」の条件・ポイント・やり方等の確認)

- ①「1人、もしくは少人数」で探究を行う。(4学年では「グループ」探究)
- ②(解決策の)実行・実施(アクション)を伴うものとする。
- ③発表はクラス発表に加え学年発表も行うことで、良い事例とモチベーションの共有を行う。
- ④6年次の「課題研究」につなげる。
- ⑤各自で課題を設定する。(4学年では企業から取り組むべき課題を頂戴していた。)

*新型コロナウイルスによる臨時休業に入ったため、基本的に生徒は各自で、「問題把握」、「課題設定」、「情報収集・問題点の整理」、「課題解決策立案」までを自宅で行うことになる。

*休業中の生徒にスタディサプリのアンケート機能で「取り組むSDGs」「設定した課題」を調査する。

(2)6月(休業明け):「探究お助けシート」を配付し、課題設定がまだの生徒を支援する。

「課題設定シート」を提出(担副でチェック)「進捗状況の発表」(スケッチブック)

(3)7月:探究モデル講演(企業の課題解決の事例)①中島基晴様(中島商店社長) ②大野圭司様(株式会社ジブノオト社長)

(4)7月:「タスク管理表」により、夏休みに行くことを細かく計画する。

「探究実行希望用紙」提出(アンケートや校外活動を行う人が提出する)

(5)8月:各自で探究を進める(実践・結果のまとめ・解決策の再検討を含む)

(6)10月:探究発表資料作成 *タイトル、所属、SDGs、目的、問題点、課題解決に向けた実行・提案、今後の課題、参考文献

(7)11月:探究発表(SDGs別に分かれて発表)

(8)12月:探究振り返りシート記入

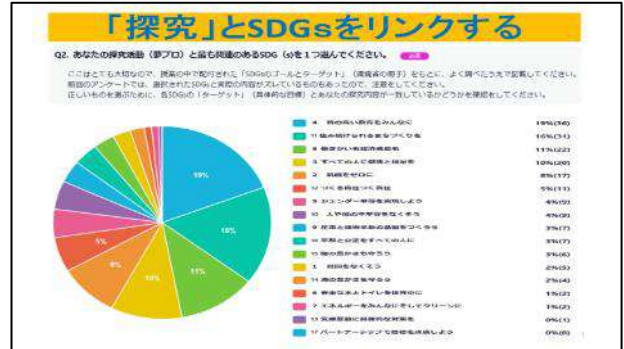
(9)1月:「学年代表者」発表会

8 生徒の評価(感想等)

- 5年の「夢プロ」では、個人の活動がメインだった。4年の「グローバル事業」ではグループで活動し、グループで発表という流れだったが、今年は一人だけですべてをやった。責任感や不安が多くあったが、自分のペースで、かつ、確実に取り組めたと思う。自分の「人任せ」なところが短所として分かりやすく現れたが、それを克服することができたと思う。

9 成果と課題

- 幅広い情報収集（校内アンケート等）を実施、動画等の作成物を作成、発表資料等をPC作成、
 - △ 課題設定時に専門家と相談できていない、実行（実践）面が難しい（コロナ禍により特に）、開始の遅れ
- 【学年代表者発表会の様子】 【SDGs とリンクした探究（SDGs 別の割合）】



【SDGs とリンクした探究課題（生徒作成）の例】

SDGs	人	探究課題の例(実行)
1 貧困	3	貧困問題をなくすために高校生ができることは(他校とのプログラム参加)
2 飢餓	16	どうしたらスーパーの食品ロスをなくせるか(企業連携)
3 福祉	21	外国人にやさしい医療サービスするには(英語パンフ作成)
4 教育	37	勉強の質を上げる筆記用具(鉛筆)とは(各種鉛筆で実験) 戦争・平和教育をどうすべきか(小学校で平和学習授業実践) 「やさしい日本語」を知ってもらうには?(日本語ボランティア) SDGsを自分事として捉えてもらうには?(SDGsカード添付)
5 ジェンダー	8	LGBTQの人たちがより良い生活を送るために(アンケート) 育児ノイローゼを減らすには?(施設体験、ポスター作成)
6 水と衛生	2	発展途上国の生活を良くするためにできることは?(カンボジアで実際に井戸掘り)
7 エネルギー	2	電力消費量削減のためにできることは(身近な解決案提案)
8 経済成長・雇用	22	備後の観光業促進のためにできることは(尾道、福山、三原で調査し魅力を動画作成、観光甲子園)
9 産業と技術革新	5	スマホを落としたときに画面が下にならないためには(落下の計算、実験)

SDGs	人	探究課題の例
10 不平等	9	SNSでの誹謗中傷をなくするには(防止を呼び掛ける動画作成) 本当に必要な校則とは(アンケート調査、生徒会・教員連携)
11 まちづくり	32	人々がほしがれる日常でも使える防災グッズとは(調査・制作) 子どもの交流、遊び場を作るには(小学校でレク実施) 若年層に福山の郷土料理うずみを広げるには(取材、動画)
12 つくる責任、つかう責任	11	食品ロスを減らすためには(フードバンクでインタビュー) ビニール袋を使わず生活するには(紙袋での消費量実験)
13 気候変動	2	換気と空調で効率的な省エネを実現するには(換気による気温変化や風通しを調査)
14 海の豊かさ	3	海洋資源を活用する地元の実践性には(企業調査、イベント)
15 陸の豊かさ	7	生物が減少した近くの川の水質は(水質調査→綺麗を提案) 動物糞処分を減らすには(現状調査、ボランティア団体活動)
16 平和と公正	8	いじめ問題を減らすには(調査) 著作権は正しく伝わっているか(アンケート、予想外の現状)
17 パートナリーシップ	0	なし

【生徒作成発表資料と発表用PPTの一例】

(生徒探究) 平和教育を改善したい!

戦争・平和に関する教育を改善するためにできることは何か。

福山県立福山中・高野学校

1. 課題のSDGs・ターゲット・目標達成への取り組み(理由)

2. 探究の目的・理由

3. 現状分析・課題点

4. 課題解決に向けた実行・実施

5. 今後の課題

(生徒探究) 子どもたちの遊び場をふやしたい!

子どもたちの遊び場を増やすためには

1. 課題設定の理由

2. 関連SDGs・ターゲット・目標達成への効果

3. ターゲット

4. 現状分析・課題点

5. 課題解決に向けた実行・提案

6. 今後の課題

(5)【事業報告】夢プロ(高2、総合的な探究の時間)②

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 5年 総合的な探究の時間「夢プロ」
- 2 日時 2023年(令和5年)4月～2024年(令和6年)3月
- 3 担当者 5学年教職員
- 4 対象生徒等 生徒192名(5学年生徒)
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■在り方生き方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

個々の夢や興味・関心に応じた地域や身の回り・社会の問題をテーマに調べて、課題解決策を考え、実行・検証する(探究型の)プロジェクト(PBL=Project-Based Learning)。

4年次にグループで行った探究プロセス(問題発見→課題設定→解決策→実行→振り返り)の経験を生かして、個人・または少人数でプロジェクトに取り組む。以下の3つを主な目的とする。

- ①「探究(課題解決)プロセス」を自分でまわせるようになる(課題設定→情報収集→解決策→実行→振り返り)。
- ②(課題解決を通して)AI時代に必要とされる「資質・能力」を身につける(特に課題発見・解決力)。
「正解はない」「AIが仕事を奪う?」と言われる時代だからこそ、自ら課題を発見し解決する力を育む。
- ③(6学年年の)課題研究につなげる。
5学年の「夢プロ」の取組をまとめて、6学年で3000字の課題研究論文に仕上げる。

*以上①～③を通して、④「社会の進歩に貢献する」。(未解決の問題を解決し他者・地域・社会に貢献する)

7 内容の具体・展開の流れ

- (1)4月:「夢プロ」ガイダンス(ガイダンス冊子を用いて、「夢プロ」の条件・ポイント・やり方等の確認)

- ①「1人、もしくは少人数」で探究を行う。(4学年では「グループ」探究)
- ②探究テーマ(分野)は、自分の「在り方生き方」に沿ったものとする(進路、興味・関心、適性等)
- ③探究課題は、以下の3つを踏まえて各自で設定する(4年次は、企業から課題を頂戴した)
 - ・「自分がこだわりたい問い」でかつ、「期限内に取り組める問い」にする。
 - ・「興味・関心」があり、「社会的な課題(SDGs)」であり、できるだけ「希望進路」と重なるものに。
- ④「情報収集」と「参考文献」は、次の2つの条件を満たすこと。
 - ・一次情報(オリジナルの情報源。日記、インタビュー、政府文書等)
 - ・二次情報(一次資料を基に解釈がなされた情報源。論文、書籍、新聞や雑誌)
- ⑤調べ学習だけでなく、(課題解決策の)「提案」と「(解決策の)実行・検証」までを行う。
- ⑥発表は3度以上行う。(中間発表、クラス発表、グループ別発表)+学年代表者発表会
- ⑦夢プロの目標の一つは、生徒が「自走」できるようになること。
先生の役割:進捗確認、安全確認、一緒に悩む、外部連携の補助等
- ⑧成果が出たら、外部の大会に積極的に参加する。(自ら申し込めるコンテストは多数ある)

- (2)6月:進捗状況のクラス中間発表(1人1分)

- (3)9月:クラス発表(1人2分)

- (4)11月:グループ別発表(1人3～5分)

- (5)1月:学年代表者発表(1人3～4分)

8 生徒の評価(学年代表者発表会の感想等)

- どの人も、基本的に身近なところから課題を出していたところがいいと思った。身近な話題にすることで、解決策を実行しやすくなると思うので、参考にしたい。
- 環境問題は大きく変えることはすぐには難しいけど、ゴミを増やさないようにしたり洗剤を使いすぎないようにしたりなど身近なことから取り組んでいる。一人一人がこの世の中を変えたいと思って少しずつ取り組めば「チリ積」になり良くなっていくと思う。
- 身近なことに注目を寄せることが意外とSDGs達成の鍵を握っているのかもしれない。日々、当たり前疑問を持つべきだと思う。

- SDGs に関係ないようなことにも考え方によって、結果 SDGs に繋がると思ったので、身の回りのことから SDGs にどう繋がるかを考えることが第1歩だと思った。
- これからも SDGs に自ら積極的にとりこんでいきたい。今日学んだ内容から実行内容の改善などこれからの繋げていくことが必要だと思った。

9 成果と課題

- タブレットを使って情報収集、まとめなどはうまく進む生徒が多い。
- △ 課題解決策の実行（実践）ができていない生徒がいる。次を見据えて春休みに進めるよう促す。

【学年代表者発表会の様子】



【学年代表者発表資料（A4・1枚）】

水の注ぎ方を言語化するには？

福山市立福山中・高等学校

1. 関連SDGs・ターゲット

6 安全な水とトイレを世界中に

SDGs 6 (水・トイレ) ターゲット 6.2
2030年までに、全ての人の、適切な公平な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。

探究課題との視点
水の取扱いについて実験・分析データを集めることは、水の科学的性質を明らかにする手助けとなる。よってこの探究は下水・衛生施設の設置・開発に貢献する。

2. 探究の目的・理由

「ボトルを手にして、傾け、カップに水を注ぐ」
「意識的・日常的な行動」
しかし、どのようにすれば注げるのか、細かい方法は決まらず、誰でも再現できる「水の注ぎ方マニュアル」を作りたい。

3. 現状分析・問題点

現状、問題→水の注ぎ方が言葉になっていない。
その大きな理由→「液体の力学的記述の難しさ」
（水の全ての動きを予測することは不可能に近い。）
だから、人間は水の注ぎ方を経験的に知っている。

しかし、
○人間の脳機能には個人差があり、水の注ぎ方を経験則では学ぶことが難しい人もいる。
○液体の挙動の研究を進めなければ、技術開発（介護ロボット、差金口ロボットなど）が滞る。

だから
1) だけ場面を取り出してそれを再現する（モデル化）

4. 課題解決に向けた実行・提案

①モデルの決定・軌道の分析
条件をつまみ注いでいる映像を、テレビカメラ「録音」から集めて（画像1枚あたり）実験のモデルを作った。その映像を参考に、水の軌道と出力をグラフ化して実験に近似した。

②実験
条件をいろいろ変えて試してみる→分析の繰り返し

※実験結果
ペットボトル内 200ml
200mlの水量も入れなかった？

※探究の成果物（かつ提案物）
床に置いたカップに水が75% (150ml) 安定して入る方法。
下図を日本語の文章にすると探究の成果物となる。（実行済）

5. 今後の課題

○この条件以外の状況でも方法を記述すること。
（例えば、容量を変えたり、ピーカーを手に持ったりする。）
○考え方、方法の精度を上げること。
（今は75%の精度だが、90%くらいに上げたい。）

参考・引用文献

○「高校数学でわかる流体力学」著者 竹内博
○「レドモンドマラーズ『物理』 監修 テムシロ
○「科学」WAVE 196号「水」注ぎの現象を再現する(2000)出版者 東京堂
○「科学」WAVE 196号「水」注ぎの現象を再現する(2000)出版者 東京堂
○「科学」WAVE 196号「水」注ぎの現象を再現する(2000)出版者 東京堂

食品ロスを減らすために

1. 関連SDGs・ターゲット

SDGs 12 (つくる責任つかう責任)

ターゲット12. 3
2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。

～目標達成への効果～
日本が抱える食品ロスの問題を認識することで、SDGsと関連づけ若い世代が食糧問題に対する考えが変わるきっかけを与える。

2. 探究の目的に関する理由

これは最近の食品ロス発生量の推移だ。
年々減少しているものの1人あたり年間42kg食品ロスを排出していることを受け、高校生である私たちがだからこそできることはないかと思い探究を行なった。

(参考文献)
消費者庁 令和3(2021)年度食品ロス量推計値の公表について
<https://www.caa.go.jp/notice/03534/>
〔調査〕我が国の食品ロス発生量の推移 <https://www.env.go.jp/content/000046525>

3. 現状分析問題点

またこのグラフは、「18歳を対象にフードロスの問題について知っているか」を調査したものだ。私は、もっと多くの割合の人が知っていると思っていた。しかし実際は5人に1人しか知らないことを知りもっと多くの人に知ってもらいたいと思っている。

4. 課題解決に向けた実行・提案

フードロスの現状を知るために夏休み中にNPO 法人フードバンク福山を訪れ、見学と質疑応答を行った。

★分かったこと
・フードバンクでも受け入れてられないほどの廃棄が行われている
・食べることが一番大事
・フードバンクで集めたものは誰でも無償でもらうことができる
・もったいないという気持ちをもって1人1人が問題意識を持つ

実際に行くことで現在福山が抱えている問題を知ることができ、とても良かった。また、今後フードバンク福山と一緒に活動することが決まり、自分達の目標を達成するためにすべきことを提案したい。

～提案～
学生にフードロス問題について実感してもらうために広報活動を行うとともに、実際にフードバンクをやってみる。
・ポスターを制作し学校に掲示する。
・学校で集めてフードバンク福山に寄贈する。
・フードバンク福山で集まっているものを学校で配布する。

私達の提案には以下のような課題が存在する。
①いつ学校で行うのか。
②これらを行う事で学生の気持ちが変わるのか。

5. 今後の課題

私たちは、夏休みに実際にフードバンク福山に行くことで、今身近な地域にある問題について知ることができた。しかし、わたしたちの最終の目標は、「若い世代の食糧問題に対する考えが変化するきっかけにすること」なので課題解決に向けて行動を起こしていきたいと思う。

(参考文献) フードバンク福山
<https://foodbankfukuyama.crayonsite.com>

(5)【事業報告】(SDGsの観点を取り入れた)課題研究①(高3、総合学習)

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 6年 総合的な学習の時間「(SDGsの観点を取り入れた)課題研究」
2 日時 平成30年4月～平成30年9月
3 担当者、招聘講師等 上山晋平・西田知佳(教育研究部) 6学年所属教員
4 対象生徒等 生徒176名(6学年生徒)
5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

自己の進路に関連する分野における問題点を調査し、その中から自分が取り組む課題を設定して、調査・研究・発表(グループ別・学年全体)をして、他者の課題解決に貢献する。その際、本校の研究課題である「SDGs」に関連させる。またできれば5年次に行った「夢チャレ」の活動に関連させることも推奨する。

〈課題研究を通して特に身につけたい力〉 (「福山中・高で育てたい6つの資質・能力」より)

能力	✓	①情報整理力	✓	②表現力	✓	③課題解決力
資質		④協働		⑤自他の尊重	✓	⑥チャレンジ精神

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) ガイダンス・希望グループ調査(4/11): 課題研究とSDGsについての理解
- (2) 文献研究・まとめ(4/25、5/2): 「研究課題設定シート」に基づいた情報収集・整理等
- (3) レポート(2000字)作成(5/23、5/30): できるだけパソコンで作成(書式あり)
- (4) レジューメ作成・発表練習(6/6): 各自のグループ発表に備えてレジューメやパワポの作成
- (5) グループ別発表(2時間)(6/20): 1人3～5分間
- (6) 学年代表者発表(9/5): グループ代表者(各クラス1名以上)が200名の前で発表(1人5～8分)

8 生徒の評価(感想等)

- SDGsのことを考えていくうちに自分たちの仕事とつながっていき、これからの将来に向けて自分のことを考えるという良い機会にすることができたと思う。これからの社会は今までとは大きく変わっていくと思うので、自分の知識だけではなく、思考力や判断力をさらに向上させる努力をこれからする必要があることが分かった。
- 実際に第一線で活躍する人への聞き込みなどをしていて調べ方が具体的で、細かいことまで調べていました。発表もSDGsに関連させたり、今後の社会に向けて活かし方があったりするなど、すごく詳しくかったです。私は身近な問題を考えて、それも間違いではないけれど、世界規模に変えていける力の探究が必要だと思いました。
- Aくんの話す順番がとてもよかった。大きな問題から小さな身近な問題へ話や考えをうまく転換し、聞き手は身の回りのことで想像しやすく、実行に移しやすい。他の人の発表でも、自分に問題を転換させて、一人一人が考えることがおきな問題の解決につながると改めて思った。一人一人興味のあることや分野があって、発表を聴いただけで自分の世界が少し広がった気がする。私も興味のあることを全力でやって人生を駆け抜けた。
- (学年主任講評) 今回の発表会をもって、高校入学以来行ってきた「総合的な学習の時間」での課題解決・探究活動は、一区切りついたこととなります。節目の時を迎え、非常に感慨深いものがあります。私たちが取り組んできたこの活動は、学校内での学びを学校外・卒業後につなぐ意義深いものでした。

自らの進路希望の実現に向けて受験生として過ごす時だからこそ、自分の勉強が、目前の入試を突破するためだけのもの、点数を効率よく得るためだけのものと捉えてしまいがちです。そうした気持ちを全面的に否定するつもりはありませんが、それだけのものでは決してないのです。私たちの学びは、未来に向けてのもので、自らの生き方を考え、社会の中で自分に何ができるのか、その遠くの目標を見いだし、見据えるためのものです。この発表会で、自分の目線を修正し、また遠くを見つめて前に進むことが出来ると思います。そんな貴重な機会を産み出してくれた皆さん、ありがとうございます。お疲れ様でした。また、頑張りましょう。

9 成果と課題

- 【成果】①短期実践だったが(約2ヶ月)、発表者全員がSDGsを取り入れて意識できた。②著者に会いに行つてインターシップをして行動して情報をとり、課題解決につなげた人もいる。③ガイダンス資料が充実した。
- 【課題】①「課題(問い)」の立て方が難しい。学年では共通できていない。②調べ学習で終わらせないため、「アクションを入れる」という条件設定が良いかもしれない。③レジューメがある方が伝達量は増える。

■ 6 学年 課題研究 テーマ・関連 SDGs 一覧表 (平成 30 年度)

6 学年 課題研究 テーマ・関連 SDGs 一覧表 (平成 30 年度)

No.	分野	課題研究テーマ	関連 SDGs	SDGs 内容
1	文学	自己肯定感をいかに高めるか	3	保健
		活字離れは本当か	4	教育
1	文学	美しい言葉をつつこよく使うことには	7	エネルギー
		日本語の現代的变化は面白いのか	4	教育
1	文学	自殺を防止するには	3	保健
		中東難民問題を解決するには	1	貧困
2	外国語	いかにして読書し人生を豊かにするか	4	教育
		国際語としての英語とは何か	17	実質手段
2	外国語	アジア平均を下回る日本人の英語力向上には	4	教育
		正しくない日本語の使用増加における諸問題を解決するには	4	教育
3	人文・人間科学	SNS 依存を共存するには	3	保健
		世界平和をどう実現するか (宗教の観点から)	16	平和
3	人文・人間科学	政治を見極めるには (歴史研究を通して)	4	教育
		心を開くためにアトラクター心理学から学べることは	9	インフラ、イノベーション
3	人文・人間科学	ネット依存が及ぼす子供の内面への影響とは	4	教育
		幼児、児童虐待事件はなぜ起こるのか	4	教育
3	人文・人間科学	増え続ける発達障害の児童にどう対処すべきか	4	教育
		なぜ学校で虐待・ネグレクトが起こるのか	4	教育
3	人文・人間科学	AI 化に伴い教育はどう変化するべきか	4	教育
		道徳教育の問題点と改善策は何か	4	教育
3	人文・人間科学	通商化に対して地元企業はどう振舞うべきか	11	都市
		不登校の増加にどう対応すべきか	4	教育
3	人文・人間科学	脳科学に基づいた最良の勉強法は何か	4	教育
		日本語学習がなぜ大切か	4	教育
4	教育	コミュニティの貧困による育児の貧困を防ぐには	4	教育
		学級閉鎖を防ぐために乳幼児期から気をつけることは	4	教育
4	教育	障がい者でも楽しめるには	4	教育
		障がいを持つ人が社会貢献するために必要な教育とは	4	教育
4	教育	世界と日本の教育の違いをどう埋めるか	4	教育
		子どもの体力低下問題をどう解決するか	4	教育
4	教育	いじめとどう向き合うか	4	教育
		アクティブ・ラーニングが子供に与える影響とは	4	教育
4	教育	日本の教育はどう変わるべきか	4	教育
		仕事を早く終わらせるには	4	教育
4	教育	学級閉鎖をどう防ぐか	4	教育
		争いのない国にするには	16	平和
5	法学	世界の現状と平和問題の解決のために何ができるか	16	平和
		企業間の競争で勝つ3つの戦略とは	8	経済と雇用
6	経済	育休・産休問題とは	8	経済と雇用
		消費者と AI と企業とは何か	8	経済と雇用
6	経済	少子高齢化と経済とは何か	6	水・衛生
		ビジネスとコミュニケーションとは	8	経済と雇用

7	社会福祉	ブラック企業とは	8	経済と雇用
		カジュには景気対策としての将来性があるのか	8	経済と雇用
7	社会福祉	経済の考え方は景気対策に生きるのか	8	経済と雇用
		2020 年オリンピックの経済効果は有効か	8	経済と雇用
7	社会福祉	企業はどのようにして生き残るのか	12	生産と消費
		AI 時代に私たちがどのように働くのか	8	経済と雇用
7	社会福祉	ネットにならない、ネットから社会復帰することは可能か	12	生産と消費
		ビットコインは世界を救うか	12	生産と消費
7	社会福祉	経済格差は解消されるのか	1	貧困
		AI と人々の共生はうまくいくのか	8	経済と雇用
7	社会福祉	AI 時代に人にしかできない仕事とは何か	8	経済と雇用
		ブラック企業とは	8	経済と雇用
7	社会福祉	IT ビジネスとは何か	8	経済と雇用
		働き方とは	14	海洋資源
7	社会福祉	船員の減少の原因は何か	11	都市
		過密化と過疎化の原因とは	11	都市
7	社会福祉	町おこしとは何か	11	都市
		経済格差とは何か	10	不平等
7	社会福祉	物価の決め方と世の中を変えられるか	6	水・衛生
		成長著しい AI と将来人類は共存できるか	8	経済と雇用
7	社会福祉	仕事のための法制度の悪用をやめさせることはできるか	8	経済と雇用
		福祉のための法制度の悪用をやめさせることはできるか	12	生産と消費
7	社会福祉	IT と熟練農家の扱いは農業の活性化を目指すか	12	生産と消費
		不登校の原因とは何か、どう防ぐか	4	教育
7	社会福祉	文化の継承と街並みの再生・保存に何が必要か	11	都市
		人口減少社会の問題点とは何か	11	都市
7	社会福祉	メロディ・マスコミとどう付き合うべきか	11	都市
		人口減少の中、どのように都市経営を行うべきか	11	都市
7	社会福祉	ネット社会に潜む影は何か	4	教育
		障がい者の幸せのために必要なこととは何か	3	保健
7	社会福祉	アメリカの教育格差を解消するには	10	不平等
		国内で広がる経済格差を小さくするには	10	不平等
8	国際関係	子どもだけでスラム街を生きる危険性とは何か	1	貧困
		難民受け入れの政治・経済的メリット・デメリットは何か	1	貧困
8	国際関係	日本兵士の戦死に刻まれた戦争の跡とは	16	平和
		日本の観光業の課題とこれから改善すべき点は	12	生産と消費
8	国際関係	業に頼りすぎた社会をどう変えるか	3	保健
		台風はどのようにして発生するのか	13	気象変動
8	国際関係	科学の社会へ与える影響と正しい利用方法とは	7	エネルギー
		ヒートアイランド現象の対策として緑化は有効か	9.11.13	#N/A
8	国際関係	人間と AI が共存して社会を発展させるためには何が必要か	11	都市
		AI 時代の到来、これは事実だろうか	9	インフラ、イノベーション
8	国際関係	木造住宅が日本を変える、地震に強い住宅が伝統的な建築物を守ることができるとは	11	都市
		少子高齢化社会と AI が共存していくことができるか	9	インフラ、イノベーション
8	国際関係	水の有効利用、工学で水問題を改善できるか	6	水・衛生

		これからの教育法、教育にAIは活用できるか	4	教育
		地震を耐える住宅を建てるにはどうすればよいか	7	エネルギー
		化学物質を扱う際の爆発・火災にどう向き合っていくか	7	エネルギー
		包括的経路可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働き甲斐のある人間らしい雇用(ディセント・ワーク)は実現できるか	8	経済と雇用
		持続可能な町づくりを目標として、空き地は活性化できるか	11	都市
		AIの発達、人間とAIは共存できるか	11	都市
		変化していくAI時代で生き残る方法	8	経済と雇用
		人とインターネットとの共存	8	経済と雇用
		自動運転技術の現状とこれから	12	生産と消費
		3Dプリンタと今後の社会	12	生産と消費
		今後の時代のモバイルとの接し方	12	生産と消費
		温暖化を以て、環境を守る次世代火力発電	9	インフラ、イノベーション
		過疎化による教育の、地方及び他国の防ぎ方の違い	9	インフラ、イノベーション
		日本の少子高齢化に対するロボット・人工知能の可能性	12	生産と消費
		公共交通機関から見る日本の交通の問題	9	インフラ、イノベーション
		海上における海賊の脅威	16	平和
		AIと人間	17	実施手段
		日本の情報社会で、漏洩したり、盗まれたりしない対策	8	経済と雇用
		総社会	11	都市
		過疎化の問題点や影響とその対策	9	インフラ、イノベーション
		ごみと向き合い消費者ができることは	12	生産と消費
		遺伝子組み換え作物の問題点とは	12	生産と消費
		パライオオモビリティの問題点と解決方法とは	7	エネルギー
		ベットの殺処分の問題点とは	15	陸上資源
		食中毒・異物混入の原因・対処法とは	6	水・衛生
		これからの日本農家の在り方とは	15	陸上資源
		生態系の強さをどう防ぐか	15	陸上資源
		地域再生・活性化の在り方とは	17	実施手段
		殺処分という現実の問題点とは	11	都市
		若者の日本食離れの現状と課題点とは	11	都市
		日本の農業危機の現状と課題点とは	15	陸上資源
		私たちがいつも食べている物は本当に大丈夫なのか	3	保健
		医師不足の地域格差を解消するには	3	保健
		自己コントロールにより健康を維持する方法はないか	3	保健
		オーダーメイド治療を取り入れるべきか	3	保健
		技術不足の医師を減らすにはどうすればよいか	3	保健
		医療費をおさえつつ医療の質を向上させるには	3	保健
		死ぬ権利と倫理観の重要性について	3	保健
		働の健康から健康寿命を延ばせないか	3	保健
		災害の経験から見える法医学の重要性について	3	保健
		薬剤師の仕事はどう守っていくか	3	保健
		薬の副作用を減くするため薬剤師は何ができるか	3	保健
		薬剤師とAIがどう共存すべきか	3	保健
		医薬品をいかにして生活に便利なものにするか	3	保健
		貧困な国や地域にどのように医療を提供するか	3	保健

		薬の現状をふまえ、今後の薬局はどうあるべきか	3	保健
		高齢者のポリマーアームシミュレーション問題に対応する方法とは	3	保健
		終末期医療の在り方とは	3	保健
		望まない終末期・最期にしないためには	3	保健
		リハビリと介護を上手くつなげて治療ができているか	3	保健
		物を与えるだけの支援から、新たな支援の形へと	3	保健
		日常の食生活における問題点とは	2	健康
		なぜ日本人はがんになるのか	3	健康
		高齢化により引き起こされる様々な健康問題とは	3	健康
		医療格差とは何か	3	健康
		これからの看取り対応はどうあるべきか	17	実施手段
		患者にベストのチーム医療をどう実現するか	3	健康
		人生の最期に何を望むか	3	健康
		より長く健康生活を送るために必要なことは	3	健康
		生活習慣の変化による健康への被害とは	3	健康
		看護師不足が生じる理由とは	3	健康
		改善しなければならぬ日本の医療技術の現状とは	3	健康
		健康的な食生活をどう送るか	3	健康
		発達途上国での医療体制の不足	1	貧困
		HIV・AIDS 医療の歴史と今について	3	健康
		AI化によるこれからの医療	3	健康
		介護高齢者に対する虐待について	3	健康
		看護師不足の現状と原因を解決していくには	3	健康
		患者と同一目標に立ったケアを実現するには	3	健康
		看護師のストレスが軽減する労働環境づくり	8	経済と雇用
		医療現場の倫理問題をどう解決するか	3	健康
		家庭看護の必要性	3	健康
		食品添加物とのように向き合っていくか	3	健康
		看護師の権限をどう防ぐか	3	健康
		医療事故に対する課題と対策	3	健康
		食品ロス問題を解決するには	1	貧困
		権限をどう防止するか〜人から守られる話し方	4	教育
		待機児童の原因と解決策とは	4	教育
		スポーツによる怪我を予防するには	3	健康
		日本人の体力低下について	3	健康
		スポーツ界における体罰・ドーピングを防止するには	3	健康
		駅はいかにして世界に残り名曲となるか	16	平和
		芸術はいかにしてビジネスとなりうるか	8	経済と雇用
		色の見え方を覚え、心を動かすには	8	経済と雇用
		障害者の就労環境を向上させるには	8	経済と雇用
		アウトサイダー・アートの広がりを生むには	10	不平等
		日本の舞台芸術をどう育てるか	9	インフラ、イノベーション
		2次元ビジネスでの経済的自立に必要なことは	8	経済と雇用
		公共空間をいかにして有効活用するか	10	不平等
		アニメーション業界の経済的状況の改善のために	8	経済と雇用

(6)【事業報告】 (学部系統・SDGs別) 課題研究② (高3、探究)

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 6年 総合的な探究の時間「(SDGsの観点を取り入れた) 課題研究」
 2 日時 令和3年4月～令和3年7月
 3 担当者、招聘講師等 上山晋平・西田知佳(教育研究部) 6学年所属教員
 4 対象生徒等 生徒176名(6学年生徒)
 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■在り方生き方探究プロジェクト
 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

自己の「進路」に関連する、「興味・関心」のある分野で問題になっている点をいくつか出して、その中から自分が解決するためにすべきこと(課題)を設定し、調査・研究(実践)・発表(グループ別・学年全体)をすることで、「他者の課題解決」に貢献する。(その際、「SDGs」や「夢プロ」にできるだけ関連させること。)
 <課題研究を通して特に身につけたい力> (「福山中・高で育てたい6つの資質・能力」より)

①情報整理力	必要なデータや情報を収集・分析・整理・研究手法を身に付ける。
②表現力	まとめた内容を「分かりやすく」、「役立つように」まとめ、発表する。
③課題解決力	課題を発見して、最適解により近い解決策を提案する。
④チャレンジ精神	高い志を持ち、課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦する。
⑤キャリア能力★	自分の進路や進路で課題になっていることを自分で語れるようになる。 <u>(「なぜこの進路を希望するのか」、「自分は何に興味を持って探究してきたのか」について(他者に)自分の言葉で表現する必要性が増している(進学時の面接、自己表現作文等)。今回の課題研究の取組をその一助とする。</u>

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) ガイダンス(5年3月): 課題研究ガイダンスを前年度末に実施(6年は短期間のため)
- (2) ガイダンス・グループ確定(4/21): 希望グループアンケートはスタディサプリで実施
- (3) 論文調べ(Google Scholar)・実践・発表資料(A4・1枚)(6/16まで): 期限厳守
- (4) 発表用PPT作成(6/30日まで)
- (5) グループ別発表(2時間)(7/14): 1人3～5分間
- (6) 学年代表者発表(7/21): グループ代表者(各クラス1名以上)が文理に分かれて発表(1人5～8分)
- (7) 論文作成(7月末まで): 取組を3000字以上のミニ論文の形にまとめる(PC)

8 生徒の評価(感想等)

- 5年生の時は、課題を見つけること自体が大変で、実行もあまりうまくいかなかった。しかし、6年生になって、進路もはっきり決まってきた中での課題発見・情報収集・解決策の提案はとても楽しく、満足のいくことばかりだった。探究するとはこのことだというのがやっと分かった気がした。

9 成果と課題

【成果】①進路に寄った探究にすることで夢に近づく機会となっている。②論文検索で深みが出た。③論文を書くことで大学の学びに近づけることができた。④論文検索・執筆とスキルの向上が見られた。
 【課題】①短期間(1学期)。②期末テスト時期と重なり受験生には大変。③コロナ禍での活動制限。

学部	%	探究課題の例
人文	5	図書館を利用した地域活性化のために何ができるか?
人科		著作権の理解度、認知度を上げるにはどうすればよいか/効果的な音声伝達の条件とは
教育	13	父親の育児参加による子への影響は / 芸術を通して障がいを持つ人の能力を引き出すために
法学	5	若年層の投票率が低下しているのはなぜか
経済	16	福山市に若者が訪れるにはどうしたらいいか?/キャッシュレス決済をどう広げていくか
社会	4	火星で安全に生活できるのか?
国際	1	災害時に、自治体や施設は在日外国人にどんな対応を/日本の多文化共生教育を進めるには
理学	3	スマホを落とした際に画面が下になることを防ぐにはどうしたらよいか
工学	14	サステナブルなシューズとは / 循環型社会におけるエコな建築とは。
獣医	5	動物の殺処分がゼロになるためにどのようなことができるか
薬学	2	どうすれば子供の薬嫌いが改善されるのか / マスクの種類と飛沫の関係とは?
芸術	4	こころの病はアートでサポートできるのか / 学校ブログを使いやすくするためには

■生徒作成発表用 PPT スライド

学部別発表会(全員PPT作成) 例

総合的な探究の時間 在日外国人に対する災害支援

総合的な探究の時間
在日外国人に対する災害支援

内容・理由と探究方法

内容・理由と探究方法

内容・理由と探究方法

内容・理由と探究方法

50Gsとの関連

50Gsとの関連

現在の課題

現在の課題

アンケート方法・内容について

アンケート方法・内容について

アンケート調査結果

アンケート調査結果

アンケート調査結果

アンケート調査結果

アンケート結果から

アンケート結果から

実行内容(2回目)

実行内容(2回目)

会員登録訓練

会員登録訓練

終わりに

終わりに

■発表資料 (A4・1枚)

「発表資料」(A4・1枚) 詳細

例① 著作権の理解度、認知度アップには？ 例② 災害時に外国人への対応は？

著作権の理解度、認知度アップには？

著作権の理解度、認知度アップには？

災害時に外国人への対応は？

災害時に外国人への対応は？

(7)【事業報告】 (学部系統・SDGs別) 課題研究③ (高3、探究)

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 6年 総合的な探究の時間「(SDGsの観点を取り入れた) 課題研究」
 2 日時 令和6年4月～令和3年7月
 3 担当者、招聘講師等 上山晋平・赤澤尋樹(教育研究部) 6学年所属教員
 4 対象生徒等 生徒194名(6学年生徒)
 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■在り方生き方探究プロジェクト
 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

自己の「進路」に関連する、「興味・関心」のある分野で問題になっている点をいくつか出して、その中から自分が解決するためにすべきこと(課題)を設定し、調査・研究(実践)・発表(グループ別・学年全体)をすることで、「他者の課題解決」に貢献する。(その際、「SDGs」や「夢プロ」にできるだけ関連させること。)

〈課題研究を通して特に身につけたい力〉 (「福山中・高で育てたい6つの資質・能力」より)

*ちなみにエージェンシーを発揮するにはこの6つすべてが重要と考えています。

①探究心(地域や社会に働きかけ、本質を探ろうとする)	✓	④コミュニケーション力(互いの思い・考えを大切にしつつ協働する)	
②創造力(新たな解決方法や価値を創造する)	✓	⑤協働(多様性を認め合って協働する)	
③思考力(広くて多角的な見方で見て考え、判断する)	✓	⑥チャレンジ精神(困難に負けずに粘り強く挑戦する)	✓

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 5年2月 ガイダンス①: 課題研究ガイダンスを前年度末に実施(6年は短期間のため)
- (2) 6年4月 ガイダンス②・グループ確定
- (3) 5月1日 発表準備(5つに取り組む)
- (4) 5月29日 発表資料提出
- (5) 6月7日 スライド提出締切
- (6) 6月・7月 グループ別発表1・2
- (7) 7月3日 論文提出
- (8) 7月10日 学年発表(大講義室)
- (9) 7月24日 課題研究振り返り

8 生徒の評価(感想等)

- 4、5年の探究よりも自分の意思でアンケートやポスターなどの実行をすることが出来た。
- 6年の探究活動が1番自分自身の学びが多かった。6年では5年よりもさらに深く探究できたと思うし、きちんとした実行ができたのが6年の探究で、とても達成感があるから。課題設定を変えた時に2年間でやってきた情報収集や考察する力を活用してスムーズに進めていくことができたから。
- スライドや論文も気合いを入れて作ることができた。自分の将来に1番関係があり、1番積極的にできたから。論文を書いたことがなかったので、自分で一から知りたいことについて探究して、論文にまとめるという大きな活動をしたことがなかったから。
- 自分の住んでいる地域に関わる探究課題で他人事ではなく自分事として考えることができた。自分が住んでいるから身近に感じることができ、楽しい活動ができた。
- 自分の将来について考え、その夢へより近づけるようにたくさんアイデアを出し、前よりもずっと関心が深まったから。
- 完全に自分の力で進められたし、やりたいこと、知りたいことをきちんとつき止めたから。自分の進路に関連した探究をしたので、三年間の中で最も意味のあることをしている感じがしたから。
- 今回の3000字の論文を書くことで、今までの集大成として行なってきたことや、今回多くあった学びをまとめることができたから。初めて1人で取り組んだ探究活動であったし、3000文字の論文を書くためにはその分いろいろなことを調べたりまとめたりしないとイケなくて、大変だったけど、深い学びになったから。自分の将来が関係していて、興味のある内容であったから。

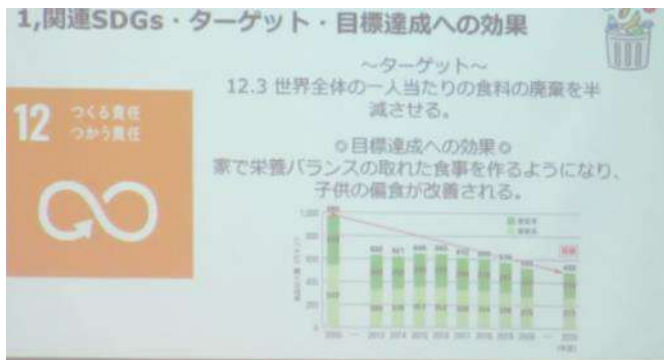
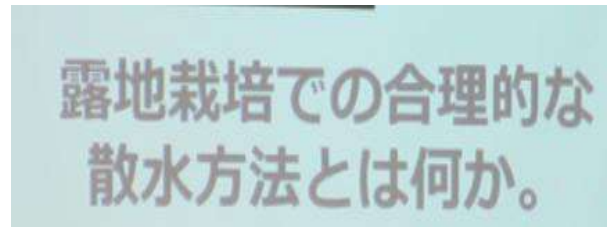
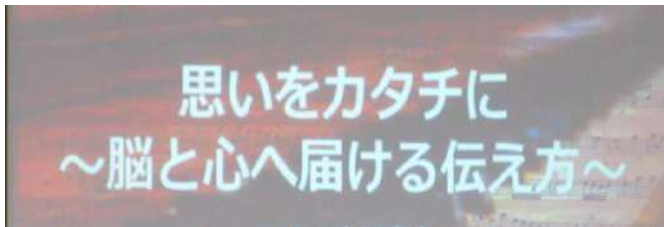
9 成果と課題

【成果】 4、5年次に比べて、自分の意思や力で取り組めた生徒が増えた。これまでの集大成となった。

【課題】 期間が短いため、できることが限られている。5年次の夢プロと内容を変えた生徒は大変そうだった。

■代表者発表のタイトル

【社科】国際交流に興味を持つ子供を増やすには、どうすればよいか
【芸術】脳と心へ伝える届け方とは
【総科】読み聞かせは子供にどのような効果があるのか
【は・教】子供の偏食を減らすには
【医療】どうしたら地域医療を改善できるか
【工学】住みやすく、住み続けられる家を作るには
【環境・農】露地栽培での合理的な散水方法とは何か



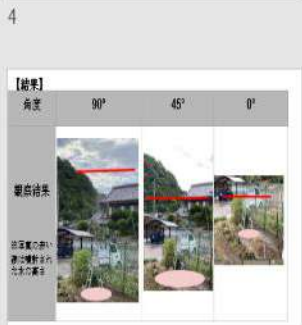
現状分析・問題点

◎散水にかかる時間と方法

ジョウロ	ホース
A	15
B	50
C	15
D	30

※散水の量や当番4日に確認した。

- ◎問題点
- ・井戸水を利用しているため、水圧が不安定。
 - ・夏(冬)場の長時間の散水作業が体に堪える。
 - ・ジョウロや蛇口と畑の距離が大変。
 - ・畑に肥料の臭が振り回されており、先へ進めず、畑の奥まで水が行き届かない。
- ↓
- 時短、そして確実に水が行き届くように、今までの散水方法を改善すべき！！



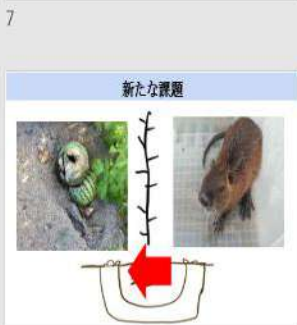
高さ	高1(45°)	低1(45°)
面積(m ²)	42.99	19.62
時間(s)	33.66	35.13
総時間(s)	605.96 (11.59分)	1351.47 (22.52分)

時短成功！！

原価総額 375円
此時間、畑の総面積と面積の割りに、高さ別の時間も調べた。そして、水遣からスプリンクラーまでの作業時間と往復移動分をたし、往復2回、高1〜5回、低1〜3回

今後の課題

- ・野菜の種類によって、適切な水の量は異なるので、野菜を適切に管理するためには、スプリンクラーに水やりを任せるのは結果ではない。
- (ナスはたっぷり水が必要だが、トマトは少なめの方が好きが嫌す。)
- ・野菜の真夏(晴れや雨)に気づくためにも、ある程度の人による観察が必要で。
- ・スプリンクラーも手間がかかる。一統の方法も探す



【参考】

- <https://www.unicef.or.jp>
- <https://www.w4-city.kanazawa-np.jp>
- <https://www.unrba.co.jp>

(8)【事業報告】 個別最適な学び実証研究1年目(全学年総合)

文責 矢幡 愛

- 1 学年・教科等 中学全学年
- 2 日時 2020年(令和2年)4月～2022年(令和4年)3月予定 *2年間の実証事業
- 3 担当者 全学年教員
- 4 対象生徒等 1年生120名、2年生118名、3年生119名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本事業の目的は、「こべたん」(「広島県個別最適な学び実証研究」の略)の仮説を検証し、自立した学習者を育成する優良モデルを構築することである。こべたんの仮説は、「多様な選択肢を提供することにより、一人一人が最適な学びをチョイス(=自己決定)できるようになる。それにより、できる喜び・学ぶ楽しさを知り、自己肯定感が向上し、主体的に学び続ける」というものである。全学年の総合的な学習の時間とこべたんを関連させ、生徒一人一人の個別最適な学びを実現させていく。

7 内容の具体・展開の流れ

【カリキュラムの進め方】

- ・基本的には、今までの総合のカリキュラムは白紙にし、総合を進めながら作成していく。
- ・チームこべたん(広島県教育委員会の方、アドバイザー等)からの提案
 コアメンバーでざっくりしたカリキュラムの流れは作るが、基本的には生徒の声を聞きながら、他の先生方も巻きこんで、一緒に動きながら作っていくイメージで進める。5月のオリエンテーションで、生徒自身の福山中での学びの目標やゴール等の見える化を行う。1学期の間は、これから何をしていくか生徒とじっくり考える期間でも良いのではないかと提案を示していただいた。

【教員やチームこべたんの宿題(ミッション)】

- ・目的と2年後のゴールの言語化を行った。また、2年後のゴールは、教員の姿(こうなっていたい)と生徒の姿(こうなっていて欲しい)を共有した。
1. 学校としての目的、2年後のゴール(教員の姿と生徒の姿)を整理する。
 2. そのために何をしていきたいか(ToDo)を整理する。

【実践内容】

- ・4・5月の休業中においては、オンライン授業・SHRの検討もチームこべたと一緒にすすめた。
 4/17、4/25 こべたん実証研究×福山中オンラインミーティング
 また、EdTechとこべたんの動きの関連についても検討された。
- ・6月の授業再開後は、各学年の総合の導入では、アドバイザーとのオンライン授業を始め、探究とは何かについて考えた。以下は実施授業の大まかな内容である(全学年共通)。2学期以降は、1学期の企画書をもとに各自のタスク(すること)を実行した。外部機関と連携が必要な際も、生徒自身がアポを行った。

【1学期】	【2学期】
イントロダクション	2学期以降の目的等の共有
企画書作成、立ち位置確認・企画書深掘り	タスク実行(外部連携等)・ふりかえり
タスクを書き出そう	中間発表(2・3年生)、AiGrow測定
AiGrow(気質診断)測定他	2学期のふりかえり
特別セッション(特別講師を招聘・オンライン)	【3学期】
スケジュールに落とし込もう	タスク実行・ふりかえり
1学期のふりかえり	最終発表(2・3年生発表、1年生見学)
<夏休み>InspireHigh動画視聴 探究学習会(希望者)	1年間のふりかえり、AiGrow測定 来年度にむけて

【生徒のアンケートより】

Q. これまでの「総合的な学習の時間」と比べて、「MY探究」を通じて「学ぶことは面白い」と感じるようになりましたか? *「そう思う」「少しそう思う」と答えた生徒の理由

- ・決められたテーマではなく、自分から主体的に学ぶことができるから。
- ・自分の究めたいことを自分なりに調べることができたから。
- ・今までは自分一人で物事を行うことが少なかったから、一人でやるからこその難しさと楽しさを味わうことができたから。
- ・自分の疑問ややりたいことを深めることができるから。

*「あまりそう思わない」と答えた生徒の理由

- ・「MY探究」であり、「学ぶことが面白い」と感じたわけではないから。

- ・総合は楽しいけど、他の勉強は面白くないから。
- ・自分の好きなことしかしてないから。

■資料チームこべたんと職員とのオンラインミーティングの資料（チームこべたん作成による）

区分	R2年度			R3年度	R4年度
	1学期	夏休み	2学期		
取組	My探究の準備 【3種の神器】 企画書・タスク・ スケジュール	できる 所から 実行	3月までに1回はプロ ジェクト実行・振り返り (できた生徒は次の プロジェクトへ) 各教科の学びも個別最適化 (できるところから)	継続 (進化)	自走 (進化)
教員研修・対話(必要に応じて随時)					
評価	AiGrow等を参考に 評価基準を整理・ 生徒と共有 ※第5期ビジョンとの整合		プロジェクト実行後に AiGrow測定 学力とコンピテンシー の相関等も分析	継続 (進化)	自走 (進化)
環境 整備	BYOD (個人端末+学校貸与)		My探究サポーター制度運用 (検討中) ラーニングコミュニティの形成 (検討中)		
			Gsuite本格運用 1人1台端末整備 (回予算措置)		
			生徒会による学校魅力化プロジェクト		

※今後、2年生はチャレンジウィーク、3年生は修学旅行を企画した取組も盛り込む予定。(先生方と対話しながら進める)

区分	内容	1学期	2学期	3学期	R3年度
Gsuite導入 (5月~)	G Classroom: 課題配信・提出 G forms: アンケート作成・回答分析 G spread sheet: 資料共有・共同作成 G Meet: ビデオ通話・チャット G mail: 外部メール		試行導入		本格導入
端末1人1台 (1月~)	GsuiteやEdTechソフトを活用した効率的・効率的な学び ※学びのイメージは各学校で創る!		EdTechソフト活用 (医師研会)		EdTechソフト活用 (伊予市)
					ChromBook導入
区分	内容	1学期	2学期	3学期	R3年度
スタスタ	動画配信、アンケート機能 ※今年度限り		導入		
ロイノート (EdTech補助金)	思考ツール、課題配信・提出、学びのポートフォリオ (学習成果の保存・振り返り)	一部試行	試行拡大		本格導入
Inspire High (EdTech補助金)	キャリア教育 (職場訪問等の代替)		全学年 (日曜日の個人参加OK)		個人参加100% (無料)
AiGrow	教育効果検証 (コンピテンシー測定・分析等)	実証	測定?	測定?	本格
Zoom	オンライン併用授業、外部との連携			併合で導入	
Gsuite	課題配信・提出、学びのポートフォリオ、オンライン併用授業、外部との連携、課題集	一部試行	授業での試行		本格導入

■生徒の様子



アドバイザーのオンライン授業



中間発表のようす



お菓子の製作・販売



音楽の楽しさを伝える



野菜作り



学校を美しくする (ドアの色塗り)



福山市内のホテルと商品開発



AiGrow 診断 (BYOD)



探究の交流

(8)【事業報告】 個別最適な学び実証研究2年目（全学年総合）

文責 矢幡 愛

- 1 学年・教科等 中学全学年
 2 日時 2020年（令和2年）4月～2022年（令和4年）3月 *2年間の実証事業
 3 担当者 全学年教員
 4 対象生徒等 今年度 1年生120名、2年生120名、3年生118名
 5 本校ESDの観点 □国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■在り方生き方探究プロジェクト
 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本事業の目的は、「こべたん」（「広島県個別最適な学び実証研究」の略）の仮説を検証し、自立した学習者を育成する優良モデルを構築することである。こべたんの仮説は、「多様な選択肢を提供することにより、一人一人が最適な学びをチョイス（=自己決定）できるようになる。それにより、できる喜び・学ぶ楽しさを知り、自己肯定感が向上し、主体的に学び続ける」というものである。全学年の総合的な学習の時間とこべたんを関連させ、生徒一人一人の個別最適な学びを実現させていく。今年度は事業の2年目にあたり、アドバイザーの意見を取り入れつつ、My探究を自走する1年であった。

7 内容の具体・展開の流れ

【カリキュラムの進め方】

- ・基本的な進め方は1年目と同じである。
- ・各学年1名がチームこべたん（広島県教育委員会の方、アドバイザー等）と話し合いながら進める。
- ・グーグルクラスルームにアドバイザーからの資料や意見が投稿され、教員はそれを参考にする。
- ・今年もゼミ制を続け、ゼミの目的に共感した生徒はメンバーに入る。教員はヒントを投げかける等で基本的には生徒が課題設定を行う。
- ・生徒自らもゼミを立ち上げ、メンバー募集を行った。

【実践内容】

【1学期】	【2学期】
イントロダクション、新しいゼミの紹介	2学期以降の目的等の共有
企画書作成、企画書深掘り	タスク実行（外部連携等）・ふりかえり
タスクを書き出そう	AiGrow測定
AiGrow（気質診断）測定他	2学期のふりかえり
タスク実行	【3学期】
1学期のふりかえり	タスク実行・ふりかえり
夏休み タスクの実行 自分のテーマに合った地域・企業につながる	共有会（1～3年生合同・テーマ別） 1年間のふりかえり・来年度にむけて

【学校評価アンケートより】

アンケート項目	肯定的評価（9月）	肯定的評価（1月）
1. あなたは、総合的な学習の時間に主体的に取り組んでいる。	92%	87%
2. あなたは、総合的な学習の時間や教科の学びによって、自分自身の考えを表現する力がのびた。	88%	85%
3. あなたは、総合的な学習の時間や教科の学びの中で、自分の課題や問題を見つけて取り組む姿勢が身についた。	88%	88%

・アンケートの結果を見ると、1と2について評価が下がっている。これは途中でMy探究のテーマを変更し、まだタスクを考えている生徒も多く実行に移せていないことも影響しているのではないかと分析した。3を見ると同じであるため、総合だけでなく教科においても、深く考える姿勢が身に付いてきていると考える。

■ゼミの活動を紹介したスライド、グーグルクラスルーム

○グローバルゼミ

<p>③ゼミ生の活動事例（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生2人 ・連携先：NPO法人ちつたいいJAPAN ・活動内容：不要になった物資を回収（筆記用具・ぬいぐるみなど）し、NPO法人に送る。  <p>送り切れなかったぬいぐるみは、学校付近の認定こども園の園児へ届けました。</p>	<p>③ゼミ生の活動事例（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生5人 ・連携先：NPO法人 世界のこどもにワクチンを 日本委員会 ・活動内容：地域のごみ回収センターへ校内で集めたペットボトルのキャップを持参し、NPO法人を通してワクチンを届ける  <p>郵送で送ることもできましたが、直接渡したいという生徒の思いがあり、休日にキャップを持っていきました。</p>
<p>③ゼミ生の活動事例（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生3人 ・連携先：弥勒の里国際文化学院日本語学校 ・活動内容：「やさしい日本語」を使用した本の作成  <p>今年度の文化交流をした留学生に向けて、「やさしい日本語」を使用した本を作成しています。</p>	<p>③ゼミ生の活動事例（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生4人 ・連携先：NPO法人 Peace Culture Village ・活動内容：法島県に住む中学生だからこまできる平和活動  <p>本校生徒の活動を新聞を通して知られた元駐米大使の方から、直接お話を聞くこともできました。</p>

○サンクレアゼミ

<p><u>サンクレアゼミの目的</u></p>  <p>自分たちで ミニ循環型社会を作る</p>	<p>サンクレアゼミ式 循環型社会</p> 
<p>クリックしてタイトルを追加</p> <p>②生ゴミの投入(約一ヶ月間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一日200g～300gを小さくして少量の水と一緒に入れる。 →入れて良いもの...野菜の切れ端、卵の殻、肉や魚の骨、コーヒー粉など 入れてはいけないもの...貝殻、紙、分解しにくい果や種(梅干、菊など) など ・しっかり混ぜる →土が空気を含み、好気性の微生物の働きが活性化、分解が促進 	 <p>トナカイホットドッグ</p> <p>ストを追加</p>

○大学生と連携したゼミ



The screenshot shows a Google Classroom interface for a class named 'jissen-Chiゼミ-chi'. It includes a profile picture of a character, a 'Meet' button, and a list of students. The class is currently empty.

○生徒が立ち上げたゼミ



The screenshot shows a Google Classroom interface for a class named 'ピタゴラ R3 My探究グループ'. It includes a profile picture of a character, a 'Meet' button, and a list of students. The class has several members and a 'スケジュール' (schedule) link.

IV 他校との実践交流

(1)【事業報告】名古屋国際中学校との実践交流①

文責 石川玲弥

- 1 学年・教科等 (中学) 2・3年生、(高校) 5年生 夏休み
- 2 日時 2017年(平成29年)8月2日(火)14:00~16:00
- 3 担当者、招聘講師等 矢幡愛 高山奈緒子 松枝美貴子 石川玲弥(以上中学) 高橋俊光 上山晋平(高校)
- 4 対象生徒等 2~3年生(17名) 5年生(4名) 名古屋国際中学校2年生(7名)
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト □在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

今回のサステナブルスクール同士の交流会は、名古屋国際中学からの提案により行うことになった。本校での目的は、交流を通して本校の活動の幅を広げることである。他校の取組を知り、活発に意見を交換することで、本校の活動の改善点や新たな活動の糸口を見つけることができるのではないかと考えた。そのために、1学年次に総合的な学習の時間でいった「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」と、3学年次に行った「国際調べ」の内容をまとめ直し、発表した。5学年はマレーシアやシンガポールで問題になっている「煙害(ヘイズ)」と日本の関わりについて調べ、発表をした。2学年、3学年、5学年の発表を行うことで、総合的な学習の時間が、自分たちの地域のことを知り、解決策を考える学習から、世界の現状を知り解決に導くための学習へとつながっているのだということを生徒にも意識させることができたと思う。交流会の準備・運営を中学生が中心に行うことで、マネジメント能力の向上も図った。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 14:00~14:05 開会のセレモニー
- (2) 14:05~14:25 学校紹介(福山中学校→名古屋国際中学校)
- (3) 14:25~14:30 質疑応答
- (4) 14:30~14:50 5年生のプレゼン
- (5) 14:50~14:55 質疑応答
- (6) 14:55~15:10 2年生のプレゼン
- (7) 15:10~15:20 3年生のプレゼン
- (8) 15:20~15:30 3年生のプレゼン
- (9) 15:30~15:35 質疑応答
- (10) 15:35~15:45 名古屋国際中学校のプレゼン
- (11) 15:45~15:55 自由交流(グループに分け、自由に交流を行う)
- (12) 15:55~16:00 閉会のセレモニー 記念撮影 解散



8 生徒の評価(感想など)

- 名古屋国際中学校の生徒は、自分たちでしっかりと考え、調べた上で活動を行っていました。「主体的な活動」を自分たちも目指しているつもりでしたが、まだまだだと思いました。
- ユネスコ憲章を全て実践するという目標のもと、平和学習や環境保全の活動を行っていると感じ、素晴らしいと思いました。私たちも、学校全体で共通した目的を持ち、「〇〇までにこうしたいから、この活動をしよう」という風にしていかなければならないと思いました。これはサステナブルの活動以外にも、生かせることだと思いました。
- 違う学年の発表を見て、こんなことをしているんだと新鮮に思いました。特に、5年生の先輩の発表を見て高校になったらこんな発表をするんだと思って興味深かったです。自分たちの学習していることが、こんな風につながっていくんだなと思いました。

9 成果と課題

- 生徒が積極的に交流に臨んでいた。今回の活動が今後の活動につながっていくのではないと思う。
- 各学年ではそれぞれ素晴らしい取組をしながらも、それをお互いに知る機会があまりないと思った。中学生が高校生の活動内容を知ることが、自分たちの活動の意義を知ることにもつながる。もっと交流する場や共通した発表の場があっても良いと思った。
- 名古屋国際中学校の取組は、学校全体で共通した意識を持ち、明確な目標を持って行われていた。本校の取組は、まだ一部のもので終わっていると感じた。改善していく必要があると思う。

● 3 学年発表のシナリオ

タイトル	これから国際交流の発表を行います。私たちの学校はオーストラリアのダウンランズや韓国のポハンにある大東中学校と交流があります。
目的	国際交流を行う目的は2つあります。1つめは「グローバル社会に対応できる人材を育てる」ため、2つめは「英語やコミュニケーションで学んでいることを実践し身に付ける」ためです。
内容	国際交流は、中高合同で行っているものと、高等学校で行っているものがあります。
集合写真	これは、オーストラリアのダウンランズから交流に来てくれた写真です。ダウンランズの皆さんは、2年に1度福山中学校に来てくれます。
自己紹介	ダウンランズの皆さんが自己紹介をしている写真です。ダウンランズの方には、各クラスに分かれて入ってもらいます。
お弁当	クラスで一緒にお弁当を食べている写真です。みんな笑顔で楽しそうですね。
琴	ダウンランズの皆さんに琴を教えているところです。日本の伝統文化に触れてもらいました。ちなみに、琴は私たち福山の名産でもあります。
家庭研究	家庭研究部によるおもてなしも行われます。ここで家庭研究部の部長である坂上（さかうえ）さんにお話を聞いてみたいと思います。
縄跳び	授業だけでなく、スポーツなどのレクリエーションでも交流します。交流内容は生徒が中心になって考えます。当日の交流も生徒が運営します。校内では、バディが一人一人についてサポートします。実際にバディを体験したボーグさんに話を聞いてみましょう。
ポハン集合	次は、ポハンの大東中学校との交流についてです。大東中学校からは毎年交流に来てくれます。今年は10月に本校からも交流しに行く予定です。
習字	大東中学校の皆さんに「習字」を体験してもらっているところです。福山中学校の生徒がひらがなやカタカナを教えています。大東中学校の生徒は「ハングル」を教えてくれるので、お互いに楽しみながら交流できます。
理科	これは理科の授業風景です。大東中学校の生徒も福山中学校の生徒も、答えが分かったのか、とても良い笑顔です。分かったときの嬉しさは世界共通ですね！
スポーツ	スポーツを通じた交流も行います。この時も、生徒が企画・運営を行います。実際に実行委員をしてくれた二人に話を聞いてみましょう。
身に付いている力	国際交流を通して身に付いている力は、相手の立場に立って考えたり理解しようとしたりする力や積極的にコミュニケーションをとろうとする力、学んだ英語や文化を活用し自分の思いを表現しようとする力です。
夢の実現	これらの力は、私たちのスローガンである「夢の実現」にもつながるものです。これからも、これらの力を伸ばしていきたいです。ご清聴ありがとうございました。

(2)【事業報告】名古屋国際中・高等学校との実践交流②

文責 新宮 正一

- 1 学年・教科等 希望者
- 2 日時 令和 元 年8月1日(木)
- 3 担当者 引率教員 新宮正一・森上智広
- 4 対象生徒等 本校演劇部希望者(中高) 15名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

① 目的

本研修の目的は、以下の通りである。

同じユネスコスクールとして、以前より交流のある名古屋国際中学・高等学校の来校を受けて、両校の取組紹介やディスカッションを行うことで交流を深める。

② 経緯

3年前に名古屋国際中学・高等学校が本校に来校されて学校間交流を持って以来、交流を続けている。一昨年度には、名古屋国際中学・高等学校で行われた研究報告会にも本校職員が参加するなど、生徒・職員の間で積極的な交流が行われている。

7 内容の具体・展開の流れ

8月1日(木) 名古屋国際中学・高等学校 生徒5名来校(引率 黒宮祥男教諭)

- ① 自己紹介と学校紹介
- ② 本校生徒による「天寶一Project」の紹介
- ③ 名古屋国際中学・高等学校生徒による取組の紹介
- ④ 生徒間交流(牡鹿中学校の実践事例を参考に)
- ⑤ 学校施設見学

8 生徒の評価(感想など)

- 初めは緊張したけど、慣れてきて色々な話ができよかった。
- 何を話してよいかわからなかったけど、そのうちに少しずつ話ができるようになったのがよかった。
- 共同でSDGsの取組図を作成して、色々なことを考えていることに刺激を受けた。もっと色々なことにチャレンジしたいと思った。

9 成果と課題

【成果】普段、交流を持つことのない遠隔地の生徒と交流が持てたことは評価できる。またこちらの指示がなくても、生徒間で交流できていたのが大きな成果である。

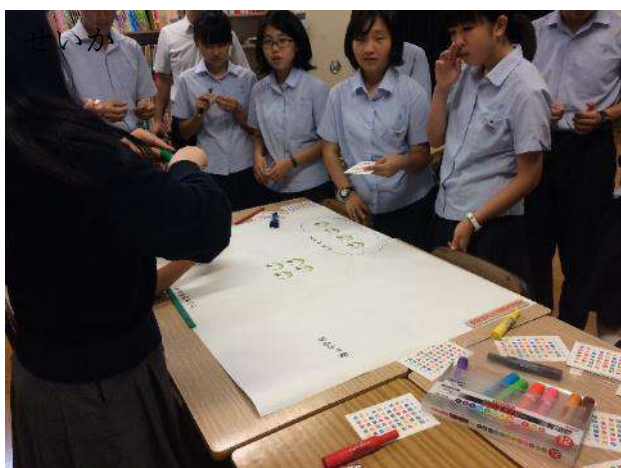
【課題】

- ・一部だけの生徒の関りではなく、全体を巻き込む必要があるのではないか。
- ・夏季休業中だけでなく、日常的な交流が持てるとさらに関係が深まると考えられる。

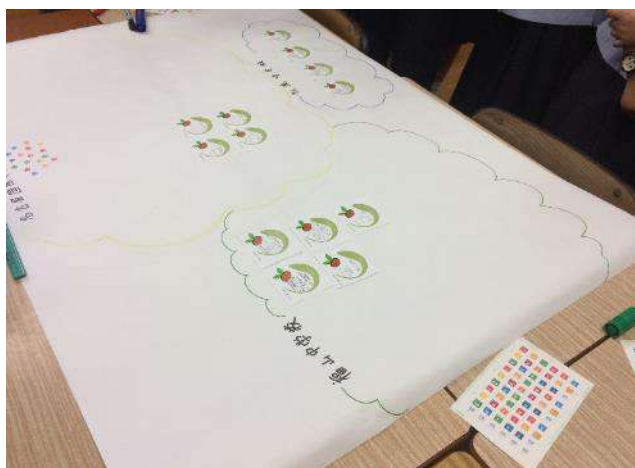
●生徒の活動の様子



幾つかのチームに分かれての生徒間交流



生徒間交流後の発表



成果物

成果物と共に記念撮影

(3)【事業報告】WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)① 1年目(令和2年度)

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 WWL
2 日時 2020年(令和2年)4月～2021年(令和3年)3月
3 担当者 上山晋平
4 対象生徒等 生徒10名(5学年生徒のうち希望者)
5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

WWL事業とは、文科省の取組で、将来、世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成するために、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組みの形成を目指す取組がねらい。

期間は3年間で、広島大学附属高等学校を中心に、県内では福山誠之館高校、福山市立福山高校、広島市立舟入高校の3校、県外では、鹿児島県立甲南高校、大分県立上野丘高校、福岡県立小倉高校が参加する。(特徴的なSSHやユネスコスクールと連携している)

7 内容の具体・展開の流れ【コロナ禍により当初の予定と大幅変更】

- (1) 7月(ALネットワーク運営会議) *コロナ禍のため4月開始予定が、7月に延期となった。

【ア 広島大学 WWL 事業のポイント】

- ①課題研究を組織的に進める体制を構築する
- ②求められる資質・能力の育成を目指すカリキュラムを開発する
- ③地域を超えた課題研究のグループワークネットワークを構築する
- ④アドバンストプレイスメントを同運輸うする
- ⑤成果発表会(2020、2021年)と国際会議(2022年)を実施する

【イ 3年間のプログラム】

- ①1年目(2020):グループワークの試行、成果発表会
- ②2年目(2021):グループワークの充実、世界発表会
- ③3年目(2022):海外とも協働するグループワーク、国際会議 *予定

【ウ 広島大学との連携プログラム】

- ①広島大学の国費留学生と国際問題での協議・発表(10名) ②広島大学のオンライン授業受講(1名)
(2)生徒を募集する(各クラスに回り、募集要項とともに上山が生徒に呼びかけ、10名が参加を表明する)
(3)国費留学生との連携プログラム

*全て時間は、13:30～16:00に実施。使用言語は「英語」とする。テーマは、「環境」「平和」「教育」

- ①10月24日(土) 留学生が大学院での研究内容について英語でプレゼン、生徒と質疑応答、グループワーク
- ②11月7日(土) 同上
- ③11月14日(土) 生徒がグループ別にプレゼン
- ④12月19日(土) 同上
- ⑤1月9日(土) 広島大学で全体プレゼン(福山高校はオンライン参加)
- ⑥3月中 リーデンローズにて広大附属高校の校内発表会(連携校からの参加希望はナシ)

8 生徒の評価(感想等)

- 回を重ねるごとに自分からより積極的に発言できるようになり、プレゼンについてしっかりと深められるようになり、より楽しくなっている。この成長を最後の広島大学での発表に繋げ、最後気持ちよく終わることができるようしっかりと練習して集大成とする。指摘をもらった部分も改善してより良い発表にする。疑問に思ったことを自分の中で解決しようと思わずに、気楽に何でも質問すると、より盛り上がるのが分かり、怖がらずにバンバン質問しようと思った。(第4回感想より)

9 成果と課題

- 英語プレゼン・グループワークの経験、教員負担は大きくない(クラスルーム活用・引率も最小限)
- △ 連携校との連絡・やり取り・提出などが月に数回ある(英語科以外の担当者でも可能とは思う)

【生徒募集時に作成した生徒募集要項】

英語を使って他校の生徒と学びたい課題研究してみたい人 大募集!

1 この取組について
 福山高校は今年から、近隣の学校とハイレベル学習協定を結んでいます(文部省研究指定協力校)。この共同体の名前は WWW (ワールドワイドラーニング) といって、グローバルな社会課題への取り組みを他校の生徒と議論して一緒に考えるものです。それによって、これからの社会で必要とされる「英語力」や「協働力」「課題解決力」などを身につけることを目的とするものです。
 英語を使いたい人!他校に仲間がほしい人!課題解決力を身につけたい人!広大総合科学部を目標としている人!皆にオススメの取組です。

2 協定校
 以下のように、広島県内の学校と九州の各県の代表校で学び合います。(九州からはオンライン参加)
 (福山市) 広大附属福山、誠之館、市立福山
 (広島市) 舟入高校
 (九州の代表校) 鹿児島甲校、大分県上野丘、福岡県小倉高校
 (広島大学) 広島大学総合科学部国際共創学科の留学生
 * どの学校もユネスコスクールや SSH (スーパーサイエンスハイスクール) などで開設している学校。

3 今年の学習内容
 グループワーク (10月~1月までの全5回)、成果発表会

4 取組内容
 (1) 広島大学大学院人間社会科学部研究科の国際留学生と
 懇話、教育、平和についてグループで議論する。活動は英語で行う。
 (2) 学校単位で町をつくる。グループの希望も可能。
 (3) 第1回 10月24日(土) 13:30~16:00 @広島大学附属福山高校
 ・ 広大附属は20名、市立と誠之館からは4~5名(人数増可)。
 ・ 前半は留学生が研究内容についてプレゼン、生徒が質疑、後半は小グループ活動。
 ・ 大学生がファシリテーターする。オンラインの生徒も議論に参加する。
 ・ 最後に、各グループの議論内容を発表する。
 (4) 第2回 11月7日(土) 13:30~16:00
 (5) 第3回 11月14日(土) 同上
 (6) 第4回 12月19日(土) 同上
 (7) 第5回 1月9日(土) 同上

5 補足
 ・ 留学生は、わかりやすい形で英語プレゼンをしてくれる。さらに事前に資料をくれるので、理解度を高めて読むことができる。(安心)
 ・ 10月から1月までの5回でテーマは、環境、平和、教育、できれば全員参加が望ましい。

6 申込
 ・ 興味のある人は、このチラシを持ち帰って保護者と相談する。
 ・ より詳しく話を聞きたい人、申込をしたい人は上山まで。(9月11日(金)まで)

【オンライン発時の様子】



【生徒作成発表資料の一例】

(教育チーム)

(環境チーム)

Bangladesh Educational Improvement
 Fukuyama High School

Contents
 IDEC student's summary
 Problems with education in Bangladesh
 Questions
 Solutions
 Data
 New problems
 Our presentation's summary
 References

Methodology
 Choose a school as the control group and treatment group
 Control group: students use prior information about sanitation.
 Treatment group: students use given new information about sanitation.
 -select a student representative to implement the task.
 Are there differences between the control group and treatment group?

Background: Millennium Development Goals(MDGs)
 Goal 2: Achieve universal primary education

	2000	2015
Net enrollment in primary education	86.5	82.9
Proportion of girls in primary education	88.7	87.55

-The results may be connected with Sanitation Facility Improvement

Protect Biodiversity

QUIZ
 It is said that there have been 6 "Mass Extinctions".
 When is the latest extinction, the sixth one?
 The answer: **NOW**
 (since "the birth of human race")

Research Question
How would you save the diversity?

OUTLINE
 Introduction
 Why environment is endangered
 Ecosystem service
 Global effort

(4)【事業報告】WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)② 2年目(令和3年度)

文責 中野誠也

- 1 学年・教科等 WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)連携校としての取組
- 2 日時 2021年(令和3年)4月～2022年(令和4年)3月
- 3 担当者 中野誠也
- 4 対象生徒等 希望生徒8名(5学年生徒)
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 生き方・在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

WWL事業とは、文科省の取組で、将来、世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成するために、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組みの形成を目指す取組をねらいとしている。

期間は3年間で、広島大学附属高等学校を中心に、県内では福山誠之館高等学校、福山市立福山高等学校、広島市立舟入高等学校の3校、県外では、鹿児島県立甲南高等学校、大分県立上野丘高等学校、福岡県立小倉高等学校が参加している。(特徴的なSSHやユネスコハイスクールと連携している)

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 5月 AL(アドバンスド・ラーニング)ネットワーク運営会議への参加

【ア 広島大学WWL事業のポイント】

- ①課題研究を組織的に進める体制を構築する
- ②グローバルな社会課題の解決に向けた探究的な学びを実現するカリキュラムを開発する
- ③オンライン環境を駆使したカリキュラムを開発する
- ④大学等と連携し、大学教育の先取り履修をする
- ⑤成果発表会(2020年、2021年)と国際会議(2022年)を実施する

【イ 3年間のプログラム】

- ①1年目(2020年):グループワークの試行、成果発表会
- ②2年目(2021年)【今年度】:グループワークの充実、成果発表会
- ③3年目(2022年):海外留学体験・他校とのグループワーク 国際会議

【ウ 広島大学との連携プログラム】

- ①IDEC-IGSプログラム(広島大学の国費留学生と国際問題についての協議・発表)*本校生徒はこれに参加
- ②広島大学名講義100選の視聴及びオンラインディスカッション(平日の放課後を利用し大学教育を体験)

- (2) 6月 IDEC-IGSプログラムへの参加者募集

募集要項を掲示した上で、各クラスを回り、生徒に参加を呼びかけた(8名の生徒が参加表明)

- (3) 6月～ IDEC-IGSプログラムへ参加 *使用言語は「英語」。研究テーマは「環境」「教育」「平和」。

【1年間の流れ】

- ①6月19日(土):留学生が大学院での研究内容について英語でプレゼン、質疑応答・協議を行う
- ②7月17日(土):同上
- ③8月4・5日(水・木)(夏休み中):宿泊合宿 他校の生徒と研究課題の設定、協議・プレゼンを行う
- ④11月6日(土):研究課題について協議・プレゼンを行う、留学生も議論に加わり、助言する
- ⑤11月20日(土):同上
- ⑥12月18日(土):研究課題についての最終発表 @広島大学

- (4) 令和4年度WWL(3年目)について *国際会議を予定

【ア 概要】

決められたテーマについて、「ある立場」になりきって、政府へ政策提言・要求を行うつもりで研究を行う。

各校1グループ（最大5名）が出場する。

【イ 年間の流れ（予定）】

①令和3年度3月中：参加生徒を募集する ②令和4年度4月・5月：各校で探究学習、発表準備を行う ③6月：国際会議プレ大会開催 ④7月30・31日（土・日）：準備・本番

8 生徒の評価（感想等）

- 留学生の方々の発表は自分にはない視点が多く、日本に住んでいる自分には知ることができなかった課題や、日本では問題視されてないが、他の国では問題視されていることについて知ることができた。（第1回感想）
- 前回と同様に、自分がこれまで着目したことのない視点から物事を見ることの重要性和面白さを学んだ。例えば、厳島神社では潮の満ち引きと鳥居について問題視されていることはよく知っていたが、その理由や対策について意識したことが全くなかったのもっと多くのことに興味を持つようにしたいと思った。（第2回感想）
- 広島大学の教授とオンラインで対話するという貴重な機会をいただけたことがよかったと感じた。今後の研究方法を見直すきっかけになった。（夏合宿感想）

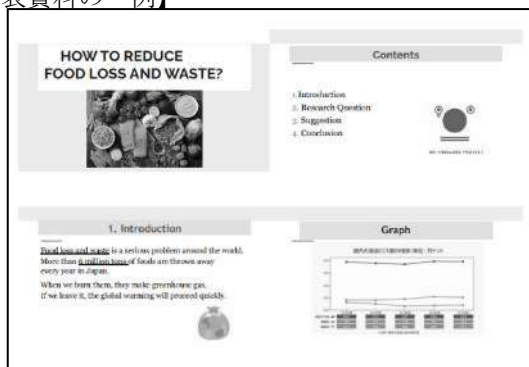
9 成果と課題

- コロナ禍において、留学生と生の英語で交流する機会を得られたこと。生徒たちは、学校生活ではなかなか味わうことのできない言葉の壁や、挫折感を感じることもできたと思う。
- 他校の生徒たちと交流する機会を得られたこと。休憩時間に、他校の生徒と勉強方法などについて話をする様子が見られた。どの学校の生徒も、探究活動や日頃の学習に熱心に取り組んでいる生徒たちばかりなので、そのような生徒たちと交流することは、大きな刺激になったと思う。
- △自校の生徒をどのようにファシリテートするのかということ。グループ内に他校の生徒も所属していたということもあり、生徒に対して課題の進捗管理や助言を行わなかった。裏を返せば、生徒が主体的に研究を完成させたということにはなるが、彼らが1年間を通じて高いモチベーションをもち続けていたかという疑問が残る（締切間近に急造で資料を完成させたことも…。連携校の先生方に任せきりになるのではなく、定期的に生徒を集め、進捗状況を共有するなどの必要があったと思う。

【夏合宿 発表準備の様子 @福山附属】



【発表資料の一例】



【最終発表を終えて集合写真 @広島大学】



【学習成果発表会の様子 @広島大学】



(5)【事業報告】WWL③ 5年目(令和5年度)

文責 中野誠也

- 1 学年・教科等 WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) 連携校としての取組
- 2 日時 2024年(令和5年)4月~2025年(令和6年)3月
- 3 担当者 中野誠也
- 4 対象生徒等 希望生徒6名(5学年生徒)
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 生き方・在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

WWL事業とは、文科省の取組で、将来、世界で活躍できるイノベーティブなグローバル人材を育成するために、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組みの形成を目指す取組をねらいとしている。

期間は3年間で、広島大学附属高等学校を中心に、県内では福山誠之館高等学校、福山市立福山高等学校、広島市立舟入高等学校の3校、県外では、鹿児島県立甲南高等学校、大分県立上野丘高等学校、福岡県立小倉高等学校が参加している。(特徴的なSSHやユネスコハイスクールと連携している)

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 5月 AL (アドバンスト・ラーニング) ネットワーク運営会議への参加

【ア 広島大学 WWL 事業のポイント】

- ①課題研究を組織的に進める体制を構築する
- ②グローバルな社会課題の解決に向けた探究的な学びを実現するカリキュラムを開発する
- ③オンライン環境を駆使したカリキュラムを開発する
- ④大学等と連携し、大学教育の先取り履修をする

【イ 広島大学との連携プログラム】

- ①IDEC-IGS プログラム (広島大学の国費留学生と国際問題についての協議・発表) *本校生徒はこれに参加
- ②広島大学名講義100選の視聴及びオンラインディスカッション (平日の放課後を利用し大学教育を体験)

- (2) 6月 IDEC-IGS プログラムへの参加者募集

募集要項を掲示した上で、各クラスを回り、生徒に参加を呼びかけた(6名の生徒が参加表明)

- (3) 6月~ IDEC-IGS プログラムへ参加 *使用言語は「英語」。研究テーマは「環境」「教育」「平和」「交通」。

【1年間の流れ】

- ①6月15日(土):留学生が大学院での研究内容について英語でプレゼン、質疑応答・協議を行う
- ②7月13日(土):同上
- ③8月3・4日(土・日)(夏休み中):宿泊合宿 他校の生徒と研究課題の設定、協議・プレゼンを行う
- ④10月26日(土):研究課題について協議・プレゼンを行う、留学生も議論に加わり、助言する
- ⑤11月16日(土):同上
- ⑥12月15日(土):研究課題についての最終発表 @広島大学
- ⑦3月14日(金):広島大学附属高等学校の成果発表会、代表3グループがプレゼン(本校生徒2名参加)

【校内研修報告事項】

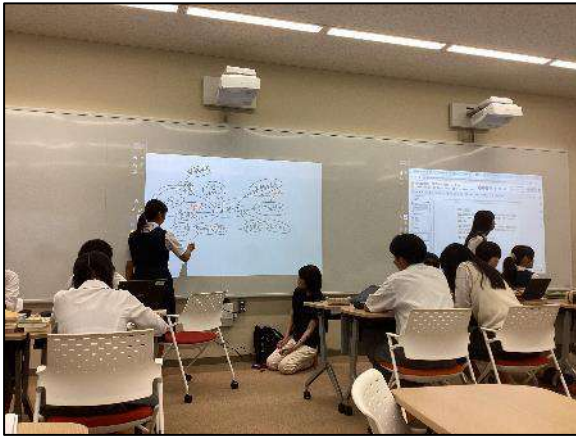
- (1) WWLについて(文科省の事業)

- World Wide Learning (グローバル人材育成のため、高校の中では体験できない高度な学びを提供)(他校の生徒と協働しながら、広島大学の留学生からアドバイスをもらいながら、英語を使って探究する。)
- 生徒の反応「他校の生徒や留学生と交流することで、視野が広がった!」「英語力の向上 or 焦りを感じた!」「大学で求められるレベルを知れた!」「自分一人では到達できないレベルまで、探究を深めることができた!」

- (2) 参加生徒のその後

- 参加生徒24名中20名が国公立大学へ進学(京都2、大阪4、一橋1、名古屋1、神戸1、岡山3 など)
*英語の継続的な学習につながった? 推薦入試で国際性をアピールすることができた?

【夏合宿 発表準備の様子 @福山附属】



【最終発表 @広島大学】



【校内用研修資料の一部】

1. WWLとは

World Wide Learning (ワールドワイドラーニング) の略称

将来世界で活躍できる**グローバル人材を育成**するために、高等学校と国内外の大学・企業・国際機関等が協働し、**高校生へ高度な学びを提供する仕組みの形成**をねらいとした、**文科省の事業**

2. WWLの活動内容

	5年 夢プロ	⇔	WWL
実施形態	個人で		他校の生徒と複数人で
ファシリテーター	教員		広島大学の留学生
使用言語	日本語		英語
探究テーマ	各自でテーマを設定		決められたテーマの中で取り組みたい課題を設定

3. 参加生徒の反応

- ・他校の生徒や留学生と交流することで、視野が広がった
- ・英語力の向上 or 焦りを感じた
- ・大学で求められるレベルを知ることができた
- ・自分一人では到達できないレベルまで、探究を深めることができた

4. 参加生徒のその後

参加生徒 24名中20名 が国公立大学へ進学
京都2 大阪4 一橋1 名古屋1 神戸1 岡山3 etc...



英語の継続的な学習に繋がった？
推薦入試で国際性をアピールすることができた？

(6)【事業報告】みろくの里日本語学校との交流事業(高1・2、令和3年度)

文責 藤田憲弘

- 1 学年・教科等 4・5年総合的な探究
- 2 日時 2021年(令和3年)4月～2022年(令和4年)3月
- 3 担当者 藤田憲弘 中原正人
- 4 対象生徒等 生徒27名(4学年16名・ICC部員11名)
- 5 本校ESDの観点 ■地域課題解決プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

「国際交流」といえば、海外への研修や、海外からの生徒受け入れがイメージされやすいが、コロナ禍でそれが不可能となってしまった。しかし、目を市内に向ければ、約1万人の外国人が暮らし、街角で自転車に乗っての移動やスーパーで働く姿を見かけることは多い。だが、生徒達には、それは風景として映っているだけで、彼ら彼女らとの接点は、ほぼない。同じ街で暮らす若者としてリアルな出会いを持つことで、日本で暮らす外国人のことや外国人を送り出す国、受け入れる国それぞれのお互いの国の背景や課題を考えさせることができればと願い、市内にある日本人学校に交流の声をかけた。それに対して、弥勒の里日本語学校が手を挙げてくださり、留学生20名と探究活動で日本語学校を選んだ生徒およびICC部員との交流が始まった。双方とも初めての試みなので、担当者同士で綿密に連絡を取りながら、できることを探っていた。

弥勒の里日本語学校もコロナの影響で留学生の流入が止まっているが、6か国から来た留学生が寮生活をしながら、お弁当屋さんでのアルバイトと学校生活を行っている。国籍は、以下の通りである。
(パキスタン、バングラデシュ、ミャンマー、インドネシア、ベトナム、中国)

7 内容の具体・展開の流れ

(1)「出会い」

- 5月26日(4年生・ICC)
 - ・リモートで、お互いの自己紹介を行う。
 - ・留学生は、出身国ごとに国の紹介を行い、本校生徒は、それぞれの簡単な自己紹介を行う。
- 7月14日(4年生・ICC)
 - ・日本語学校の先生お二人をお招きし、日本の留学生事情や弥勒の里日本語学校の特色、日本語教師について、レクチャーを受ける。
- 7月16日(4年生・ICC・家庭研究部・中学3年生)
 - ・本校に留学生20名が来校し、対面での交流を行う。
 - ・それぞれの留学生にバディをつけ、校内ツアーや茶道体験を行う。
 - ・中学3年生全員ともグループに分けて、日本の遊びを通して交流する。
 - ・放課後、部活動紹介として、少林寺拳法部演武を観ていただく。



(2)「交流の深まり」

- 8月3日(4年生・ICC)
 - ・本校生徒が日本語学校を訪問し、第2回目の対面交流を行う。
 - ・日本語の授業に留学生と参加し、その後、グループ別にお互いの質問をぶつけ合って、全体で発表する。
- 10月27日(4年生・ICC)
 - ・大学出張講座において、多文化共生について研究されている吉田先生(フェリス女学院大学)をお招きし、日本における外国人をめぐる課題について、レクチャーを受ける。
- 11月5日(4年生・ICC・書道部・中学2年生)
 - ・本校文化週間に留学生20名が来校し、第3回目の対面交流を行う。
 - ・バディとの中庭コンサートに参加した後、書道部の指導で、書道体験を行う。
 - ・中学2年生全員ともグループに分けて、ゲームを通して交流する。
 - ・福山市立大学のの上別府教授のゼミ生や、福山市の留学生を支援する会の方も参加し、連携を約束する。



(3)「まとめと更なる交流」



- 12月15日（4年生・ICC・家庭研究部）
 - ・4年生が行ってきた交流活動を通して探究した成果発表会に留学生を招き、発表を聴いていただき、意見交流を行う。
 - ・家庭研究部の指導の下で、バディと生け花体験を行う。
- 1月初旬（4年生・ICC）：留学生それぞれに年賀状を送る。
- 2月17日（4年生・ICC）
 - ・留学生の探究成果発表会にリモートで参加し、それぞれのグループの発表について、感想を送る。
- 3月4日：日本語学校の卒業式に、お祝いのポスターを送る。
- 3月5日：弥勒の里日本語学校の3月末閉校が新聞で報道される。



8 生徒の評価（感想等）

- 日本語学校について知ったこと
 - ・日本語を教えながら、日本のマナー、ルールなどの生活習慣の教育にも力を入れている。
 - ・先生方は、日本語力に加え、判断力、考える力を身につけて欲しいという思いで接している。
 - ・アジアを中心に、様々な国からそれぞれの夢を抱いて来ている。
- 私たちのあり方について考えたこと
 - ・ステレオタイプの固定概念にとらわれない。
 - ・まずは、相手や母国のことをよく知り関心を持つことから。
 - ・私たちの「あたり前」を疑い、日本の考え方を押し付けない。
 - ・「やさしい日本語」を使い、広める。
 - ・同じ地域に暮らす者として、接点を持てたら。



9 成果と課題

年度当初、探究グループに集まって来た生徒の反応は、暗かった。彼ら、彼女らの頭にある「留学生」とは、英語を話す欧米系の外国人であつたらしい。バングラデシュがどこにあるのかも知らず、ミャンマーで何が起きているのかも知らない生徒たちが交流を楽しむことができるのか、不安であった。しかし、その心配は、最初のリモート交流で無用となった。リモートながら、お互いの顔が見える交流によって、生徒の表情が変わったのを実感した。交流は、7月以降のバディとしての出会いによって加速し、近い世代どうし、「やさしい日本語」を使いながら、コミュニケーションを深めていった。

残念ながら、コロナの影響で、弥勒の里日本語学校は閉校となり、交流を持続発展させることはできなくなった。この経験は、単なる良い思い出で終わる生徒が多いかもしれないし、中には、自分の進路として活かす生徒もいるかもしれない。しかし、ミャンマーやインドネシアなどのニュースを見ると、自分のバディの顔を思い浮かべながらその国で起きていることを想像してほしいし、福山市内で出会う外国人に声をかけることはできなくても、その人たちが抱えていることを想像しようとするきっかけづくりとなれたことを願う。今後も、福山市立大学とも連携しながら、ローカルな国際交流に目を向けていきたい。

2021年・対面交流の様子

7/16 留学生、本校訪問
（授業交流・茶道体験・少林寺拳法見学）



8/3 本校生徒、日本語学校訪問（授業体験・グループ討論）



11/15 留学生、本校文化週間参加（コンサート、書道体験、授業交流）



12/15 留学生、本校訪問（成果発表会・生け花体験）



2022年2月には、リモートで、留学生の卒業発表会に参加

(7)【事業報告】Happy Schools 関係でシンガポールから先生が来校（令和5年度）

文責 上山 晋平

【学校訪問についての事前資料より】

- 1 概要 ジェーン副校長先生の勤務校は、「ポジティブ・エデュケーション」の推進校である。
福山中高がユネスコ・ハッピースクールプロジェクトに関わったことを知り、視察を希望された。

【ポジティブ・エデュケーションとは？】

教育の中に「ポジティブ心理学」の要素を組み込む。「ポジティブ心理学」とは、人間の良い面や強みに焦点を当て、人々がどう幸福感や満足感を得られるかを研究する心理学の一分野。

目的は、生徒が自身の強みを認識し、それを活用した学習への取組を促すこと。また、その過程で生徒の幸福感を高め、レジリエンス（困難な状況から立ち直る力）を育てる。

（具体的な教育手法）

- ①強みに基づく学習：生徒が自身の強みを理解し、それを活用して学習に取り組む。
- ②感謝の実践：感謝の感情を表現し、ポジティブな感情を育て、社会的なつながりを強化する。
- ③マインドフルネス：瞑想やリラクゼーションを通じて、生徒が感情や思考に気づく。
- ④目標設定：生徒が学習や人生の目標を設定し、それに向けて努力する能力を育てる。

*ジェーン先生の話す言語：中国語（マンダリン）と英語 *交流のために翻訳アプリを持参

- 2 日時 2024年（令和5年）7月10日（月）～12日（水）の3日間（この後に京都の嵯峨野高校へ）

- 3 目的（1）先方の目的

- ①本校がHappy Schoolとして、どのような具体的な取組をしているのかを知りたい。（登下校の様子、授業の様子、課外活動の様子などを観察したい）
- ②ESD大賞受賞高としての活動をしたい。
- ③先生・生徒と教育について話したい。（シンガポールの学校についても紹介される）

（2）本校の目的（案）

- ①グローバルに触れる（授業や放課後の活動を通して、希望する生徒が参加できる集いの企画）
- ②本校の活動を進める（ESDやHappy Schools Projectをさらに推進する機会とする）
- ③（可能なら）先方の学校と将来的に生徒間交流（学校訪問）を行う（校長先生との対話）

- 4 日程 現時点での概要（以下は予定。滞在中は柔軟に活動される予定）。

今回は、先方のご配慮（訪問校にできるだけ迷惑をかけたくない）で、柔軟なスケジュールとなっています。
よって、お時間あるときや、校内で出会われたり困ったりされれば、積極的に声をかけて、授業や部活等に受け入れていただけると嬉しいです。よい思い出を持って次に向かっていただけるよう、よろしくお願いします。

■7月10日（月）

7:46 福山駅発 7:51 備後赤坂駅着 8:00 福山高校到着・校長室（予定）

8:15 職員朝会で教職員にあいさつ（予定）

校内散策（各授業自由参観） ★授業参観等が可能であればおしえてください。

学校紹介（Happy Schools ProjectやESD/Positive Educationの取組紹介）

【3限 5-4 英語実技テスト 5限 中2国語短歌参観 7限 家庭研究部お茶会・着物体験】

■7月11日（火）

午後（午前になるかも）を中心に校内散策（授業・部活動の参観）

夜 懇親会（先方と相談中）

■7月12日（水）

午後を中心に校内散策（希望生徒との交流会）

*放課後：希望する生徒・教員と交流会（学校紹介・話・質疑応答など）

- 5 交通 福山駅付近のホテルに夫婦で滞在されJRで学校に。
福山駅～（JR）～備後赤坂駅～（徒歩）～本校

シンガポールからジェーン先生（副校長先生）来校（7月10日）



7月10日(月)から13日(木)にかけて、シンガポールのジェーン副校長先生が福山中・高等学校にお越しになりました。なぜシンガポールの学校から私たちの学校に視察に来られたのでしょうか？

ジェーン副校長先生が所属する学校では、「ポジティブ・エデュケーション」を推進しています。これは、「生徒が自分の良い面や強みを認識し、それを活用した学びを通じて生徒の幸福感を高める教育」を指しています。

ジェーン先生が私たちの学校に興味を持たれた理由は、本校が「ハッピースクール・プロジェクト」に関わっているからです。「ハッピースクール・プロジェクト」とは、ユネスコ(バンコク)やACCU(アジア・ユネスコ文化センター)が主導する取り組みで、私たちの学校も実施しています。これは、学校がよりハッピー(身体的・精神的・社会的に良い状態=ウェルビーイング)になるための改善策を考え、それを実践し続ける活動です。

学校が「授業」や「補習」、「テスト」ばかりに集中し、勉強だけを強いる環境は息苦しさを感じる人もいるかもしれません。そこで私たちは、生徒や教職員、そして保護者や地域の方々にとって、学校をより魅力的な場所にするための取り組みを推進しています。このような動きは全世界の学校で見られ、その具体的な要素としては、「良好な人間関係の構築」、「他者に対するポジティブな態度」、「さまざまな人と協働する教育」、「課題解決を目指す探究活動」、「グループやチームでの学び」、「適切な学習量の維持」、「自然に恵まれた環境での学習」、「単なる暗記ではない実践的な教育」、「学校のビジョンの明確化」などがあります。

ジェーン先生は4日間で以下のような体験をされました(学校外での活動も含む)。

- 7月10日(月):中学校の国語授業観覧(和歌)、中学校の給食・掃除の参観
高校の英語パフォーマンステストの参観・コメント提供、家庭研究部によるティー・セレモニー体験
- 7月11日(火):鞆の浦や尾道の観光
- 7月12日(水):宮島観光、教職員との交流
- 7月13日(木):学校交流についての協議、生徒との交流(シンガポールの学校紹介)

ジェーン先生は、「素晴らしい思い出と新たな友情をいただいたことに心から感謝しています。多くの先生方、そして生徒の皆さんが、温かく接して下さったことに対し、深く感謝申し上げます」と感慨深げに述べられました。これからもジェーン先生とその学校との交流を続けられればと考えています。

そして、福山中高では今後も国内外を問わず、さまざまな学校との交流を深め、互いに学び、成長し、持続可能な社会の創り手が育つ「ハッピースクール」を目指していきたいと思ひます。

(8) 第17回ユネスコスクール全国大会 国際交流分科会ファシリテーター

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 第17回ユネスコスクール全国大会 第3分科会（国際交流）ファシリテーター
「未来をつくる国際交流 ― 日本発・平和と国際交流の新しいカタチ」
- 2 日時 令和7年12月6日（土）@上智大学 分科会120分担当
- 3 担当者、招聘講師等 ファシリテーター 上山晋平（福山市立福山中・高等学校）
協力 ACCU、分科会発表者 ・東京都板橋区立緑小（市之瀬輝明先生）
・名古屋国際中高（黒宮祥男先生）
・兵庫県立舞子高校（壺井宏泰先生）
- 4 対象者等 ユネスコスクール全国大会参加者（教職員等）
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 在り方生き方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

ユネスコスクールでは、加盟校数の減少や活動の停滞、交流不足などが課題となっている。また、国際交流が交流自体にとどまり、平和・人権・多文化共生・持続可能な開発といったユネスコの理念に十分つながっていない面も見られる。

そこで本分科会では、2023年ユネスコ教育勧告を踏まえ、平和・国際理解・協力・持続可能な開発に向けた教育の在り方を参加者とともに考えることを目的とした。特に、①自校の国際交流をより良くするための視点やネットワークを得ること、②日本発の新たな国際交流教育モデルを構想すること、の二点をねらいとした。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 分科会の導入として、趣旨と目的を共有後、ACCUより国際交流の現状と展望について説明する。
- (2) 小・中高・高の3校による事例発表と質疑応答を行い、国際交流の意義や工夫について学ぶ。
- (3) ワーク①では、「自校の課題を克服しよう」をテーマに、参加者が自校の課題や改善の方向性をグループで共有する。担当者への負担集中、継続性の確保、生徒の主体的な関わりなどが主な論点。
- (4) ワーク②では、「日本発・国際交流のモデルをともに考えよう」をテーマに、平和アート、動画アーカイブ、各校紹介冊子などの例を手掛かりに、新たな国際交流の形をグループで構想する。
- (5) 各グループが成果を発表し、全体で共有する。

8 参加者の評価（感想・意見等）

- ワーク①では、「担当者個人に依存しない体制づくりが必要である」「生徒が事前段階から関わることで主体的な交流につながる」といった意見が出された。
- ワーク②では、「日本の学校文化を生かした交流が望ましい」「動画、写真、アート、冊子など多様な表現方法が有効である」といった意見が見られた。具体案として、平和メッセージづくり、ショート動画発信、国際カレンダーづくり、紙芝居プロジェクト、掃除文化を生かした交流などが提案された。

9 成果と課題

- 参加者が自校の国際交流の課題を整理し、改善の視点を共有できた。
- 交流を実施すること自体ではなく、ユネスコ理念に基づいてその質を高める重要性が共有できた。
- 日本発の新たな国際交流モデルについて具体的なアイデアが複数生まれた。
- △限られた時間の中で各グループの構想を十分に深めきれなかった。
- △分科会で生まれたアイデアを今後どのように実装・継続していくか。
- ◎本分科会は、国際交流をESDの視点から見直し、その質的充実と持続可能性について考える機会となった。今後も、本分科会で得られた知見やネットワークを生かし、平和と多文化共生につながる国際交流の在り方を探究していきたい。

■全体案（事前作成）

時間	内容	備考
0～5分 (5分)	<p>■ACCU 挨拶・ファシリテーター紹介</p> <p>■ファシリテーター (広島県福山市立福山中・高 上山晋平)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的共有 ・ワークシート・成果物の紹介 (A3用紙×2) 	<p>【目的】</p> <p>①【自校の発展】自校の国際交流をより良くするアイデアとネットワークをつくる。</p> <p>②【日本発モデル構想】日本発の国際交流教育モデル(=新しいカタチ)を共に考える。</p>
5～15分 (10分)	<p>■ACCU 国際交流の現状と展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流に関する日本の現状と方向性を共有する。
15～60分 (45分)	<p>■各校の発表者 事例共有(小・中・高) + Q&A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都板橋区立緑小(市之瀬輝明先生) ・名古屋国際中高(黒宮祥男先生) ・兵庫県立舞子高校(壺井宏泰先生) <p>■ファシリテーター：簡潔コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各校8～10分発表+全体質疑8分。 (※時間厳守：タイマー準備?) ・次の発表者は、前方側で待機しておく。 (入れ替わりの時短)
60～75分	<p>ワーク①</p> <p>【自校の発展】自校の課題を克服しよう</p> <ol style="list-style-type: none"> ①グループに移動(2分) ②アイスブレイク(1分) ③ワーク(10分) ④ファシリテーターより(2分) <p>※全体共有は「なし」の予定 (時間があれば、1人程度発表)</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①人数等から判断してその場で指示 (発表者も各グループに所属) ②グループで自己(取組)紹介 ③ア)各自ワークシートに記入 イ)グループで共有 参考になった点や課題は? 解決策は? ④岡山大会の知見の共有(3分) 質の高い交流の知見をスライドで示す。
75～105分 (30分)	<p>ワーク②:</p> <p>【日本発モデル構想】日本発・国際交流のモデルをともに考えよう</p> <p>■ファシリテーター：流れの確認</p> <p>■ACCU から(※舞子高校の発表内容による) Wind of Peace Project(平和の風プロジェクト:スロベキア発の取組)や類似の取組について情報提供</p> <p>■ファシリテーターから</p> <ol style="list-style-type: none"> ①考えるヒントとなる3案提示 ア)平和アート(スナップショット)プロジェクト (Peace Art/Snapshot Project) イ)平和活動アクション・プロジェクト (UNESCO Peace Actions Archive) ウ)Peace Pages Collection (平和のページ・コレクション) ②モデル構想の際に大切にしたい要素 (思考のヒント) ●ユネスコ理念(UNESCO Values) ・平和・人権・多文化共生などにつながる ●包摂性(Inclusiveness) ・小～高まで参加可、負担が大きすぎない ●創造性(Creative) ・各校で表現・アレンジ・工夫できる余白 ●共創性(Co-creation) ・日本だけで完結しない(他が返せる) ●残る(Legacy)しくみ ・アーカイブ・蓄積、手紙、ノートなど アナログの価値も大切に ③上記案をヒントに、各自で考え、そのアイデアをもとに各グループで構想を整理。(上記アイデアを発展させてもよい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・後で各グループから発表あり (発表者をあとで決めると予告しておく) <p>※スロベキアの取り組み ノートを各国に順番に回す、各国で1ページずつ平和的なものを記す、メッセージとなるモノ(折り鶴など)を送る(世界を旅したノートがスロベキアに戻る)、受け取る、送るのに7～10日間、郵送料5000円</p> <p>ア)世界中の生徒が平和のメッセージをアートで(もしくは絵が苦手な生徒は平和を感じるスマホ写真)を投稿し、次の全国大会で「1000のアート」として映像化・展示するプロジェクト。</p> <p>イ)各校が地域で行う平和行動(清掃・交流・寄付活動など)を1分動画(スマホ可)にまとめ、ユネスコの理念に沿ったカテゴリー(例:平和 Peace/協働 Cooperation/多文化共生 Diversity/持続可能性 Sustainability/学び Learning/思いやり・奉仕 Compassion)に投稿するプロジェクト。動画はカテゴリー別に整理されてアーカイブ化され、世界の学校がテーマごとに閲覧できる使いやすく実用的な仕組み。</p> <p>ウ)各国の学校が「自校の1ページ(A4見開き)」を母語+英語で制作し、1冊に製本するプロジェクト。世界の多様な文化や平和メッセージが「1冊の本」として残り、PDF版として公開や印刷も可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A3用紙にタイトル・概要・期待する効果をまとめる(複数アイデアも可とする)。
105～115分 (10分)	<p>全体共有</p> <p>ア)グループの成果物を撮影して投影</p> <p>イ)各グループ代表が1分で発表</p> <p>ウ)ACCU/文科省から講評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・投影が小さい場合は、A3用紙を主とする。 ・アイデア名+キーメッセージの紹介に留める。
115～120分 (5分)	<p>クロージング</p> <p>■ファシリテーター総括</p> <p>■発表者・参加者互いに拍手</p>	<p>【メッセージの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(まだの学校)国際交流をはじめよう ○交流で終わらず、より質を高めよう。 ○今回のアイデアは実装の検討をします!

■第4章 関係資料

(1) 認定証 (サステイナブルスクール/ユネスコスクール)

①サステイナブルスクール

平成 28 年 9 月 8 日に、「文部科学省委託 平成 28 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業『ESD 重点校形成事業』」において、サステイナブルスクールとして認定されました。全国 24 校中の 1 校です。



②ユネスコスクール

ユネスコ本部より、本校のユネスコスクール加盟が 2018 年 7 月 27 日付で承認され、承認証が発行されました。

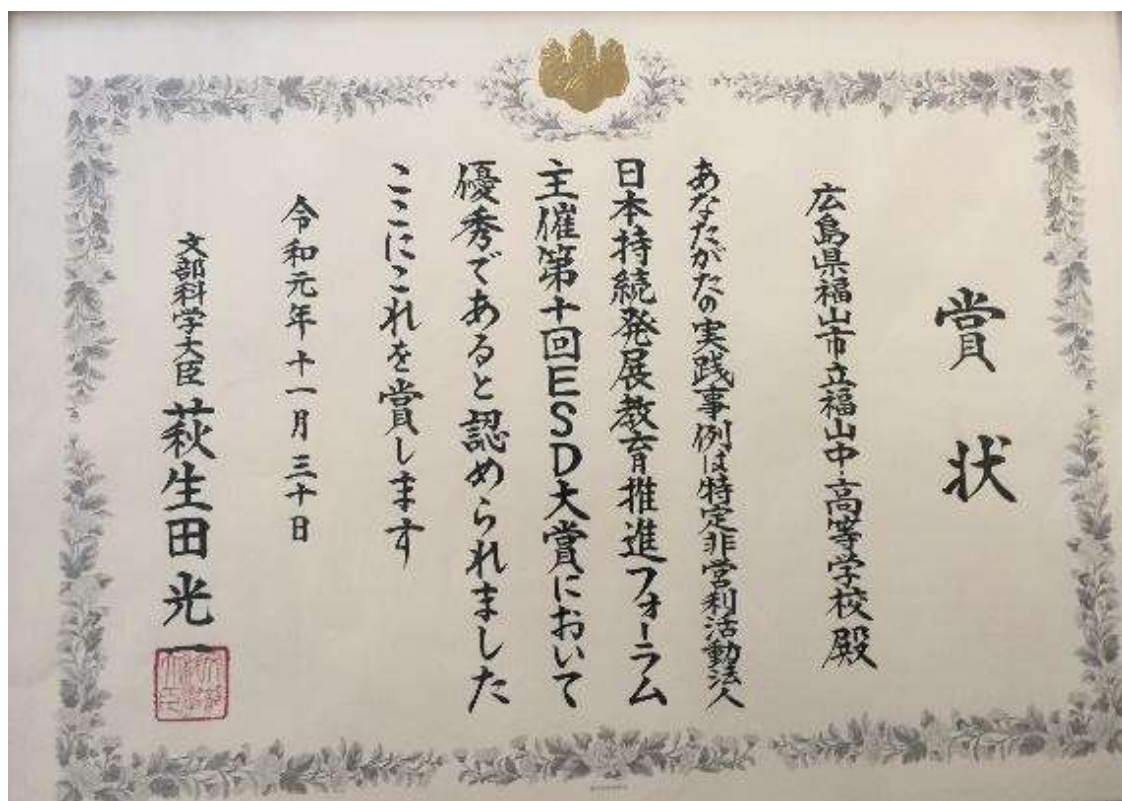


③ハッピースクール (Happy Schools Project)

ユネスコ・バンコクより、本校が2020年度のハッピースクールの1校に指定されました。日本全国で5校、世界では、タイ、日本、ラオスの3か国がパイロット国として取組を進めます。



④第11回ESD大賞の最高賞である文部科学大臣賞を受賞 (2019.11.30)



(2) 各取組の新聞記事

① 「地域課題解決プロジェクト」：グローバル人材育成事業

■2017年（平成29年）6月22日 中国新聞

高校生 地元企業を取材

市立福山 18社の強み 冊子に



柿原取締役（左端）の説明を聞き、樹脂めっき製品に触れる生徒

福山市赤坂町の市立福山高は、授業で1年生198人が市内の企業18社の強みを調べ、冊子にまとめる取り組みを始めた。市内のほかの高校にも冊子を送り、地域経済や地元での就職に対する関心を高める。

18社は工作機械や自動車部品などのメーカー、デニム染色や小売りなど幅広い。21日、各社の担当者が同校を訪問。生徒は18グループに分かれ、事業内容や他社にないオンライン、ナンバーワンの特徴を聞いた。

柿原工業（福山市箕沖町）の柿原卓矢取締役（95）は自社製品を並べ、樹脂の表面にめっきをするメタライジング技術やタイでの生産活動などを紹介。生徒は金属のような質感や軽さに驚いていた。

生徒は夏休みにも各社を訪ね、店や工場を取材グループのリーダーで1年大塚綾乃さん（15）は「今まで知らない会社の具体的な内容もあつた。工場を取材するのが楽しみ」と話した。（榎本直樹）

■2017年（平成29年）6月24日 山陽新聞

福山高生が高校生向け冊子作り

地元企業情報を共有

福山市立福山高（赤坂町赤坂）の1年生198人が地元企業の魅力を紹介する高校生向けのガイドブックの制作に取り組んでいる。企業の特徴を知ること、地元就職など将来の選択肢の一つにつなげる狙い。冊子は12月に完成させ市内の高校に配布し、同世代に情報を共有してもらう。（高橋由大）

12月完成、市内各校へ配布

郷土愛や国際的な視点 市立大（港町）の准教授を身に付けた人材の 授けから経営戦略や福育成に取り組む同校が、山にある企業の特徴な初めて企画。活動は4月を学んできた。

月から始まり、生徒は 企業学習はグループ

21日は各社の担当者が学校を訪れ、グローバル事業や他社にはない強みなどを話した。デニム染色加工の坂本デニム（神辺町平野）は糸の染色に特化した企業であることや、敷地内での綿花の無農薬栽培など環境に配慮した取り組みを説明した。

漁網製造大手・日東製網（一文字町）は、自社製品の結び目部分のない網について、定置網や養殖網といった4事例を紹介し「どんな漁法にも対応できるエピソード。生徒は熱心にメモを取り、理解を深めていた。

生徒は7月26日～8月4日に各社を訪問し、取材する。山本匠真さん（15）は「動いている人の様子や声を取入れながら、企業の魅力を多くの人に伝えたい」と話した。

18社取り上げ 来月下旬から各社訪れ取材

坂本デニムの担当者（手前）の話を聞く生徒

高校生が企業紹介

市立福山 18社取材冊子制作

福山高は、1年生が市内の企業18社取材し、冊子はA4判の76ページの冊子「Hi-Hi ふくやま 2017」を作った。生徒は1グルーブずつの強み、求めた。生徒の目線で企業を、製品の写真も使った。高校の強みを分析、地元で「生必見」「実はさまざまの就職に関心を高めてまなと」で皆さんと話した。（榎本直樹）



1年生が福山市内の企業18社の強みをまとめた冊子

つながっている」など、と他校の生徒へのメッセージも添えた。

20日、同校で冊子の成果発表会があった。生徒は1グルーブずつ18社の社員たちを前に「会社は大きくなって挑戦を続けている」「先を見据えて製品開発している」などとプレゼンした。

1年生197人は授業の一環で、自動車部品やゴム製品のメーカー、スーパーなどを夏休みに訪問した。冊子は同校のホームページでも公開している。

工作機械メーカーを訪問した1年坂本絃人さん(15)は「見たことのない大きな機械があり、迫力があつた。世界規模で事業をしていることを他校の生徒にも知ってほしい」と話した。

福山高1年生が冊子作製

地場企業の魅力紹介



福山高生徒が作った地元企業の情報をまとめた冊子

福山市立福山高（赤坂町赤坂）1年生約200人が、市内の企業情報をまとめた冊子「Hi-Hi ふくやま 2017」を作った。オンラインワン商品や技術など各企業の強みのほか、企業訪問で従業員らに取材した内容も盛り込んでいる。市内の高校に配り、高校生目線で発見した地場企業の魅力を同世代に伝え、地元就職にも役立ててもらおう。（高橋由大）

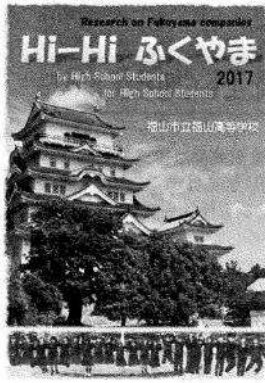
市内高校へ配布 進路選択に活用を

冊子では、国内最大のスーツ販売店舗数を誇る青山商事（王子町）やファンを充電式バッテリーで動かす空調付き作業服を開発した繊維・電子機器製造や企業の担当者ら約250人のサンエス（神辺町川南）などを紹介。各社の強みや業績などを4ページずつにまとめている。A4判、76ページ。

滴網製造大手の日東製網（文字町）は結び目のない網が、公園遊具メーカーのタカオ（御幸町中津原）では設計から点検までの一貫体制やデザイン案の忠実な再現がそれぞれ特徴や強みになっていると紹介。「地域に、世界に、そして自分に挑戦できる。活動の成果を同級生らに報告する生徒たち」

できる企業が地元にはたくさんある」などという企業から高校生へのメッセージも載せている。

地域課題について学ぶ総合学習の一環。生徒たちは18グループに分かれ4月から授業時間などを利用して調べたり、6月には企業関係者を学校に招き話を聞いた。夏休みにはグループで担当する企業を訪問。製造工程を見る企業を訪問。製造工程を見る企業を訪問。製造工程を見る



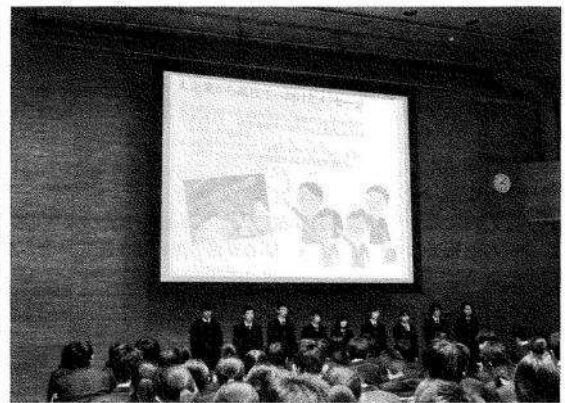
今回の地元企業研究は、福山市「グローバル人材育成事業」の一環。3年計画で予定されており、今年度は1年目。初年度は福山商工会議所などに協力依頼し18

福山市立高生が作成

企業研究冊子「Hi-Hiふくやま」

福山市内の各高校に配布

福山市立福山中・高等学校（福山市赤坂町赤坂910、向井勝也校長）は12月20日、福山市立福山高校第1学年が4月から取り組んだ、地元企業研究の成果発表会を同校大望館ホールで行った。学習の成果はA4判76ページの冊子「Hi-Hiふくやま」として千部印刷し、



発表会の様子

社が協力した。協力企業は次の通り。
 青山商事(株) 池田糖化工業(株) 占部建設工業(株) 柿原工業(株) 柿栄工社(株) エフビコ(株) エプライ(株) サンエス(株) プレひまわり(株) ベッセル(株) 坂本デニム(株) タカオ(株) 日東製網(株) 早川ゴム(株) 広島化成(株) ホーコス(株) マナック(株) 南柿原銘板製作所。

福山市立高1年生 地元18社取材し成果発表 事業内容や強みなど

福山市立福山高校（同市赤坂町九一〇、向井勝也校長）の一年生生徒が、市内に本社を置きつつグローバルな事業展開をしている企業一八社についての学習結果を発表する「成果発表会」が12月20日、同校で行われた。

福山市から「グローバル人材育成事業」の指定を受け、4月から一九八人の生徒が一八の班に分かれて担当する地元企業を取材。事業内容や技術力、戦略などを学んだ。発表は一班五分で、各社の業績や強みを紹介した写真、また「他企業になかった発想で業界トップになった」「創



業以来、正社員数・店舗数・売上高が右肩上がり」などの特長も述べた。学習を通じて「チームワークや人のために働くことの大切さを教わった」と感想を話す班もあった。学習結果をまとめた冊子も作成。市内の全高校に配布し、地元企業を知る足掛かりとする。同事業は今年度から三年間行われ、来年度と再来年度も一年生が同様の学習に取り組む。対象となった企業は次の通り（順不同）。青山商事(株) 池田糖化工業(株) 占部建設工

業(株) 柿原工業(株) 柿栄工社(株) エフビコ(株) エプライ(株) サンエス(株) プレひまわり(株) ベッセル(株) 坂本デニム(株) タカオ(株) 日東製網(株) 早川ゴム(株) 広島化成(株) ホーコス(株) マナック(株) 南柿原銘板製作所

同級生を前に研究成果を発表する生徒

会社から私たちに何を学んだか

良い点を学んでいるのに、会社が私たちに学んでいない。それなら私たちが学ばせてあげよう。



地元企業の魅力を調査

福山市赤坂町の市立福山高1年生18人は20日、地元にあるグローバル企業について調べた成果を同校体育館で発表した。市のグローバル人材育成事業の一環で、地元企業への関心を高めて将来のキャリアを考えてもらう狙い。

生徒は17班に分かれて、各社の特徴や課題を調査した。アサヒグループ食品(東京)の班は岡山県庄町の岡山工場を訪問し、

福山高生 技術力や課題発表

フリースタイルの技術力を学んだ。同社のフリースタイル食品のブランド「アマノフーズ」の存在感向上策として、タレオカ風味ドリンクの開発などを提案した。

同班の神巻希希さん(15)は「カツ丼がオートサラダもフリースタイルにできていた。商品開発の難しさも勉強できた」と話した。

今後は企業へ向いて発表を行い、研究成果を冊子にもまとめる。

(菅田直人)

地元17社を研究し発表 課題解決の提案も

福山市立福山高校から経営学部長の一年生が、市内に本社を置きつつグローバルな事業展開を行っている企業17社の魅力や強みを研究し、各社から提示された課題の解決法を考える取り組みの成果発表会が11月20日、同校で行われた。

同市から指定を受けた「グローバル人材育成事業」で実施。一七の班に分かれた生徒が各企業を訪問し、経営者や従業員にそれぞれの特色や事



業戦略などを取材した。各社からは経営学上の課題も示され、生徒が解決策を考案した。成果発表は校内向けに一班五分で行われた。写真、知名

度の低さが課題。対しては、全世帯の新商品の開発、生の来店を拡大、企業には店内に設置すること、月11・18日には業に報告を行う。

協力企業は次々サヒグルーブ食品▽藤アスコ▽業▽藤北川鉄システム▽藤心石ベック▽ツネイズ▽藤ツネインチマン▽ヒロボ果物▽藤福山障壁▽心グルーホー▽マリオール

年度内に学習した冊子も作成す

企業やSDGs探究

市立福山高1年生 活動成果を発表

福山市立福山高(赤坂)の1年生は、地域に軸足を置きながらグローバルな視点で行動できる「グローバル」な企業やSDGs(持続可能な開発目標)をテーマに探究活動に取り組み、24日、同校体育館で発表会を開いた。

活動は5年前から地元企業の魅力やSDGsについて学ぼうと「総合的な探究の時間」で実施。本年度は約200人が1グループ15〜20人の計

野町)など市内の企業12社について取り組んだ。

発表会では、グループごとにパワーポイントを使って説明した。ポンプ・ファン製造のテラル(御幸町森協)を担当したグループは、同社から認知度向上や製品の新たな活用方法を課題として与えられた。ウェ

同グループの岡崎大和さん(16)は「企業の製品の特徴を理解することが難しかったが、良い活用を考えられた」と話した。

生徒は本年度末までに学習の成果を冊子にまとめ、市内の公的機関に配布する予定。

(地面美里)

山陽新聞社ホームページ
https://www.sanyonews.jp/
株式会社大原組
岡山県岡山市南区当新田128-2
☎086-259-5970 既経通

福山市赤坂町の市立福山高の生徒が、校内で飼うヒツジの毛を使った小物作りの体験イベントをアンカーホテル福山（福山市城見町）で開いた。地元業者と協力して新たなビジネスを考える「探究活動」の一環として企画。収益はヒツジの餌代に充てる予定だ。

1年生9人が洗って乾かした毛を持参。親子連れや宿泊客たち約40人が参加し、針を突いて直径約2センチの球状に固めた後、金具を取り付けてイヤリングやキーホルダーに仕上げた。

生徒はホテルを運営するサン・クレア（同）の担当者、集客増のアイデアを話し合っ中。校内で2020年

福山高の生徒 イベント開催

飼育の羊毛小物に变身



収益は餌代に

から飼うヒツジの毛の活用を思い立った。参加者から300円を集め、収益で餌を買うことにした。

田中千聖さん（16）は「新型コロナウイルス禍でホテルの利用が減ったと聞いた。たくさんの方が楽しめる催しにできてよかった」。同社の東真貴さん（43）は「普段ホテルに立ち寄る機会が少ない地元住民にも来てもらえたと喜ぶ」。

探究活動は2017年度から毎年1年生が続けてきた。本年度は計約200人が、旅行や繊維関連の業者、博物館など13事業所に分かれて取り組んでいる。

（村上和生）

ヒツジの毛を丸める子どもを見守る生徒

とれたて TOPICS

柔軟な発想で課題を解決

福山高校1年生が探究活動で規格外農産物の活用策を提案



規格外農産物の活用やフードロス削減のアイデアを発表する生徒

福山市立福山高等学校の1年生が1月11日、「食と農の交流館」でJA福山市への「探究活動報告会」を行いました。

この活動は、福山市の重点事業「グローバル人材育成事業」の一環で、高校生が地域で地元企業の果たす役割を発見し、企業について探究するものです。生徒は企業から与えられた課題に対し、取材活動を通じて、解決策を考えて提案します。

当JAからの課題は、

- ①直売所で販売可能な農産物加工品の提案（規格外農産物の活用・フードロス対策）、②管内の農産物を使用したレシピの提案。

生徒は、生産者や「FUKUYAMA Aふくふく市」、選果場で情報収集に取り組み、議論を重ねて解決策を検討しました。報告会では、廃棄されるアスパラガスを活用したふりかけやジェラートなど、10品以上を写真付きで提案。試作品として、トマトのカップケーキを提供するなど、多種多様なアイデアを発表しました。



市立福山高生ブドウ交流

山野留学生と収穫楽しむ

福山市立福山高（同市赤坂町）の1年生約20人が29日、同市山野町で県内の大学などに通う留学生約50人と交流した。ブドウの収穫などを体験し、里山の魅力に触れた。

山野峡大田ワイナリーの畑で収穫を体験。「いつ日本にきましたか」「ことしの春にきましたか」などと会話を楽しみながら、はさみで丁寧にブドウの房を切り取っていた。ワイナリーの見学や藍染め体験もした。

山野留学生と収穫を楽しむ。ケニアから広島大学院に留学しているワンブク・エノックさん（34）＝東広島市＝は「頑張っている高校生を見ると、自分も頑張ろうと思った。また交流したい」。同高1年の城山利子さん（16）は「自然豊かな山野町を知ってもらい、外国からも来てほしい」と話していた。（浜村満大）



ブドウを収穫して交流する留学生（手前）と福山高生



福山市立福山中高等学校
福山市内の公立学校で唯一
中高一貫教育を行う学校

福山市 SDGsが実践しやすいカップケーキ
福山中・高校 産直中産直メニュー

福山高校2年 阿波也晴さん考案
レギュラー商品として福山市内で販売

フードロス削減のために
高校生でもできることをテーマに探求

YouTube 動画



「啓文社では年末まで」
 グなど日常使いできる小物の販売を提案。同社がその中からブックカバーを製品化した。

販売する。同校は国際交流で来訪するカナダ、オーストラリアの姉妹校生徒らにも土産として贈る予定。

メンバーの枝広菜摘さん(17)は「自分たちのアイデアが形になり、うれしい。地元のデニム製品を市内の人に使ってほしい」と話す。(地面美里)

地元の産業振興に貢献。福山市立福山高(同市赤坂町赤坂)の2年生グループが、織布メーカーの篠原テキスタイル(同市駅家町中島)とコラボレーションし、生産量日本一を誇る福山デニムのブックカバーを製作した。市内の啓文社4店舗で販売している。

A6判の書籍が収まるサイズで、日記帳や

お菓手帳入れにも使用できる。使い込むほどデニムの質感や色合いが柔らかく、味わい深くなるという。1個千円。

同校生徒は1年の総合学習で地元の企業や団体を調べ、事業提案をしている。昨年、篠原テキスタイルを担当した17人は、福山デニムを身近に感じられるようコースター、パッ

福山デニム 書籍カバーに 地元高校生と企業コラボ



福山デニムのブックカバーをPRする枝広さん(左)ら

福山 福山中高の 運動場造成工事で発生 古紙をリサイクル トイレ紙に再生

福山中高に寄贈した古紙をリサイクルして作ったトイレ紙が、工事を担当した建設会社から学校などに寄贈された。

三谷建設が現場で出た古紙を静岡県のリサイクル製紙会社に送って製造を依頼。トイレ紙の包み紙には造成工事前後の空撮写真を印刷し、静岡の障がい者就労支援施設が包装作業を担当した。

1600個作られたうち1000個を福山中高に、500個を市立赤坂小に、100個を赤坂交流館に贈った。

福山中高を訪れた三谷建設社長(60)は「資源循環や雇用創出などいろいろなか形で地域貢献に取り組んでいきたい」と話し、高田芳幸校長は「生徒に紹介して大事に使いたい」と応じた。

【関東晋慈】



福山市立福山中高などに寄贈されたリサイクルトイレ紙
 一福山市赤坂町で

福山中高生

御領古墳群の魅力発信

ツアー、冊子制作企画



横穴式石室に入り大きさを体感する生徒ら

福山市立福山中高

(同市赤坂町赤坂)の生徒が、同市神辺町御領地区に広がる古墳群の魅力発信に向けた活動に取り組んでいる。体験型の模擬ツアー企画、パンフレット作りなどを進め、神辺町や井原市の歴史愛好家で作る保存・調査団体に提案する。

高校1年に当たる4

年生18人が「総合的な探求」の授業を活用し、5月から活動。今秋までに2回、「御領の古代ロマンを蘇らせる会」(端本てる子代表)の案内で現地を訪れ、

古墳時代後期(6〜7世紀)に築かれたとみられる横穴式石室の数基を見学した。

「帯の古墳は文化財に指定されておらず、生徒は内部に入って石棺を納める「玄室」の広々とした空間に驚き、壁や天井を構成し幅数にもなる石の大きさを実感。端本代表らから「入り口の石の配置から、有力者を祭ったと考えられる」と解説を受けた。

生徒は、体験を生か

し「触って入れる」メニューを盛り込んだツアーを考案中。御領地区でも発見されている前方後円墳をかたどったパンフレットや動画

制作も企画しており、11月の校内発表会で併せて構想を披露した。2025年の早期に

同会に成果を示す計画で、毛利美諭さん(16)

ながら、古墳群はまだまだ知られていない。高校生目線で楽しさを伝えたい」と話す。

御領古墳群は、国道313号北側の丘陵で230基以上が確認さ

れている。14年に結成した同会が遊歩道整備、古墳の測量、衛星利用測位システム(GPS)による正確な位置記録などを行っている。(金尾雅広)

る。(金尾雅広)

福山高生がXマスマーケット

21日本通商店街とコラボ

福山市赤坂町の市立福山高の生徒有志が21日午後4時から、市中心部の福山本通商店街振興組合とコラボした「クリスマスマーケット」を同商店街で開く。「老若男女が



イベントのチラシを手に「当日は老若男女に訪れてほしい」と話す生徒

訪れるイベントにし、人通りを増やしたい」と意気込む。
2年生6人が交流施設「アンブレラ」周辺でポトフやワッフル、ココアのほか、クリスマスにち

なんだ手芸品を販売。午後5時半からは同組合がイルミネーションの点灯式をし、サンタクロースとの記念撮影コーナーも設ける。
昨秋、授業の一環で商店街のイベントを手伝った生徒が中心となり、同組合に持ちかけた。岡田未達穂さん(17)は「緑もありきれいな通りなのに、人通りが少ない。にぎわいを生みたい」と話す。生徒は販売する飲食物の仕入れや価格設定にも挑戦し、ポトフの野菜は



農家のクラスメートから募った。会場を飾り付け、商店主にはイベント日の夜間も営業するよう依頼した。松岡紗世さん(17)は「老舗も多いエリア。各店の魅力を知ってもら

い、にぎやかな雰囲気を感じてほしい」と来場を呼びかける。(原未緒)



地元探究活動で交流 福山市立高校

マルシェでブース出店、来場者に声をかけながら販売

3日、パンやアンティーク、ハンドメイドなどが福山駅周辺の商店街に集まって繰り広げた「福山まるしエのマルシェ」。JOYふなまちはブックマルシェ等の会場となり、福山市立高校の生徒もブース出店した。

同校1年生が2017年から行っている地元探究活動の一環。今年は約200人が12のグループに分かれて取り組んでいる。本が好きな生徒のグループ「本に出会い隊」12人はこれまで図書館で読み聞かせをしたり、個人書店を訪問して店主の話を聞くといった活動もしてきた。今回、ポスターを作るなどして校内で集めた100冊以上の本や、前年に商品化した福山デニムのブックカバの販売も行った。

積極的にお客様と交流していた血谷望恵さんは「学校生活で売ることができない。どんな感じにレイアウトしたら売れるのか、声かけはどうしようか、考えながら販売している。今後、1年のまとめとして、福山の個人書店マップを作りたい」と目的を持って取り組んでいた。

本通商店街では別のグループも、ロハスをテーマにワークショップを行なった。

11月15日・16日の「備後ふくやま伝統産業展（＝右記事①）」では、福山琴を探究するグループが、ワークショップを行う。また、16日の「ローカルエデュケーションフェス（＝右記事②）」でこうした活動を紹介する。



屋外本棚 楽しんで 赤坂池之内公園 福山中高生「憩いの場に」

赤坂池之内公園に高校生が設けた図書スペース

屋外に本棚。福山市立福山中高（同市赤坂池之内）の高校生が、学校近くの赤坂池之内公園に図書スペースを設けた。公園の利用を促し、にぎわい創出につなげる試み。市が取り組んでいる「地域がらり組」である。

主体となった魅力ある活動の中で、生徒15人が昨年4月「公園に図書スペース」を結成。25日、同校4年生（高校1年生）が、017年から「魅力ある公園」に「公園の有り」に賛同し、公園の有効活用として、図書スペース一本でつながる「そばせ広場」の設けを提案した。本棚（縦120センチ、横80センチ、奥行50センチ）は同校で飼育している羊をモチーフにしたデザイン。背中が本を置くスペース。背中が本を置くスペース。背中が本を置くスペース。

活用として、図書スペース一本でつながる「そばせ広場」の設けを提案した。本棚（縦120センチ、横80センチ、奥行50センチ）は同校で飼育している羊をモチーフにしたデザイン。背中が本を置くスペース。背中が本を置くスペース。背中が本を置くスペース。

活用として、図書スペース一本でつながる「そばせ広場」の設けを提案した。本棚（縦120センチ、横80センチ、奥行50センチ）は同校で飼育している羊をモチーフにしたデザイン。背中が本を置くスペース。背中が本を置くスペース。背中が本を置くスペース。

2026.3.13 中国新聞 (第三種郵便物認可)

「人集う公園に」高校生が本棚

絵本や図鑑40冊児童に笑顔

福山市赤坂町の市立福山中高の生徒が、町内の赤坂池之内公園に手作りの本棚を設置した。近くに小学校がありながら利用の少ない住宅街の一角を絵本や図鑑で彩り、地域のにぎわい拠点への転換を目指す。

（松本輝）

本棚は高さ約80センチ、幅約120センチ。同高で鯉のヒツジがモチーフで、白い毛を模して立てた板の間に本を収納する。1年生市人が昨秋から地元企業とデザインを考え、木材を組み立てた。生徒が自宅から持ち寄ったり、赤坂交流館から寄付されたりした計40冊を並べている。雨天時は本棚を納める小屋も作った。

4日に現地でお披露目会があり、同高年井上侑泉さん16は「大人も子どもも本を眺みに集まるようになればうれしい」と期待。同小4年赤毛蓮斗さん10は「ここで遊ばずに遊ぶくらいだったら、本があるならもっと来る」と笑顔だった。

本棚作りは、地元の企業や団体と地域課題の解決を目指す同高の「探究学習」の一環。市公園緑地課と連携し、住民が公園を日常的に利用する仕掛けを探る中でアイデアが出たという。

同課によると、公園は018年3月、一帯の団地造成に伴い整備された。約150平方メートルの園内にはベンチと草と芝1基しかない。同町一番組町内の村田重利会長（88）は「ほとんど利用がなく、衛生、防犯上の不安があった。子どもが遊ぶようになったら住民の目配りも増え、集まる機会もできる」と感謝する。

本棚は生徒が登下校時に見守るようとして今月下旬まで設置し、好評なら継続を検討する。同課は「幅広い世代が参加するにぎわいが、公園から生まれてほしい」としている。

赤坂池之内公園に置いた本棚から本を返却する赤坂小の児童と市立福山中高の生徒

福山市 山陽線 備後赤坂 東道54号 国道2号 市立福山高 赤坂小

市立福山高生ヒツジをデザインし手作り

再始動 福山駅前

街の改善点歩いて発見 市立大生ら



福山市立大（港町）と市立福山高（赤坂町）の学生が28日、J・R福山駅前周辺を歩き、にぎわいづくりのための課題を探った。ワークショップ（WS）で改善点を議論した。

同高2年21人と、同大都市経営学部4年の8人が参加し、市職員や教授と福山城や伏見町を散策。生徒は歩道の幅や駐輪場の状況や気にしつつ、広島や尾道など、他市の中心部との違いも考えながら歩いていた。

霞町のまなびの館ロースコムでのWSでは、エリアを五つに分け議論。「アーケードがある場所やガード下

が暗い」「古い建物が多く、リノベーションを取り入れたまちづくりを」などと話した。同大が開く連続講座「地元高校生が考える福山駅前再生計画！」の二環。11月に成果発表する。同高の嘉藤涼稀さん（16）＝同市幕山台＝は「空きテナントが多く印象が良くないと気付いた。活気がある街になるよう意見を出した」と話した。（高本友子）

福山駅前再生 学生ら計画

「地域の発展」テーマ 市立大・高校連携



福山市の職員の家内を受けて福山駅前を探索する高校生や大学生ら＝福山市

人通りなど調査、11月に発表

福山市立大学が、市立福山高校と連携してJ・R福山駅前の再生計画作りに取り組んでいる。市立大が今年度から始めた「高大連携事業」の第一弾。28日には学生と生徒約30人が駅前の大通りや空き店舗の状況などを歩いて探索。11月に再生計画をまとめる予定だ。

「高大連携事業」は、市展をテーマに、福山駅前を立大が高校生に教育施設や題材にした。大学側は太田研究機構を提供し、次世代 尚学・非常勤講師（都市計画）の人材育成を図るのが狙い。今回は同じ市立の福山8人、福山高側は総合的な高校と連携し、「地域の発展」をテーマにした。

参加した福山高2年の嘉藤涼稀さん（16）は「歩いてみると建物の上側に窓が多いことが分かった。市立大4年の増田花歩さん（21）は「高校生は校たごとの違う視点もあると思う。今のマイナスを解決する方法を探りたい」と話した。

今後参加者は8月に中間報告をもとに11月の大学祭で最終計画を発表する予定だ。太田さんは「学生や生徒が自分で見えてくる福山の良さとか問題を理解するきっかけになって欲しい」と話した。

（大野剛也）

福山駅前再生考える

市立大生 高校生と意見交換



市福山駅前再生推進室の職員（右）からJR福山駅前の状況について説明を受ける高校生ら

「JR福山駅前の再生」をテーマにした福山市が「一緒に駅前一帯を歩」同大都市経営学部の立大学（港町）と市立き、発見した課題や活太田尚孝非常勤講師福山高（赤坂町赤坂）性化に向けた改善策などゼミに所属する4の連携事業が8日行われ、高校生8人、同高2年生21人が参加した。一頓性した伏見町地区な市福山駅前再生推進室を約1時間半かけて空職員の案内で、市視察、職員からこれま役所から福山城周辺やでの再開発の流れなど閉館中の商業施設・キヤスバ、再開発事業がた。

その後、まなびの館知らなかった店があるなどいろいろな発見ワークショップを実施。エリアごとに5つ程度のグループに分かれて意見交換した。高校生たちは「駅内に勉強したい休んだりできる場所がない」「福山城に自撮りスポットを設けてみては」などと気付いた点を発表していた。福山高の大任真さん（17）は「駅周辺をじっくり歩いてみて、

「高運搬事業」として今年5月にスタート。今後、駅前再生に向けた具体的なアイデアやビジョンをまとめ、11月の大学祭で発表する。（滝井宏太）

空き地の活用策考える

福山市立大でワークショップ

参加者 アイデアを模型に



空き地の有効活用を「が8日、福山市立大（港町）で実施された。参加者たちは、街がにぎわうようにするアイデアを考えて模型を作った。小中高生と保護者の計9人が参加。同大の高橋美佳講師（建築設計）が市中心部で増えている空き地の現状を紹介。「景観を損なう上、まちのにぎわいも低下する。一方でいろいろな使い道もできる」と説明した。

参加者はアイデアをメモ用紙にまとめ、スチレンボード（縦32センチ、横40センチ）に表現。画用紙や紙粘土などを使い、ドッグランや木々に囲まれたフードコートなど、それぞれ趣向を凝らした模型を作った。

花のアーチや噴水を備えた広場を考案した福山高2年村上咲さん（16）は「通行人が気軽に立ち寄れる場所をテーマにした。アイデアを考えるのは楽しかった」と話していた。（太田孝一）

空き地の有効活用を考えるワークショップで模型作りに取り組み参加者

写真映えする空間を 福山高生 再生アイデア発表



和風カフェ・地下道フリマ

福山市立福山高（赤坂町）の2年次11日、J.R福山駅周辺の再生計画案を市立大（港町）の大会場で発表した。企画交流サイト（NCS）に投稿したアイデアを再生した。

（穴川 圭）

**再始動
福山駅前**

約50人を集める中、生徒約20人は地域別の5班に分かれてアイデアを披露。「駅東」班の4人は、再開発計画が白紙になった伏見町再生のコンセプトを「懐かしさと新しさの和風カフェ誘致などのアイデアを発表する市立福山高の生徒」

「愚く街」と打ち出し、和がきのアーケード海を例に出し、写真映えする空間の演出マーケットを開催。駅東を支援を受けながら、アイデアを披露した。

北側の自転車周遊の利便性を向上。小学生のイシューを解決。平山文美さん（17）は「自分たちも福山を変えたい」と話している。

福山高生が発表したアイデアは、自分たちも福山を変えたいという思いから、自分たちでできることを考え、アイデアを出した。

福山高生が発表したアイデアは、自分たちも福山を変えたいという思いから、自分たちでできることを考え、アイデアを出した。

商業地区に傘、フリマで集客… 駅前再生アイデア次々



市民にJ.R福山駅前の再生案を発表する生徒ら

福山高生が発表 市立大 協力

J.R福山駅前の再生をテーマに福山市立福山高（赤坂町赤坂）の生徒が市立大（港町）と協力して進めてきた取り組みの発表会が11日、同大であった。約半年間かけて準備した若者の視点を生かしたアイデアを市民に提案した。

同校の高大連携事業は、公園の積極的な整備（駅周辺は何も無い）の一環として、同高2備などを呼び掛けた。思っていたが、自分たちで変えるチャンスがあることが分かった」と話していた。

市立大の学芸部が、優れた提案をした。市立大の学芸部が、優れた提案をした。市立大の学芸部が、優れた提案をした。

市立大の学芸部が、優れた提案をした。市立大の学芸部が、優れた提案をした。

幕山台対象 まちづくり提案 ふれあひ文化祭



まちづくりについて意見を発表する福山高生ら

坂道を巨大スライダーに 福山高生と市立大生発表

福山市立福山高（赤坂町赤坂）と市立大（港町）の学生が4日、幕山台であった地区文化祭で、地域の特色を生かしたまちづくりへの意見を発表した。

幕山台を対象にしたまちづくりがテーマ。同高2年生と同大都市経営学部3年生の計約10人が、フィールドワークや自治会との意見交換などで感じたことをもとに発表した。

坂道が多いという特徴を挙げたグループは、坂道を巨大なウオータースライダーにして若者が集まるイベントを開催することを発表。別のグループは、買い物ついでにまちの見回りをする「ついでパトロール」などを提

案した。集まった住民たちは若者の新鮮なアイデアに熱心に耳を傾けていた。

福山高の福森太一さん（16）は「実際に地域を回ってみて高齢化が深刻だと実感した。自分たちのアイデアで地域が少しでもよくなればうれしい」、市立大の安倍健一郎さん（20）は「自治会やイベントを開催すれば、若い世代も自治会に関わってくれると思う」と話していた。

高大連携事業の一環。「郊外団地のまちづくり」をテーマに、両校が協力して地域の課題や魅力について考え

③「国際課題解決プロジェクト」：マウイ生徒との交流

ハワイの高校生来校 ジャズ演奏で親睦深める

市立福山中高 福山市の親善友好都市の米ハワイ州マウイ郡にあるキング・ケカウリケ高校の生徒たちが2日、市立福山中学・高校（赤坂町赤坂）を訪れ、ジャズ演奏するなどして親睦を深めた。



同校の高校2年生18人が今年3月、語学留学が長期休暇を利用して学でハワイを訪れた際、5月31日に来日した。市役所を表敬訪問した演奏を披露し、生徒たちを沸かせた。その後、同校を訪れた一行は中庭でミニコンサートを見学。英語の授業に参加し、自己紹介したり英単語を読み上げたりして触れ合った。

高校2年ジェイク・トーマス君15は「日本の生徒たちがその興味を持って自分たちの演奏を聴いてくれた。温かく受け入れてくれてうれしい」と笑顔。同1年春春花さん（15）は「ジャズを聴いたのは初めてで感動した。英語で会話もできて楽しかったのですね。ハワイに行きたい」と話していた。

一行は10月1日まで

の日程で京都、東京などを訪れ、各地の高校などで交流を行う。
（洞井宏太）

④「国際課題解決プロジェクト」：ダウンランズ生徒との交流

■2017年（平成29年）10月2日 山陽新聞

市役所

豪と韓国訪問 福山中・高生

経験、意気込み語る

オーストラリアや韓国への訪問を通じて国際交流を深めている福

山市立福山中・高（赤坂町赤坂）の生徒が9月29日、市役所を訪れ、や今後予定している海外研修への意気込みを語った。

同中・高の生徒は、高校2年の2人が7月8日から約2カ月間、オーストラリアのトゥーンバ市にある姉妹校「ダウンランズカレッジ」に留学。別の中学3年生は7月24日から15日、同校に語学研修で通った。中学1・3年の計25人は、福山市と親善友好都市の韓国・浦項市の提携校「大東中学校」を国際交流の一環で10月14日から4日間訪問する。

この日は代表5人が市教委の佐藤元彦教育次長らに報告。語学研修に参加した生徒は、家族や趣味などを紹介する写真を貼り付けたスケッチブックがコミュニケーションに役立ったと紹介。大東中学校を訪ねる生徒は「文化の違いを知ることで物事をさまざまな視点で見える力をつけた」と抱負を語った。

留学した高校2年生北村優希さん（17）は「積極的に話しかけるように心がけた。今までと違う考え方に触れ、自分の意思を伝えることの大切さが分かった」と話していた。（南原久人）

現地での貴重な経験などを話す生徒



⑤「国際課題解決プロジェクト」：ポハン生徒との交流

■2017年（平成29年）5月23日 中国新聞

浦項の生徒迎え 茶道で文化交流

市立福山中・高

福山市の親善友好都市、韓国・浦項市の大東中の生徒たちが22日に来泊し、21日には両校生徒で「福山茶会」を員学した。

（高本友子）

日、友好提携校の福山市立赤坂町の市立福山中・高を訪れ、茶道などを楽しんだ。

生徒と教員19人が来校し、ドッジボールや体験授業で交流した。

放課後の茶道体験では、家庭研究部が点前を披露。慣れない正座に耐えながら、部員がたてた抹茶と茶菓子を味わった。大東中3年のキム・チウクさん（14）は「韓国の茶文化と違って静かな雰囲気

茶道を体験する大東中の生徒たち





紅葉を撮影するハイキング客—庄原市で

市提携を結ぶ韓国・福山市と浦項市との交流事業で、浦項市を訪れていた福山市立福山中（赤坂町）の生徒らが帰国し、市役所で10月30日、枝直幹市長に成果を報告した。

韓国訪問「みんな優しかった」

福山中 枝直市長に報告



浦項市で交流した福山市立福山中と私立大東中の生徒ら
—福山中提供



枝直幹市長（左）に成果を報告する福山中の生徒
—福山市役所で

浦項市との交流事業で、浦項市を訪れていた福山市立福山中（赤坂町）の生徒らが帰国し、市役所で10月30日、枝直幹市長に成果を報告した。福山中と私立大東中は2015年から、交流事業として生徒が互

流事業として生徒が互に訪問している。今年10月19〜22日の日程で福山中2、3年の28人が浦項を訪ね、大東中の生徒と数学のパスルを楽しんだり、ホームステイ先の家族と史跡などを観光したりした。日韓関係の悪化で中止の可能性もあったが、枝直市長が安全配慮を求めた親書を浦項市長宛てに送付し、他、福山中の担当者も積極的に現地教諭と情報を交換して安全を確認し、例年通り実施することにしたという。市役所には生徒3人が訪れ、団長を務めた3年の住吉悠音さん（16）は「現地の人たちはみんな優しくしてくれました。とてもいい経験になった」と話した。枝直市長は「充実した時間を過ごしてくれたのが何よりの成果。行

⑥「国際課題解決プロジェクト」：模擬国連

「模擬国連」は、本物の国連の議論と同じように議論を交わす。森の全日本高校模擬国連大会は15日、浦項市で開かれた。福山中からは、浦項市立福山中と私立大東中の生徒らが出場した。大会では、各国代表が模擬国連の議題について議論を交わす。福山中からは、浦項市立福山中と私立大東中の生徒らが出場した。大会では、各国代表が模擬国連の議題について議論を交わす。

「模擬国連」は、本物の国連の議論と同じように議論を交わす。森の全日本高校模擬国連大会は15日、浦項市で開かれた。福山中からは、浦項市立福山中と私立大東中の生徒らが出場した。大会では、各国代表が模擬国連の議題について議論を交わす。



秋山 調子 (編集委員)

初心者向け講場で「普通」の生徒の一步が希望

「模擬国連」は、本物の国連の議論と同じように議論を交わす。森の全日本高校模擬国連大会は15日、浦項市で開かれた。福山中からは、浦項市立福山中と私立大東中の生徒らが出場した。大会では、各国代表が模擬国連の議題について議論を交わす。

「模擬国連」は、本物の国連の議論と同じように議論を交わす。森の全日本高校模擬国連大会は15日、浦項市で開かれた。福山中からは、浦項市立福山中と私立大東中の生徒らが出場した。大会では、各国代表が模擬国連の議題について議論を交わす。

「模擬国連」は、本物の国連の議論と同じように議論を交わす。森の全日本高校模擬国連大会は15日、浦項市で開かれた。福山中からは、浦項市立福山中と私立大東中の生徒らが出場した。大会では、各国代表が模擬国連の議題について議論を交わす。

「模擬国連」は、本物の国連の議論と同じように議論を交わす。森の全日本高校模擬国連大会は15日、浦項市で開かれた。福山中からは、浦項市立福山中と私立大東中の生徒らが出場した。大会では、各国代表が模擬国連の議題について議論を交わす。

◆ザ・コラムは毎週木曜日に掲載します。

17、18日 東京 市福山高生が模擬国連出場

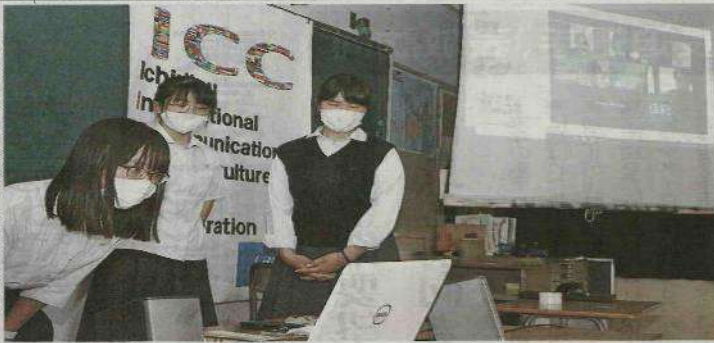
福山高校の生徒らが出場する模擬国連大会が、17、18日、東京で開かれた。福山高校からは、浦項市立福山中と私立大東中の生徒らが出場した。大会では、各国代表が模擬国連の議題について議論を交わす。

福山高校の生徒らが出場する模擬国連大会が、17、18日、東京で開かれた。福山高校からは、浦項市立福山中と私立大東中の生徒らが出場した。大会では、各国代表が模擬国連の議題について議論を交わす。

■2020年(令和2年)6月19日 中国新聞

(第三神部動物園)

オンラインで異文化交流する坪内さん(左)



福山高 ICC クが「ラーニングカフェ」

オンラインで異文化交流

海外の卒業生や外国人

福山赤坂町の福山市立福山高のICC(国際交流クラブ)は、海外にいる卒業生や外国人とオンラインで交流する「ラーニングカフェ」を始めた。新型コロナウイルスの影響を受けて減った異文化交流の機会を確保する。

放課後の教室で毎週水曜、生徒がビデオ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を用いて現地とつながる。17日は、かつて広島大に留学し、同校を訪れたこともあるアンカニスタンの公務員アマンラー・アタエエさんが参加。約1時間、難民問題について聞いた。アタエエさんは自宅窓の外に「あ、あの病院はIS(過激派組織)イスラム国に爆破された」と話していた。

この日は米国に留学中の卒業生も参加。アタエエさんの話を一緒に聞くことも、在校生と英語で近況を語り合った。

同校は新型コロナウイルスの影響に伴い、今年予定していた短期留学プログラムや留学

生の受け入れをすべて中止した。ICCでも異文化交流の機会が減ったことから、顧問の藤田憲弘教諭(61)が、同校に縁のある外国人や留学中の卒業生たちとのオンラインの交流を企画した。

部長の2年坪内志葉さん(16)は「ニュースだけでは見ることができない現地の声や景色に触れることができた。藤田教諭は「オンラインでしかできない異文化交流を形にしていきたい」と話した。(湯浅梨奈)

ピール

「留学生が福山で就職しやすい環境をつくりたい」と意気込むのは、福山市内の大学や日本語学校、福山商工会議所などでつくる外国人留学生を支援する会の徳永明彦会長(44)。今春、副会長から会長に就いた。

新入生が来日できなかったリアルバイト先の仕事がなく

福山での就職
留学生を支援



配母コ経た々たス 保とがもな

■2020年（令和2年）8月1日 中国新聞

中国新聞

平和の願い 世界中に



高校生平和大使としての意気込みを語る
左から楠さん、柚木さん、梶原さん

高校生大使 広島代表3人誓う

国内外で核兵器廃絶を訴える本年度の高校生平和大使の広島地区代表に選ばれた市内の3人が31日、広島市役所で記者会見し、新型コロナウイルスの影響で8月にスイス・ジュネーブの国連欧州本部へ署名を届けるのは断念したが、署名活動などを通じて平和の願いを発信する誓った。

修道高2年楠康生さん（16）＝東区、広島大付属高2年柚木優里奈さん（16）＝安佐南区、福山高2年梶原百恵さん（16）＝福山市。8月10日午前11時から平和記念公園で署名活動をする。

9月上旬には、16都道府県の28人が広島市内で結団式を開く予定でいる。

楠さんは、亡くなった祖父が入市被爆者。「被爆体験を直接聞くことはできなかったが、祖母や母親から核兵器の恐ろしさを伝え聞

■2020年（令和2年）11月10日
中国新聞

福山市の中高生たちが戦争遺跡を紹介して回るツアーが8日、同市丸之内の福山城公園周辺であった。毎年11月に開くスタンプラリーが新型コロナウイルスの影響で中止となったため、代わりに企画した。市人権平和資料館の平和学習連続講座「ふくやまピースラボ」メンバーの中高生計11人が親子連れたち23人を案内した。

中高大学生が戦争遺跡案内

福山城公園周辺でツアー



福山空襲によって変色した福山城の石垣について説明する生徒（奥左）

福山城の石垣前では「空襲による火災で石が赤く変色し角が丸くなっている」と解説。旧市街地の約8割を焼失して355人が犠牲となった福山空襲の被害を伝えた。

父と弟と参加した御幸小3年高橋志織さん（9）は「戦争でこんなに攻撃を受けていたんだと恐ろしくなった」と語った。中学3年から講座に参加する市立福山高2年梶原百恵さん（16）は「真剣に話を聞いてもらえてうれしかった。自分たちができる平和活動を続けたい」と話した。

（菅田直人）

いた」と話し、得意な英語で被爆者の声を届けることを目標にした。

柚木さんは、新型コロナウイルスの感染拡大による活動の制限について「オンラインで世界中の人とつながることができる今、新しい発信の方法を考えたい」と前を向いた。梶原さんは「平和の実現に向けて、できることを精いっぱい取り組みたい」と意気込んだ。

平和大使は、広島、長崎両市の市民団体「高校生平和大使派遣委員会」が全国から募り、23代目。広島地区枠には39人が応募し、小論文と面接で選考した。

（新山京子）

■2023年（令和5年）3月14日 中国新聞

福山高生 北米訪れ交流へ

あすから「二上りおどり」披露も



二上りおどりを市職員（左端）から教わる生徒

えは、環境面でプラス」といった意見も出た。市は昨年6月から福山市立大（港町）や福山平成大（御幸町）の学生たちと地域の魅力を生かしたまちづくりの方策を検討。学生が

ら廃棄されるバラを商品作りに生かせないかと提案があった。デニムとのコラボに目を付け、市が関係者に参加を呼びかけた。2025年にある世界バラ会議福山大会に向けた植

栽工事で大量の枝の廃棄が想定される。市は今後、材料の調達方法や製造体制を検討する。市企画政策課は「バラやデニムに関わる事業者に広く参加を募り、商品化につなげたい」としている。

福山市の市立福山高（赤坂町）の生徒が15日から米ニューヨーク市を訪れ、北米地域の若者との相互交流を目的にした外務省の「カケハシ・プロジェクト」に参加する。21日まで滞在し

て現地の高校生と交流。県の無形民俗文化財の「二上りおどり」やばらのまち福山の魅力もPRする。参加するのは1、2年生計9人。7日は同校で市職員から二上りおどりの振り

付けを学んだ。ばらのまちの歴史や2025年の世界バラ会議福山大会のPRに向けて英語による発表の練習もした。

渡米リーダーの2年生土肥紗代子さん（17）は「米国の同年代と語り合うのが楽しみ。広島県民として平和についても話したい」と意気込む。ニューヨーク市では同じプロジェクトに参加する広島女学院高（広島市中区）の生徒と合流し、現地の高校生と交流する。国連本部や日本総領事館も訪問する。（猪股修平）

八田原・三川ダ

貯水率42% 農業

芦田川流域の市町などでつくる濁水調整協議会は13日、八田原ダム（府中市、世羅町）と三川ダム（同町）の合計貯水量が基準を下回

⑪ 「在り方生き方探究プロジェクト」：もふお（羊）飼育（よりハッピーなスクールへ）

■2020年（令和2年）11月4日 中国新聞

福山市赤坂町の福山中高が、羊1頭を飼い始めた。新型コロナウイルスの影響でストレスを抱える生徒が増えているとして、動物との触れ合いで心を癒やすアニマルセラピーの効果を期待する。牧場から来年3月末まで借り受けた。

同校では、ことし7月の1カ月間で保健室を利用した生徒は141人で、昨年同月の79人から倍増。コロナ禍で生活環境が変化し、不安を訴える生徒が目立つという。学校生活に新たな潤いをもたらそうと、山口裕三教頭が羊を飼うことを企画。北広島町の牧場に交渉し、実現した。

同校で半年間暮らすのは、2月に生まれた若い雄。毛量が多く、名前は事前に校内公募して「もふお」に決まった。休憩時間に多くの生徒が集まり「温かい」「かわいい」と触れていた。小屋造りには、近くで木工製作所を営む卒業

羊を飼育 コロナ禍の癒やし 福山中高



学校に仲間入りした羊をかわいがる生徒たち

生が協力した。高3の小寺涼音さん(18)は「楽しい学校行事がなくなり、受験勉強だけで息苦しかった。愛情あるもふおと、最後の思い出をつくりたい」と喜んだ。

世話は、帯広畜産大卒の学習支援員と生徒有志60人が受け持つ。山口教頭は「生徒の笑顔が増え、予想以上の反響。教員には見えにくいストレスを抱える生徒もいる。明るい話題が増えるきっかけになれば」と話す。(湯浅梨奈)

■2020年（令和2年）12月16日 毎日新聞オンライン

「もふお」でコロナ禍のストレス撃退 広島・福山中高で飼育のヒツジ

毎日新聞 2020年12月16日 17時42分 (最終更新: 2020年12月16日 17時43分)

社会一般 > 動物 > 広島県 > タイフ > 連載 > 社会



昼休みに「もふお」と触れあう生徒＝広島県福山市の市立福山中高で2020年12月16日、関東晋路撮影

広島県福山市赤坂町の市立福山中高で、ヒツジが飼育されている。北広島町の牧場から借りたオスの「もふお」で、新型コロナウイルスの流行からストレスの増長が懸念される生徒たちへの癒やし効果が期待されている。2021年3月末まで生徒たちが世話を続ける。

コロナ禍で保健室を利用する生徒が前年から倍増し、中学の山口裕三教頭が牧場の協力を得て学校の一員となった。校内公募で名前を決めたもふおは5月に生まれたばかりで、有志の生徒たち約60人が交代で餌やりと小屋の掃除を担当。もふおはさあしがり屋で人がいなくなると鳴くといひ、地域住民からも愛されるようになった。

飼育を担当する豊田楓汰さん(17)＝高二＝は「もふおの性格は“ツンデレ”で癒やされます」。任用職員的小林純子さん(29)は「最近では可愛がられすぎてわがままに振る舞う愛嬌(あいきょう)もある」と笑顔で話した。【関東晋路】

47

毎日新聞オンライン(2020年12月16日)

■2021年（令和3年）11月7日 毎日新聞

天守防御の「鉄板」煎餅に

福山城の天守北壁の防御のために張られていたとみられる鉄板を模した「鉄板張りせんべい」が商品化された。企画したのは福山市立福山中学3年の中島美晴さん（14）。2022年の築城400年を記念する初めての食品土産となった。

【関東晋慈】

中学生考案 地元企業とコラボ



営する。中島さんは基晴さんに「煎餅を売って築城400年に寄付したい」と相談。ねぼけ堂を紹介してもらい商品化を目指した。

中島さんは中学2年時の総合学習で築城400年をテーマに選び「22年に向けて自分がどう関われるか」を考えてきた。今春、市民から市に鉄板2枚が寄贈されたニュースを見て「煎餅みたい」と思ったという。自宅には、地元の煎餅屋「ねぼけ堂」（福山市多治米町4）の素朴な硬い煎餅があった。

中島さんの父基晴さん（54）は、福山の特産品を活用した商品開発を手がける「ぬまぐま夢工房」を経

営する。夢工房は以前、小学生の企画で商品開発した実績もある。基晴さんが市に問い合わせてくれたところ、築城400年関連グッズの中に食品はなかった。基晴さんは「いいものができれば勝負があると考えた」と振り返る。

試行錯誤半年…鍵は田島ノリ

商品開発は試行錯誤だった。鉄板の黒色を出すために強火で焼いたり、黒ごまを練り込んだりしたが、思うような味と色にならなかった。約半年かかって思い付いたのが、中島さんも親しんでいた「マル」水産（同市内海町）の田島ノリだった。小麦に落花生を練り込んだ縦20センチ、横10センチの煎餅に板ノリを乗せるだけだが、厚みなど見た目は鉄板そのもの。味も煎餅とノリの両方の甘みを感じる意外なおいしさだった。基晴さんは「米でなく小麦の煎餅にノリを合わせることは奇抜なアイデアだったが面白いと思った」という。



「鉄板張りせんべい」を手にする中島美晴さん（福山市役所で撮影）

中島さんは「すべての食材を地元企業の協力で実現でき、ことがうれしい。食

品にすることで多くの人に土産として手に取ってもらえる。福山城が全国で唯一、鉄板張りだったことも多くの人に知ってもらいたい」と話した。

2枚入りで780円。400年にちなみ400セットを11月1日から、ねぼけ堂などで販売している。中島さんは、売り上げの一部を企画料として受け取り、市の記念事業に寄付する。問い合わせは夢工房（084・9922・4807）へ。



食品ロスを意識し、校庭の畑で野菜を育てる市立福山中の生徒

国連が提唱する「持続可能な開発目標」(SDGs)を学校教育に取り入れる動きが加速している。福山市では2019年度から市立学校全校がSDGsの目標を少なくとも一つ設定し取り組む。今年4月にリニューアルした地域学習用の副読本では、SDGsに絡む市内企業の活動も紹介。身近な地域の話題などを入口に、学びを深めている。(吉原健太郎)

学びにSDGs 福山で広がる

市立福山中は、総合的な学習の時間に1〜3年生の計11人が食品ロスの削減を実践している。家庭や給食で出る生ごみで堆肥を作り、校庭の畑でハーブや二十日大根を栽培。ホテル運営のサン・クレア(同市)の協力で、12月には育てた野菜などを使った料理や堆肥の販売を計画する。「食品ロスを減らし、限られた資源を有効活用する大切な学びだ」と話す。総合学習では、他の生徒も貧困地域支援のための寄付募集、平和学習の在り方といったSDGsの目標や関連のテーマに取り組んでいる。

同市の済美中は、1年生がSDGsの目標の一つ「安全な水とトイレを世界中に」を中心に学ぶ。これまで生徒それぞれが興味を持った国の水事情を調べて発表。今月上旬には、市内の国土交通省の環境啓発施設を見学し、昔用いの水質向上対策を学んだ。金城美咲さん(12)は「安全な水を飲めない人が世界にたくさんいる。大切さを周囲の人に伝えたいと思うようになった」と話す。

食品ロス削減など実践

地域企業の活動も紹介

副読本は、児童生徒が各自に配られたタブレット端末でいつでも見られるように「デジタル版」としてホームページに掲載している。市教委学びづくり課の本宮政尚課長は「身近な企業の姿勢を知り、グローバルな問題を地元で育たなければならないという視点を育てたい」とする。

市教委は4月、地域学習用の副読本を一新。SDGsの目標と、市内企業などの活動を解説した内容を加えた。食品容器製造のエフビコが進める食品トレーのリサイクルや、和洋菓子製造の虎屋本舗が取り組む菓子開発を通じた地域コミュニティの維持などを紹介する。

SDGs 国連が2015年に採択した開発目標。格差拡大や地球環境悪化の進行を食い止めるため、世界が30年までに達成すべき目標として、169項目の具体的な「ターゲット」を定める。小学校で20年度、中学校で21年度に全面実施された新学習指導要領には、理念として「持続可能な社会の創り手の育成が盛り込まれている。動といったテーマにも広げられる。

育てた野菜で「トナカイ」

市立福山中 ホットドッグ販売



ホットドッグの出来栄を確かめる生徒

福山市赤坂町の市立福山中の生徒が11日、学内で栽培したバジルとトマトを使ったホットドッグの販売を始めた。アンカーホテル福山(同市城見町)で12日まで提供される。売り上げの一部は同校で今後進める野菜栽培

の費用に充てる予定だ。ホットドッグは、校内産の野菜を使ったソースがポイント。トマトの食感やバジルの爽やかさを感じられる風味に仕上げた。クリスマスにちなんでレンコンのソースにバジルとトマト使用

培の費用に充てる予定だ。

ホットドッグは、校内産の野菜を使ったソースがポイント。トマトの食感やバジルの爽やかさを感じられる風味に仕上げた。クリスマスにちなんでレンコンのソースにバジルとトマト使用

動画を中国動画チャンネルで

チップスをトナカイの角、ミニトマトを鼻に見立てたデザインにした。

3年生3人が食品ロス問題を学ぶ中で、小規模での野菜の生産と消費に取り組むことを企画。同ホテルを運営するサン・クレア(同市)の助言を受け、6月から栽培を始め、給食などの生ごみを集めた堆肥作りを取り組むなど準備を進めてきた。太田梨穂さん(15)は「売り上げを後輩に託したい。少しずつ栽培の規模を大きくして、学内で環境問題を考えるきっかけづくりになれば」と話した。

ホットドッグは800円。12日は同ホテルで午前8時半〜11時に限定10本販売する。(川村正治)

会場で配る冊子のデザインを手にも「気軽に訪れ、独りじゃないと感じてほしい」と話す杉田さん



不登校の悩み 分かち合おう

福山市の市立福山高2年杉田誠佳さん(17)が28日午後、不登校の中高生や保護者が集う会を同市伏見町のカフェで開く。中学時代に不登校となり、同じ悩みを抱える友人たちとの触れ合いに救われた経験を踏まえ、「家や学校以外に癒やされる場が必要。気軽に参加してほしい」と呼びかけている。

中学2年の秋から卒業まで不登校だった杉田さん。周囲や交流サイト(SNS)で見聞きする中傷や悪口が嫌になり「周りに好かれ

28日 福山の高2杉田さん「集う会」

ようと自分を殺していた。ある日『学校にはもう行きたくない』との気持ちになった」と振り返る。

気分が落ち込み「消えたい」と思う日も。別室登校や校外フリースクールで友人や指導員と会話を重ねるうちに少しずつ心が軽くなるのを感じたという。

「同じ苦しみを抱える不登校の中高生が癒やされる場所がもっと必要」。そう考えていたところ、高校生向け就活雑誌を発行する第一エージェンシー(同市西町)の若者の夢を応援する企画を知り、応募。同社の協力を得てクラウドファンディング(CF)で資金を募り、準備を進めてきた。

会場はカフェ「Freeman bake store」で午後1時から5時まで。杉田さんが伝えたいことや杉田さんの母から保護者に向けたメッセージも載せた冊子を配る。入室自由。保護者だけでも参加でき、菓子や飲み物は無料提供する。CFの受け付けは20日まで。URLは<https://c.amp-fire.jp/projects/view/642233> (原未緒)

2021年（令和3年）7月21日 中国新聞

(第三種郵便物認可)

中国新聞

地元留学生と対面トーク

コロナ禍でも国際交流の機会を…



福山中・高校内を案内

福山市赤坂町の市立福山中・高が、同市沼隈町の日本語学校「弥勒の里国際文化学院」の留学生を迎え、学校案内や部活動体験で交流した。新型コロナウイルス禍で減った国際交流の機会を広げようと企画した。インドネシア、ベトナムなど6カ国からの留学生20

人が同校を訪問。授業で多文化共生などを学ぶ高校1年生やICC(国際交流部)の部員たち30人が校内を案内した。茶道の体験や中学生生とのレクリエーションもあった。同中・高は海外での語学研修や国際交流に力を入れてきたが、新型コロナウイルスの影

学校案内の最中、図書室で談笑する留学生と生徒

響でウェブ会議システムを通じた交流に切り替えている。地元で暮らす若い世代の外国人と触れ合い、理解を深めようと企画した。8月には同学院を訪ねる。

インドネシアからの留学生ノルマ・フィトリアナさん(28)は「新型コロナウイルスで外出も控えがちな中、多くの生徒と話せて楽しかった。高校2年下江昌輝さん(16)は「相手の母国の文化や祭りについて知ることができ、貴重な体験になった」と話した。(吉原健太郎)



「創造的な知性と豊かな心の調和的な発達を図り、国際社会に貢献できる人間を育成すること」を教育目標に掲げ、ESDを推進している。同校はESDを「E」

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに

「夢プロ」を実施。3年次では、これまでの活動を振り返り、自己の進路に関連する分野やSDGsに



生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

生徒の活躍に期待を込める楠幸浩教諭と上山晋平教諭

『大学新聞』第186号(令和2年12月10日発行)掲載

学校基本情報: 所在地 〒720-0843 広島県福山市赤坂町赤坂910 URL http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/kou-ichifuku/ 交通 JR[備後赤坂]駅より徒歩約12分 学校長 高田 芳幸 生徒数 944人

<5> 2023年7月7日(金)

リビングふくやま

教育ナビ Vol.47

《公立トップ高校インタビュー》 福山市立福山中・高等学校



「ESD」「国際交流」の取り組みを通じ、社会の創り手を育成

福山市立福山中・高等学校は、1899(明治32)年創設の私立女子学校を母体とし、1969(昭和44)年に福山市に移管、2004(平成16)年に福山市立福山中中学校を開校し、県東部で初めての併設型中高一貫教育校として新たなスタートをきった歴史ある学校です。高田芳幸校長、大町司教頭、平山祐輔教頭、上山晋平先生、島山耕平先生に、能開センター広島本部高校受験責任者・柿木真さん、能開センター福山校大学受験責任者・占部真康さん、同校・秋吉靖幸さん、同校・池尻有紀さんをお話を聞きました。 ※以下敬称略



▲(奥から右手前)福山市立福山中高等学校教頭・大町司さん、同高等学校研究企画主任・上山晋平さん、福山市立福山中高等学校校長・高田芳幸さん、福山市立福山中中学校教務主任・島山耕平さん、同中学校教頭・平山祐輔さん

高田芳幸校長 福山 ESD(持続可能な開発のための教育)は、世界中で最も必要とされているもので「SDGs教育」と説明されがちですが、環境はもちろんです。人と人のつながりや社会と良い関係を作ることも、全てを含んだ教育の答えがある所

柿木 中学の教育活動で特徴的な点を、教えてください。 上山 晋平先生

柿木 入学後の全国テスト結果を分析すると、非常に高い力を持った生徒がいます。弁護士などの生徒も出ています。

池尻 昨春、迫田守昭監督が硬式野球部の監督に就任されたのは、

能開センター・秋吉靖幸さん

能開センター・池尻有紀さん

能開センター・池尻有紀さん

大町 以前は「知識」が中心で、前に出ていっていましたが、「体(健康)が基本」として、体の健康があってこそ力を存分に発揮できます。

柿木 2018年にユネスコスクールに加盟、2020年にはESD大賞(文部科学大臣賞)を受賞されていますが、「ESD」は、

校長 学力検査によって測られるべき力を包括し、より大きな力を育てることを目指しています。

校長 野球場入部を希望する生徒も増えましたが、部活はもう一人、勉強も頑張る生徒が入学してくれています。

校長 難関校の数字に目が留まりがちですが、それぞれの生徒に対する丁寧な働きかけをされていくのです。

校長 最後に、来春、福山市立福山中高を目指す受験生に向けて、メッセージをお願いします。

柿木 入試についてお伺いします。市立福山中は例年、高い偏差率の「適性検査」による入試を実施されています。

柿木 今年、広島県公立高校入試制度が大きく変わりました。市立福山中は例年、高い偏差率の「適性検査」による入試を実施されています。

校長 昨年度は難関国公立大20人、国公立大36人合格という非平凡な良い結果でした。生徒は、最後まで諦めず、粘り強く頑張ってくれました。

校長 昨年度は難関国公立大20人、国公立大36人合格という非平凡な良い結果でした。生徒は、最後まで諦めず、粘り強く頑張ってくれました。

校長 昨年度は難関国公立大20人、国公立大36人合格という非平凡な良い結果でした。生徒は、最後まで諦めず、粘り強く頑張ってくれました。

校長 昨年度は難関国公立大20人、国公立大36人合格という非平凡な良い結果でした。生徒は、最後まで諦めず、粘り強く頑張ってくれました。

大町 以前は「知識」が中心で、前に出ていっていましたが、「体(健康)が基本」として、体の健康があってこそ力を存分に発揮できます。

柿木 入学後の全国テスト結果を分析すると、非常に高い力を持った生徒がいます。弁護士などの生徒も出ています。

池尻 昨春、迫田守昭監督が硬式野球部の監督に就任されたのは、

能開センター・秋吉靖幸さん

能開センター・池尻有紀さん

能開センター・池尻有紀さん

学んだ知識を手段に課題解決に取り組み 一人一人の夢、進路の実現を目指す

◆市立福山中学校オープンスクール 8月26日(土) 1部8:50~2部11:05~3部13:35~ 受け付けは各20分前から。対象は小学6年生

◆市立福山高等学校オープンスクール 8月25日(金) 午前の部9:00~午後の部13:00~ 受け付けは各20分前から。対象は中学3年生・保護者。詳細はホームページ http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/kou-ichifuku

教育 Vol.1

《公立トップ校インタビュー》 福山市立福山中・高等学校

豊かな国際交流や、社会と繋がる経験で成長へと導く



▲副谷靖伸校長

福山市立福山中高等学校は、1899(明治32)年創設の私立女子学校を母体とし、1969(昭和44)年、福山市に移管、2004(平成16)年、福山市立福山中中学校を開校し、県東部初の併設型中高一貫教育校となった歴史ある学校です。この春着任した副谷靖伸校長、大町司教頭、平山祐輔教頭、上山晋平先生、島山耕平先生に、能開センター広島本部高校受験責任者・柿木真さん、能開センター福山校大学受験責任者・占部真康さん、同校・表洋平さん、同校・栗田(むぎた)一成さんをお話を聞きました。※以下敬称略



▲(右手前から奥へ)福山市立福山中中学校平山祐輔さん、同中学校教務主任・島山耕平さん、福山市立福山中・高等学校校長・副谷靖伸さん、福山市立福山中高等学校研究企画主任・上山晋平さん、同高等学校教頭・大町司さん

豊富な課外活動は本物に触れる貴重な機会

柿木 総合校長は今年4月に赴任されましたが、生徒たちの印象はいかがですか。
校長 素直で前向きな生徒が多い印象です。文化祭の練習ではあちこちから元気な声が聞こえてきました。このまま頑張ってもらいたいと思います。



▲副谷靖伸校長

柿木 市立福山中高では、「i・dream(一人一人の夢の実現)」をキーワードにして、「interactio(n)(共感・interacti(vity)(交流・intelligence(知性・intention(意図))」をキーワードとして、探究に力を入れています。探究に力を入れているのは、国際交流や社会と繋がる機会が多いため、本場の英語や英語の授業、海外では自分の英語が使えるようになることが目的です。



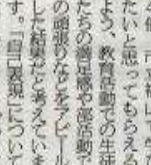
▲ホスカワマサ道先生

大町 国際交流では、昨年度はオーストラリアと韓国へ行き、今年度はフィリピンにも行きま...
校長 5月の交流の最後の日、生徒たちが今回の交流について発表をする...
栗田 海外の人々との出会い、国際交流の重要性を伝えることが大切だと感じています。



▲上山晋平先生

栗田 純粋に高校入試について伺います。昨年度から広島県公立高校入試制度が大きく変わりましたが、福山中高も入試日程が他の公立高校と同様になりました。志願動向の変化や、「自己表現」の



▲岡本まき子先生

占部 この数年、大学入試でも高いレベルで求められるようになってきました。国の方針の変化もあり、本場の意味での英語力を必要とする中で、生徒の思いをかなえるにはどうすればいいのかと考える、現在は、高1・高2は部活動も課外活動も探求も海外にも行き、人間力を身につけて、高3で受験に向かっています。



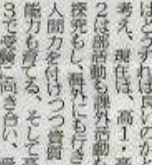
▲志水孝弘先生

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

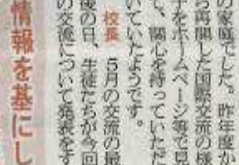


▲志水孝弘先生

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。



▲志水孝弘先生



▲上山晋平先生

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

栗田 福山校では高1の定規テストから大学入試問題を見据えた問題を少しずつ取り入れ、早い段階からグローバルを感じられる取り組みを行っています。

(福山市の地図)



番外編 ええじゃろ！うちの学校

ど高校って先輩たちが伝える高校生活

高校生活ってどんな感じ？
勉強は大変？部活は？学校行事や活動は？
福山市立福山高等学校の先輩たちが、自分たちの経験をもとに高校生活の一部を紹介しています。

福山市立福山高等学校

福山市赤坂町赤坂910番地
全校生徒5002名(2026年2月現在)

企画・編集／福山市立福山高等学校新聞部



福山高校 ホームページ



知ってみたい高校の特色
高校が、小・中学校と一番違っているのは、いろいろなことを「自分で決め」なければならぬという点にあります。高校を卒業すると就職する人もいます。大人の仲間入りです。自分の人生を「自分で決め」る必要があるのです。
大学に進学するとしても、どのような仕事に就くかによって、必要な勉強は違ってきます。国語や社会を多く勉強するか、数学や理科を多く勉強するかも自分で選び、「自分で決め」なければならぬのです。
毎日の授業は7時間の日もありますが、ただし、同じクラスであっても、時間割は生徒によって異なっています。自分の進路希望に合わせて、授業を選んでいきます。
宿題も出ますが、得意・不得意は人によって異なります。ですから、宿題に加えてどの科目をどれだけやるのかも「自分で決め」て取り組めます。
部活動も活発です。野球部や吹奏楽部などスポーツや文化活動に取り組みむ部が25あります。
少林寺拳法部など、毎年のように全国大会に進出する部活

動もあります。多くの生徒が所属して活動しています。ただし、加入するかどうかは「自分で決め」ます。限られた時間をどう使っていくのかは「自分で決め」ることだからです。
このように、高等学校では「自分で決め」ることが求められます。それは自由であると同時に、責任も負わなければならないという事です。それが一人前の大人という事なのでしょう。
福山高校ってこんな学校！
市内には多くの高校がありますが、福山市立福山高等学校は、唯一の「福山市立」の高校です。120年を超える長い伝統を有し、県下でも数少ない公立の中高一貫の学校でもあります。
教科の勉強はもちろん、部活動に励む生徒が多岐に文化祭や体育祭などの学校行事が活発に行われています。
探究活動では地元福山の企業や事業所と提携し、課題解決活動を行うという地域に根差した活動を行っています。
一方で、世界に目を向けた国際交流活動も数多く行われています。

時間割 文系のAさん/時間割

月	火	水	木	金	
1	論理英語	英語	数学基礎	文学英語	公民演習
2	発展数学	生物基礎	公民演習	倫理	英語II
3	古典探究	発展数学	英語II	発展数学	日本史探究
4	英語II	日本史探究	発展数学	日本史探究	発展数学
5	日本史探究	体育	探究	体育	論理英語
6	論理表現	倫理	LHR	情報演習	論理表現
7		文学英語		古典探究	

時間割 理系のBさん/時間割

月	火	水	木	金	
1	情報演習	論理英語	英語II	物理	古典探究
2	英語II	数学C	数学III	化学	物理
3	化学	論理表現	化学	地理探究	数学C
4	数学C	古典探究	論理英語	数学III	論理表現
5	数学III	英語II	探究	数学C	地理探究
6	地理探究	体育	LHR	体育	化学
7		物理		英語II	

福山高校の活動

福山高校の活動は多岐にわたります。その一部として、国際交流をご紹介します。

福山高校は、長年にわたり多彩な海外研修や学校交流を積み重ねてきました。ホームステイしながら授業に参加したり、現地の生徒と交流したり、近郊での研修に取り組んだりしています。



シンガポールの学校 Temasek Polytechnic との交流

JENESYS シンガポール派遣

私たちは外務省が行っている JENESYS プログラムで、シンガポールを訪れました。今回の研修テーマは「街づくり」です。日本の代表として、日本の魅力をアピールし、また、誰もが安心して暮らせる都市の工夫や SDGs の取り組みを学びました。

ダウンランズカレッジ (オーストラリア・クィンズランド州)



オーストラリアでの授業参加 福山高校での茶道体験

豊かな自然の中、おおらかなオーストラリアの人々は、相手を受け入れ、前向きな姿勢を持っていました。積極的な彼らに感化され、私も自分からコミュニケーションをとり、自信をもって振舞えるようになりました。

フィリピン・セブ島語学研修

フィリピン・セブ島ではマンツーマンの語学研修とマリン研修を行い、英語や海洋環境について学びました。

浦項高校・浦項女子高校 (韓国・浦項市)



浦項高校での交流 浦項女子高校歓迎式典

学校やホームステイ先での会いは、韓国に興味のあった私には夢のような時間でした。今でも連絡を取り合っている友人もできました。将来は空港で働きたいと考えていますので、貴重な経験となりました。

※福山市と浦項市は1979(昭和54)年に親善友好都市の提携を結んでいます。
共通点「鉄鋼業が盛ん」「市の花がばら」



マリン研修 マリン研修の体験

ええじやろ！ うちの学校

取材リクエスト大歓迎！
みなさんの学校の自慢や取り組みを
教えてください

vol. 41



キャッチフレーズ **i-dream**

～夢をみつけ 夢をはぐくみ 夢をかなえる～

生徒会スローガン

まぎないっせん

輝絆一閃

～一人一人が一番星～

一人一人が輝けるような一閃の光を放つ存在になり、どんな困難も乗り越えていけるような一番星になろうという意味が込められています。

生徒会執行部は、一人一人にスポットライトが当たるような学校を目指し、生徒の笑顔が増えるような活動をしていきたいと思っています。

お話を聞いたのは、
第21代生徒会執行部のみなさんです。



- | | |
|-----------------|-------------------|
| 生徒会長 3年 松尾 夏音さん | 広報委員長 3年 藤本 叶乃さん |
| 副会長 3年 後藤 愛莉さん | 保健体育委員長 2年 赤山 蓮さん |
| 副会長 3年 山口 希美さん | 図書委員長 3年 服部 寛人さん |
| 書記 3年 林 花音さん | 美化委員長 2年 高本 晴彦さん |

(福山中学校生徒会執行部の役職は、学年を問いません。各学年の構成人数は、年度によって異なります。)

福山市立 福山中学校

福山市赤坂町赤坂910番地
中学校生徒 3576名(2025年4月現在)

福山中学校 ホームページ



福山中学校ってどんな学校なん？

2004(平成16)年4月、100年以上の歴史を持つ福山高校に中学校を併設し、併設型公立中高一貫教育校「福山市立福山中・高等学校」としてスタートしました。

2020(令和2)年から飼育している校内のアイドル 羊の「もふお」



～行事編～



文化祭や体育祭は、中学生と高校生共同で実施します。

一樹祭(文化祭) 2日間開催

初日はリーデンローズ大ホール！中学校の全校合唱や6年生(高3)の発表、吹奏楽部、演劇部、ダンス部などが日頃の練習の成果を披露します。

2日目は校内で行います。クラス企画や文化部の展示、有志による演奏大会などとても盛り上がります。

私たちの学校自慢!

～学び編～

MY探究

2020年度から始まった「MY探究」は、一人一人の興味・関心に応じて探究したいことを決め、解決に向けて計画・実践します。

福山中学校の特色ある学びを紹介します。

たとえば、こんな探究です…

きれいなものが好きなのでミョウバンを溶かし、冷やして結晶を作りました。どうすればきれいな大きな結晶になるか調べました。

1か月に1回ずつ学校周辺のゴミ拾いをし、どんな種類が多いのか、どのくらい減っているか調べて発表しました。

校庭の雑草を根元から除草できないかと考え、除草作用のある身近な調味料の成分を調べて、どの成分が除草作用に大きく関連するかを調べました。



体育祭

(エフビコアリーナふくやまにて) 縦割りで青・赤・緑の3チーム(中学校3クラス、高校6クラス)に分かれて、応援合戦や各競技に挑みます。

コミュニケーション科

日本語・英語を活用してコミュニケーション能力を高めています。

より良いコミュニケーションを図るための動画を制作しました。内容はこんな感じ…

【話すとき】AさんとBさんの会話です。
Aさん「いっしょに図書館へ行こう！」
Bさん「今、OOしているから行けないよ」
Aさんは、どうすればいいでしょうか。
①「OOを今しなくていいじゃん！行くよ！」と、無理矢理に引っ張っていく。
②「用事があるんだね。じゃあ、また今度行こうね」と、相手の気持ちを優先する。

日本語や英語を使って、テレビショッピングをする時間がありました。架空の商品を売るために声の大きさや視線に気を付け、ときには演技を交えて紹介しました。

入学前に、この動画を観た感想です！
小学校の頃は、文を組み立ててしゃべるのが苦手だったのでコミュニケーション科で力をつけたと思っています。
コミュニケーション科を楽しみにしていました。入学したときに動画を見て、この授業を受けてみたいとより一層思いました。

国際交流

世界各国(オーストラリア、大韓民国、アメリカ合衆国、フィリピン、台湾、ベトナム)との国際交流を活発に実施しています。

国際交流を通して、英語力もコミュニケーション力も身につきます。

韓国・浦項(ポハン)市の大東(テドン)中学校から生徒を受け入れています。ホストファミリーにもなり、交流を深めました。

※探究・・・物事の本質を研究し、見きわめようとすること。

ユネスコ提出申請資料 (和文)

Application for Participation

*Associated Schools Project (ASP)
for Promoting International Education*

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

■Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校は、広島県東部の人口 47 万人の中核都市、福山市に位置している。2004 年に中学校を併設し、2017 年に開校 14 年目を迎える公立の中高一貫教育校である。

本校は、学校教育目標「創造的な知性と豊かな心の調和的な発達を図り、国際社会に貢献できる人間を育成する」に基づいて設定した「生徒に付けたい三つの力」(「21 世紀に必要なコミュニケーション能力と探究能力」, 「進路希望を実現する確かな学力」, 「自己を高め社会に貢献する意欲・態度」) を踏まえ、地域社会とグローバル社会で活躍する人づくりを目指して地域と国際社会を支える人材の育成に取り組んできた。

ユネスコスクールとしては、これまでの取組をさらに発展させ、各生徒に持続可能な社会の担い手として必要な知識、能力、態度、価値観を身につけさせることを目的として、「地域課題解決プロジェクト」「国際課題解決プロジェクト」および「在り方生き方探究プロジェクト」の 3 つを、総合的な学習の時間を中心に他教科や特別活動と関連づけながら中・高等学校の全学年で実施する。

「地域課題解決プロジェクト」では、福山市全校で取り組んでいる「ふるさと学習」や本校独自の「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」などの実地見聞を伴う体験的な学習を通して、身近な地域を知り、課題解決に取り組む基礎を育成する。「国際課題解決プロジェクト」では、各国の調査・発表を行い、海外修学旅行先や姉妹校と国際交流を行う。さらに、海外の中高生と共通課題について思考し解決策を英語で提案(提言)するアクション型の交流活動を行う。「(個人としての)在り方生き方探究プロジェクト」では、自分自身の長所や魅力を発見し自尊心を高め、講演や特別活動での学びを活かしてライフプランを設定し、大学や社会でのよりよい「在り方生き方」を考える。

■Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

「地域課題解決プロジェクト」「国際課題解決プロジェクト」および「在り方生き方探究プロジェクト」の 3 つのプロジェクトにより、身近な地域社会の持続可能性の向上に取り組むとともに、地球的諸課題の解決を図ることで、個人としての在り方生き方を含めた資質・能力の向上に取り組む。

これらのプロジェクトによって、各生徒に持続可能な社会の担い手として必要な以下の資質・能力を身につけさせることを目的とする。

(能力面)

- ①データや情報を分析・整理する力
- ②知識・技能を創造的・探究的に活用・表現する力
- ③地域や国際社会などにおける課題を発見し、解決する力

(資質面)

- ④他者と協働する態度
- ⑤個人的・社会的責任を重んじ、自他を尊重する態度
- ⑥新しいことや困難なことに対するチャレンジ精神

このうち、各プロジェクトの目的の重点を次のように設定する。

	能力面			資質面		
	①情報	②活用	③解決	④協働	⑤尊重	⑥挑戦
地域課題解決プロジェクト	○	○	○	○		
国際課題解決プロジェクト	○	○	○			○
在り方生き方探究プロジェクト		○			○	○

■Execution (プロジェクトの実施)

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

以下、プロジェクトごとに、活動の内容・方法、学年、時期、連携・交流対象などを示す。

(1) 地域課題解決プロジェクト

地域について知り、発見した課題を解決する方策を考え、提言・改善の実行につなげる。

①ふるさと学習 (中学1年, 1学期, 20時間, 総合的な学習の時間)

福山の歴史や資源、人々の営みについて、副読本を活用したり地域に出かけたりしながら学習を深める。体験的な学習により、ふるさとへの愛着と誇りを育てることで、将来、福山で、日本で、世界で自分の夢を実現させながら、たくましく生きる拠り所をつくる。

②誰もが暮らしやすい福山の街づくり (中学1年, 2～3学期, 40時間, 総合的な学習の時間)

各自の出身地域を中心に「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」を考える。地域を訪れ、長所や課題を検討し解決策を提案する。情報はまとめて市役所などの公的機関に提供する。

③職場体験学習 (中学2年, 4～12月, 80時間, 総合的な学習の時間)

将来就きたい仕事をN2法で探り、特色、魅力、資格、進学先などを調査する。保育所やスーパーなどでの職場体験学習の前には、電話のかけ方や挨拶文やレポートの書き方などのマナー学習を行う。5日間の職場体験後には、レポートにまとめ冊子化し(体験先に届ける)発表会を行う。

④高校版「ふるさと学習」(高校1年1～2学期, 20時間, 総合的な学習の時間)

福山市企画政策課「次期人材育成プロジェクト」との共同事業。地元の企業研究を行い、将来、福山市に就労し地元へ貢献できる人材を育成するプログラムを実施する。企業人を招聘し「ラーニングカフェ」の実施、企業訪問研修、企業研究発表会等を実施する。地元企業の認知・理解、事業・仕事への関心、地元産業の課題と解決策について思考を深め、地元へ貢献する生き方についての意欲と態度を育成する。

⑤夏休みの課外活動や研究活動に挑戦 (高校1～2年, 夏休み, 課外活動)

夏休みの課題として、各種団体が実施する高校生議会や未来探究プロジェクト、ボランティア活動などに自主参加する。生徒は「今ログ」等のサイトを活用し学びを蓄積する。

(2) 国際課題解決プロジェクト

世界を知り、発見した課題を解決する方策を考え、交流・提言・改善の実行につなげる。

①国際理解 (中学3年, 4～9月, 20時間, 総合的な学習の時間)

世界各国の歴史や文化を学び、異なる価値観と共生する態度を学ぶ。調査国(地域)を決定し、衣装や発表用ポスターを使ってポスターセッション形式で発表を行う。中高一貫校の特設教科「コミュニケーション」の授業と社会科の学習と関連づけて実施する。

②海外修学旅行 (高校2年, 8～11月, 20時間, 総合的な学習の時間)

修学旅行先のシンガポールとマレーシアに関する研修課題テーマを設定する。事前に調査した内容をレポートにして冊子化しクラス発表を行う。現地では研修テーマを体験的に検証する。英語科の授業で会話やディスカッション等にも取り組む。

③姉妹校との国際交流（希望者、8月、3月頃、課外活動）

夏休みに2週間、希望者がオーストラリアの姉妹校に通いホームステイをする（毎年20名）。3月にはマウイで語学研修を行う。福山市の親善友好都市・韓国ポハンからは毎年、オーストラリアからは2年に一度生徒を受け入れ、各授業や部活動で交流を継続する。異文化交流に加え共通テーマで思考、提案したり、ウェブ会議システムを活用したりする。

④海外ボランティア活動（希望者、8月、課外活動）

夏休みに生徒1名が、文科省所管の社会教育団体SYDのプログラムに応募し、フィリピンのゴミ山で暮らすスカベンジャーと呼ばれる子どもたちを訪問する。現地での体験を招聘したSYD講師とともに学年発表する。その後、具体的なアクションを考え、実行する。

⑤模擬国連（希望者、9～11月、特別活動）

国連会議をはじめとする国際会議のシミュレーションを行う。有志を募り夏休みから議題に関する調査活動を始め大学教授を招聘して高度な学習を行う。体験者は学年で発表し、文化祭等でも体験プログラムを提供する。なお、本校はここ5年間で3度の模擬国連全国大会出場を果たしている。

(3) 在り方生き方探究プロジェクト

自らの長所や魅力を発見し自尊心を高め、ライフプラン設定過程を通して在り方生き方を考える。

①自分発見学習（中学1年、4～5月、12時間、総合的な学習の時間）

自分自身の特徴を見つける学習。小学校までの学習や活動（写真、賞状、認定書）から自分の魅力を発見し、パーソナルポートフォリオにファイルする。資料をもとに魅力に関する自他の発表から、考え方や行動を変えるなどし、将来の目標をより具体化する。

②進路研究Ⅰ「キャリア学習」（中学3年、10～2月、50時間、総合的な学習の時間）

中学3年次の東京修学旅行を生徒の力だけで運営するための取組。東京を10の地域に分けて調査地域を確定する。経済や教育、環境など研修テーマを設定し、現地調査と検証を目標にコース編成する。現地での学びをレポートやポスターにまとめ、パワーポイント等を用いてプレゼンテーションを行い、キャリア教育（自己理解と進路研究）につなげる。

③進路研究Ⅱ「ライフプラン」（高校1年、11～1月、8時間、総合的な学習の時間）

同窓会の協力を得て社会人講演会を実施し、夏季休暇中には地域の人に「仕事インタビュー」を行う。家庭科の学習と関連づけて将来の夢や目標・方法を考えライフプランを設計する。クラスで冊子にして、保護者に配付するとともに学級、学年で発表して学び合う。

④進路研究Ⅲ「課題研究」（高校2年11月～3年、40時間、総合的な学習の時間）

自己の進路に合わせて、興味・関心を持った事柄、現代社会での問題、あるいは特定の学問分野に関して、自ら課題を設定し調査研究を行う。高校2年次の「ミニ課題研究」を踏まえ、3年次ではさらに深い調査研究を行い、レポートにまとめて発表する。

■Type of materials to be used（使用する教材）

各プロジェクトで使用する教材・教具や資料の中から、特徴的なものを以下に示す。

①教材・教具

- コンピュータ、タブレット型端末、キャリアノート、ポスター用紙、パワーポイント

②書籍

- 『大好き！福山～ふるさと学習～《上下巻》』福山市教育委員会，非売品，2015
- 『未来をひらく ESD の授業づくり』藤井浩樹・川田力監修，ミネルヴァ書房，2012
- 『未来をつくる教育 ESD のすすめ』多田孝志他，日本標準，2008
- 『今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』文部科学省，2017

③ウェブサイト

- ユネスコスクール公式ウェブサイト：<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>
- SYD 公式ウェブサイト：<http://www.syd.or.jp/>
- 今ログ（学び挑戦している今を記録に残そう）：<https://shikoku.applyjapan.com/>

■Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

(1) 評価の材料

- 調査レポート，振り返りシート，プレゼンテーション・発表内容，製作物
- 各活動への取組姿勢・態度，協働姿勢

(2) 評価の方法

- 「プロジェクトの目的」(p.2) で記した「資質・能力」の観点に沿った評価のルーブリックを作成し，生徒の自己評価と教員を含めた外部評価に活用する（評価の整合性）。
- 職場体験学習では，職場の方から活動評価を実施し，評価コメントとして生徒に伝える。
- 課外活動や研究活動に挑戦，姉妹校との交流，海外ボランティア活動は，参加した生徒のレポートをもとに，評価コメントとして生徒に伝える。
- 上記以外は，調査レポート，プレゼンテーション・発表内容，協議等の内容や取組姿勢・参加協力態度を教員が観察・評価し，5段階評価の評点と評価コメントを生徒に伝える。

(3) 評価の時期

各活動の終了時および学期末・学年末に実施する。取組は常時観察する。

(4) 評価の観点

- ①データや情報を多角的・総合的に分析・整理・活用する力が身についたか。（プロジェクトの目的①②と対応）
- ②地域や海外の方と積極的にコミュニケーションを図り，発見した課題を創造的，協働的に解決しようとする態度が養われているか。（プロジェクトの目的①②③④と対応）
- ③個人的・社会的責任を重んじ，自分自身だけでなく他者や自然を尊重しようとする価値観が育まれているか。（プロジェクトの目的⑤と対応）
- ④新しいことや困難なことに対するチャレンジ精神が育まれているか。（プロジェクトの目的⑥と対応）

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

（本学校を代表して，ユネスコASPの参加申請をし，少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また，毎年ASPコーディネーター（※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会）に活動のレポートを提出します。）

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職)

Institution's name (学校名)

(4) ユネスコスクール申請資料 (英文)

ユネスコ提出申請資料 (英文)

Application for Participation

*Associated Schools Project (ASP)
for Promoting International Education*

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

■ Description of the Project (プロジェクトの概説)

Our school was founded in 1899, and is located in Fukuyama, a city of 470,000 people in the eastern part of Hiroshima prefecture. 2017 will mark the 14th anniversary of combining our junior and senior high schools together.

Our school's stated educational goal is to "foster deep intelligence and harmony of heart and mind while nurturing students to contribute to the international community." Based on this, we established 3 abilities we wish to give each of our students: To have the communication and investigative skills essential in the 21st century, to have the academic abilities necessary to realize their desired careers, and to have the ability and desire to contribute to society. We have strived to raise students who are willing and capable of contributing to regional and international communities.

As a UNESCO Associated School, we would aim to further develop our efforts so that each student can acquire the knowledge, ability, attitude and values necessary to be a member of a sustainable society. Three projects we have already implemented are the "Regional Problem Solving Project," the "International Problem Solving Project," and the "Ways of Life Project." Each project is related to the period for Integrated Studies that all grades of our junior and senior high school must attend, as well as other classes and school activities.

The "Regional Problem Solving Project" is part of the greater "Hometown Learning Objective" that all Fukuyama city schools participate in. Specifically, our school began a project called "Making Fukuyama a Better Place Where Everyone Can Comfortably Live." Through experiential learning, such as field trips to the surrounding areas, students are developing the foundations of problem solving. For the "International Problem Solving Project," students conduct surveys and give presentations on various countries as well as participate in overseas school trips and international exchanges with sister schools. In addition, we conduct activities to think about shared problems with overseas junior and senior high school students, and propose solutions in English with the goal of putting them into action. In the "Ways of Life Project," students discover their own strengths and charms, increasing self-esteem. Making use of lectures and special activities, students think about their career and life goals.

■ Project Objectives (プロジェクトの目的)

The "Regional Problem Solving Project," "International Problem Solving Project," and the "Ways of Life Project" will work in harmony to improve the sustainability of local and international communities. By working on improving the sustainability of local communities and trying to solve global issues, participants will also work to improve their own individual qualities and abilities, including their ways of life.

With these projects, we aim to help each student acquire the following qualities and abilities necessary to be members of a sustainable society.

(Abilities)

- ① Ability to analyze and organize data and information
- ② Ability to utilize and express their knowledge and skills creatively
- ③ Ability to recognize and solve problems such as in regional and international societies and so on.

(Qualities)

- ④Cooperative attitude and skills needed to work well with others
- ⑤Attitude that respects personal and social responsibilities and respects others
- ⑥Readiness to overcome new and difficult things with a spirit of challenge

The priorities and purposes of each project are as follows:

	Abilities			Qualities		
	① Research	② Utilization	③ Solutions	④ Cooperation	⑤ Respect	⑥ Challenge
Domestic Problem Solving Project	○	○	○	○		
International Problem Solving Project	○	○	○			○
Ways of Life and Inquiry Project		○			○	○

■Execution (プロジェクトの実施)

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

Below, for each project, we show the contents and method of activities, grading, timing, cooperation / interaction targets, etc.

(1) Regional Problem Solving Project

Learn about the surrounding area, consider ways to solve the discovered issues, and find ways to implement the recommendations and improvements.

①Junior High School Version: Hometown Learning Objective (1st Year Junior High School, 1st Semester, 20 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Students deepen their knowledge of Fukuyama’s history, resources, careers and lifestyles by taking excursions to the surrounding areas and through auxiliary reading. Experiential learning will foster a sense of attachment and pride in Fukuyama, and encourage students to realize their dreams while making Fukuyama, Japan, and the whole world better places to live.

②Making Fukuyama a Better Place Where Everyone Can Comfortably Live (1st Year Junior High School, 2nd & 3rd Semesters, 40 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Focusing on the surrounding area and how to make a “Fukuyama where everyone can live comfortably,” students will visit the surrounding area, consider its advantages and challenges and propose improvements. Information will be organized and provided to public agencies, such as city hall.

③Workplace Experience Learning (2nd Year Junior High School, April-December, 80 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Students will explore their desired career paths by utilizing the N2 method (a thinking tool) and investigating the features, charms, qualifications, university choices, and so on. Before beginning workplace experience at places like daycares and supermarkets, students will learn workplace manners such as greetings, phone calls, and how to write reports. After 5 days of workplace experience, students compile a summarizing booklet, which will be provided to their workplace, and give a presentation on their experiences to the other students.

④Senior High School Version: Hometown Learning Objective (1st Year Senior High School, 1st & 2nd Semesters, 20 Class Hours, Period for Integrated Studies)

This is a joint project with the Fukuyama City Planning Policy Division called “Raising the Next Leaders.” We conduct research on local companies to develop and implement a plan that will raise people capable of working in Fukuyama city and contribute to the local area in the future. Our school invites business people to implement a “world café” with corporate visit training, corporate research presentations, and so on. This will allow students to deepen their thinking about local business, concerns of businesses, issues and solutions in local industry, and foster the motivation and attitude to contribute locally.

⑤ Summer Vacation Extracurricular Activities and Research Challenge (1st and 2nd Years Senior High School, Summer Vacation, Extra Curricular Activities)

During summer vacation, students voluntarily participate in high school student councils, plan various future research projects, perform volunteer work, and participate in other activities planned by various organizations. Students accumulate and report what they have learned on “Now Log,” a reflection journal website for students, supported by universities who utilize the journals during admissions.

(2) International Problem Solving Project

Students discover the world, think about strategies to solve international problems they have learned about, interact, give and receive suggestions for improvements, and implement them.

① International Understanding (3rd Year Junior High School, April – September, 20 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Students will learn about the histories and cultures of countries around the world and learn different values and the attitude to coexist. Students will determine a country or region to research, followed by a poster presentation utilizing props or clothing. This is carried out in conjunction with Social Studies and the special subject, “Communication Class.”

② Overseas School Excursion (2nd Year Senior High School, August - November, 20 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Students select problem solving projects about Singapore or Malaysia. Before the excursion, students must research, write reports and make booklets, all to be presented to their classmates. Students can then verify what they have learned through actual on-site experience. Students can practice discussions in English class.

③ International Interaction with Sister Schools (Open to Applicants, Around August or March, Extracurricular Activities)

Each year, for two weeks during summer vacation, twenty applicants attend our sister school in Australia and participate in a home-stay. In March, applicants study English in Maui.

Every year, our school welcomes exchange students from our “friendship city,” Pohang, Korea, and once every two years from Australia. These students partake in all classes and extracurricular club activities. In addition to intercultural exchanges, students think of global issues and, utilizing the web conference system, propose their ideas to international schools.

④ Volunteer Work Abroad (Open to Applicants, August, Extracurricular Activities)

During the summer, one applicant will be chosen to participate in a volunteer program supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT). This student will visit children called “scavengers” living on the mountain of garbage in the Philippines and present their experiences at our school with the lecturer they worked with. Finally, they will make an action plan and execute.

⑤ Model United Nations (Applicants, September – November, Extracurricular Activities)

After a selection process, students will participate in simulated international assemblies, such as the United Nations Conference. Students conduct preliminary research, invite university professors to our school, and (during summer break) begin to research specific subjects on the agenda. After the event, participants will give a presentation at our school about their experiences and what they have learned. They will also be offered some related activities at our school’s culture festival. Our school has participated in three of the last five All Japan Model UN competitions.

(3) Ways of Life Project

Students discover their own strengths and charms, increase self-esteem, and plan their ideal lives.

① Self Discovery Learning (1st Year Junior High School, April – May, 12 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Students learn to find their own characteristics. Using photos, awards, and certificates earned in elementary school, students discover their own charms and create a “personal portfolio.” Using the

materials to create a presentation, students change their behavior, the way that they think about themselves, and make more specific goals for the future.

②Course Study I “Career Learning” (3rd Year Junior High School, October – February, 50 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Entirely on their own, junior high school students manage the school excursion to Tokyo.-Tokyo is divided into 10 sections to determine what students will research. Students research various themes, such as economics, education, and the environment. They also organize the course in ways aimed to deepen their knowledge through field survey and verification. Information/experiences learned on site will be summarized in reports, poster boards, and PowerPoint presentations, and will be used for career education (understanding self and future career).

③Course Study II “Life Plan” (1st Year Senior High School, November – January, 8 Class Hours, Period for Integrated Studies)

In partnership with the alumni association, business people come to our school to give a lecture, and during summer vacation students interview local people about their careers. Working with the home economics department, students design a life plan considering future dreams, goals, and methods to achieve them. They also make brochures in class, distribute them to parents, give a presentation to their classmates, and learn together.

④Course Study III “Research Issues” (2nd Year Senior High School, November – 3rd year, September, 40 Class Hours, Period for Integrated Studies)

In accordance with his/her career path, students determine issues in the field, conduct research on matters of interest, problems in modern society, or specific academic fields. Based on their “mini-issue” research in the second year of high school, students in their third year will conduct further research and summarize what they have learned in reports and presentations.

■Type of materials to be used (使用する教材)

Listed below are the tools and materials needed for each project.

①Teaching tools and materials

- Computers, tablets, carrier notes, poster paper, PowerPoint

②Books

- “I Love It! Fukuyama Hometown Learning (Top to Bottom)” Fukuyama Board of Education, Not for sale, 2015
- “Creating ESD Classes That Open the Future” Hiroki Fujii, Supervised by Kawada Takeshi, Minerva Shobo, 2012
- “Making the Future of Education, ESD Recommendations” Takashi Tada and others, Japan Standard, 2008
- “Expansion of Integrated Learning to Raise the Skills in Demand Now” Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), 2017

③Websites

- UNESCO School Official Website : <http://www.unesco-school.mext.go.jp/>
- SYD Official Website : <http://www.syd.or.jp/>
- Now Log (Let’s Keep Records of Learning & Challenges) : <https://shikoku.applyjapan.com/>

■Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students’ comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

(1) Evaluation Materials

- Survey reports, review sheets, presentation content, performances, and portfolios
- Efforts and attitudes toward each activity, cooperative attitudes

(2) Evaluation Method

- Create an evaluation rubric in accordance with the viewpoint of “Qualities and Abilities” described in the “Project Objectives” (p.2) and use it for student self-evaluation and external evaluation

including teachers.

- For workplace experience learning, conduct an activity evaluation with the workplace, and share the results and comments with the students.
- For extracurricular challenge activities, sister school exchanges, and overseas volunteer activities, students will be given descriptive evaluations based on their reports.
- Other than the above, the faculty observes, evaluates, and notifies the students on their scores for the content of the survey report, presentation content and performance, consultation, attitude toward participating, and cooperation.

(3) Evaluation Time

Each activity will be evaluated in sync with the finish of the semester/school year.

(4) Evaluation Perspective

- ① Did students gain the ability to analyze, organize and utilize the data and information diversely and comprehensively? (Corresponds to Project Objectives ①②)
- ② Did students actively communicate with local and international people, and were positive attitudes towards creative and collaborative resolutions of the discovered issues being cultivated? (Corresponds to Project Objectives ①②③④)
- ③ Do students value their personal and social responsibilities, and have they developed values that try to respect not only themselves but also others and nature? (Corresponds to Project Objective ⑤)
- ④ Did students approach new and difficult things with a spirit of challenge? (Corresponds to Project Objective ⑥)

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職)

Institution's name (学校名)

(5) ESD 大賞 実践報告書

「グローバルな社会・地域社会で活躍する資質・能力は、どうすれば育成できるのか」

1 はじめに

本校は人口約 47 万人の広島県福山市にある。福山市では、地元企業や豊かな自然環境とのつながりを特色として、市内の全小・中学校でユネスコスクールへの加盟を積極的に進めている。

本校は、高校創立 1899 年で、2004 年に中学校を併設した、公立の併設型中高一貫教育校である。学校の教育目標は、「創造的な知性と豊かな心の調和的な発達を図り、国際社会に貢献できる人間を育成する」。学校の特徴は「国際交流」(海外姉妹校交流)と「ESD」(持続可能な開発のための教育)で、ユネスコ・スクール (UNESCO)、サステイナブル・スクール (文科省委託事業)、ハッピースクール (UNESCO) 指定など、ESD を軸に学校づくりを進めている。



2 本校 ESD のねらい

総合的な学習 (探究) の時間を中心に、教科や特別活動と関連づけた 3 つのプロジェクト (地域課題解決、国際課題解決、在り方生き方探究) を通して、持続可能でグローバルな社会・地域社会で活躍する資質・能力をもった生徒を育成する。

3 本校 ESD のキーワード

・ホールスクールアプローチ ・学校づくり ・3プロジェクト (ローカル、グローカル、キャリア)

4 ESD 実践の特徴

本校の ESD 実践の特徴は次の 3 点である。

- ① ESD を中心とした「ホールスクールアプローチ」で「学校の特色づくり」を行う。
- ② 新規事業開発中心でなく、既存の取組を ESD の観点で整理する (「働き方改革」にも配慮)。
- ③ 生徒は中高 6 年間で 3 つのプロジェクトに取り組み、「資質・能力」を向上させる。

これらの詳細は、後で述べる。

5 研究課題

本校の研究課題 (問い) は、「グローバルな社会・地域社会で活躍する資質・能力は、どうすれば育成できるのか」で、副題は、「ESD の推進は、学校の教育改革推進につながる！」である。

新学習指導要領に対応した学校改革を模索する学校は全国に多いと思う。本校も同様で、中高一貫校となって国公立大学進学率などの開校時目標を達成したことで、次の教育の方向性を模索した。

その際、広島県および福山市が示した今後の教育の方向性に則り、本校の実践を整理・構造化するとともに、「次代に必要な資質・能力」を育む教育内容を研究・実践する方法を校内で議論した結果、ESD が最もふさわしいとの結論に達し、本格的に ESD を軸とした研究を推進している。

学校全体での ESD 推進を通して、生徒の資質・能力を育むとともに、教育内容の改善など学校改革の推進につながることがわかってきた。

6 地域や関係機関と連携した ESD の推進

主に次の機関と連携して ESD を推進している。

- 福山市役所 (企画政策課・産業振興課・青少年課・市民相談課)、市民参画センター
- 福山市立大学 都市経営学部
- 福山商工会議所、青年会議所、地元企業
- アジア・ユネスコ文化センター (ACCU)

7 実践内容

本校の特徴は、「ホールスクールアプローチでの持続可能な学校デザイン」にある。そこで、以下10ステップに分けて本校の取組をご紹介しますことで、これから「ESDの観点で学校づくり」を進められる学校の参考になればと思う。

ステップ① 「今後の学校教育の方向性」や「育てたい生徒像」は？

まずは学校が今後どのような姿を目指したいのか、ビジョンを考えることが第1ステップである。本校は、「新たに創りすぎず、これまでの実践を活用する」と「次代に求められる資質・能力を育む」という2つの観点で教育内容を検討し、ESDを本校教育改革の軸に推進することに決めた。

ESDは、「持続可能な社会の創り手を育む」と記された新学習指導要領との親和性が高い。本校は、教育目標に照らして学校全体で育てたい生徒像を「グローバル人材」と定めた。(p.5参照)

ステップ② 本校で育てたい力は何か？

(生徒に身につけさせたい6つの資質・能力)

続いてステップ1で設定した「学校で育てたい生徒像」が備える(であろう)資質・能力はどのようなものなのかを考える。生徒に身につけさせたい資質・能力を考える際に本校が特に参照したのは、次である。

- ・ 自校教育の強み・弱み(生徒、保護者、地域の方の思いやアンケート結果など参照)
- ・ 国立教育政策研究所の示す「7つの能力・態度」(批判的に考える力や他者と協力する態度など)
- ・ 高大接続改革答申の「学力の3要素」(思考力・判断力・表現力・主体性・多様性・協働性など)

これらを参考に自校の課題を整理する。例えば本校は、「情報整理力」、「表現力」、「課題解決力」の3つの能力と、「協働」、「自他の尊重」、「チャレンジ精神」の3つの資質に整理した。

ステップ③ 自校の取組をどう構造化するか？

続いて、ESDの教育内容を考える。このときは、次の国立教育政策研究所の文言が参考になる。

- ・ ESDで取り上げる内容は必ずしも新しいものである必要はない。
- ・ 教育をESDの視点で捉え直し、「持続可能な社会の構築」という共通目的を与えるものである。
- ・ 取組を結びつけることにより、既存の取組の一層の充実発展を図ることを可能にする。

これらを受け本校でも、「現状を生かして新たな負担を少なくする」方向性を定めた。これは、働き方改革を考えても、多くの人の同意を得るためにも大切な視点である。まさにサステイナブルな実践である。負担が大きすぎる実践は続かない。続かないと変容は生まれない。

この結果、本校ではそれまで多種多様に行われてきた中高6年間の教育活動を、以下の3つのプロジェクトに分類することができた。

- ・ 地域課題解決プロジェクト(ローカル)
- ・ 国際課題解決プロジェクト(グローバル)
- ・ 在り方生き方探究プロジェクト(キャリア)

ステップ④ 「評価」はどうするか？

次に、自校で設定した資質・能力をどう評価するのかを検討する。本校では管理職、教育研究部、各部主任が集まって何度も熟議を重ね、ルーブリックを作成した【添付資料参照】。

ポイントは以下の3点である。

- ・ 評価のレベルは5段階で、レベル5は最難関である。(困難な目標を示し生徒の挑戦を促す。)
- ・ 年に3度(春、秋、冬)測定し、進捗度を測る。(中高ともに3年間で同一用紙を使用する)
- ・ 評価で4と5を選んだ生徒には、その根拠(伸ばした活動)を記述する。

ステップ⑤ 「実践のまとめ」はどうするか？

学校づくりを進めるうえでは、「実践のまとめ」(実践記録)の作成も考えたい。指導の工夫や感想が残り、次年度の改善に役立つ。さらに他校に渡すと喜んでいただける。本校は報告書の詳細をESD実践前に定めた(1活動2ページの様式、目次、作成担当者)。本校実践資料(約80ページ)は本校ウェブサイトからダウンロードできる(ESD関係→報告書)。

ステップ⑥ 3つのプロジェクトの実践

実際に各学年の教育活動を実践する段階である。本校では、先述したように、すべての活動を以下の3つのプロジェクトに収束して、活動同士が学年を越えて関連して深まるよう仕組むようにした。

(1) 地域課題解決プロジェクト

「ふるさと学習」(中1), 「地元企業ガイドブック作成」(高1), 「夢チャレ」(高2), 「高大連携事業」(高2)等

(2) 国際課題解決プロジェクト

国際理解(中3), 海外修学旅行でマレーシアの高校生とSDGsプレゼン・ディスカッション(高2), 模擬国連(有志)等

(3) 在り方生き方探究プロジェクト

「自分発見学習」(中1), 「職場体験」(中2), 「ライフプラン」(高1), 「課題研究」(高3)

ステップ⑦ 学校ビジョンにESDを反映

育てたい資質・能力やそれを育てる中心的な活動が定まると「学校の方向性」が明確になる。その姿はぜひ学校ビジョンにも反映させておきたい。ESDの取組が複数年となり、より持続的になる。

本校では次のようにESDを反映したビジョンを取り入れた(3つのビジョンのうちの1つ)。

3) 地域課題・国際課題について探究し、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる。

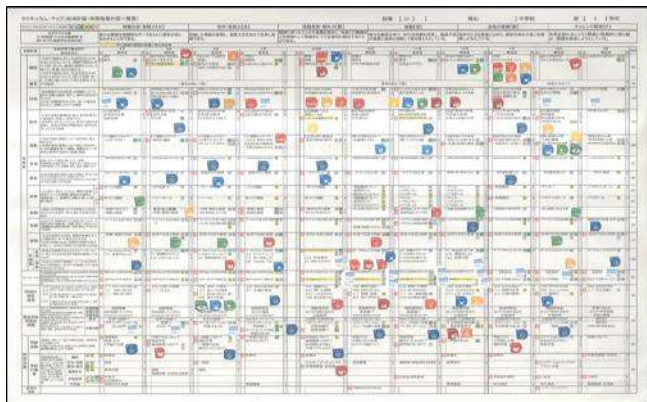
ステップESDの推進⑧ 保護者にも周知

学校全体が進む方向性が明らかになると、PTA総会などを通して、学校長から次のような内容を保護者にも周知し、理解と協力を仰ぎたい。

- ・社会の変化とそれによる求められる力の変化に伴い、大学入試も本校の教育も変わっている。
- ・本校で生徒に育みたい資質・能力は〜で、具体的な活動(プロジェクトなど)は〜である。
- ・生徒は校内外の活動に積極的に参加している。

ステップ⑨ 各教科とESDの関わりは?

ESD開始時は、実践の中心が総合(探究)学習や特別活動であることが多い。ある程度進むとESDの観点における教科実践の充実も考えたい。各教科の実践を「見える化」するのに有効なのが、「ESDカレンダー」である。広島県福山市では「カリキュラムマップ」として「資質・能力」と「全教科の単元」をA3判1枚で作成している。本校はそれにSDGsシールを教科会で貼る作業を通して、共通項目の把握に努めた(拡大したものは本校実践資料参照)。



ステップESDの推進⑩ 教科でのESDは?

各教科のつながりが把握できたら、教科でのESDの実践を進める。「全教科でSDGsを実践しよう」と取り組むと、ESD実施率と各教員のESD理解度が高まる。

たとえば本校では、SDGsに関する授業を全員が実施し「SDGs授業実践集」を作成した。全教職員(約80名)が1人2ページ(記名入り)の実践レポートを作り、冊子にまとめ、公開研究会で校内外の人と学び合った。SDGsのよさは、他教科からも学び合えることである。



8 成果と課題

(1) 成果

学校全体の成果は、次の3点である。

①ESDを中心としたホールスクールアプローチで学校の特色づくりに成功する。

ESD 実践前は、(狭義の) 学力重視の地域の進学校が、それに加えて「国際交流」と「ESD」を特色とする学校に変容を遂げた。学校教育目標、学校ビジョン、授業内外の学び、地域・国外連携まで幅広く ESD の視点で教育活動を整理し実践できた (ホールスクールアプローチ)。

②新規事業開発中心でなく、既存の取組を ESD の観点で整理する。

ESD 導入により、育みたい資質・能力と教育活動が構造化できた。新規事業導入で負担を過度に増やさず、現状を活かして特色づくりに成功した意味で、働き方改革に配慮した取組といえる。

③生徒は 6 年間で 3 つのプロジェクトに取り組み、スパイラルに資質・能力を向上させる。

生徒は中高 6 年間で、上述した 3 プロジェクトに取り組み、「地球・地域の持続可能性の向上」と「個人としての資質・能力の向上」に励む。

その結果、中高 6 学年の資質・能力の平均 (ルーブリック評価) は、第 1 回 (春) 2.0 から第 3 回 (冬) 2.8 と、全学年で成長した。ESD を 2 年間実施した学年の平均は 0.9 伸び、1 年間の学年では 0.7 である。ESD は長期間実施した方が資質・能力が伸びることが明らかになった。

また、ESD 導入で生徒が校外活動に積極的に参加するようになってきている。国際プログラム参加者は増加し (2016 年 : 40 人→2019 年 : 65 人)、全国規模で活躍する生徒も増えている (観光甲子園グランプリ、全日本高校模擬国連 4 年連続 5 度出場、フィリピン国際ボランティアなど)。

(2) 課題

課題と今後の展望は以下の通りである。

①各授業に ESD のアプローチをさらに取り入れる。(課題解決・探究的な学びの推進)

②生徒主体の ESD 活動を一層推進する。(生徒が取組を提案し実践)

③資質・能力ルーブリック評価追跡を長期的に行う。(資質・能力の育成に資する)

④市や企業と連携し SDGs に関連する地域の課題解決に力を注ぐ。(地域連携型)

⑤他校 (国内外) との実践交流を無理なく増やす (学びと刺激の共有)。

9 おわりに

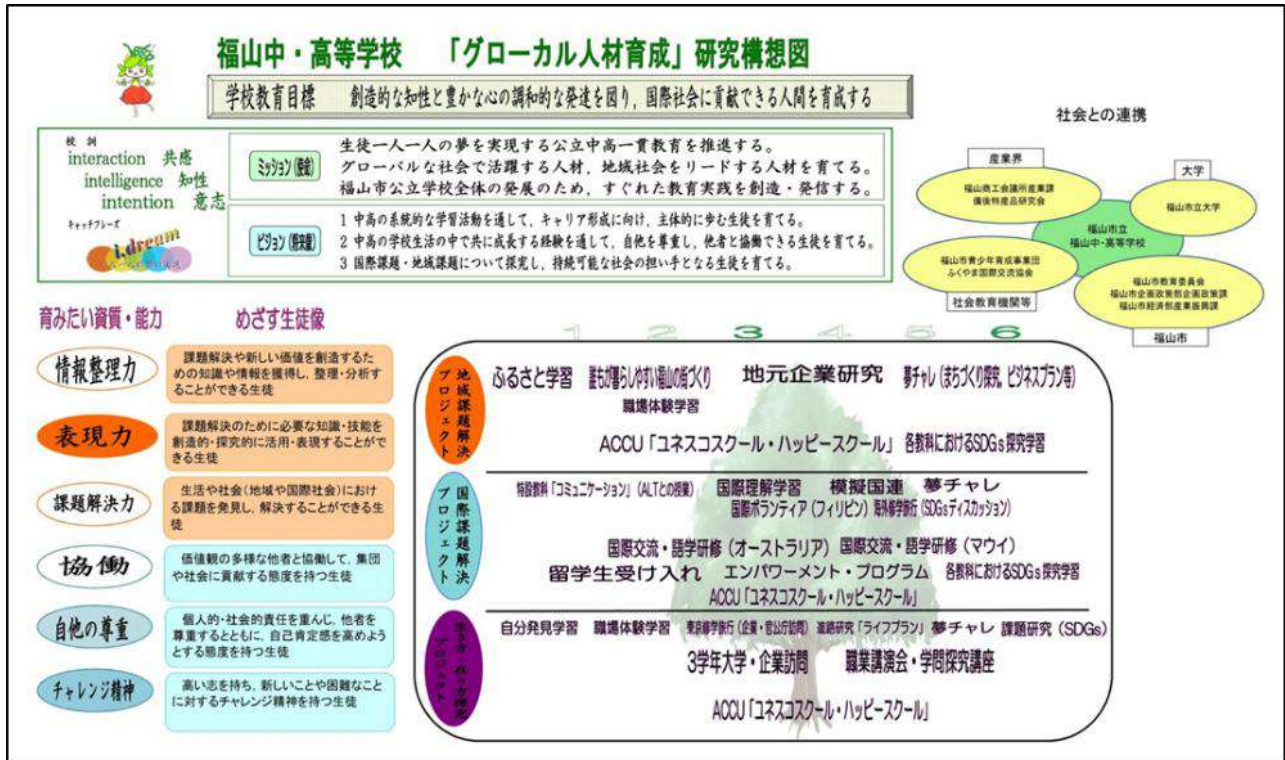
2019 年 11 月 30 日に行われた第 10 回 ESD 全国大会では、本校生徒 (高校 1 年生) がパネルディスカッションに登壇し、広島県教委主催の「ワールドピースゲーム」で学んだことを報告した。(※国の代表の役割を担って、地球温暖化や領土などの様々な国際課題の解決に挑み、平和な世界を築くシミュレーションゲームのこと。)

彼は、「国際問題や地元企業の課題の解決に向けて、学校の授業と学校外の活動の両方に意欲的に取り組んでいきたい」と述べている。

本校は、今後も ESD を軸にした学校づくりを進めることで、「持続可能な社会づくり」と、生徒個々の「資質・能力の向上」、さらに学校の「教育改革推進」を三位一体で進めたいと思う。



●添付資料① 「グローバル人材育成」研究構想図



●添付資料② 「福山中・高ではぐくみたい資質・能力ルーブリック」(目標達成度の評価表)

このシートは3年間使えます

「福山中・高等学校で育みたい資質・能力」ルーブリック(目標達成度の評価表)

(1) 表中の①～⑥は、皆さんが「21世紀の社会で活躍する」ために、学校内外の授業や活動を通して特に身につけてほしいと考えている資質・能力です。①～⑥の各項目(3つの能力と3つの資質)について、レベルごとの説明文を参考にして、あなたが現在到達していると考えられるレベルの□に大きな✓をつけてください。その後、下記の「レベル記入欄」にそれぞれのレベルを数字で書き込んでください。(どれも当てはまらないと思う場合は「1」をマークしてください。)*薬に用語の説明があります。

本校で育みたい「3つの能力」と「3つの資質」	【能力(スキル)】			【資質(気質・特性・情意・態度)】					
	①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働	⑤自他の尊重	⑥チャレンジ精神			
レベル1	□テーマに関して与えられたデータや情報をおよそ理解できる。	□自分が学んだこと(感想などを)述べて伝えることができる。	□自己の生活や社会などについて考えたことがある。	□他者と一緒に活動している。良い関係で話している。	□自分のことは考えている。	□人から指示されたことはやっている。			
レベル2	□テーマに関して与えられたデータや情報の要点を正確に理解し、人に説明することができる。	□学んだことに加えて、他者の意見・アイデアを活用できる。自分の言葉で発表や説明ができる。	□自己の生活や社会などについて、改善したい(進めたい)ことが1つ以上ある。	□細い責任を果たし、全員が目標達成するために、チームメンバーに助けを求め、かつ支援している。	□人からの指示を待たずに、他者に迷惑をかけるようなルールやマナーを守って責任を持って行動している。	□人からの指示を待たずとも、自発的に行動(学習)している。			
レベル3	□与えられた情報に加え、テーマに関連するデータや情報や自分で書籍やネット等で検索しおおよその特徴を理解できる。	□複数の意見・アイデア・計画を合わせて、より良いものを作ることができる。それを相手に分かりやすい方法で伝えることができる。	□地域や国際社会について自ら解決したい課題を見つけている。課題の原因を自ら調査・探究している。	□課題解決に向けてチームメンバーに自分のやる気を示したり、他者の考えを認めたりしている。	□地域やグローバル社会の一員として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重している。	□人からの指示を待たずとも、(自分がすべきことに加えて)新しいことや困難なことに挑戦している。			
レベル4	□既存の情報と自分が集めたデータや情報を見て特徴を正確に理解し、その資料を「分類・比較・対比」などしてまとめられる。	□独創的なアイデアや計画を創造し、段内で分かりやすい説明のある提案・発表ができる。	□地域や国際社会について改善・解決すべき課題を見つけ、調査・探究して解決策を提案する。解決のために行動している。	□課題解決に向けて計画を示したり、他者の考えを肯定的に受け入れたりしている。対話を通して新しい考えを蓄積し広げている。	□地域やグローバル社会の一員として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重するとともに、自己肯定感を高めている。	□志を持ち、課題解決のために自ら新しいことや困難なことに挑戦している。			
レベル5	□課題解決や新しい価値を創造するために効果的な資料を複数集め、正確に分析・整理し、「分類・比較・対比」に加え「予測・提案・創造・発明」などで新しい情報を生産している。	□誰もやっていないアイデアで多くの人に影響を与える計画を立て実現しようとする。校内外で巧みな表現(ジュスチチャー・声・文章等)で内容を発信できる。	□地域や国際社会で見つけた課題の原因を追究し、実行可能性や解決のメリット・デメリットも含めて様々な視点から改善策を提案する。課題解決のために他者を巻き込んで行動している。	□課題解決に向けて、新しい提案や別の考えを示し、集団のやる気を高めている。また、集団が意欲したレベルで課題を完成するのを率先して助け、社会に貢献している。	□地域やグローバル社会の一員として、他者と知識・経験・考えを持ち寄り、学校内外や社会に貢献しようとするアイデアなどを活用、改善しようとしている。	□理想を追求し高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦している。			
レベル記入欄	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	4年 5年 6年	
(2)項目									
本人	4年 組 番	5年 組 番	6年 組 番	名前	男・女	部活動			

(2) 評価レベル「4」「5」を選んだ人は、その項目の能力や価値を特に伸ばしたと考えられる活動や場面を「(2)項目」欄に「具体的に」記述してください(5W1Hをできるだけ含めて)。

例) ●教科や総合学習(活動や取組) ●校内外の自主研究・活動(ボランティア等) ●行事(文化祭・体育祭・修学旅行等) ●生徒会活動 ●部活動 ●定期テストやパフォーマンステスト ●資格・試験 ●留学・他

▲【ルーブリック参考】岡山県立倉敷南高等学校「21世紀型能力」ルーブリック/三宅なほみ(監訳)ほか『21世紀型スキル』北大路書房

(6) 文科省「ESD 推進の手引」における本校事例の紹介

『ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引』

（令和3年5月改訂）

本校事例紹介 p. 39

ESD（持続可能な開発のための教育）
推進の手引

令和3年5月改訂
平成30年6月改訂
平成28年3月初版
文部科学省国際統括官付
日本ユネスコ国内委員会

◆校外機関との連携で「学び」を充実させ「よりよい社会の創り手」を育む事例◆

【ポイント】学校外の様々な主体と連携しながら ESD を推進している点。

広島県福山市立福山中・高等学校では、「地域社会・国際社会に貢献する生徒を育成する」という学校教育目標のもと、学校ビジョンに「地域課題・国際課題について探究し、持続可能な社会の創り手を育む」を設定して、地域や大学・企業・社会教育施設等と連携する取組を行っています。

①市、商工会議所、地元企業との連携

探究学習の一環で「グローバル人材育成事業」を実施し、成果を冊子にまとめ他校や公的機関に配付しています。生徒の資質・能力の向上に加え、地元企業の知名度向上とともに、本活動の周知とそれによる次年度以降の連携先の募集につながっています。また、市役所の各課の若者向け事業に積極的に本校生が参加しており、生徒の学びの向上とともに市に対する貢献ともなっています。

②大学との連携

大学とは、「地元高校生が考える駅前再生計画」などの、まちづくりに係る高大連携プロジェクトを行っています。また、探究学習の基礎講座や発表会における講師派遣などで力を借りています。

③NGO・NPO との連携

ボランティア活動や講演会の実施や、プロジェクトやコンテストへの参加などで協力を得ています。

④他の組織・機関との連携

オーストラリア、アメリカ、韓国、マレーシアなどの姉妹校と、生徒同士の短期留学や語学研修、ホームステイを実施しています。SDGs に基づいたプレゼンテーションやディスカッションなどの取組みは生徒に刺激を与えています。

同校では、こうした校外機関と連携した取組をする際に、「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という国全体が目指す目標や、「本校が育てようとしている資質・能力」をシートにまとめ、先方と共有することで、地域や社会の方との連携・協働を通して目標が実現するように努めています。また、作業を分担することによって、負担感を軽減させることにも留意しています。